

**令和5年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～米国等との大学間交流形成支援～**

[基本情報]

タイプB

1 大学名 (○が代表申請大学)	○ 関西大学、東北大学、千葉大学					
2 機関番号	代表申請大学	34416	11301	12501		
3 主たる交流先の相手国	米国					
4 分野 (該当する場合のみ選択)	<input checked="" type="checkbox"/> STEAM <input checked="" type="checkbox"/> GX <input checked="" type="checkbox"/> DX 左記のうち、主たる1分野があれば選択					
5 事業者 (大学の設置者)	ふりがな しばい けいじ (氏名) 芝井 敬司 (所属・職名) 学校法人関西大学理事長					
6 申請者 (大学の学長)	ふりがな まえだ ゆたか (氏名) 前田 裕					
7 事業責任者	ふりがな ふじた たかお (氏名) 藤田 高夫 (所属・職名) 関西大学副学長・国際部長					
8 事業名	【和文】 Blended Mobility Project(BMX)で生み出す「Society5.0人材」の育成とそのインフラの創出					
	【英文】 Blended Mobility Project (BMX) for Society 5.0 HR (Human Resources)					
9 取組学部・研究科等名 (必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)	学問分野	<input type="radio"/> 人社系 <input type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input checked="" type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他				
	実施対象 (学部・大学院)	<input type="radio"/> 学部 <input type="radio"/> 大学院 <input checked="" type="radio"/> 学部及び大学院				
全学[法学部][文学部][経済学部][商学部][社会学部][政策創造学部][外国語学部][人間健康学部][総合情報学部][社会安全学部][システム理工学部][環境都市工学部][化学生命工学部][法学研究科][文学研究科][経済学研究科][商学研究科][社会学研究科][総合情報学研究科][理工学研究科][外国語教育学研究科][心理学研究科][社会安全研究科][東アジア文化研究科][ガバナンス研究科][人間健康研究科][法務研究科][会計研究科]						

10. 海外相手大学

	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	米国	クレムソン大学	Clemson University	
2	米国	コーネル大学	Cornell University	
3	米国	デポール大学	DePaul University	
4	米国	ニューヨーク州立ファッショントech大学	Fashion Institute of Technology, The State University of New York	
5	米国	フロリダ国際大学	Florida International University	
6	米国	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ	Kapi 'olani Community College	
7	米国	ノースカロライナ州立大学	North Carolina State University	
8	米国	北アリゾナ大学	Northern Arizona University	
9	米国	ポートランド州立大学	Portland State University	
10	米国	オハイオ州立大学	The Ohio State University	
11	米国	ノースカロライナ大学チャペルヒル校	The University of North Carolina at Chapel Hill	
12	米国	ハワイ大学ヒロ校	University of Hawai 'i at Hilo	
13	米国	ハワイ大学マノア校	University of Hawai 'i at Mānoa	
14	ブラジル	サンパウロ州立パウリスタ大学	Universidade Estadual Paulista (UNESP)	
15	カナダ	ウェスタン大学	Western University	

16	マレーシア	ケバングサン大学	Universiti Kebangsaan Malaysia	
17	フィリピン	サン・ペドロ・カレッジ	San Pedro College	
18	シンガポール	南洋ポリテクニック	Nanyang Polytechnic	
19	スペイン	CEUカルデナル・エレーラ大学	University CEU Cardenal Herrera	
20	台湾	東吳大学	Soochow University	
21	タイ	パンヤピワット経営大学	Panyapiwat Institute of Management	
22	米国	カリフォルニア大学	University of California	
23	米国	ペンシルベニア州立大学	The Pennsylvania State University	
24	米国	ノースカロライナ大学シャーロット校	University of North Carolina at Charlotte	
25	米国	ベイラー大学	Baylor University	
26	米国	ワシントン大学	University of Washington	
27	米国	モンタナ大学	University of Montana	
28	米国	テンプル大学	Temple University	
29	カナダ	ウォータールー大学	University of Waterloo	
30	マレーシア	マラヤ大学	University of Malaya	
31	米国	アラバマ大学	The University of Alabama	
32	米国	シンシナティ大学	University of Cincinnati	
33	米国	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	State University of New York at Stony Brook	
34	米国	ニュースクール大学	The New School	
35	カナダ	レジヤイナ大学	University of Regina	

11. 連携して事業を行う機関(国内連携大学等)

	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1	東北大学	全学[文学部][教育学部][法学部][経済学部][理学部][医学部][歯学部][薬学部][工学部][農学部][文学研究科][教育学研究科][法学研究科][経済学研究科][理学研究科][医学系研究科][歯学研究科][薬学研究科][工学研究科][農学研究科][国際文化研究科][情報科学研究科][生命科学研究科][環境科学研究科][医工学研究科]	4		
2	千葉大学	全学[看護学部][医学部][薬学部][工学部][教育学部][園芸学部][国際教養学部][文学部][法政経学部][理学部][看護学研究科][医学薬学府][園芸学研究科][融合理工学府][教育学研究科][人文公共学府][総合国際学位プログラム][専門法務研究科]	5		
3			6		

(大学名:○関西大学、東北大学、千葉大学) タイプB

12. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

・関西大学

<http://www.kansai-u.ac.jp/data/index.html>

・東北大学

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/>

・千葉大学

<https://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/teaching/index.html>

13. 本事業経費

(単位:千円) ※千円未満は切り捨て

年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	合 計
事業規模 (総事業費)	171,930	135,960	130,220	117,480	92,380	647,970
内 訳	補助金申請額	165,700	127,800	115,020	94,666	47,333
	大学負担額	6,230	8,160	15,200	22,814	45,047
						97,451

14. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地			
責任者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)		
担当者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)		
	電話番号			緊急連絡先		
	e-mail(主)			e-mail(副)		

(大学名:○関西大学、東北大学、千葉大学) タイプB

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容

① 交流プログラムの目的・概要等【3ページ以内】

【交流プログラムの目的及び概要等】

本事業の交流プログラムのテーマは Blended Mobility (デジタル化・オンライン化した教育を、渡航留学活動と有機的に融合した学修) Project (BMX) で生み出す「Society5.0 人材」の育成である (プラットフォーム拠点形成としては、そのインフラの創出も含まれる)。この事業趣旨に則った連携 3 大学共同で行う活動と、個々の大学において独自で行う取組がある。

2023 年度に JIGE (Japan hub for Innovative Global Education) 拠点を連携設置し、このチーム組織において以下の共通した交流活動の推進を行う。※連携体制については概念図参照。

本事業で構築する Blended Mobility (以下 BM) は、「オンライン教材やオンラインでの交流の機会を、従来の場所に根ざした授業方法と組み合わせた教育へのアプローチ」を意味する (欧州評議会・Erasmus プログラムハンドブック)。この国際教育分野のパラダイム転換を視野にいれた事業を [BMX (Blended Mobility Projects)] と称し、関西大学・千葉大学・東北大学の 3 大学で取組む。

※各活動の詳細は様式 2④-(i)

連携 3 大学共通の交流活動

【交流活動内容①】 JV-Campus に設置する「COIL/VE 型学びのアトリエ」プロジェクト

連携 3 大学および海外相手大学が協働し、Multilateral 型 COIL/VE (以下「アトリエ MCP (Multilateral COIL Project)」) コースを、合計 5 つ (現時点) のテーマごとに開発する。どの科目も、3 大学所属の学生に加え、本事業の海外相手大学の希望学生が履修登録して参加することができ、国内外の背景の多様な学生が集まり、共修する。各テーマは「学びのアトリエ」内の「テーマ部屋 (Atelier Room)」として設置する。このアトリエは、国際化促進フォーラムの新プロジェクトとして立ち上げ、JV-Campus スペースにて運営する。

【交流活動内容②】 多様な Blended Mobility プログラムの実施

BM の利点を最大限活用し、より幅広く多様な学生層に国際教育経験を提供することで、養成したい人材 (アウトカム) の育成を手掛けるため、本取組ではオンライン型の活動として①長期(各学期間)COIL 科目履修、②アトリエ MCP 履修、③JV-Campus オンライン教材を活用した学修科目履修の 3 タイプの活動に参加できるように設計する。

オンライン型活動に参加した者は、3 大学共通もしくは各大学において提供する (i) 30 日未満の海外相手大学への短期研修への参加、(ii) 交換プログラムや学位取得 (JD/DD 等) プログラムの一環として相手大学で行う中長期留学、そして (iii) 「COIL Plus」プログラムとして、オンライン型学習活動と現地での海外研修を一連のパッケージとした BM プログラム (指標数値では「ハイブリッド」として換算) への参加といった複数の渡航型学習活動ができる。

【交流活動内容③】 本事業で交流する海外相手大学の（外国人）留学生層および日本人留学生層を対象としたキャリア形成サポート活動

本事業で輩出する人材層が、国内企業においてリーダーシップを取り活躍する出口へとつなげることは、Society 5.0 人材の育成をアウトカムとする取組の不可欠なステージである。この取組についても、オンライン活動とオンサイト (現地) 活動の双方をフルに活用したブレンド型 (BM) とする。本取組では、特に今後企業と人材のマッチングとして重視されるインターンシップ活動の構築に注力する。民間企業 (PASONA グループ等)・行政関連組織 (JETRO・JICA)・大学連携ネットワーク (SUCCESS) 等との協力を得て産官学連携のスキームを設定し、本事業において参加する国内外大学の日本人・外国人留学生双方に①リモート・インターンシップ (課題解決型)、②渡航型インターンシップ (短期・中長期 : On the Job Training 型) の枠組み、③高度専門型インターンシップ (実務型)、④共同研究 PJ ラボインターンシップといった活動を提供する。本事業の下半期 (2025 年以降) には、インターンシップの仕組みを広く横展開し、他大学の活用を促す。

【共通して導入するシステム】 COIL/VE 型学修科目等の履修・修了歴をデジタル化して証明

上記の共通した取組を通して、複数の機関、国地域の参加者らが BM 学習活動を行うが、その履歴や習得したスキル等を明示化し、さらには在籍中のみならず、入学前や卒業後も「ライフ・キャリア形成」に活用できる「学修歴のポータビリティ」を生み出す仕組みとして、以下のシステムを

(大学名 : 関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ : B)

導入する。これらの仕組みは、資格の承認、移動促進に加え、教育享受方法の民主化を重要な意義とする東京規約の趣旨を尊重とともに、本システムの活用をベースに、高等教育を受ける機会を多様な層に提供するインフラ整備を実現させることを趣旨とする。

☆デジタルバッジ(Open Badge)を採用した学修証明・履修活動履歴のデジタル化

デジタルバッジ形式で証明する活動は、大きく以下の3タイプがある。科目やBMプログラムへの参加証明①「JIGE 参加証明」、そして Blended Mobility プログラムカリキュラムを修了し、しっかりと質保証が担保された評価基準の下、能力の習得を示す履修歴の証明として②マイクロ・クレデンシャル発行を行う。さらに、本事業のプラットフォーム拠点として、キャパシティビルディング研修をプログラム化し、③履修証明プログラム(2025年度スタート)における電子資格証明を実装する。

各大学独自で取り組む交流活動

関西大学

☆BM 活動のカスタマイジングサポート 海外大学の科目と関西大学の科目のマッチングにて行う COIL 実践(バイラテラル型)、学期毎にてオンライン開講科目を海外の協定大学等に履修を開放する KU-EOL(Engaged/Exchange Online Learning)等従来の COIL 型教育実践で効果が高いものを今後も継続すると同時に、これらの科目参加者層に BM プログラムへの参加登録をしてもらい、個々が参加したオンラインでの国際教育学習が有効に活用できる「渡航(留学)を伴う国際交流学習への参加」を誘致する。

☆AP 制度の推進 関西大学が 2025 年度開設を目指し準備を進めている新設研究科(「Global & Area Studies」)において、(i)来日後の外国人研究生、(ii)渡日前入学決定者層、(iii)受験を希望する国外大学生層が本事業で提供する COIL/VE 型科目(例:アトリエ MCP)、JV-Campus を活用した日本語・日本文化学習科目等を一定の成績を認め履修した場合、入学後そのマイクロクレデンシャルのデジタル証明の提出をもって、研究科が認める単位数上限をめどに卒業所要単位として認定する。

千葉大学

☆オンライン留学等と BM の融合 2020 年の ENGINE(Enhanced Network for Global Innovative Education) プランの開始による全員留学と、コロナ禍に対応するためのオンライン留学の導入によって、千葉大学では類例のない、年間 2,000 人を超える、大規模な留学経験を蓄積している。また、2020 年後半からは、渡航をともなう留学を再開した。これを本事業と結合することを通じ、渡航を主とする留学の事前指導・事後学習に COIL 型学習を組み込む形態、オンライン留学と短期の渡航留学を組み合わせる形態など、多様な形態を混合したモビリティの形態を実現している。これらのオンライン留学や渡航を伴う留学は、すでに現地学生との協働学習をプログラム中に組み込んでおり、BM との融合を比較的容易に実現することが可能である。

☆二言語併用科目の COIL 化 グローバルスタディー科目を中心とした留学生と日本人学生の二言語併用科目を拡充し、COIL の形態で渡日前学習を進めることによって、J-PAC (Japan Program at Chiba) など本学への留学にスムーズに移行できる体制を整備する。

☆大学院共通教育と AP 制度の導入 千葉大学では、学府・研究科を超えて履修可能な大学院共通教育科目中に、COIL 型科目を設定し、留学を希望する学生に開放することによって、入学後にその履修証明を提出した学生に対して学府、研究科の認める上限単位数に応じて、本学大学院における単位として認定する。また、専門科目においても、大学院人文公共学府の専攻に応じて、JV-Campus の日本文化特設 Box の大学院レベル科目の履修をもって単位認定を行う。

東北大学

東北大学が研究・教育において戦略的に関係構築を図ってきた北米等の 10 大学と資源を共有し、留学生と国内学生の協働を取り入れた「国際共修」と、オンライン・デジタル学習・アセスメントを両輪に教育交流をさらに発展・高度化する。以下が具体的な取組である。

☆Pre-College プロジェクト入学前国際研修(派遣)および国際学士課程の予備教育(受入)の統合により包括的な高大連携国際準備コースを新設し、AP と連動させ推進する。

☆GO 海外研修プロジェクト初年次から大学院生まで、学生の国際レディネス、専門基礎力、学術的関心に応じた多様かつ Goal-Oriented (GO) の短期研修プログラムを開発し体系的に展開する。

☆ニーズベースの受入研修プロジェクト 日本語・日本文化研修から専門教育、研究まで、連携校の学事暦や学生の関心に応じた短期受入研修プログラムを拡充する。

☆中長期の専門教育研修: 海外トップレベルの協定校との授業料不徴収、単位互換制度に基づく専

(大学名: 関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ: B)

門教育を軸とした双方向の学生交流を拡充する。

☆高度専門研修プロジェクト：高学年次・大学院での研究活動、フィールドワーク、インターンシップ、アントレプレナーシップ研修を含む専門的、学際的な研鑽と専門的知見をキャリアにつなげるための国際的なキャリア形成・起業支援を学内外の組織と連携して実施する。

【養成する人材像】

3 大学にて共通して養成する人材像

本事業では、連携する3大学共通で、「Society 5.0 人材（日本人も留学生も該当）としての適性」の涵養を推進することで合意している。次世代社会 Society 5.0 は、デジタル技術の革新とさらなる波及・浸透により、その活用が多領域において実践的に展開し、すべての人のウェル・ビーイングを下支えする社会となる。この社会をリードする人材層を輩出することが、高等教育機関の大きな役割であり、本事業で展開する新しい国際教育で学修する者が、以下のような適性を持つ人材として成長するよう教育設計を行う。これらの基礎となる適性に加え、現在ではまだ黎明期ではあるが今後大きな位置を占める「ハイパープレゼンス社会(Hyperpresence Society:仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、ミックスリアリティ(MR)などの先進的なテクノロジーが普及し、現実世界と仮想世界が密接に結びついた社会)」や、世界の諸問題を解決する上で必要な各分野において、その最先端をリードする「国際頭脳循環」に参入するような高度専門職人材として成長する人材の育成も、Society 5.0において必要不可欠である。上記に掲げた能力・適性は、特定の学問分野に限定して必要とされるのではなく、汎用的に備えるべき次世代社会のための「レディネス」である。本事業では、異なる背景を持つ者と学際的に共修する機会の創出に意識的に尽力し、本事業のプログラムの設計に組み込む。

それぞれの特色を踏まえた各大学の養成したい人材像

関西大学 学是である「学の実化」にもあるように、関西大学は「学び」を単なる情報・知識の吸収に留めるのではなく、社会の日々の活動に実装する・応用できるようになるまでを教育の範疇とし、輩出する人材の実践力を確立することを大切にしている。具体的には、「グローバル・エンブロイアビリティ（国内外で求められる雇用能力）」を持つ人材の育成が関西大学の特色ある人材像である。学生達が、国内学生の場合は「日本市場」に留まらない自身のキャリア形成が実現可能なのだとという意識を持つこと、そして国際学生の場合は、自国ではなく「日本」でのキャリア形成を視野に入れること、これらを人材育成のアウトカムとする。

千葉大学 総合大学としての知的環境を十分に利用して、以下の 5 つの能力を兼ね備えた人材の育成を目指している。1. 「自由・自立の精神」を持ち、自ら新しい知識、能力を獲得でき、自己の良心に則り社会の規範やルールを尊重して高い倫理性をもって行動できる。2. 「地球規模的な視点からの社会とのかかわり合い」自己の専門的能力を社会の持続可能でインクルーシブな発展のために役立て、広い視野から貢献することができる。3. 「普遍的な教養」多様な文化・価値観、社会、自然、環境を深く理解し、文理横断的・異分野融合的な知を備え、直面する課題について主体的な認識と判断力をもって取り組むことができる。4. 「専門的な知識・技術・技能」専門領域に関して体系的に修得した知識・技術・技能をもとに、実証的・論理的思考を展開し、イノベーション創出につなげることができる。5. 「高い問題解決能力」他者と考えや情報を共有する能力を有し、主体的学修を通じて問題解決に取り組み、解決の方向性を提案することができる。

東北大学 國際社会に山積する諸課題を解決するためには、**地球社会の一員としての責任**を認識し、社会にポジティブな変化をもたらすため行動を起こすアクティブ・グローバル・シティズン（AGC）の存在が欠かせない。本プログラムでは、自身の社会的・環境的正義を強く意識した上で、言語、文化、価値観の異なる他者と協働し、専門的知見に基づいた実効性のある提案で、持続可能な社会の発展と世界平和に寄与できる高度専門 AGC を育成する。異文化理解力、相対的自文化理解力、多文化間コミュニケーション力、批判的思考力、創造力、チームワーク力等のグローバルコンピテンシーに加えて、デジタル・リテラシーを身につけた、理工学、人文・社会科学、医療系分野の高度専門 AGC を育成する。

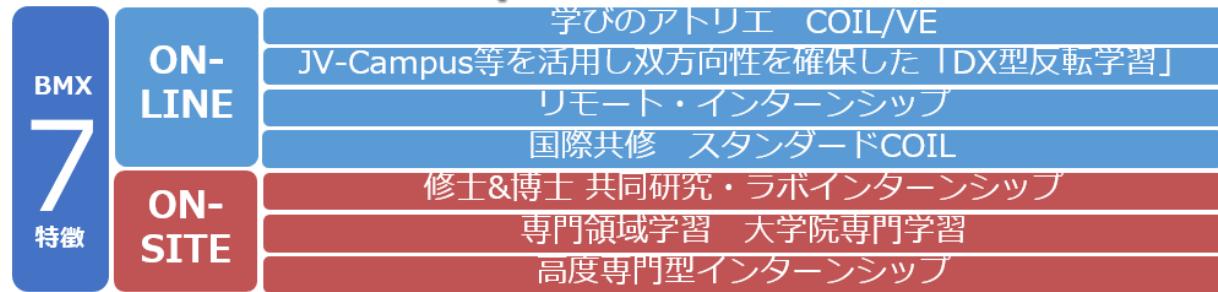
【本事業で計画している交流学生数】各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位の取得の有無は問わない）

2023 年度		2024 年度		2025 年度		2026 年度		2027 年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
628	397	1,917	1,106	2,798	1,591	3,268	2,083	3,891	2,294

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

② 事業の概念図【3 ページ以内】

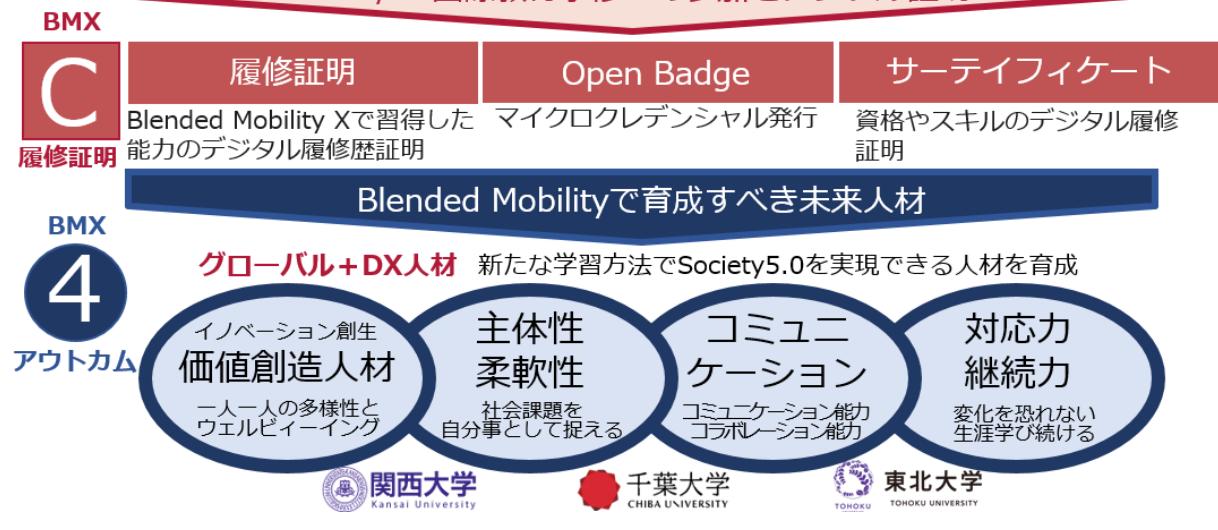
Blended Mobilityが促進する次世代型国際教育



多様なブレンドで有機的な融合かつ個々の学生にカスタマイズした国際教育を実現



COIL/VE国際教育学修への参加をデジタル証明



(大学名: 関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ: B)

交流活動プログラムの特徴

学びのアトリエ MCP (Multilateral COIL Program)

Atelier 5

- ✓ アトリエ = さまざまな作業をオンラインで実施
- ✓ 実作業を対面で実施しているようなバーチャル空間を構築
- ✓ メタバース利用のインタラクションワーク実施
- ✓ JV-Campusに新規にアトリエ設置 5つの「テーマ部屋」で Multilateral COILコース群を実施

*以下は科目事例

インタラクティブ作業 メタバース空間も利用

Design Thinking

- STEAM:
 - Innovation
 - Thinking
 - PBL
- Creativity for STEAM
- Design Thinking
- Data Driven Design
- Design Innovation
- Scenario Writing
- User Observation

Art & Entertainment

- STEAM: Liberal Arts
- Theatre and Performance
- Art Studies
- Japanese Popular Culture
- Japanese Traditional Performing Arts
- *Noh* and *Kyogen*
- *Kabuki* and *Joruri*
- Religion & Culture

Well-being

- Disaster Resiliency
- Mental Health & Well-being
- Disaster Medical Care
- Disaster Nursing
- Resilient Society
- Aging Society
- Plant Therapy

Sustainability

- SDGs for Business
- STEAM GX
- STEAM Natural Science
- Plant Factory
- Sustainability Health
- Landscape Design
- Plant Therapy

Skills for Society5.0

- Digital Humanities
- Data Science
- Data Visualization
- Informatics Design
- 21st Century captive Communicative Competence in VR/AR

専門領域学習 大学院専門学習

大学院メジャー

セルフ・デザインメジャー JD設置>国際学位プログラム
(日本2大学から発展)



研究プログラム 博士課程COILドクトラル・コロキウム



大学院マイナー

大学院ジョイントマイナー
>複数大学共通化へ
8単位取得でマイナー付与等

☆ソーシャル・イノベーション系マイナー
☆データサイエンス系マイナー



リモート/高度専門型・インターンシップ

Internship 5+

- ✓ クリエイティブ型インターンシップをリモート環境で実現
日米+3カ国・地域でアジアの課題に対峙：
インターンシップで解決！
- ✓ 日本人・外国人が共同インターンシップ実施
- ✓ 日本でも海外でも留学中に参加し、就活につなげられる

リモート・インターンシップ
&
渡航留学中のインターンシップ
アジアの課題を解決



JAPAN

LeaveaNest
パナソニック
INOQUA (海洋環境・生態系バイオテック)

大中小企業全方位

SQREEM
パソナグループ

共立メンテナンス

EXPO2025
共創チャレンジプロジェクト (予定)



LG

NAVER

Origgin
シンガポール・東京

ASIA

ASEAN

OCEANIA

サムスン

PASONAグループ海外拠点

One & Co
シンガポール

NAVER

LG

PASONA

グローバル企業



USA

日本ガイシ
ケイヒン (トランスマッision)

デンソー 日本商工会議所

日系企業 + 行政

日産化学 (ドア)
フジテックショーワ (パワーステアリング)
JETROシカゴ ホンダ

ファイアーストーン ブリヂストン

フジテック キヤタピラー

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ： B)

JIGE : Japan hub for Innovative Global Education

高校から社会人まで全ての「Learners (学習者)」にCOIL/VE型の学びを提供
JIGEがCOIL/VE等教育DX型のプラットフォームとして国内外のCOIL4.0(with Education4.0)を推進

JIGE CAT'S EYE 構想

(Creative, Liberal Arts, Technology & Society5.0 EYE)

具体的な科目・特色

10-
リスクリング

COILリスクリング|社会人

- データサイエンス・リスクリングなどの実践的プログラムで活用
- 産業界と教育界のコラボ機会の創出

JETRO国内外
商工会議所



大阪JIGEオフィス



東京JIGEオフィス

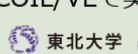
イノベーション
デザイン・シンキング

週末・夜間で実施
海外の大学と共同設計
国内外学生も一部
参加・交流の場に

7-9
博士

COILドクトラル・コロキウム

- 研究ディスカッションをMultilateral COIL/VEで実施
- コロキウムの遠隔実施
- メタバース上で研究発表



博士課程
社会科学系コロキウム
自然科学系コロキウム

コロキウムのための
メタバースサロン開設

5-9
修士&博士

研究型COIL&共同研究+ラボインターンシップ

理工学研究科

カーボンニュートラル
Sustainable DEEP Tech

看護学研究科

グローバルIPE
ローカル・イシュー

文理混合研究

dri

DESIGN RESEARCH
INSTITUTE

東北大学

高等大学院機構

国際共同大学院

プログラム

分野横断型研究

社会解決型研究

応用グローバル
スタディ

サイディフィケート
プログラム

社会科学 総合研究科

グローバルマネジメント

ダイバーシティ経営

アントレプレナーシップ

ID設置

デジタル・
ヒューマニティーズ

総合国際 学位プログラム

スピトロニクス/環境・地球科学/

データ科学/宇宙創成物理學/

生命科学(脳科学)/機械科学技術/

日本学/材料科学/

災害科学・安全学/統合化学

COIL Plus研究留学

↓
研究を進めながら
人材育成

1-4
学部

日本全国でCOILを加速:国際共修スタンダードCOIL



日本、米国、
欧州、アジアで
タイムゾーンごとに
実施

各学期でCOIL科目を
成立させる
(国内3大学+海外大学
のコンビネーションも
可能)

実施成果を公開し、
構築方法の連携国内外
大学への共有

IVEC等国外
ネットワークとも連携
し、取組を発信
IVEC
IVEC International Virtual
Exchange Conference

0-
高校

Advanced Placementを加速

- 国内外高等学校のCOIL・VE型コース参加
- 海外の大学とJIGEで連携、大学院進学対象層に参加を誘致
- インフラの提供 (JV-Campusも有効活用)

優秀な国内外の学生獲得へ

併設校を有する
関西大学
飛び入学25年の
千葉大学
入学期留学を推進する
東北大学

③ 国内大学等の連携図【1 ページ以内】

国内連携3大学の運営体制と活動

国際ネットワーク・行政等

ASEF (Asian Europe Foundation)
UMAP (University Mobility in Asia and Pacific)
US Consulate Osaka-Kobe



関西大学
Kansai University

全体統括

東北大
海外連携組織・部署

ワシントン大学 アカデミック
オープンスペース
UCリバーサイドオフィス
タイ ASEANオフィス

関西大学
海外連携組織・部署

ベルギーEUオフィス
タイASEANオフィス

次世代国際教育スキーム
Blended Mobility

外 外国人留学生向けプログラム
日 日本人向けプログラム

プラットフォーム拠点形成と波及
World EXPO 2025に向けた活動

高校から社会人まで多層の学びを
COIL/VEで推進 (CAT'S EYE構想)

国内JD推進/米国とのJD推進

国内外産学連携スキームの構築

他地域の大学も参画し、
日米+で 学びを深化・進化

東吳大学 (台湾)
マレーシア国民大学
San Pedro College (フィリピン)
パウリスタ州立大学 (ブラジル)
カーディナル・ヘレナ大学 (スペイン)
Panyapiwat Institute for Management (タイ)
ナンヤンポリテク (シンガポール) 等



東北大
TOHOKU UNIVERSITY

ドクトラルコロキアム等
研究と実践の融合型BM 担当

デジタル化証明方法決定
マイクロクレデンシャル発行
プログラムのデジタル履修証明

米国大学とのプレ・アカデミア・
プラクティス推進

異領域研究交流プログラムの開発

国際共修を取り込んだ教育カリキュラム

千葉大学
海外連携組織・部署

サンディエゴキャンパス

バンコクキャンパス

タイとの連携推進
バンコクキャンパス
韓国との推進

日 日本人向けプログラム

千葉大学
CHIBA UNIVERSITY

アトリエMultilateral
COIL/VE Project 担当

FD研修
プログラム開発 COIL化推進
イノベーション系プログラム担当

米国 5 大学とのCOIL推進

AP推進
大学院マイナープログラム担当

外 外国人留学生向けプログラム
日 日本人向けプログラム

(大学名：関西大学、東北大、千葉大学) (タイプ： B)

④-1 交流プログラムの内容【8ページ以内】

【実績・準備状況】

【共通】国内外連携組織とのこれまでの活動と関係構築

JPN-COIL 協議会は、2018 年度に大学の世界展開力強化事業 2018-2022 の活動の 1 つとして、関西大学グローバル教育イノベーション推進機構（以下、IIGE）が事務局を務め、採択大学を中心にはじめ合計 13 の大学でスタートしたものである。COIL への関心はコロナ禍前もじわじわと広がりを見せていたが、2019 年 4 月時点で合計 20 大学となり、コロナ禍「最盛期」である 2020 年後半～2021 年にかけては、44 大学と、加盟数が倍増し、現在は 57 大学である。本協議会は主として大学単位での加盟を求めるものである。2021 年 3 月に、個人会員枠もスタートさせ、現時点では 26 名の参加がある。国内だけではなく、海外大学からも個人会員への加入もあり、今後も個人会員としてのネットワーク参画は広がりを見せていくと考えられる。

COIL/VE 型実践の推進を 2014 年から実施していく中で、IIGE では多様な国内外の組織との連携を形成し、多様な活動を継続してきた。IIGE Associates として、以下のような団体・組織がある：

IIGE の HP (URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/about/#associates>)

- SUNY COIL Center : 研修活動などで内容や情報の共有。
- Gateway International : IIGE プロフェッショナルディベロップメントシリーズという FD ウェビナーで 2021 年度より通年で共同開催 (<https://kuiige.wixsite.com/iigeseminars22>)。
- ALLEX Foundation : (米国の大学とのネットワークを持つ。米国大学で日本語学科を持ち、講師を日本から誘致しフェローシップとして修士プログラムに通いながらクラス担当をするプログラムを運営。日本語クラスにて LLC (language learning focused COIL) を協働で推進。
- COIL Connect : 元 SUNYCOIL センター所長で COIL 実践の創設者がスタートした大学ネットワークで、現在 250 を超える世界の機関が登録している。関西大学とは 2014 年来の連携の実績を持ち、COIL Connect とも Board Member 組織としても協働を継続している。
- LatAM COIL : 中南米中心の COIL 実践を行っている大学ネットワークであり、IIGE グローバルネットワークに加盟する大学や、日本の大学とのマッチングなどの活動を実施してきている。
- UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific) : 370 以上の国際的な大学ネットワークであり、日本からも 45 の大学が参加している。IIGE では 2018 年度から UMAP と共催で① UMAP-COIL Joint Honors Program (2019-2021)、② UMAP メンバー大学対象 COIL/VE 研修プログラムの実施 (2022)などを実施してきた。これに加え、関西大学が継続実施中の J-MCP (Japan Multilateral COIL Program) にも、UMAP 加盟大学学生の参加を認めており、毎回多くの学生の参加がある (UMAP-COIL2018 | COIL プログラムの後に Peace Boat で日本 1 周の派遣を実施)。



PHOTO: ONBOARD COIL SESSION WITH COGCO



PHOTO: LIVE LECTURE FROM BUSAN, SOUTH KOREA



PHOTO: STUDENTS BOARD THE PEACE BOAT IN OSAKA

- ASEF (Asia Europe Foundation) : 設立 26 年を迎える政府系非営利組織で、51 か国が加盟し、それぞれの大学機関などとも深い関係構築をしている組織である。関西大学 IIGE では 2021 年度から ARC8 (ASEF Regional Conference 2021)、2022 年度に開催した COIL Plus プログラムにおける協業など、これまでにオンライン・訪問交流を重ね協力関係を維持している。2024-2025 年度については、Society 5.0 をテーマとした学術交流活動や学生交流を計画しており、本事業連携 3 大学へのアプローチがあった。

以下の国内連携組織とも連携を進めてきた。本事業においても継続して情報発信や、研修などでも共同活動を進めていく予定である。

- JAFSA (Japan Network for International Education) : COIL/VE 実践の普及、IIGE が共催したプロフェッショナルディベロップメントシリーズに参加など、他大学へのノウハウ周知にお

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ： B)

いて互恵関係にある。東北大学も、国際共修実践に関する研修を JAFSA と共に催で行っている。

- **EJC (EGAP Japan Consortium)** : English EGAP 運用能力の涵養を目的に設立されたコンソーシアムで、2022 年に ETS Japan の発議により発足した。東北大学と関西大学はその発起人メンバー機関となっている。
- **JANET (Japan Academic Network in Europe)** : 主に欧州に拠点を持つ日本の大学・学術機関による大学ネットワークで、千葉大学、東北大学、関西大学はメンバー機関である。JANET メンバー機関が一堂に会することができるフォーラムの開催等が運営されている。
- **留学生就職支援コンソーシアム SUCCESS** : 留学生就職支援を中心とした活動を行う全国大学ネットワーク「留学生就職支援コンソーシアム SUCCESS」が 2022 年度に発足した。

【共通】国際教育の DX (デジタルトランスフォーメーション)

関西大学では DX による次世代教育システムを 2021 年秋に導入した。具体的には、富士通株式会社および富士通 Japan 株式会社と連携して、「時間と空間の制約」を取り除くことができる学習環境 「グローバルスマートクラスルーム (GSC)」を整備。そこに AI 自動翻訳や MR (複合現実) 技術などを連動させることで、従来のオンライン教育の課題をクリアした、ボーダレスでインタラクティブ、かつインクルーシブな学びのプラットフォームを創り上げた。

関西大学のグローバル DX 教育は①ボーダレスな教育享受機会を提供する。<物理的距離を越え、他キャンパスや海外大学科目の受講が可能 (=教育機会の拡大)>②双方向ディスカッションを必須とした能動的・実践的な学習活動の実現をさせる。<現場と遠隔参加をする教員・学生が自在に交じり合う (=ハイフレックス教育のスタンダード化)>③DX の可能性を最大限に活用した次世代教育コンテンツを創出する。<現実空間と仮想空間の融合による知識・経験の獲得 (=従来のデジタル教育の限界を超越)>、これらをアウトカムとした取組である。また、学習管理システム「関大 LMS」を活用した学習履歴・習熟度の把握を代表とする学修成果可視化の取組み、そして DX 教育に必要なインフラ、環境整備等を通じて、真のスマートキャンパス化を進めている。

千葉大学では COIL-JUSU プログラムを円滑に運営する見地から、米国学生のアクセスを可能にする LMS である COIL-Moodle を独自サーバーの設置によって運用してきた。また、2020 年に ENGINE プランを立ち上げる前提として、2019 年度中にスマートオフィスを設置し、教員、学生の双方に対し、インフラを整備し、2020 年度からは情報基盤のクラウド化を積極的に実施することによって安定した運用を実現している。また、Google Workspace、Teams、Zoom 等を複合的に利用することによって、海外学生・留学生との協働学習の基盤を整備している。また、国際未来教育基幹の改組によって基幹内にスマートラーニングセンターを設置し、デジタルコンテンツの拡充や、教員に対する FD 活動を推進している。さらに、2022 年度から学生の学習成果確認のために学生向けのデジタル化されたダッシュボードを開始し、職員向け、教員向けを合わせたトリプルダッシュボードとして完成させる予定である。加えて、2022 年度からマイクロクレデンシャル(千葉大学ではバンチプログラムと呼んでいる)を複数設置し、デジタルバッジによる認証を進めている。2024 年 4 月には、情報データサイエンス学部、同研究科の設置及び、情報データサイエンス研究所を設置し、全学の DX 教育を強化していく。この新たな研究科においては、グローバル・プログラムやリカレントプログラムを実施し、高度な研究と人材育成の両方を実現する。本事業においても、すべてのプログラムを取り込み、オンライン、オンラインに関わらず、グローバル DX 教育研究を実現する。

東北大学では、コロナ禍下で国際教育交流を全面オンライン化した「BE GLOBAL」を立ち上げ、インフラ整備、デジタル教育コンテンツ、FD を充実させた。オンライン、ハイブリッド型の授業や研究指導に加えて、留学の事前・事後研修等も一部オンライン化している。国際共修の学修目標の設定や成果確認に用いる東北大学独自のループリックや効果検証ツールのデジタル化も進め、東北大学グローバル育成プログラムプログラムでデジタルバッヂを発行している。東北大学が教育国際化の主要施策と位置づけ推進してきたのが「国際共修」である。多様な言語・文化背景をもつ学生間の協働を教育手法とする国際共修において、東北大学は開講数や全学的な支援体制などで国内の大学をけん引している。学部 1・2 年生を中心に年間約 1,100 人 (うち留学生は 300 人) が履修する「国際共修」科目には、アクティブラーニングと課題解決型学習を組み込み設計されており、地域社会や産業界も巻き込んだ教育実践を推進している。2021 年度に大学の国際化促進プラットフォーム事業のプロジェクトとして採択され、東北大学が蓄積した教育資源を国内の連携 5 大学に共有し横展開を図っている。

各大学の交流活動に関する実績と準備状況

(大学名 : 関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ : B)

関西大学 2014-2023 年度の 10 年間の大学の国際化戦略「Triple I(トリプル・アイ)構想」と、2017-2036 年度長期行動計画と位置付けた「Kandai Vision 150」があり、これらの中長期的なビジョンに則り以下の関大独自の交流活動を行ってきた。

○IIGE がけん引してきた COIL/VE 実践

関西大学が 2014 年から継続して実施してきている Bilateral 型 COIL/VE は、13 学部・研究科すべての学生の参加が可能な科目群において提供しており、2023 年度以降も Bilateral COIL 科目は継続される。Bilateral COIL 科目は、毎年 IIGE の 120 超のグローバルネットワークに加盟する海外大学のリクエスト等によりマッチング成立事例は変化する。

*参考 URL:<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/networks/>

○国際化促進フォーラム PJ (Japan Multilateral COIL/VE Project (J-MCP) 一多方向・多国間 COIL/Virtual Exchange 型教育プロジェクト)

2021 年度より新たに構築しスタートさせた J-MCP は、2021-2022 年度の 2 年間で、合計 401 名の学生参加（内日本人学生 89 名、国際学生 312 名）、そして 21 名の大阪府下の高校生の参加があった。J-MCP は、本事業で新たに行う 3 大学連携の COIL/VE プロジェクトの礎となる取組である。J-MCP は、大阪公立大学、創価大学、千葉大学、南山大学、北海道大学といった国内大学連携パートナーと横展開し、COIL コースのカリキュラム設計を綿密に行い、そこに多方向から学生が参加することができる仕組みである。本取組において、「21st Century Skills」「SDGs for Business」「Diversity & Inclusion」といった、既存の学内カリキュラムには従来ないテーマを主体的に取り扱った科目を新設することができている。この科目の履修者は、国内学生だけではなく、非常に多くの国地域からの参加がある。関西大学所属学生以外の参加者の履修証明に、IIGE では 2021 年度より、一般財団法人オーブンバッジ・ネットワークのデジタルバッジを採用し、「Certificate of Completion (参加証明)」と「Certificate of Excellence (優秀者証明)」の 2 つのデジタルバッジの発行をすでに開始している。この 2 つのバッジは、コースを設計する MF (Main facilitator) の教員および IIGE が精査し構築した評価基準に基づき、参加者らの成果を評価した結果を反映するものとなっている。この詳細な「メタデータ」を活用し、参加大学の一部 (San Pedro College、Escobar Central University、Gadja Madah University) は本コース履修を卒業所要単位として認定している。このように単位認定のフレームワークとしての機能を果たす他、それぞれの J-MCP 科目の履修をデジタルバッジ証明として学生自身の履歴書に掲載し、個人の能力の証明として活用するケースもあり、「マイクロ・クレデンシャル」の設置に大きな示唆を提供するものとなっている。*参考 URL:<https://kuiige.wixsite.com/j-mcp>



千葉大学 千葉大学の国際共修による、教育の国際化は大きく 3 つに分類することができる。第 1 は、グローバル・スタディー・プログラムに代表される、海外の協定校と実施する、学部 1-2 年生を対象とした、教養教育としての国際共修プログラムである。第 2 は、専門課程で実施する PBL 型の WS で、国際教養学部から医学部に至るまですべての学部で実施している。第 3 は、大学院レベルにおける、グローバル・イシューを課題とした、分野横断型のプログラムである。

○教養教育としての国際共修プログラム

グローバル・スタディー・プログラムは、例えばギリシャでツーリズムを考えたり、韓国で農業ビジネスを考えたり、中国で高齢化社会を考えたりなどと様々な国において様々なテーマを対象に協定校の学生とともに課題を解決するプログラムである。年間 20 ほどのプログラムが流れており、日本においても約半分の 10 プログラムを実施している。これらを本事業においても開放することによって日本人と外国人の共修のシステムを効率的に構築することができる。

*参考 URL:<https://global-education.chiba-u.jp/course/gateway/>



○多様な PBL 型の WS プログラム

国際教養学部から医学部に至るまですべての学部で実施している。図は、その一例であり、本事業と関係深いデザインで実施しているものである。このプログラムでは、海外の多様な課題を現地で解決するプログラムを実施している。グローバル・スタディー・プログラムとの違いは、高度で専門的な知識での課題解決を必要とすることである。一般的には 2 大学で実施するが、最大 10 大学による連携プログラムとして実施している。



*参考 URL:https://socialdesigninitiative.studio.site/g_home_j

○グローバル・イシュー・プログラム（大学院レベル）

9 の国際大学院副専攻プログラムで実施している分野横断型のプログラムである。植物工場プログラム、グローカル地域ケア IPE プラスなど、千葉大学の有するユニークなプログラムが中心となり、世界規模の社会課題に対して、専門分野を横断した専門家の共同作業により国際課題を解決するものである。例えば、GRIP プログラムでは、日本・インド・英国の共通課題をそれぞれの国であり、国による方法の違いを明らかにし、グローバル対応力を育成するものである。*参考 URL:<https://www.n.chiba-u.jp/grip/>

東北大 これまで教育の国際化を大学の重要ミッションとして位置づけ、質の高い国際教育交流を全学体制で展開してきた。中長期的な国際戦略と確実な実装化で達成した成果は SGU 中間評価でも高く評価され(S 評価)、THE 世界大学ランキング日本版での 4 年連続の 1 位にもつながっている。

○全学生を対象としたグローバルリーダー教育基盤の整備

G30 で推進してきた国際学位コース（学部、大学院）をベースに、すべての研究科で英語のみで学位が取得できるコースを設置し、英語による交換・短期受入プログラムを開発した。これにより国際通用性対応を飛躍的に向上させた。GGJ により進めてきた「東北大学グローバル育成プログラム (TGL プログラム)」は、SGU でさらに発展させ、全学部学生の 3 割が登録する全学的な認証プログラムに成長した。2019 年度には TGL を包摂する「挑創カレッジ」を設置し、新たに SDGs、コンピューテショナル・データサイエンス等の 4 つのプログラムを新設し、グローバルリーダー育成と専門基礎教育を一元的に行う体制の整備を進めている。

○海外相手大学との質の高い交流実績および準備状況

これまで世界トップレベルの大学と学術交流協定を締結し、大学の中長期的ビジョンに基づいて活発な双方向の国際教育交流を推進してきた。北米の協定校とは大学の特長を生かした戦略的な関係構築が実現できている。例えば、ワシントン大学に本学の研究拠点、「アカデミック・オーパン・スペース」を設置し、最先端の研究プロジェクトに大学院生が参加できる体制を整備している。またカリフォルニア大学リバーサイド校に設置したリエゾンオフィスでは、専任（兼務）のスタッフが短期研修プログラムの支援や現地での留学生リクルーティングを実施している。カリフォルニア大学、ペンシルベニア州立大学等の北米（カナダ含む）協定校とも短期研修、オンライン言語文化研修、交換留学、研究留学など、大学の特長や優位性を考慮した教育交流で質の高い関係を構築できている。

【計画内容】

3 大学で実施する交流活動

【交流活動内容①】 JV-Campus に設置する「COIL/VE 型学びのアトリエ」プロジェクト

関西大学が実施している J-MCP のスキームを発展させ、連携 3 大学および海外相手大学が協働し、Multilateral 型 COIL/VE プログラム（以下「アトリエ MCP」）を、合計 5 つ（現時点）のテーマごとに開発する。どの科目においても、原則本事業においてパートナーとなる海外相手大学の希望する学生が履修登録し参加することができる。各テーマは「学びのアトリエ」の「テーマ部屋」として設置し、その部屋で開講されている MCP コースがどのような学習達成目標を掲げ、どのような能力・スキル習得が可能かを明示化させる。各テーマは下図に示す 5 つである。各テーマ部屋で実施予定のアトリエ MCP コースの事例も、下図に示す。

（大学名：関西大学、東北大、千葉大学）（タイプ： B ）

【PREP-Room 学習コース】

これらのテーマ部屋に加え、MCP コース参加に向けてコミュニケーション能力・外国語運用能力のレディネスを向上する目的で「PREP-Room」も設置し、(i) Language Learning focused COIL (LLC)、(ii) Data Science Basics for PBL、(iii) Digital Literacy for COIL/VE という（英語開講）モジュールも準備し、より質の高い COIL/VE 活動に参加する上で必要な「練習場」も提供する。(i) は COIL 形式の双方向型のコースであり、(ii) と (iii) は 自律型オンデマンド学習 と、チューターとなる担当者がファシリテーションを行い、定期的なリアルタイムセッションを開催し学びを補填する コンタクト学習 を融合させる 反転授業形式 を採用する。国内外の学生が共に参加可能であるため、インタラクティブな国際共修の機会提供ともなっている。

アトリエ MCP に参加した国内・海外大学相手大学の学生は、本科目参加体験とスキルアップを経て、短期（30 日以上）・3 か月以上の中長期等の海外留学プログラムへの参加を誘致する。一部のコースについては、**Blended Mobility (COIL Plus 型)** として、コース履修と短期型海外研修（モビリティ）の双方に参加するプログラムの一環として位置付けるものもある（例：SDGs for Business、STEAM-Science & Engineering for GX、STEAM-Innovative Thinking）。

PREP-Room 学習コース（英語開講：MCP 参加に向けた外国語運用能力等準備コース）



【コース履修証明のデジタル化】

アトリエ MCP、PREP-Room 開講コース共に、シラバス・評価基準設定・COIL 等双方型学習活動内容は、連携 3 大学および海外相手大学との密な相談と合意に基づき策定する。各コースを担当する MF (Main Facilitator 講師) が策定し、JIGE 実行 WG および JIGE アドバイザリーボードの専門家の助言（様式 9 参照）を受け、最終段階として JIGE 運営委員会において了承し、確定される。本事業ではこれらのコース修了をデジタルバッジによって履修証明を発行するが、そのバッジのメタデータの情報（「記述子」）も同様に合意形成に伴い決定し、それに従った判定で学生への履修証明付与を施行する（学びの質保証については様式 2-④ 参照のこと）。

【交流活動内容②】多様な Blended Mobility 型国際教育プログラムの構築

2023-2027 年度の BM の取組としては、多様な BM の在り方の中でも、本事業が目指す人材育成を念頭に、以下のような融合パターンを想定し実施する。一方で、以下に提案したパターンに終始とらわれすぎることなく、それぞれのプログラムの実施とともに PDCA を回し効果検証を反映しながら、実施期間において改善を重ね、多様な学生のニーズに見合った BM を柔軟的に提供していく所存である。下記に、オンライン学習の形態 (COIL/VE 型・JV-Campus 活用型等) と、想定される渡航型研修・留学期間のコンビネーションパターンの一覧を示す。

3 大学それぞれがこの BM モデルを活用し、個々の大学が強みとする研究領域を提供する学部・研究科にて海外相手大学と国際教育プログラムを構築する。

BM モデル（オンライン学習形態・実践と渡航期間別 一覧）※概念図 1 頁目参照

国内日本人学生向け BM プログラム

- ☆長期 COIL 型学習（各学期）+現地での海外短期研修（30 日未満）
- ☆中長期 JV-Campus 活用型オンライン学修（各学期）+短期（30 日未満）・中長期留学（1-12 か月）
- ☆専門科目 Bilateral COIL/VE 学習（各学期）+中長期留学（1-3 か月）
- ☆アトリエ MCP + 海外大学への中長期留学（3 か月・6 か月・1 年間）
- ☆COIL Plus プログラム（アトリエ MCP 等+海外短期研修（30 日未満））

海外相手大学学生向け BM プログラム

- ☆マイクロクレデンシャル日本語語学コース*（1～3 か月）+日本での留学（短期・3 か月・6 か月・1 年間）（インターンシップ活動型・専門科目履修型）
- ☆アトリエ MCP+日本での留学（3 か月・6 か月・1 年間）（インターンシップ活動型・専門科目履修型）
- ☆専門科目 Bilateral COIL/VE 学習（各学期）+日本での中長期留学（ラボインターンシップ）（1～3 か月）
- ☆中長期 JV-Campus 活用型オンライン学修（各学期）+日本での留学（短期・3 か月・6 か月・1 年間）*部局間特別プログラム等（インターンシップ活動型・専門科目履修型）

オンライン学習の形態+期間の他に、本事業では高校生層から大学学部・大学院、そして社会人層も取り込んだ様々な COIL/VE 型実践を応用した BM プログラムを実施する。以下、学習テーマ・活動対象層を切り口とした BM プログラムについて説明する。

BM プログラム（学習者層別）【AKA CAT'S EYE 構想】※概念図 3 頁目参照

☆高校生層・大学院進学希望者層（研究生・渡日前海外大学在籍学生層）対象 BM プログラム

海外の高校生層を対象とした BM プログラムとしては、JENESYS・さくらサイエンスなどの海外高校の短期日本研修プログラムの受け入れ前後に COIL/VE 型学習期間を設け、来日前に参加者間及びホスティングをする大学所属の学生、教員等との交流学習を実施する。来日後、参加者らが対面しさらに親交を深める機会も設ける。連携 3 大学共に米国・東南アジア・東アジアに海外拠点を持っており、これらの拠点の協力の下、現地の高校などにプログラム参加の誘致を行う他、現地の高校生対象国際プログラムの委託を受けている民間機関とも連携する。国内の高校生については、連携 3 大学の併設高等学校等に在籍する高校生層や、各府県の教育庁などを通して地域の公立・私立高校で学生に機会の提供を希望する学校で学生を募ってもらい、随時 JIGE 提供の COIL/VE 型コースへの参加を可能にする。アトリエ MCP コースと併設される「PREP-Room」において提供される（i）Language Learning focused COIL (LLC)、（ii）Data Science Basics for PBL、（iii）Digital Literacy for COIL/VE 等の科目は、高校生の中でも海外進学・留学を視野にいれている層にとっては刺激と魅力のあるプログラムとなる。IIGE(関西大学)にて過去に実施した経験に基づき、高校生層参加者らに展開した科目開催も検討する。

国内外の大学院進学希望者層は、JV-Campus 上に展開する「アトリエ MCP」コースの受講を希望する場合、個々の申し込みまたは窓口となる学生の所属機関からの申し出ベースで履修を許可し、JV-Campus のアカウントを取得の上、参加することができる。履修が修了し、履修証明がデジタル発行された場合、この履修履歴を将来の進学時や受験時において参照したりすることができる。また、入学後に、各大学・研究科の判断の下、所要単位として認定される（上限単位数などは未定）仕組みを構築し、Advanced Placement としての機能を持たせた BM（彼らにとって母国滞在から日本への留学が「渡航」フェーズとなる）プログラムとして形成していく。

☆共同研究+ラボインターンシップ（修士課程・博士課程）BM プログラム

専門科目 Bilateral COIL/VE 学習（各学期）+中長期海外留学（1-3 か月）の BM モデルを適用し、数か月間の留学期間に、海外相手大学もしくは国内受け入れ大学の研究ラボにおいてインターンシップ受け入れを行う。ラボインターンシップ期間中も、滞在先から、自大学の研究室とオンラインでつなぎ、定期的な共同研究ミーティングを継続する。概念図 3 頁目に研究分野などを具体的に記載している。

☆専門領域研究型 BMX 「博士課程 COIL 等教育 DX 型ドクトラル・コロキウム」

博士課程後期段階の学生+ポスドク（PD）を対象とした、科研・外部資金などを受託した共同研究プロジェクトを遂行、もしくは新たな国際共同研究プロジェクトを創出する目的を持つバーチャルスペースを設置する。定期的な「バーチャルプラウンバッハ研究進捗発表会」を開催し、本ドクトラル・コロキウムのコミュニティ形成を行う。領域別に、①社会科学系コロキウム、②自然科学系コロキウムといった細分化も行う。JIGE がコロキウムのためのバーチャルサロン（JIGE コロキウムサロン）を開設し、3 大学でオペレーションを行う（2023 年度にスペースの設定を完成し、2024 年度に活動を開始）。この協働活動から、国際共同研究として大型研究資金獲得や研究拠点形成などのアウトカムも期待できる。研究活動の一部として、メンバーである研究者もしくは博士

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

課程所属の学生が、国内大学間、海外相手大学先、もしくは研究対象領域によっては、第三のフィールドへの実地調査を行う等、渡航し研究活動を行う。この場合の渡航期間は、1-2週間の短期から、科学研究費（海外連携研究枠等）を活用した中長期のケースと、参加する教員（研究者）と博士課程学生・PDの外部予算リソースなども有効活用しながら実現する。

BM モデルを組み込んだ学位や副専攻取得プログラム ※概念図 2 頁目参照

本事業では、国内連携大学間において共同で構築する、質保証を伴った魅力ある BM プログラム形成として、以下の学位や副専攻取得プログラムの新たな設置も予定している。以下のどのプログラムにおいても、オンライン型学修による科目単位履修と、海外相手大学等への渡航留学による学修活動による単位履修の双方をカリキュラムの一部とする。※様式 1-⑤「質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成」に詳細あり

共同学位（ジョイントディグリー）BM プログラム（修士レベル）（千葉大学・関西大学）

国内大学連携型ジョイントディグリー学位取得プログラム 2026 年度開始予定

国際ジョイントディグリー学位取得プログラム（米国海外相手大学（フロリダ国際大学[現時点]）と国内連携大学）2027 年度開始予定

副専攻 BM プログラム

大学院マイナーサーティフィケートプログラム（海外相手大学（北カロライナ州立大学・カーディナルヘレナ大学等[現時点]）と国内連携大学）2027 年度開始予定

【交流活動内容③】本事業で交流する海外相手大学の（外国人）留学生層および日本人留学生層を対象としたキャリア形成サポート活動

本事業が養成し、やがて輩出する人材層が、国内企業においてリーダーシップを取り活躍する出口へとつなげることは、Society5.0 人材をアウトカムとする取組には不可欠なステージである。この取組についても、オンライン活動とオンライン（現地）活動の双方をフルに活用したブレンド型で、特に今後企業と人材のマッチングとして重視されるインターンシップ活動の構築に注力する。

☆リモート・インターンシップは、企業を巻き込んだ課題解決型インターンシップとし、2週間以上（90-120 時間相当）で実施する。本インターンシップは、日本人学生（留学中）及び来日前の海外相手大学の国際学生双方が対象となる。JV-Campus 内に新たに設置するポータルを使用する。日本人留学生と海外学生をペアにしてインターンシップに参加するプログラムも構築する。ペア・インターンシップは、語学面・文化面における補完を互いに提供することができ、人材育成の機会としても有効な取組である。

☆渡航型インターンシップは、留学期間中に参加する活動である。学部留学生は 2 週間以上～、大学院生は OJT (On the Job Training) 型で 2 か月以上の企業での長期インターンシップ、および高度専門型インターンシップ（国内：JICA や歴史博物館等の法人の持つ研究ラボによる受け入れ 国外：海外相手大学が持つ研究センター等での受け入れ）を主体とする。

インターンシップの受け入れ先は、長期である場合、東北大学・千葉大学・関西大学に留学する学生の居住地域で行う必要があるため、本事業では、①PASONA グループ・株式会社オリジネーターおよび②JETRO 東京・大阪・千葉・仙台の協力の下、受け入れ先の開拓スキームを形成し、希望者を受け入れる。また、外国人留学生については、関西大学が幹事校となり展開する留学生就職支援コンソーシアム SUCCESS でも、2 週間以上から 6 か月程度の企業インターンシップを伴う新事業企画提案プロジェクト（Future Design Project）を 2018 年以来手がけてきており、この活動にも、来日する留学生が参加可能とする。インターンシップ以外のキャリア形成サポートの取組も、BM プログラムの一環として取り組む。

【各大学独自で手掛ける交流活動】

関西大学

従来の Bilateral COIL 科目実施及び KU-EOL（学期毎に提供しているオンライン開講科目を海外相手大学や協定大学の学生に履修を開放するプログラムで、修了者にはサーティフィケートを付与）の継続的な遂行とともに 2023-2027 年度の 5 年間において以下の新たな試みを予定している。

【JV-Campus およびアトリエ MCP の活用】既存の Double Degree Program における JV-Campus 科目の単位認定制度の導入（2024 年度開始）

理工学研究科が実施しているドイツ・ギーセン大学との DD プログラム（複数学位取得プログラム）の修了単位の一環として、JV-Campus のオリジナル提供科目、3 大学が提供する COIL/VE 型科目、アトリエ MCP の履修証明を持って一定単位数を卒業所要単位に認定できるよう制度を改定する。海外相手大学との合意形成を経て実現させるため、開始予定は 2024 年秋学期を目途とする。

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

【Advanced Placement 制度の推進】

大学院レベルでの AP の活用については、様式 1 ①において言及した。それに加え、関西大学では「ビジネスデータサイエンス学部（仮称）」の新設が構想中であり、現在認可に向けた調整が進んでいる。本学部に進学する予定の外国人留学生層が、来日前および進学前に、本事業で提供する JV-Campus 上もしくは JIGE 提供のオンライン型国際教育コースを履修した場合も、入学後 124 単位の一部として単位互換または単位認定をして認めていく。この学部での AP 制度は 2027 年度からのスタートを予定している。

千葉大学

【デザイン・イノベーション・プログラムによる PBL】

デザイン・シンキングを用いたイノベーション・プログラムを構築することにより、千葉大学独自のデザイン・イノベーション・プログラムをグローバル・プロジェクト・ベースラーニングにおいて実施していく。これは様々なプロジェクトに転用可能なものであり、世界が抱える様々な課題を対象に実施することができる。一つの雛形を体系化することによって、それを横展開していくことで、最終的には、どこでもデザイン・イノベーション・プログラムが実施できるような体制を整えていく。またこの内容を JV-Campus においても実施、アトリエ・プログラムにおいて、バーチャルとリアルの両方のプロセスにおいてデザイン・シンキングをどのように活用していくかを開発するとともにそれらを有効に展開していく。

【飛び入学・高大接続を利用した AP プログラムの設置】

千葉大学の有する大きな資産の 1 つとして、25 年の歴史を誇る「飛び入学」がある。この飛び入学は、高大接続を中心とした高校との様々な連携による成果でもある。この成果を、本プログラムでは AP プログラムの設置として実施していく。日本において本格的なアドバンスド・プレイスメントを展開していくために、3 つの大学が連携していきながら、開発を行う。千葉大学が連携している SSH 校や関西大学併設高等学校等との連携、東北大学の入学前国際研修などを集結させ、実地検証を行うとともに、AP プログラムの体系化を目指す。

東北大学

【Pre-College プロジェクト（高大連携予備教育）】 東北大学が過去 10 年間にわたり実施してきた入学前国際研修（派遣）と留学生を対象とした国際学士課程の予備教育（受入）を統合し、高大連携国際準備コースを新設する。アカデミック英語、日本語、多文化理解教育などの導入教育に加え、SDGs をテーマとした専門教育、理数基礎教育、留学前事前研修、国際社会で活躍する卒業生と交流を体系的に展開する。米国現地研修（2 週間）以外は全てオンラインで実施し、AP と連動させるとともに JV-Campus を通じてカリキュラムの一部を全世界の高校生に提供する。

【GO 海外研修プロジェクト（包括的な海外短期研修）】 これまで、1、2 年生向けの語学・文化研修を目的としたスタディ・アブロードプログラムや、テーマ型の研修を行うファカルティレッド・プログラム、高学年・大学院生を対象とした研究プロジェクトやアントレプレナーシップ研修を、カリフォルニア大学の複数キャンパス、モンタナ大学、ノースカロライナ大学、カナダのウォータールー大学等で実施してきた。これらを他の北米連携校にも広げるとともに、全てのプログラムにオンライン研修と現地学生との国際共修を取り入れ、渡航型派遣留学の最適化を図る。

【ニーズベースの受入研修プロジェクト】 東北大学では協定校の学生を対象とし、日本文化や地域社会と連携したフィールドワーク研修から、本学の国際災害研究所や放射光研究拠点施設、また最先端の研究に取り組む各研究室の訪問や地球規模課題をテーマとしたワークショップを取り入れた幅広い短期研修プログラムを実施してきた。本プログラムでは、JV-Campus を有効活用した事前言語・文化研修、オンラインによる国際共修セッション、テーマ学習プレゼンションを有機的に組み合わせ、連携校の学生が参加しやすい魅力的な短期受入研修プログラムを開発・拡充する。

【中長期の専門教育研修】 北米連携校と授業料不徴収、単位互換制度に基づく双方向の学生交流を拡充する。実渡航型の交換留学にオンライン事前研修を取り入れ、JV-Campus も活用しながら語学学習や課外の国際共修交流活動を通して留学レディネスを高める。具体的には、本学の学生に実施している危機管理や異文化適応等をテーマとした 3 回の留学前研修に加えて、カリフォルニア大学リバーサイド校監修のもと開発した英語速習カリキュラムをデジタル化し留学予定者に提供する。またそれを JV-Campus を通して加盟校に共有する。本学留学予定者向けの日本語速習コースも JV-Campus を最大限活用し、仙台での生活適応支援コースとともに提供する。

④-2 学生主体の国際交流プログラム【3ページ以内】

【実績・準備状況】

本事業において実施する学生主体の活動プログラムの前形となる活動としては、以下のような実績・準備状況を上げることができる。これらの活動はすべて3大学が連携して共通で実施する。

1. アメリカ領事館と連携した学生国際交流活動

関西大学 IIGE では、2018-2022 年度の取組の中で、アメリカ領事館（大阪・神戸）および Education USA (IIGE アフィリエート機関) と密に連携しながら COIL 実践を通じた日米大学の関係構築およびアメリカ留学への誘いといった活動をこれまでに行ってきました。領事館が実施してい



るインターンシッププログラムにも本学の COIL 科目履修学生が参加し、その後ドイツでの修士課程に進学するなどの事例もある。コロナ禍期となりオンライン活用が進む中、領事館の学生国際交流活動は COIL モデルを踏襲されている。

(<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/about/#about>)。

テクノロジーを応用した教育活動の推進については積極的であり、また、EXPO2025の推進するSociety 5.0社会への貢献と活躍する人材育成を目的とした日米の協力の重要性の理解が共通している。

総領事 Richard May 氏は、2021 年度着任時に関西大学へ来訪されており、以後関西大学からも 2 度領事館へ出向き意見交換を行ってきてている。今回の申請においても、計画に述べるような活動での協働とともに、JIGE の趣旨に賛同いただいている（左図参照）。

2. アジア欧洲財団との交流活動

アジア欧州財団(ASEF)は、アジアとヨーロッパの人々を結びつけ、共通のグローバルな課題に取り組むための政府間非営利組織で、シンガポールに事務局を置く。アジア欧州会合(ASEM)メンバー国であるアジア21か国・1機関、欧州30か国・1機関が拠出金を出し合って運営している。ASEFはASEMの3本柱の1つである社会・文化分野の活動を担い、設立以来現在26年目を迎



える。ASEFは、例えば、世界経済の将来について経済の専門家らが議論を交わす経済フォーラム、地震や台風等の大規模災害発生時における報道のあり方を専門家やジャーナリストが意見交換するシンポジウムや、アジア・欧州の学生が一堂に会して異なる文化を共有し合うASEF夏期大学プログラムといった、多岐にわたる市民参加型のイベントを行っている。

関西大学 IIGE では、2021 年 8 月から 2022 年 12 月の期間において歐州連合が助成した SHARE Initiative

(<https://www.share-asean.eu/about-share>) の教育活動に参加し、その活動の過程において ASEF との学術交流活動を開始した。2022 年 7 月から始まつた ASEAN Working Group on Higher Education Mobility (AWGHEM) にも定期的に参加し、2021 年 1 月 (ARC8)、2022 年 5 月においてセミナー (オンライン) で共同発表を行うといった学術共同活動を継続してきた。

2023年3月には、IIGEが主催するBMプログラム(COIL Plus)の短期研修活動で、シンガポールに拠点を置くASEFセンター

(シンガポール国立大学内) を訪問し、1日ワークショップを共同開催した。本事業における学生主体の国際交流プログラムの計画においても、ASEF が加盟国 51 か国の大学に募集する学生層と、国内 3 大学学生の交流活動（以下参照）を実施するにあたり、本事業の趣旨に賛同し参加意思を示す Support Letter を受け取っている（上図）。

【計画内容】

☆EXPO2025 共創チャレンジ：SDGs (Sustainable Development Goals)をテーマとした未来創出協議会プロジェクト

EXPO2025 アメリカパビリオンが設置されるのを受け、アメリカ領事館（大阪・神戸）とのコラボレーションで、オンラインで 3 大学の学生達とアメリカの海外相手大学の学生達が参加し、パビリオン計画に関する意見交換を継続的に行い、2025 年度に来日した際に大阪にて対面し、パビリオンでのボランティアスタッフとしての参加や、活動報告などを行う。

総領事他担当職員スタッフおよび JIGE の協働で、学生の参加を誘う。また、領事館では「学生インターン」を随時募集しており、このインターンの活躍の場としても、本活動のリードをとり、運営に携わるといった役割を担ってもらうことができる。

大阪市内に領事館が在しております、必要な場合は会場として活用することも提案していただいているため、オンラインでの活動に加えて、対面で集うといった活動も取り込むことで、BM 型の交流活動を実現することができる。参加学生達が、本活動への参加の履歴をしっかりと自己 PR として活用できるよう、ビジネス SNS 等にリンク付けができる参加証明バッジ等の発行を行う。また、活動をソーシャルメディアなどで随時発信ができるよう、JIGE でアカウントを設定し、活用できるような環境設定を提供する予定である。その他、活動に必要となる諸経費（例えば夢洲に移動する交通）などについても、一定額については事業経費から補助を行う。



☆ASEF Youth Leaders Summit プログラム-TEAM EXPO2025 共創チャレンジプロジェクト

Young Leaders Summit (ASEFYLS) は、51 カ国からの参加者 ASEFYLS のフォーマットにより、参加者がアジアとヨーロッパのつながりを築き、両地域の多様性への理解を深める趣旨の学生主導型の国際プログラムである。例年、アジアと欧州の公募により選ばれた、さまざまな教育分野や背景を持つ ASEM パートナー国全 51 カ国、140 名以上の学生および若手専門家（18~30 歳）の参加がある。本プログラムは、(i) 参加学生による長期スパンのオンライン型学生コミュニティ活動 (COIL/VE 型交流学習) を 2024 年度に実施し、(ii) 2025 年の万博開催期間中に、1 週間大阪にて全員が来訪し、連携 3 大学の学生達も大阪に集い、短期渡航型研修を行う。滞在中に、万博会場へのフィールド研修も行う。

万博協会とは、2018 年に万博誘致が決定した頃から密な連携を継続してきており、本取組においても、2024 年度に双方が行う活動への参加や、EXPO2025 に関する説明などを学生対象に提供いただいたり、学生が取り組む地球課題解決 PBL 活動の成果発表においてコメントーターを担っていただくといった様々に協力をいただく計画をしている。本 ASEFYL プログラムは、TEAM EXPO2025 の共創チャレンジプロジェクトとして公式認定を受けるため、2023 年 5 月に申請を開始した。本取組が開始される 2024 年 9 月には正式な登録が完了予定である。

ASEFYL プログラムには、3 大学が連携する米国の学生も参加を誘致し、学生が主導して交流企画を立て、実施してもらう。本プログラムでは、ASEF 側の取組の一部として、ハイレベルな政治指導者、アジアとヨーロッパ諸国の国家元首や政府、EU、ASEAN 事務局との対話活動などが組み込まれており、学生達にとっては大変貴重な機会となる。2023 年度の活動の様子からもわかるように、オンライン上の交流活動が 1 年間継続されるため、COIL/VE 実践等オンラインを介して共修が長期にわたる、正課外ならではの魅力がある活動となる。

参考 URL: 2023 年度活動

<https://asef.org/projects/5th-asef-young-leaders-summit-asefyls5/>

☆RA (国内学生寮レジデンタアシスタント*) 参加学生と FIU の BOLD プログラム学生との事業運営
Global BOLD Program *株式会社共立メンテナンスの設定する RA 制度

本事業の海外相手大学であるフロリダ国際大学(FIU)独自のプログラムが「BOLD プログラム」である。有志学生が登録し、正課外活動(Extra-curricular)の位置づけで活動を行っており、「BOLD」という学生組織ができている。学生達が、それぞれの専門(会計、メディア広報媒体やウェブ制作、事業企画等)を活用し、学内外の「クライアント」から発注を受けてサービス提供をする。事業運営のシミュレーションを体験することができ、学生の履歴書にその実績があることは、将来の就職活動などに大きく資するものとなっている。

本 BOLD プログラムのスキームを、連携 3 大学の希望者と、共立メンテナンス社が運営する国内寮にて RA (Resident Assistant) をしている学生層にも応用し、「日本版 BOLD (by Kyoritsu x JIGE)」として結成し、FIU の BOLD の学生達との COIL/VE 型交流学習を通して、活動のノウハウを学ぶ。その後、日本版 BOLD として、国内地域の問題解決など、「クライアント」の依頼に応じて活動を行う。

学生達が主体に動く、正課外活動としての位置づけとなるため、単位認定などの取り扱いはない。一方で、しっかりとその活動における学びを補完するため、本事業の一環として、外部民間の経営経験者などの「(非常勤) アドバイザー(案)」を配置し、学生達の「コーチング役」を担ってもらう。活動は主にオンライン上での会合や、ビジネスソーシャルアプリ、バーチャルオフィススペースなどを用いて協働するが、年に 1 度、学生交流活動の一環として、互いの国(日本またはアメリカ FIU)を訪問し、国内外の活動の異なりなどを体感し、対面でさらに親睦を深める等の活動を行う。3 大学在籍の学生及び本事業の海外相手大学学生には、本事業からその渡航に関わる経費の支援が可能となる。

株式会社共立メンテナンスは、学生寮の運営を 1980 年に始め、現在はホテル経営等多岐の事業を担うグループとなっている。RA 制度の推進については、各地域の RA が参加するサミット集会や、年次集会など、様々な情報発信の場を学生に提供しており、本取組においても連携した活動が可能である。



④-3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム 【3ページ以内】

【実績・準備状況】

JV-Campusへのコンテンツ提供

関西大学

JV-Campus に 2021 年度よりコンテンツを提供し続けており、現在までに言語系、文科系を中心 に 4 つのコンテンツを提供している。まず、言語系コンテンツに関しては、「日本語教育ページ」として、日本語学習者（初中級レベル）を対象にした「日本語会話－自然な会話を身につけよう－」という日本語会話学習コース（日本語による 14 の会話場面を取り上げたアニメ編と実写編）を提供している。

次に、文化系コンテンツに関しても、JV-Campus 個別機関 Box において「日本人学生の休日の過ごし方（7 コンテンツ）」「関西大学学生による日本・大阪・日本語紹介（5 コンテンツ）」等の動画コンテンツを提供している。

現在（2023 年 6 月時点）、制作を行っているのが、JV-Campus オリジナルコンテンツとして筑波大学から委託を受け作成している「外国人学生向けキャリア教育コンテンツ」である。日本の企业文化、ビジネス慣習、昨今の日本企業事情、就職活動の方法など 10 のテーマに分けて学習するキャリア教育コンテンツで、今年度中に JV-Campus 上にて公開する予定である。

また、教育機関あるいは教育関連企業で国際関係業務に従事している教員及び職員を対象としたアップスキリングコースも開始した。COIL/VE 等オンライン型の国際教育を推進する上で「基礎知識」となる国際教育のイロハを学ぶ、関係職員・教員のための『大学の国際化と国際教育交流』アップスキリング（Capacity Building）コースを開講している。

千葉大学

千葉大学はオンラインを活用したプログラムとして、協定校とのオンライン留学プログラムを企画・運営するとともに、留学の効果測定として学生、協定校の双方に対してアンケート調査を行い、質保証につとめている。

オンライン留学の実績は、2022 年度として、8 か国 9 大学（ウガンダ・バサイトマ大学、台湾・国立政治大学、タイ・マヒドン大学、インド・共生国際大学、パナマ・パナマ工科大学、カナダ・アルゴンキンカレッジ、カナダ・レジャイナ大学、イギリス・ヨーク大学、ジャマイカ・ジャマイカ工科大学）、他に SAF と提携したオンライン留学プログラムを、アメリカ、アイルランド、フランス、エクアドルで実施した。このオンライン留学の参加学生の実績は 915 名である。

千葉大学は、JV-Campus の機関別 Box の他に、日本文化特設 Box の運営において中心的役割を果たしている。これまでに、以下の作業を進めてきた。

- (1) 千葉大学提供コンテンツの概要作成とプロトタイプの作成
- (2) 提携する大学共同利用機関人間文化研究機構国立歴史民俗博物館のコンテンツ作成計画の共同管理
- (3) JV-Campus オリジナル教育コンテンツの制作にあたり、公募コンテンツ第 1 次応募コンテンツの評価及び公募コンテンツ第 2 次の企画・評価

今後の作業として、コンテンツの拡大及び体系化・段階化の実施（ナンバリングの付与）、不足コンテンツの各提供大学への個別依頼といった活動を予定している。また、オンライン教材コンテンツに付帯させるアセスメントや発展学習への案内についても 2023 年度中の活動として予定している。

東北大学

コロナ禍を機に整備を進めた国際教育交流の全面オンライン化プロジェクト「BE GLOBAL」によりインフラ整備、デジタル教育コンテンツ、FD を充実させ、その先進性はメディアにも取り上げられた。加えて、JV-Campus を活用し、入国制限下で渡日できない学生に向けたメッセージ配信や交流イベントの実施のほか、「東北大学 MOOC コンテンツ」、「東北大学 知のフォーラム Video Archives Selection」など、本学の世界最先端の研究や価値ある講演など、数多くのデジタルコンテンツを配信している。

また、オンライン、ハイブリッド型の授業や研究指導に加えて、短期受入プログラム、短期海外研修もオンライン留学として実施し、単位化や修了証の発行とともに教育の質保証も行っている。さらに、交換留学の説明会、事前・事後研修等も一部オンライン化することで留学情報のアクセシビリティの向上に努めている。国際共修の学修目標の設定や成果確認に用いる東北大学独自のル

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

一ブリックや効果検証ツールのデジタル化も進めており、上記の TGL プログラム (Tohoku University Global Leader Program) でもデジタルバッチを発行するなど、国際教育交流のあらゆる場面に DX を取り入れ推進している。

JV-Campus 運営委員会での活動

関西大学・千葉大学・東北大学とともに JV-Campus の運営委員会参画大学として 2022 年度より活動を継続している。関西大学は、JV-Campus のデジタルクレデンシャル等オンライン教育に関する質保証専門部会を担当している。千葉大学は日本文化特設 BOX の JV-Campus オリジナルコンテンツに関する専門部会を担当している。東北大学は 2023 年現在国際化促進フォーラムの代表幹事校を担っており、JV-Campus と伴走した活動を行う役目を担当している。上記記載にあるように、各大学共に国際化促進フォーラムプロジェクトを他大学との横展開により運営しており、JV-Campus の活用はこれまでにも十分な実績がある。

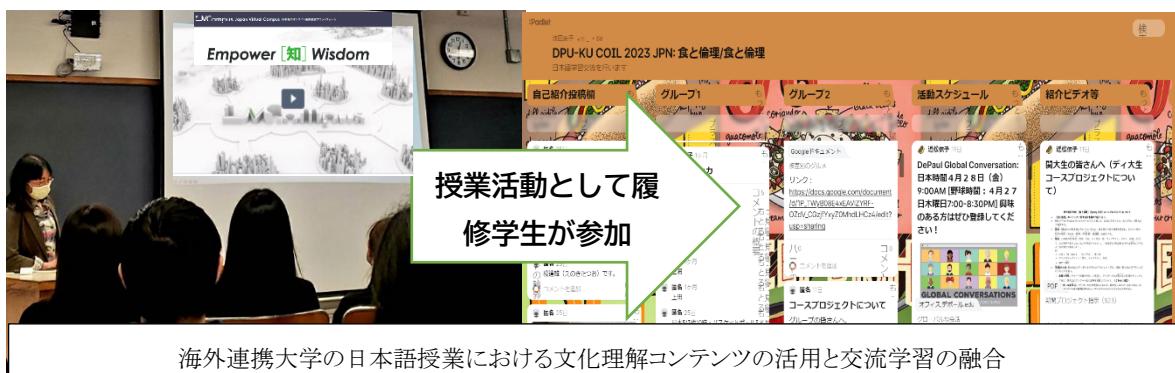
【計画内容】

(1) 海外相手大学および国内大学の各学期の提供科目における JV-Campus コンテンツの活用

海外相手大学による活用

本事業で連携する米国の大学の多くで、日本語を副専攻または主専攻として提供している学科とコミュニケーションをとり、2022 年～2023 年にかけて現地へ訪問し、可能な限り授業カリキュラムのヒアリングと見学を実施し、JV-Campus の紹介と、活用可能性について意見交換をスタートさせている。例えば、デポール大学 (DPU) の外国語学科では、「食と倫理」というテーマにて英語および日本語で学びを深めるカリキュラムがある。この中で、JV-Campus の日本文化（哲学・宗教）のコンテンツを一部紹介し、海外学生にまず学んでもらう。

次に、関西大学の COIL 実践のパートナークラスに在籍する日本人学生達が作成した日本の食文化紹介の動画素材をベースに、日米の食に関する価値観の異なりを Padlet 等のツールを用いた非同期コミュニケーションと、同期セッションの時間を設けグループでさらに理解を深めていく。



このように、JV-Campus 使用と双方向交流学習の機会を有機的につなげた活用を行う。

本事業海外相手大学機関において活用が見込める大学は、デポール大学、コーネル大学、東吳大学（台湾）、フロリダ国際大学、カピオラニコミュニティ・カレッジ、PIM（タイ王国）等である。今後 COIL/VE 型活動を海外相手大学と実施する中で、JV-Campus にある専門科目トピックも、COIL/VE 型実践の中の文化比較リソースや、PBL 型学習を進める上で個人が必要とする情報源として活用することが想定できる。

国内連携大学による活用

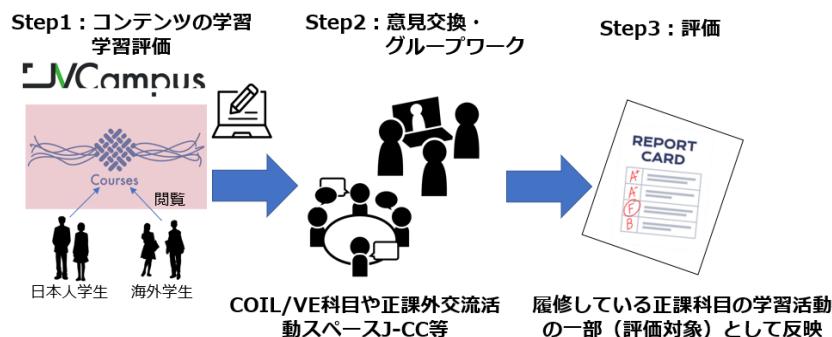
- ① オンデマンド科目で関連性が高いコースを選択し、JV-Campus のコンテンツを一部受講する。理解確認問題、応用練習課題については、オンデマンド科目担当講師と JIGE が共同で作成し、それぞれの大学の LMS 上で履修学生に提出してもらい、採点も手がける。

科目事例：

国内大学における既存科目	JV-Campus 上にある教育コンテンツ (2023. 05. 30 時点)
「活用法を見聞する AI・データサイエンス」	“データサイエンス講義”
「現代社会とジェンダー」	“Introduction to Diversity & Inclusion”
「日本史の中の女性と社会を知ろう」	“移民難民と日本社会”

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

② COIL/VE 科目においても、JV-Campus のコンテンツ使用をする。上記にあるように、その際には、海外相手大学の学生層と国内学生層が同じ教材を閲覧し、それに対し意見交換やグループワークを行う課題を COIL の一環 (COIL 学習モデルでいえば Comparison & Analysis 活動フェーズ) として取り扱うことができる。



(2) JV-Campus のコンテンツを活用した「学びの DX」(DX 型反転授業学習) モデル

☆キャリア教育コンテンツの活用（海外学生対象）

JIGE の共通共同活動の 1 つが、海外相手大学学生対象のキャリア形成支援プログラムである。その一環として JV-Campus を有効活用する。米国等の学生で、来日後留学期間中に渡航型インターンシップに参加する学生は、BM プログラムのオンライン型学習活動としてこれに参加し、インターンシップを円滑に進める上で必要なレディネスを高める。右図にあるようなモジュールが、JV-Campus オリジナルコンテンツとして 2023 年 9 月から利用可能となる（関西大学作成）。英語での講義形式となるため、日本語の熟達度を問わず活用が可能となっている。

このオンデマンド型学習 (Micro-Learning) と、チュートリアルセッション (Contact-Learning) を組み合わせ、DX 型反転授業メソッドで活用する。

日本企業文化・キャリア教育



業界理解の方法
#1 日本企業と産業の仕組み
#2 日本の産業の現在
#3 日本の産業と企業の研究
就職活動の方法
#4 日本の就職活動
#5 日本の就職活動理解①
#6 日本の就職活動理解②
#7 日本での就職活動の方法
企業に求められる能力とは？
#8 自己分析の方法
#9 企業から求められる能力
#10 自己 PR の文書作成

☆双方向の学びを生み出す仕組みー「JIGE Campus Community (J-CC) *」の活用

海外相手大学学生及び 3 大学に所属する国内学生は、JIGE が特設する「JIGE Campus Community (以下 J-CC)」プラットフォームに参加でき、それぞれのキャンパス毎や、年次毎、専門や活動・趣味など多様なグループを形成し来日前・留学中・帰国後のどこにいても何時でもこのスペースで交流ができるようになる。JV-Campus を活用した科目の履修学生は、この JIGE Campus Community のスペースで、物理的に同じ地にいなくとも共修を実現でき、コミュニティとして科目外においても繋がりを持つことができる。

このプラットフォームは、本事業において参加する海外相手大学所属学生層と、3 大学在籍学生に限定してまずは活用を始める。JV-Campus と J-CC を併用することで、JV-Campus 単体での活用では、オンデマンド型の教育コンテンツが多くを占めるため、どうしても一方向型の提供にとどまってしまう問題点を解決する。JV-Campus から J-CC へと動線を作ることで、学びの双方性を高め、渡航留学において滞在する際にも、繋がりによって心理的な面からもサポートがある環境を提供することができる。本アプリは、スマホからもアクセスうことができ、日本国内にいる必要はない。本取組の中で、日本語の対応も行うため、日本人学生層で例えば英語インターフェースの使用にまだ不慣れな層や、大学関係者らにも活用が広がるように工夫を行う。

*J-CC : Study Abroad Association. Inc. と連携し、カスタマイズしたプラットフォーム

下図がそのイメージ



(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ： B)

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【9 ページ以内】

【実績・準備状況】

教育体制の充実：外国人教員等の配置や FD による教育力の向上等

関西大学でも新設の機構（IIGE など）では、国際公募によって教員および専門職ポジションとしてのコーディネーターの人事採用を行っている。KUGF（Kansai University Global Frontier）アクションとして、2014 年からスタートしている 13 学部共通提供の国際プログラムカリキュラムにおける担当者採用についても、日英の公募により講師雇用を実施している。

東北大学では、教員人事は国際公募を原則とするとともに、海外大学とのクロスアポイントメント制度（国立大学法人東北大学クロスアポイントメント制度に関する規程）も整備済みで、海外大学・研究機関との教員交流実績もある。スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）での取り組みもあり、教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合は、35.3%（2021 年度）となっている。世界標準の授業を実施するために東北大学ではこれまで「英語での授業提供」や「アクティブラーニング」に関する FD を数多く実施してきた。これらの動画や資料を全て閲覧できる「TiE: Teaching in English」のページを高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センターのウェブサイト内に開設し、全学の教職員向けに FD 教材として提供している。

千葉大学では、ENGINE プランにおいて、3 年間の間に、外国人教員を 20 名以上新規に採用した。この教員には、言語教育教員と、海外・国内文化研究教員の 2 種類が存在している。このように、外国人教員を多数採用することで、言語・文化の教育の充実を図っている。また、既存の教員については、英語による教授法の FD を、ブリティッシュ・カウンシルなどに依頼して実施していたり、UCL（University of College London）の教育分野に派遣したりして、研修を実施している。

最も先進的な取り組みとしては、全国の教育関係共同利用拠点となっている、アカデミックリンクセンターにおいて、ALPS プログラム（Academic Link Professional Staff Development Program）を実施している。この ALPS プログラムのなかで、高等教育の国際化対応、教育の ICT 化、教育 IR、教育評価など、グローバル教育に必要な内容を FD として全国に提供しており、千葉大学の教職員も履修し、履修証明を授与している。履修証明を有した職員は SULA（Super University Learning Administrator）に認定し、学生のグローバル教育のカウンセリングに対応している。このように、教職員共に FD を積極的に実施し、学習の教育力の向上を目指している。

各大学における質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成に関する実績と準備

関西大学では、デジタルクレデンシャルのフレームワーク等国際通用性の観点を意識し、IIGEにおいて 2022 年 9 月にフローニンゲン宣言ネットワーク（GDN）に参画した。GDN は、教育資格とデータの国境を越えた移動と利用性を改善することを目指した国際的なイニシアチブで、2012 年に発足している。主な目的は、教育機関、雇用主、その他関係者間での学位証明書、成績証明書、資格などの教育文書の安全かつ効率的な移動を可能にするためのベストプラクティスと標準の開発・普及である。法人として本ネットワークへ加盟することによりフレームワークの原則を実装し、技術仕様を採用することで、参加する機関は行政プロセスを合理化し、煩雑さを減らし、資格の認識と承認を向上させることができる。関西大学（IIGE）では国内で 2 番目に参画した。

COIL/VE 型教育実践を 2014 年から取り組み、学内のみならず国内外の他大学の活動支援を行う中、既存の科目ではない非伝統的な学習活動としての位置づけとなる学習プログラムが多く誕生しており、これらのプログラムの参加者らの学習履歴証明を、マクロ学位の単位以外の形でも認証する必要性が高まったことを踏まえた取組である。例えば、関西大学が提供する J-MCP プログラムが開講するコースや、各セメスターにおいて開放しているオンライン開講科目（KU-EOL）を海外から履修する海外学生にオープンバッジ形式のデジタルバッジの発行を 2022 年に実践したが、この際にも GDN の助言を受けつつ、その設計が国際通用性を持つよう十分留意したものとした。

また、2021 年度から、JV-Campus のデジタルクレデンシャル専門部会のとりまとめ担当校を担い、国内の有識者の助言の下、JV-Campus が定める規格を策定するプロセスに足並みをそろえ、学内外において展開する COIL/VE を含めた、オンライン化・デジタル化した多様な非伝統的・正課外の活動について、その質保証を（1）学習履歴の証明手法、（2）学習者の関与性と学習プロセスの双方向性を高めた活動設計、（3）学習量（講義時間等の学習時間のみならず、オフライン・オンラインで講義時間外に展開する学習活動全般をとらえた「負荷」）の設定といった側面においてガイドラ

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

インを形作る過程に入っている。

東北大学は、2017 年に「東北大学ビジョン 2030」を定め、①世界から学生を惹きつける最先端の国際プログラムの開発・提供、②オープンでボーダレスなキャンパスにおける国際共修の展開、③卓越した研究を基盤とした国際共同教育の深化を推進してきた。2020 年に同ビジョンをアップデートした「コネクテッド・ユニバーシティ戦略」を公表し、ポストコロナ時代のレジリエントな社会構築に向けた研究推進を基盤として、①オンラインを戦略的に活用した多様な教育プログラムの機動的展開、②距離・時間・国・文化等の壁を越えた多様な学生の受入れ推進、③オンラインと対面のベストミックスによるインクルーシブな教育環境の提供という指針を定めた。

2022 年に全学教育カリキュラムの全面改定を行い、未来社会に立ち向かうために必要な基盤の形成、初年次から高年次学生、大学院生までを接続するカリキュラムと、現代的なリベラルアーツを体系化した分野横断型の学士課程カリキュラムを実現している。また、2021 年に学部や研究科の壁を越えた横断的な融合教育を行うための高等大学院機構を設立し、世界を舞台に活躍する若手リーダーを育成すべく、学問領域の壁、国境の壁を超えた先進的な大学院教育プログラムである

「学位プログラム」を拡充し、世界中から「学んでみたい」、「研究してみたい」と目標にされる、世界三十傑大学を目指している。全学的組織体制のもとで、国際交流・国際教育に関わる質の保証のための取り組みが行われてきている。学士課程における取り組みの中心となる短期海外派遣プログラムや国際共修などは、全学教育の国際教育科目群に位置づけられる。これについては、学務審議会のもとにある国際教育科目委員会において、成績評価分布や学生による評価による点検がなされている。

特に、国際共修授業では、多様な言語・文化背景の学生による協働学習を主軸とした国際共修の先駆者として、米国大学協会 (Association of American Colleges and Universities : AAC&U) が定めた Value Rubrics や EU の Descriptors of Competences for Democratic Culture を参考として、東北大学独自の「国際共修ルーブリック」の開発・試行を進めている。また、この取り組みを通じて学修成果の可視化を図るとともに、学習者の学びの効用を最大化するための授業設計への応用にも着手している。交換留学(派遣)においては、留学先での取得予定単位の事前確認制度(ラーニング・アグリーメント)を国内の大学としてはいち早く導入し、学生が留学先で取得した単位を確実に認定するシステムを構築している。その取得単位は、学生の所属部局の教務委員会・教授会を経て卒業単位として認定される。また、東北大学から海外の大学に留学中であっても東北大学のオンライン科目の履修を認める新たな制度を 2021 年に開始し、ニューノーマルの環境に対応した、留学による留年を回避するための支援も強化している。このように、海外協定校との学事暦の違いや単位制度の違いなどの制度の違いを乗り越えて、学生が安心して海外留学に臨める制度を整えてきている。

千葉大学では、現在約 500 の大学間交流協定が存在する。このうち、約 300 の大学とは、学生交流協定を有し、学生が自由に留学できるような環境を有している。交換留学に行った学生については、留学する前に先方大学とラーニング・アグリーメントをかわし、相互のシラバスを確認することで、教育内容を事前に把握し、質の保証を伴った留学を実現している。基本的にはすべての単位を互換できるようにしている。また、グローバル・スタディ・プログラムや様々なショート・プログラムにおいても、必ず単位認定をするようにしている。これは、学習の質保証とともに、単位を取得する事による学習への意欲を促すものである。

また、9 の大学院国際実践プログラムにおいては、所定の領域の授業科目より、8 単位を取得することにより、大学院における「大学院国際実践副専攻の学位」を取得することができる。また 4 単位から 7 単位まで取得した学生は、履修証明書を取得できる。

学部においても国際日本学のプログラムとして国際日本学の単位のグループから 30 単位以上のプログラムを取得した学生は、「副専攻：国際日本学の学位」を取得できる。また 18 単位以上を取得した学生には、履修証明を付与している。このように大学院・学部ともに、グローバルのプログラムを取得した学生に対しては副専攻学位を付与すると言ふことでその学習の質を保証するとともに、学生にグローバル・プログラムを履修する意欲を促すことを実施している。

【計画内容】

(1)千葉大学—関西大学による国私大学学術包括協定

千葉大学と関西大学は、両大学が連携協力して教育研究活動の一層の充実と質の向上を図り、もって学術の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的として、教育研究の連携協力に関する協定を締結した。本協定をもって、多様なコミュニケーションチャンネルを確立させ、その中で本事業に資する共通活動を実現させていく。研究者や教員の相互の訪問や共同研究の機会を提供することで、知識や技術の共有が可能となる。また、留学プログラムの共同実施などによって、学生は異なる機関での学びや文化の体験を積むことができる。これは、国内のみならず、本事業において連携する海外相手大学と活動する際にも同様に応用することができる。例えば、協定を締結した機関と、海外大学によって、共同研究プロジェクトを立ち上げることができる。COIL/VEを活用したドクトラル・コロキウムの取組（様式 1-④-1 参照）が本事業では展開するが、その中で生まれた共同の研究課題に取り組むことで、より多角的な視点や専門知識の結集が可能である。本協定は、2023年5月25日に正式に締結されている。

(2)BM 型国内 JD から国際 JD の設置へ

本事業における、学位付与型のプログラムとしては、ジョイント・ディグリー・プログラム（以下 JD）の設置を行う。この JD プログラムは、国内における関西大学国際トライラテラル JD をまず構築し、そこに海外の大学を連携させ、プログラムへと発展させる。

ジョイント・ディグリー・プログラムは、大きく 2 つのレベルで考えている。一つ目は、修士課程におけるジョイント・ディグリー・プログラムであり、二つ目は、学部におけるジョイント・ディグリー・プログラムである。これらのジョイント・ディグリー・プログラムの前段階として、大学間の【メジャー+マイナー・プログラム】を設置し、副専攻として付与する。

○修士課程ジョイント・ディグリー・プログラム

千葉大学の研究科連携学位プログラムである、総合国際学位プログラムと関西大学の Global&Area Studiesとの連携により、修士課程におけるジョイント・ディグリー・プログラムを構築する。設置時には、海外の連携大学のプログラムを 1 部として取り込み、最終的には、3 つ以上の大学が連携して学位プログラムを構築する。[国内の連携大学+海外の連携大学]と言う、極めて稀なジョイント・ディグリー・プログラムの構築にチャレンジする。

○副専攻 BM プログラム【メジャー+マイナー】プログラム

上記の 2 つのプログラムを構築するには、学習課程の整備等の時間を要する。そのため、プログラムの早期構築を目指して、最初にメジャー+マイナーのプログラムを構築していく。学生は、自分の所属する大学のメジャー（主専攻）と、他大学におけるマイナーを合わせ、メジャー+マイナー・プログラムを履修する。これにより、未来のジョイント・ディグリー・プログラム構築の可能性を模索するとともに、参加する学生のモビリティを向上させ、流動的な相互連携プログラムを日本規模で構築していく。例えば、関西大学のビジネスデータサイエンス学部（仮称・設置構想中）に所属している学生が、日本で千葉大学の国際教養学部のマイナーのプログラム「国際日本学」を取得するイメージである。この「国際日本学」には、海外の大学のプログラムの履修 (Blended Mobility Program)を修了の要件とする。これにより、関西大学所属の学生は、関西大学から学位（主専攻）と千葉大学の国際日本学のマイナー（副専攻）の学位が付与されることになる。このようなプログラムをいくつも構築することで、多様な学習の学びとともに質の保証を伴った、より高度な学習プログラムを日本国内全体で構築し提供していく。なお、これらのディグリー・プログラムでは、COIL/VE を最大限に利用するとともに、千葉大学の 6 ターム制度などの学事歴を部分的に適用しながらグローバル・プログラムのエクセレント・プラクティス・モデルを構築するものである。

(3)教育 DX 型ドクトラル・コロキウム実施

（グローバル・PhD・ディスカッション実施）

博士課程の研究に関するディスカッションを実施、教育プログラムの一環として、他の研究領域の海外の博士の学生との意見交換をオンラインや対面で実施することで、COIL/VE 等を活用した博

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

士課程におけるプログラムを開発、学会などを通して波及させる。プログラムにおいては、大まかな研究テーマを設け参加を促す。例えば、「サスティナビリティに関する研究」というテーマで、社会科学系のソーシャル・イノベーションから、環境資源、水循環、クリーンエネルギー、ロボットなどに至るまで対象としてディスカッションを行う。従来型の切り口ではないため、教育DXを活用し、オンラインで興味を持ち、対面で実施、など、流動性を向上させたプログラムとして実施する。これらを、本事業の中で、実施し、日本中の大学に展開する仕組みを構築する。

(4)クロス・ボーダー・ジョイント・リサーチ・プログラム開発

(異領域研究交流プログラムの開発)

COIL/VE ドクトラル・コロキウムの発展系として、共同研究や共同教育プログラムを実施する。研究に関するディスカッションを実施することで、新たな学問領域が研究により開発され、教育プログラムの一環として実施できるようになるまで発展する。COIL/VE 等デジタル化・オンライン化した手法を用いて、異領域における研究の交流を行い、それを発展させる。これらを、本事業の中で、実施し、日本中の大学に展開する仕組みを構築する。

(5)プレ・アカデミア・プラクティス実施

(ワーク・スタディ・エクステンション・プログラム実施)

博士課程に在籍する学生の研修（プレ FD）として、DX 時代のラーニング・モデルを学習してもらう。その成果をもとに、自分の専門領域の分野において、教育DXを反映させた授業を実際に実施してもらう。これらは、新たなプログラムとして提供できる。

このように、参加する将来のアカデミアに、授業とその研修を実施することで、アカデミアとしての教育のトレーニングと、研究と教育のマッチングについて体験してもらう。国内の学生ばかりではなく、海外の学生にも講義をすることで、入職前から、国際対応力をつけて実施する。従来のワーク・スタディから拡張させたものであり、エクステンション・プログラムとして実施することで、研究費や生活面での補助にもなる。これらを、本事業の中で、実施し、日本中の大学に展開する仕組みを構築する。

(6)産学連携による「JIGE リモート・インターンシップ」カリキュラム構築と実装

課題解決型プロジェクト活動設計のひな形をベースとしたインターンシップ活動のプラットフォームとして企業・参加大学・JIGE がアクセスできるポータルシステムを JV-Campus 上に開発し実施する。JVC リモート・インターンシップのシステムは、学生のインターンシップへの登録、企業説明情報の搭載、企業がリードして実施する課題解決・プロジェクト型活動、企業担当者との交流、インターンシップ報告などを共有・保管する仕組みを作り込むものである。多言語対応されたチャットツールも整備し、企業が日英等を用いて学生に指示を出すことができる。JIGE が展開するリモート・インターンシッププログラムの PR 発信先としても JV-Campus を活用する。下図に示すようなリモート・インターンシップも、質保証を伴った活動として、修了者についてはオープンバッジの発行を行う。JV-Campus に作成される参加者のポートフォリオ上に、デジタルバッジが掲載される（様式 9-④参照のこと）。インターンシップ内のカリキュラムの事例は、以下のようになる。

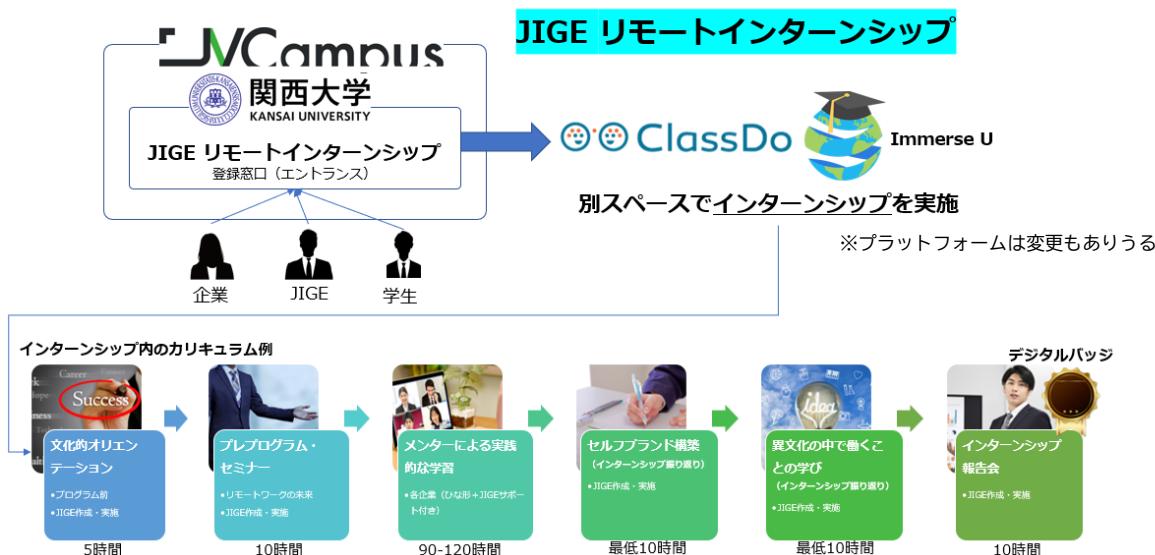
総合活動時間：90-180 時間程度（下図も参照：目安）

1. プログラム前の文化的オリエンテーション 5 時間程度
2. プレプログラム・セミナー リモートワークの未来 10 時間+
3. メンターによる実践的な学習 各企業 90~120 時間
4. インターンシップ後の振り返りとセルフブランド構築
5. インターンシップ後の振り返りと 異文化の中で働くことに関する学び 10 時間程度
6. バーチャルインターンシップ報告会 10 時間程度（準備を含む）

カリキュラムの質保証を行うため、リモート・インターンシップ構築については、下記(7)で示す JIGE アドバイザリーボードの「教育工学エキスパートメンバー」および各企業の人事担当部門

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

メンバー等から形成される「産業界メンバー」に隨時設計・評価手法・活動内容について助言をもらい、プログラム進行にあたってもモニタリングと効果検証に協力いただく。



(7) COIL/VE 型実践を応用したグローバル产学連携スキーリング・リカレント教育プログラム

「リカレント・モデル」では、学校教育を終えた人間が働き出した後にも改めて教育を受け直すことが可能となる。Society 5.0 社会の人材は、生涯変化する社会のニーズに適応すべく自ら学び続ける必要がある。OCED Education at a Glance(2020)で大学教育の労働市場のニーズとの合致性（訓練の有用性・将来のニーズに対応した実施かどうか等）を調査した結果、日本は 31 か国中最下位であった。産業界では、コロナ感染拡大前にはビジネスモデルが確固たるものだった企業も、コロナ禍で変化したビジネスモデルに沿ったスキルが従業員に要求されはじめ、他律的に「学び直し」でスキルアップする必要性が急に台頭した。企業と大学をつなぐ接点作りとしても、リスキーリング・リカレント教育活動は有効である。参加者間の交流が展開する COIL 型の学習機会によって、例えば海外の優秀な人材候補層などとも接触ができ、企業にとっては、従業員の研修となるとともに、人材開拓の場としても機能する。

そこで、本事業では、アメリカ等の海外相手大学、国内外 JETRO、国内外日系商工会議所等と連携し、COIL/VE 型実践を応用した国際リカレント教育プログラムを構築する。JIGE が 2024 年度にマイクロ・クレデンシャルコース群を開設し、各コースのデジタル履修証明を発行する。2025 年度には、「履修証明プログラム」として認定を受け、60 時間相当のカリキュラムを取りまとめる。また、本履修証明プログラム内で開講する各コースは、連携 3 大学における大学院プログラムへ進学を希望する場合、その単位を卒業所要単位として換算することができるようにする（大学院 AP 制度の一つとなる）。

想定されるマイクロ・クレデンシャルコース群：（※事例）

- ダイバーシティ経営の基礎
- データビジュアリゼーションスキルアップ
- ビジネス場面における英語コミュニケーション能力開発
- 異文化対応能力養成コース
- 組織心理学 等

これらのコースの学習活動の要素の中に、海外相手大学等との COIL/VE 活動を取り込む。海外現地の JETRO や商工会議所等を通して、現地企業や現地で海外展開する日系法人等との交流の機会も COIL/VE 活動の中で展開し、参加する社会人層等にとって学びの多い機会を提供する。本取組は、安定的な提供を実現させた段階（2025 年度を予定）で社会人の参加については有償化し、国内企業の研修やリスキーリング戦略として活用してもらうことを想定している。海外相手大学の中

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

には、リスキリングカリキュラムが充実している機関がいくつか存在する（ノースカロライナ州立大学・フロリダ国際大学等）。これらの海外相手大学とも、2026年度を目途に、コースの共同提供も実現させていく。

(8) JIGE における交流活動事業の運営体制（※様式 9 概念図参照）

JIGE 拠点及び各大学において人事配当する専任教員（助教または准教授）、本事業に関わるコーディネーター（専門）職ポジションは国際公募により採用を行う。アトリエ MCP を担う講師については、特に国内外の大学で教鞭をとった経験のある人員配置（外国人教員および日本人教員）を行う。なお、本事業においては、プラットフォーム拠点所属にて人員配置する者と、拠点活動に多くのエフォートを割く人員が連携大学へ直接配属される者と、2 パターンが生じる。

アトリエ MCP の他、上記(7)などにおいても、多岐な分野に渡りコース提供を行うため、JIGE は科目ごとの契約によって講師を依頼する「JIGE Adjunct Professor 制（仮称）」も活用し、国内外の優秀な教師群も招致しながらコースの提供を行う。Adjunct Professor として招聘する者は、教壇に立つだけでなく、他の仕事にも携わっていることが多い。各分野でフルタイムの仕事をしている場合もあれば、研究、コンサルティング、その他の学術的な活動に携わっている場合もあり、Adjunct Professor ポジションは、本来の職業活動を維持しながら、専門知識を共有し、学術界に貢献することを可能とする。彼らの豊富な経験知は、学生にとどめ、そして本取組で提供するようなマイクロ・クレデンシャルコースにとっては、大変有益なものである。

また、本事業で構築するカリキュラムの多くが、オンライン型国際教育科目であることから、講師陣営の雇用は日本国内に限定するものではない。原則海外相手大学が推薦する者、もしくは国内連携大学において非常勤などの雇用経験があるなど、講師としての採用には一定の基準を定めて質を担保する。採用については JIGE 運営委員会において人選がなされることとして計画している。

(9) JIGE アドバイザリーボードの設置

本事業は、新しい国際教育の実践モデルを構築しようとする目的を持っており、中でもコロナ禍下で急速に展開したオンライン化・デジタル化を活用した国際教育の効果と今後の展開を熟考し、より今後のニーズに適した取組を提案し実装する必要がある。実働を担う JIGE-Initiative Operation は、それぞれの細分化されたプロジェクト毎にプロジェクトリーダーが JIGE-Osaka HQ と JIGE-Tokyo において選定され、本事業への貢献が大きく職掌として配分されている教員およびコーディネーターらが中心に運営がなされる。この実働チームの企画を策定するにあたり、有識者の助言を活用し、またよりグローバルな視点から取組の意義や効果を検証するため、JIGE アドバイザリーボードを設置する。本アドバイザリーボードのメンバーは、組織のニーズに関連する専門知識や経験を持つ個人から選ばれる。

メンバーは、日本国内に限定するものではなく、本事業の中心となる北米、そして世界の国際教育分野の専門家、学術関係者、地域のリーダー、パートナー組織の代表など、様々なバックグラウンドを持つ者を想定している。2023 年度後半でキックオフとし、各メンバーの任期は 1 年毎で、再任の上限を持たないものとすることを想定している。アドバイザリーボードに、JIGE が指定した議長を置き、ボードの運営を調整し、ミーティングのアジェンダを設定し、議論を進め、ボードと組織のリーダーシップ間の効果的なコミュニケーションを確保する役割を担ってもらう。本議長および補佐となる副議長は、日米の双方から 1 名選出する。アドバイザリーボードの中にも、専門分野ごとの大きなカテゴリ・区分を設定し、①分野別助言ミーティングと、②全体ボードミーティングの 2 つのミーティングをバランスよく開催する。アドバイザリーボードについては、様式 6-②においても説明を加えているので、参照されたい。

(10) 教育体制の充実

JIGE において実施するキャパシティビルディング研修には、以下のような質保証に資するプログラムの提供が予定されている。

☆講師陣営の質保証と事前トレーニング

学びのアトリエ MCP において COIL/VE コースを担当する講師（Main Facilitator/以下 MF）を担

う教員・それを支援する職員群が、JIGE 提供のキャパシティビルディング研修プログラムを受講し、COIL MF Certification を取得する。

以下に、現時点で想定している研修プログラムのコース内容の一覧を記載する：

International Education の基礎知識

1. 高等教育をめぐる世界的な環境変化と高等教育の変革に関する世界的な動向
2. 国際的な学生の流動化に関するマクロ的動向（特に国レベルの政策的動向）および大学（機関）レベルでの戦略と実践
3. 大学（機関）レベルでの国際化と国際交流（留学生交流）に関する管理運営（特に戦略的取組みと評価）
4. グローバル人材（市民）の育成に資する国際教育プログラムの構築と改善

Instructional Design の基礎と経験

1. 思いつきや勘でなくインストラクショナルデザインの理論に基づき科学的に研修コンテンツ（対面研修、eLearning など）を設計するための研修
2. ICT を活用した教育に関する基礎と経験

外国語学習・教育の基礎知識

1. 人が「母語以外の言語」をどのように身につけるのかを学術的に研究した結果判明した効率的な言語習得法の理論
2. 異文化コミュニケーション（能力）に関する理論・実践
3. 言語習得における学習効果評価に関する知識

等

各大学独自の取組

関西大学

海外連携大学間の多方向交流の推進

IIGEにおいてスタートさせた MCP (Multilateral COIL Program) を JIGE の提供するアトリエ MCP に有機的に連動させ、これまで J-MCP において誘致してきた海外連携大学についてもアトリエ MCP が提供する多種多様なコースの享受機会が生まれるよう仕掛けを構築する。

JPN-COIL 協議会への横展開

JIGE の活動を、他大学へ横展開するにあたり、関西大学が幹事校となり、IIGE において積極的に横のつながりを強化してきた JPN-COIL 協議会（様式 1-④-1 参照）の加盟国内大学・海外大学に対し JIGE が展開する交流学習活動への参画を誘致する（2026 年度以降）。

千葉大学

学部・大学院連携

これまでの米国 4 大学との COIL 型授業を継続・発展させるとともに、大学院における COIL 型授業・演習を発展させて、本事業に取り込み、学部・大学院を通じた COIL 型授業・演習を展開する。これによって、千葉大学においてすでに制度化されている学部学生の早期卒業や大学院科目の先行履修を促進する。

新大学院等における COIL 型授業の日常化

千葉大学で 2024 年に設置される情報・データサイエンス学府、2020 年に日本初の研究科等連係課程として設置された総合国際学位プログラム、2021 年に設置したデザイン・リサーチ・インスピティテュート(dri)等が先導する形で、通常の授業等の中に COIL による国際協働学習の形態を導入する。これによって、大学全体で、COIL と通常授業とのマージを進める。

東北大学

オンライン教育を活用した国際学士課程の予備教育（受入）と入学前国際研修（派遣）を AP（アドバンスト・プレースメント）科目として統合し、入学後の単位化を図る高大連携予備教育プログ

ラム（新設）の中核とする。また、設立当初から海外や国際機関からのリクルートや国際研究交流を積極的に進めてきた災害科学国際研究所などの学内の多様な経験を活かし、国際公募を通じた外国人教員等の配置を拡充するとともに、クロスアポイントメント制度等を活用し、研究指導・派遣授業を目的とした外国人教員招へいや教員交流を促進する。さらに、本申請の連携校であるカリフォルニア大学、ペンシルバニア州立大学とは、質保証された大学院の共同教育プログラムを実施し、学生交流の深化を図る。2022年4月の「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）推進宣言」に基づき、全ての構成員がダイバーシティを尊重し、かつ、全ての構成員のダイバーシティが尊重されるよう、意識啓発や環境・制度整備を促進する。

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

達成目標【①～④合わせて15ページ以内】

① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）

JIGE（3大学連携事業）としての連携強化に資する目標

アウトカムに関する具体的な目標

○日米の社会的な慣習、文化、政治体制、価値観など、どちらかに偏ったり優劣をつけることなく理解し、それぞれの文化的背景に対する敬意や理解を持ち様々な社会的・文化的・経済的活動に協力的に参加することができる人材の育成を第一とし、この目標達成において、海外相手大学と国内大学が互いを必要不可欠なパートナーとしてみなす互恵性の高い連携を生み出す。

○日米の関係は、双方の国への影響にとどまらず、安全保障、経済の発展や貿易、主要な政治的外交的な世界の問題についても、他国に多大なインパクトをもたらすものである。このため、日米の大学における連携によって行われる国際教育の活動は、日本と米国のみに関する問題を取り扱うだけではなく、むしろ世界のさまざまな課題を取り扱い、そして若い世代の意識を国際平和、紛争解決、人権の推進といった次元に向け、地球市民としての責任感と視点を持った人材層の育成と輩出をアウトカム（目標）として掲げる。

○両国の高等教育機関の連携強化により、新たな技術や産業の発展、医療や環境分野など多様なフィールドでの革新を生み出す機会を醸成し、そこから輩出される高度専門人材潜在層が相互の国や、他国も巻き込み、世界全体にプラスの影響を与えるリーダーとなることを目指す。したがって、下記に示すように、本事業で取り組む国際交流活動は、DX・GX等に資する分野を含む、幅広い分野を取り扱い、博士課程在籍層などが参加する共同研究を主軸とするオンライン型交流活動なども積極的に取り込んだものとする。

アウトプットとしての具体的な目標

2027年度までの事業期間において、以下のようなアウトプットを生み出すことを目指す。

○Blended Mobility（オンライン化・デジタル化した学修実践を有機的に融合した国際教育）が、大学に在籍する学生が経験するグローバルラーニングの一般的なデフォルトの形態として認識されるような文化を形成する（渡航留学をする者は、何等かのオンライン型教育を有効活用することが当たり前となる）。

○COIL/VE型科目が、より多くの大学機関において学生の選択科目または活動選択として提供できるよう、この実践において海外パートナーを見つけることが困難を伴わない連携スキームを創り上げる。

○「BM カリキュラムアドバイザー」「COIL コーディネーター」のような専門的知識を兼ね備えた国際教育の専門家が、より多くの大学の国際関係部署に配属されている状態を創り出し、彼らが海外との連携を維持・強化する上で架け橋となる。

○JV-Campus等国内が開発した教育コンテンツが、海外連携ネットワークを通して認知され、その活用効果がさらに大学間の教育を通じた連携強化や、相互の互恵性を促進する。

それぞれの大学が掲げるアウトプットとしての具体的な目標は以下のとおりである。

関西大学

関西大学が2014年から継続して展開してきたCOIL/VE教育実践とそのノウハウを生かし、北米を中心とした本実践に強い関心と推進意思を持つ大学等と協働することで、本事業において目

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ：B）

指すような日米を中心とした強い連携関係の確立を推進する。

1. 新たにオンライン型国際教育と渡航留学を融合させるモデルスキームを米国大学に提案し、従来渡航留学のみにおいて関係があつた大学に対しても、新しいスキームでの双方の交流活動へと切り替えを促す。
2. 日米でこれまで実施した COIL 科目マッチングの経験を生かし、世界規模の課題を取り扱った 国際交流学習をより真正性のある現実的な取組とするため、カナダ、スペイン、ブラジル、フィリピン、タイ王国、マレーシア、台湾といった第3国・地域も米国の大学と共にパートナーを組み、協働学習の機会を学習者に提供する (Multilateral COIL 科目の実現)。
3. 国内の外国人留学生層に対して展開してきた留学生の就職促進事業を拡充し、海外相手大学から BM プログラムの一環として渡航する北米を中心とした留学生層についても、キャリア形成支援の提供を行う。この活動の一部として、国内企業での円滑な人材活用が進むよう、来日前のキャリア教育として、日本語・日本文化学習や企業文化学習などのマイクロクレデンシャルコースを JV-campus と共に開発し、海外相手大学の理解の下にその学習実践の受講を事前に進める。
4. JIGE が構築する研究プロジェクトベースの COIL/VE 型連携スキーム (博士課程ドクトラル・コロキウム等) をフル活用し、主に理工学研究分野の研究科に所属する学生及び研究者間の国際交流機会を増やす。事業期間中に、海外大学機関から、そして関西大学から相手大学へ、さらに次のステージ (例: 学部から修士課程、修士課程から博士課程など) への進学を決める層を奨励する。
5. 本事業で構築する国内外の連携ネットワークを生かし、理工系学生がより創造力・コミュニケーション能力、異文化対応能力を培うことができる「STEAM 教育」や、社会科学・人文専攻の学生がデータ分析・情報処理能力などをより鍛錬し文理を融合した越境学習体験ができるプログラムを開発する。参加した学習者の効果検証も多様な測定手法 (例: BEVI, IDI, GPS-Academic のような外部測定ツール) も活用しながら随時行い、海外相手大学と共にプログラムの PDCA サイクルを回しカリキュラム運営を改善しつつ遂行する。

東北大学

北米を中心とした連携校と東北大学が有する多様な教育資源を戦略的に活用し、世界共通の課題に関するテーマ学習・研究、国や大学を超えた学生間の協働・交流を取り入れた国際共修、デジタル教育を取り入れた重層的なプログラムを開発・実施する。

1. 入学前国際研修と国際学士課程の予備教育を統合した高大連携国際準備コースを設置・推進し、AP に連動させる。
2. 初年次から大学院生まで、学生の国際レディネス、専門基礎力、学術的関心に応じた多様な短期研修プログラムを開発し体系的に展開する。
3. 日本語・日本文化研修から専門教育、研究まで、連携校の学事暦や学生の関心に応じた短期受入研修プログラムを拡充する。
4. 連携校との授業料不徴収、単位互換制度に基づく専門教育を軸とした双方向の学生交流を拡充する。
5. 高学年次・大学院向けフィールドワーク、インターンシップ、アントレプレナーシップ研修を含む専門的、学際的な研鑽と専門的知見をキャリアにつなげる国際的キャリア形成を実施する。
6. 国際共修ループリック、効果検証インベントリーを用いて学生の学びやプログラムの効果を多層的に検証する。
7. 全ての研修を単位化、もしくはデジタル・バッジの発行をもって質保証する。

千葉大学

1. COIL-JUSU として構築したユニークなプログラムの拡張を行い、全プログラムにデザイン・シンキングを導入する。日本文化+デザイン・シンキング、ビジネス+デザイン・シンキング、米国文化+デザイン・シンキング、ナーシング+デザイン・シンキングなどを展開する。年間 36 プログラム実施を目指す。

2. トライラテラル COIL を実現するため、対象大学を新たに獲得し展開する。中でも中南米については一般社団法人日本ラテンアメリカカリブ振興協会(JAPORAC)とのこれまでの協力関係を強化することを通じて、交流事業を拡大する。ジャマイカ、パナマなどの国々や、他のグローバルサウスの国々と連携し、3拠点の連携による新たなプログラムの開発を行う。6プログラムを展開する。
3. 米国的新規交流大学を拡大する。これまで、研究連携が中心であった UCSD や USC などとの教育連携の拡張について検討する。プログラム実施中の構築中に関わらず、連携展開を実施する。将来的に 2-4 プログラムの設置を予定している。
4. JD・メジャー+マイナーの設置を推進するとともに、これらの受講対象を日本+米国から、アジア、アセアンに拡張する。シンガポールやタイなどは教育先進分野もあり、これらの国と並ぶような、日本+米国+インドネシア、日本+米国+マレーシアなどのプログラムを今回構築する JD・メジャー+マイナーを利用して展開する。入学は現地の大学で、最後は日本で学習し学位付与、その後に、修士や博士に進学、日本での就業につなげる。JD の設置後、2-4 大学と連携する。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）

JIGE（3大学連携事業）としての連携強化に資する目標

事業開始～2024 年度までのアウトプット

○Blended Mobility（オンライン化・デジタル化した学修実践を有機的に融合した国際教育）のプログラムの事例を 3 大学がモデルケースとして構築し、国内外に発信する。2023 年 11 月に開催される IVEC2023(International Virtual Conference)、2024 年 3 月に予定されている APAIE2024、NAFSA2024 等において、AAC&U 等の北米の連携組織と合同で**本事業の特色や推進している取組について国外での発信**を行う。

○COIL/VE 実践を行う教師・教職員のための研修機会を提供するとともに、海外の大学とマッチングを希望する教員らが参加できるオンライン開催のマッチングフェアを定期的に開催し、2024 年度中に COIL 科目やアトリエ MCP のコースへの講師としての参加者を募る。2024 年度に提供するアトリエ MCP コースに、海外相手大学の学生が参加しやすいよう、単位認定の設定を依頼する。COIL/VE 科目に参加した海外大学の学生は、BM プログラムの渡航留学活動においても、サポートを受けて参加できる。この BM プログラムとしての積極的なプロモーションを、北米の現地の大学の国際部署等と JIGE が密に連携し進める。

○「BM カリキュラムアドバイザー」「COIL コーディネーター」に資する研修プログラム (Capacity Building) を JIGE で提供し、これらの専門性の重要性を、国内外の大学関係者に様々なチャネルで発信する。

○JV-Campus 等国内が開発した教育コンテンツに関する認知度向上の活動を、JV-Campus 専門部会メンバー等の協力の下、特に対外的に発信する。

関西大学 事業開始～2024 年度までのアウトプット

1. 本事業で連携する海外相手大学とさらに継続して相談し、2023 年度秋学期および 2024 年 2-3 月の春休み時期に実施する COIL Plus プログラムとして日本人学生の渡航派遣を行う。
2. 米国パートナー大学に加え、カナダ、スペイン、ブラジル、フィリピン、タイ王国、マレーシア、台湾といった第 3 国・地域で本事業に参加した大学らに呼びかけ、自大学紹介および COIL/VE 教育実践の実績、また渡航留学プログラムの構築に関する準備状況などを共有する JIGE グローバルミーティングを 2023 年度中にスタートさせる。以後、**4 半期に 1 度の頻度**でオンライン開催を継続し、バーチャルオフィススペースでの対話の機会の提供も行う。
3. 日本語・日本文化学習や企業文化学習などのマイクロクレデンシャルコースを 2023 年 9 月までに JV-campus と共に開発し、海外相手大学との学習実践の受講を事前に進める。
4. JIGE が構築する研究プロジェクトベースの COIL/VE 型連携スキーム（博士課程ドクトラル・コロキウム等）の環境を構築し、2024 年度 4 月以降定期的な開催を行う。

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

5. アトリエ MCP コースとして、「AI x Aging Society Entrepreneurship」プログラム、「STEAM-Intercultural Competence (仮称)」の2コースを米国相手大学と共に開発し、提供する。

東北大学 事業開始～2024年度までのアウトプット

1. 国際共修科目を現在の1.5倍に増加させ、COILを積極的に活用したハイブリッド国際教育カリキュラムを構築する。
2. 入学前国際研修のハイブリット化を完了し、国際学士課程の予備教育との統合を開始する。予備教育のAPとの連動に必要な制度整備や具体的プロセス・計画を確認する。
3. 既存のSAP、FL、海外体験プログラムとデジタル教育、国際共修活動の統合を完了させる。短期派遣研修プログラムのカリキュラムマッピングを完成させ、学生のニーズ調査やプログラムの効果検証をもとに本プログラム後半の戦略策定およびその実装化を図る。
4. 短期受入れプログラムを精査し、カリキュラムマッピングを行う。オンラインと実渡航型研修を連動させ、参加者が自身の関心、経済状況、時間の制約、習熟度にあわせコースを選択できるようプログラム・メニューを可視化する。
5. 授業料不徴収、単位互換制度に基づく専門教育を軸とした既存の学生交流フレームワークをレビューし学生のニーズに沿ったプログラムを開発する。
6. 専門フィールドワーク、インターンシップ、アントレプレナーシップ研修とキャリア形成を連動させた課外学習コースを開発し、質の担保をもって推進する。
7. 単位化、デジタル・バッジの発行による質保証を基本としたプログラム開発を学内のデフォルトとするための制度改革を行う。

千葉大学 事業開始～2024年度までのアウトプット

1. 連携4大学の発展と自走化 新たなJUSUプログラムの開発 年間24プログラムから36プログラムへ拡張。事業期間における開発予定のプログラムはすべて2024年度までに構築し、その後のJDやメジャー+マイナーで使用する。
2. 米国パートナー大学に加え、ジャマイカ、パナマなどの第3国・地域へのプログラムの拡張。これら上記と同様に、事業期間における開発予定のプログラムはすべて2024年度までに構築する。
3. 日本文化学習のマイクロクレデンシャルコースを2023年度9月までにJV-campusと共に開発し、海外相手大学その学習実践の受講を事前に進める。特に国立歴史民俗博物館との連携による日本文化プログラムは、VR/ARを利用したもので、JV-campusのみならず日本の有益な学習資産になる。
4. 研究プロジェクトベース「COIL/VE型連携スキーム-博士課程ドクトラル・コロキウム」を実践する。デザインイノベーション系のプログラムで先導的に開始し、他の研究領域との研究交流を実施、2024年度4月以降定期的な開催のためのプレミーティングを2023年度中に実施する。
5. アトリエ MCP コースとして、「AI x Aging Society Entrepreneurship」プログラム、「STEAM-Intercultural Competence (仮称)」の2コースを、ニュースクール大学とシンシナティ大学の2大学と構築し実施する。

② 養成しようとするグローバル人材像について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）

3大学で共通して養成するグローバル人材像

本事業で日米双方の学生に対し、BMプログラムを通して養成しようとする未来人材は、「Society 5.0 人材」である。情報社会としての Society4.0 の次に来る Society5.0 では、AIをはじめとしたデジタル技術の発展と活用によって、より広範囲で有益な情報の相互共有が可能となり、新技術を通じて地域や世代の壁を越えてお互いに尊重できる世界、あらゆる人々が快適かつ平等に活躍する場が与えられる社会が目指されている。この Society5.0 の時代をリードする新たなグローバル人材が「Society5.0 人材」であり、そこで想定する具体的人材像（アウトプット）は、以下のとおりである。

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ：B）

- (1) 日本人としてのアイデンティティを相対的に理解し、かつ異文化を共感的に理解できる力
- (2) 地球規模から国・地域の規模に至る社会課題を「自分事」として捉える主体性と積極性
- (3) 国籍や専門性など異なる背景を持つ多様な人を巻き込み協働しながら、社会の発展に資する新たな価値を創り出す行動力と創造性
- (4) 変化を恐れず、柔軟に対応し、生涯にわたって学び続け、自らの適性をアップデートしていく対応力と継続力

Society5.0 のステージで汎用的に求められるこうした能力は、次世代のグローバル人材に求められる「レディネス」である。その養成のために開設するオンラインによる日米の国際共修空間と質保証の仕組み、さらに学びの自由度と多様性を生み出すBM という国際教育実践は、本事業の確実なアウトプットとして形成される。本事業によって養成される人材は、日米を取り巻く流動的な環境の中で、将来を見据えて行動でき、問題意識を共有して多様性の中で協働する経験とその価値を理解できる人材であり、本事業を通じて形成される理系・文系を超えたネットワークを次の時代に継承していく人材となる。加えて、こうした新しい国際教育の展開は、我が国の大学における教育制度の柔軟化とカリキュラム改革を必然的に随伴し、次代に適合した高等教育へのパラダイムシフトというアウトカムをもたらすものとなる。

それぞれの大学の特色を踏まえた各大学の養成したい人材像

関西大学

学理と実際の調和を意味する学は「学の実化」は、大学での学びを一方的な知識・情報の修得に留めることなく、実社会の課題と要請を意識ながら、自らの学びを組み立てていくことを学生にも求めるものである。またディプロマ・ポリシーに現れる「考動力」と「革新力」は、社会の日々の活動に応用していく力を意味している。関西大学では、具体的には以下の資質や能力を持つ人材の養成をめざす。

(日本人学生)

1. 自らのアイデンティティを踏まえつつ、異文化を理解し対応する力
2. 問題の所在を的確に把握し、その解決策を多様な人々と協働しながら探り、それを行動に移すことのできる課題解決力と考動力
3. 豊かな表現力と建設的なディベート力を備えた実践的コミュニケーション力
4. それぞれの専門性をベースとしながら人文社会・自然科学の枠を超えて課題の発見と解決策を探る応用力
5. BMX を通じて自らの将来像を実現するための学びを自ら組み上げていく計画力

(外国人学生)

1. 異文化を理解し、他者と協働しながら新たな価値を創出する資質
2. 日本や日本人に強い興味・関心をいただき、日本と母国との架け橋になろうとする志向
3. 高い志を有し、自らの専門性を深めて国際頭脳循環に参入しようとする意欲

東北大学

地球規模で深刻化する自然災害、環境問題、戦争・紛争、経済・教育の格差等の課題にグローバルな視点で挑み、解決に向けて行動を起こすことで、レジリエントな社会の創造に貢献できる専門人材を育成する。具体的には、海外の連携大学と協働し以下の資質・能力・スキルをもつ人材の育成に努める。

1. 國際社会の一員としての責任を認識し、社会にポジティブな変化をもたらすために行動を起こすことができる行動力の伴ったグローバル・シティズン
2. 言語、文化、価値観の異なる他者と理解し合い、協働するために必要な高いコミュニケーション能力をもつ人材
3. 異文化理解力、相対的自文化理解力、批判的思考力、創造力、リーダーシップ、チームワーク力等のグローバル・コンピテンシーが備わった人材
4. デジタル・リテラシーを身につけ、どのような発達段階や知識習得段階においても IT を使いこなせる高度デジタル人材

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ： B)

5. 災害研究、地球物理、食と免疫等、人権問題等、SDGs に関する学際的専門知・スキルに基づき、実効性のある提案ができるレジリエンス社会実現に資する高度専門人材

千葉大学

千葉大学における人材育成は、大学の理念である「つねに、より高きものをめざして」のもと、グローバル教育により育成する、という目標を掲げている。中でも SGUにおいては「俯瞰力」「発見力」「実践力」の3つを通して人間力のある人材を育成する。本事業においてもこの理念と同様に人材を育成し、グローバル社会において、人間力のある人材として、様々な人間の中心となる。

(日本人学生)

1. 多様な状況における適応能力 これによる人間としての信頼性の確保と実行力の維持
2. 文化の垣根を理解し、見えないボーダーの存在を理解した上でクロスボーダー能
3. SDGs などの持続的な社会の発展に貢献できる人材 ソシアル・イシューを多次元の角度より解決する人材の育成 さらに次世代の人材の育成に貢献できる人材

(外国人学生)

4. 日本の文化を理解し、未来日本と協業する人材 日本との新架け橋人材
5. 母国と日本の優位性を理解し、世界に貢献する人材 国際人材の育成
6. 研究志向型人材で未来の研究者やアカデミアとなり世界に貢献する人材

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）

3 大学共通の達成目標

BMXによる人材養成の実現のために、2024年度までに以下のアクティビティを実施する。

1. JV-Campus上で「アトリエ MCP」国際化促進フォーラムプロジェクトを起動し、COIL/VEによる科目提供を開始する。
2. COIL/VE科目のマイクロクレデンシャル化に着手する。
3. 大学共通型の BMX 派遣プログラムを開始する。
4. 高度人材のための COIL ドクトラル・コロキウムを起動する。
5. 渡航型・課題解決型のインターンシッププログラムを開始する。
6. リモート・インターンシップで使用するポータルを JV-Campus 上に開発する。

関西大学

BMによる次世代型国際教育の展開のために以下の施策を実行する。

1. KUGF科目（関西大学グローバル・フロンティア科目）を発展的に再編し、BMXに柔軟に対応できる科目編成を行う。
2. 海外・国内他大学とのオンライン共修科目の単位制度を見直し、全学的に卒業所要単位算入への上限を拡大する。
3. 大学院におけるAPの導入のための学内的制度設計を完了する。

東北大学

学生全体のグローバル・コンピテンシーの底上げを図るために以下を実行する。

1. 地球規模課題をテーマとした国際共修科目を現在の数科目から10科目に増設し、行動力の養成に焦点を当てた国際教育科目を30科目開講する。国際共修ループリックで学生の成果をモニタリングし、科目を開発する教員を支援するためのFDを継続して開催する。
2. 英語によるディスカッションや共同学習に必要な語学基準を、米国の連携校が留学応募要件として設定する TOEFL®550点とし、留学中に必要となる Study Skills の習得と英語運用能力の向上を目的とした課外英語講座や「国際共同大学院プログラム」での英語強化プログラムと連携する等し、中間評価までに当該事業による派遣者の3割が当該基準を達成する。
3. 国際共修、派遣・受入留学プログラムの推進により、学生のグローバル・コンピテンシーを向上させ、効果を国際共修効果検証インベントリー（本学が開発）でモニタリングを行う。
4. COILやJV-Campusの活用を推進し、デジタル教育の導入度を科目別、プログラム別に確認し、

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

担当教員にFDを通じて支援を行う。

- ドクトラル・コロキウムの起動、プレ・アカデミアトレーニングプログラム等の導入を進めることで、高学年、大学院生の学際的な専門知・スキルを高め、研究型フィールドワーク、研修、ボランティア、ワークショップ、キャリア形成イベントを年間30回実施し、初年度を基本に参加者を毎年、倍増させる。

千葉大学

人間力の育成と研究志向人材の育成。

- JV-Campus上での「アトリエMCP」は、千葉大学のデザイン系の責務であり、デザインシンキングを通じてイノベーション人材を育成する そのためのプログラムを24以上実施する。
- 研究志向人材育成のためにもAPを加速させ、特化型プログラムを展開、3以上のカテゴリー、データサイエンス、デジタルヒューマニティーズ、イノベーションの分野でのAP実施で60名以上の高校生を取り込む
- 研究志向人材育成のためのCOILドクトラル・コロキウムを活用 そのプレプログラムを2024年までに3回実施 参加ジャンル6以上（総合、国際、工学、デザイン、園芸、理学、など） 参加人数30名以上を目標とする

<p>③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について</p> <p>(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標</p>					
単位：人（延べ人数）					
外国語力基準（関西大学）		達成目標			
		中間評価まで (事業開始～2024年度まで)	事後評価まで (事業開始～2027年度まで)		
【参考】本事業計画において派遣する 日本人学生合計数		1,256	6,286		
1	TOEFL iBT 80 点(CEFR B2)以 上	交換など(実渡航)	16(1,256人中)		
		BM(実渡航)	160(同上)		
		COIL PLUS(実渡航)	65(同上)		
2	TOEFL iBT 69 点(CEFR B1)以 上 80点未満	One way 等(実渡航)	35(同上)		
		ラボなど(実渡航)	20(同上)		
		COIL(オンライン)	280(同上)		
		JV-campus(オンライン)	550(同上)		
3	CEFR A2 以上	短期語学(実渡航)・専 門分野における研究ベ ースの COIL/VE, BM プ ログラム	130(同上)		
(ii) 外国語力基準を定めた考え方					
<p>本事業の中核となる BM プログラムが目指すところは、アカデミックな領域からキャリア形成へと繋がる多様かつ高度な課題に果敢に取り組み解決へと結びつける態度・知識であり、その根底には母語はもとより、社会・経済として英語などの外国語を駆使し、コミュニケーションとしての役割を担うに足る能力の持ち主の育成である。したがって、本事業における外国語基準として最低限クリアすべきスコアを定めるにあたり、目標とすべき語学基準を TOEFL iBT69 点 (CEFR B1) 程度とし、<u>その上で、それぞれが参加するオンライン型国際交流学習実践やモビリティプログラムにおいて目標とする英語運用力は多層化することも認識した取組の展開を行う</u>。本申請書の随所に言及があるように、オンライン型実践の研究プロジェクトを主軸とする COIL/VE 型実践活動の場合、AI を搭載した機械翻訳・同時翻訳アプリなどを補完的に活用しながら、日米等の学生間で自身の専門分野の最先端トピックを取り扱いながら協働学習活動を行うといったことが、現代のオンライン化・デジタル化した技術を活用することで可能となる。これらの <u>Society 5.0 時代には日常化する環境を使いこなしつつ自身のスキルアップができる能力も、本事業においては重視したい側面</u>である。この場合、国内学生の外国語運用能力外部テストスコア自体が CEFR B1 に到達していくとも、COIL/VE 授業等へ参加し効果的な学修成果を期待することができる。この場合、関西大学では <u>CEFR A2</u> を基準として活用する。一方で、BM/COIL Plus プログラムにおいて、インターンシップのような活動を含む場合や渡航して専門科目を学ぶ場合は、一般に海外で職務をこなすことのできる基準とされる TOEFL iBT80 点 (CEFR B2) 相当を基準とする必要がある。このように活動別に適性を持った外国語基準を設ける。</p>					
(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2027年度まで）					
<p>KUGF(Kansai University Global Frontier) グローバル科目群のカリキュラムの改善：いわゆる教養レベルの英語カリキュラムと並行して、関西大学ではアカデミック・ユーザーとしての英語運用能力向上を目指す科目群 (Skill Up for Studying Abroad) をすでに提供している。</p> <p>また、2023年度から、本事業において連携大学として協業する<u>東北大</u>において構築された EGAP(English for General Academic Purpose)能力を養成するカリキュラム (Pathways) を、双方の大学の連携と、両大学が参画する EJC (EGAP Japan Consortium) の支援を受け、関西大学の当該科目群に導入を行った (2023年4月12日プレス URL: https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/)</p>					

(大学名：関西大学、東北大、千葉大学) (タイプ：B)

IIGE/jp/news/detail.php?seq=342)。「TOEFL/IELTS を通した英語学習 I・II」、「Foundation for Academic English」、「Academic Writing Practice」といった科目において、Pathways の教育設計、教育コンテンツ（クラウド化されている）を有効活用し、これまでの教育実践をバージョンアップさせた外国語運用能力向上が期待できるカリキュラム改革を実施している。また、様式 1-④-1 に示した「学びのアトリエ」の PREP-Room における学習コンテンツの新設を受け、これらのオンライン・双方向型コミュニケーションスキル向上が今後期待できる。

Mi-Room（正課外国語交流学習を促進するオンラインampusスペース）の活用 Mi-Room (Multilingual Immersion Room) は、関西大学の専任教員がコーディネートする、日本人学生と留学生を対象にした課外活動の場である。ここでは、基本的に交換派遣留学生が GTA (Global Teaching Assistant) として、言語・文化に関するセッションを運営しており、パンデミック前には年間延べ 10,479 人の利用（2019 年実績）があった。コロナ禍を経て、オンライン利用の選択肢も加わり、単なる交流の場としてだけではなく、COIL/JV 科目での協働学習や学びのアトリエに飛び込む前の多様な力試し、または COIL Plus 等の BM 実践への参加に備える場所として、稼働率を経年的に高め、参加学生の能力向上につなげていく。

（iv）中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2024 年度まで）

事業期間中の骨格となるグローバル科目群や Mi-Room の活用を礎とし、専門分野のコンテンツ理解と発信へとつながる英語運用能力向上の契機となるよう、COIL を交えた KUGF グローバル科目の履修、KU-EOL への参加を促し、段階を踏んで学生のモチベーションの維持・向上を図る。KUGF 科目は、8 つの分野別モジュールからなるカリキュラムで、学生の専門分野に応じて英語で授業が受講できる。KU-EOL は海外連携大学の学生も参加して授業が展開される（リアルタイム）オンラインコースで、こちらも学生の興味に応じて、さまざまなトピックを英語で学び国内外の仲間と意見交換をすることができる。事業の中間評価までには、グローバル科目群・Mi-Room・KUGF 科目・KU-EOL による連携モデルの提示・周知を徹底する。

中間評価までに、2023 年度から開始した新しい EGAP カリキュラムの定着と浸透を推進し、クラウド上の自律学習コンテンツなども有機的に活用する Blended Learning 型の外国語運用能力向上教育実践を本事業参加者全体に提供できるインフラを充実させる。

③-2 学生に習得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

（i）事業計画全体の達成目標（事業開始～2027 年度まで）

BMX (Blended Mobility Projects) で育成すべき未来人材は、DX を活かした新たな学習方法で Society 5.0 を実現することのできる人材である。このような人材は、外国語運用能力に加えて、主体性、課題発見力、課題解決力、そしてそれを実現させるためのコミュニケーション力、異文化間対応力、継続力の涵養が強く求められる。そのような能力の先には、関西大学が企図するグローバル・エンプロアビリティの獲得がある。したがって、本事業が提供する諸活動を通して、一人一人の学生が国内に留まらず、国外でも求められる雇用能力を身につけること、すなわち本学の学是「学の実化」を実践し、確かなコンピテンシーとともに社会へと巣立つことを主要な目標とする。

ここで言うコンピテンシーとは、眼前にある困難・不便を克服するための一過性の技術（つまり、短期間で陳腐化してしまうもの）だけでなく、新たな価値の創造に向けて、背景に深い教養と多様な価値観に基づき、常に批判的かつ建設的に物事を観察することにより、価値そのものが社会や人間に与えるインパクトと、その是非までも見分けることのできる技術、すなわち鑑識眼をも指す。そのためには、分野個別知識を深めつつも、本事業の各種交流活動を通して、分野横断的な交流を体験し、その「異文化」の交わりの中で、トータルな判断力や、単独ではたどり着けない発想や想像を生み出す能力の養成を目指す。

（ii）中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）

本学が定義するグローバル・エンプロアビリティを向上させるために、BM を活かしつつ、以下を実行する。

1. JV-Campus に設置する「COIL/VE 型学びのアトリエ」への積極的な参加
2. デジタルバッヂを採用した学修・履修活動の啓蒙と充実
3. BM プログラム参加者層への、Pathways を応用した外国語運用能力向上を図るグローバル科目群の履修の奨励

4. 学部生・院生初年次段階における COIL/VE 科目群の履修の推進と、BM プログラム参加登録

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

外国語力基準（東北大學）	達成目標	
	中間評価まで (事業開始～2024 年度まで)	事後評価まで (事業開始～2027 年度まで)
【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数	775	3,275
1 TOEFL ITP 550 以上 (CEFR B2) の英語能力	230 (775 人中)	1,000 (3,275 人中)
2		
3		

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

東北大學では、「経済社会の発展をけん引するグローバル人材育成支援」事業採択以来、英語の基準として、TOEFL- ITP®テスト 550 点（若しくは TOEFL- iBT®テスト 79 点）を掲げてきた。これは、欧米の英語圏の大学に交換留学として派遣するときに多くの大学で要求される英語力であり、これらの大学において授業を受講しキャンパスライフを送るのに必要な最低限のものとみなされているからである。その後、本学では、英語教育改革が進められ、2020 年に全学英語教育（学部 1, 2 年生対象）において新カリキュラムが施行されたが、この新たな英語教育においては、一般学術英語（English for General Academic Purposes）の習得を目的として、英語力を測るテストとしては TOEFL®を用いることがこれまで以上に強く明示された。こうした全学英語教育改革、学部専門課程、大学院教育における英語力の強化の種々の取り組み、「スーパーグローバル大学創成支援（トップ型）（SGU）」における正課外での英語プログラムの提供、短期海外研修における英語力強化など様々な施策が相俟って、近年学生の英語力は顕著に向かっている（TOEFL- ITP®テスト 550 点以上の学生の割合は、2015 年度の 9.5%から 2020 年度の 18.2%と倍増）。本プロジェクトにおいても、事業終了までには英語基準を 3 割程度の学生がクリアするように英語力向上に資する取り組みを進める。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2027 年度まで）

正課の英語教育である全学英語教育での新カリキュラムをさらに改善し、学部 1・2 年生の英語力の基盤強化を不斷に進めるとともに、学部高年次から大学院での専門英語の授業、様々な英語力向上プログラムを実施する。大学院での英語力強化に当たっては、高等大学院機構と協力し、「国際共同大学院プログラム」での英語強化プログラム、後期課程学生の待遇向上とキャリアパスの確保を目的とした文部科学省補助事業「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」及び JST 事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」が展開する英語強化プログラムと連携しながら本プロジェクト参加学生の英語力強化を図る。さらに、本プロジェクトの一環として進める「包括的国際共修教育交流」プログラムにおいても随所に英語運用能力の強化を図る企画を取り入れ、またハイブリッド型セミナー等において北米の学生と英語での国際交流・国際共修を

(大学名：関西大学、東北大學、千葉大学) (タイプ： B)

行う場面を多く取り入れることで英語を使う環境を増やし、英語運用能力の向上を図る。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2024年度まで）

大学の教育課程で進める英語力強化は上述の通り。すなわち、正課の英語教育である全学英語教育での新カリキュラムをさらに改善し、学部1・2年生の英語力の基盤強化を不斷に進めるとともに、学部高年次から大学院での専門英語の授業、様々な英語力向上プログラムを実施する。大学院での英語力強化に当たっては、高等大学院機構と協力し、「国際共同大学院プログラム」での英語強化プログラム、後期課程学生の待遇向上とキャリアパスの確保を目的とした文部科学省補助事業「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」及びJST事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」が展開する英語強化プログラムと連携しながら本プロジェクト参加学生の英語力強化を図る。一方、本プロジェクトの一環として実施する「包括的国際共修教育交流」やハイブリッド型セミナー等において、コミュニケーションの機会を多く設け英語運用能力を高めるとともに、英語をブラッシュアップできるようなプログラムを組み入れるように設計し、実施に移す。

③-2 学生に習得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）

日本人学生・外国人学生共通

本プロジェクトでは、学生に「グローバル・レジリエンス・マインドセット」を涵養することを一つの目標としている。これは通常のグローバル人材育成で謳われる①語学・コミュニケーション力②国際教養力③行動力（主体性）（本学のグローバルリーダー育成プログラムではこれら3つの能力をオンキャンパスと海外研鑽を組み合わせて育むプログラムとしている）に加えて、レジリエンス社会創造に必要な意識や知識をもつ学生を育てるものである。ここでレジリエンスな社会においては、文化的多様性(Diversity)を尊重し、社会の構成員の能力を最大限発揮できる公正性(Equity)が担保され、誰もが歓迎・支援・評価される包摂性(Inclusion)があることが必要である。本プロジェクトで海外相手大学となっている大学はいずれもこれら Diversity, Equity and Inclusion (DEI) の推進について先導的なモデルとなっている。東北大学は、本年4月に DEI 宣言を行い、DEI を尊重する組織の実現を目指している。本プロジェクトにおいては、参加学生が、この DEI の尊重を十分に理解し意識することを基盤として、国際的観点を持ちつつ、防災・減災、持続可能性、グリーンテクノロジー、メンタルウェルビーイング等について理解し、レジリエンス社会の創造を目指す態度を「グローバル・レジリエンス・マインドセット」と呼ぶこととしている。本プロジェクトでは、学部学生を対象とする「包括的国際共修教育交流」プログラム等を実施し、座学の講義、日本人と外国人学生が交流するアクティビティを伴う国際共修授業、海外派遣・受け入れプログラム、スタディツアーやインターンシップ等多彩な活動を通じて、上記の「グローバル・レジリエンス・マインドセット」を涵養していく。同時に、DEI については、米国大学協会 (Association of American Colleges and Universities : AAC&U) が定めた Value Rubric を参考にしながら、東北大学として新たな独自のループリックを策定し運用することで、学生の DEI についての意識の向上をモニターしながら促進していく。

外国人学生

上記に加えて、日本語・日本文化に触れる機会を持ち、被災地におけるレジリエンス社会実現の現場に触れることで、日本や東北地方との懸け橋となるという意識をもつ。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）

日本人学生・外国人学生共通

「包括的国際共修教育交流」によって養成される能力を整理し、プログラムを策定し、実施に移す。DEI に関する新たなループリックを策定し、運用を始めて、検証する。

外国人学生

上記に加えて、日本語・日本文化に触れる機会を持ち、被災地におけるレジリエンス社会実現の現場に触れることで、日本や東北地方との懸け橋となるという意識をもつ。

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

外国語力基準（千葉大学）	達成目標	
	中間評価まで (事業開始～2024年度まで)	事後評価まで (事業開始～2027年度まで)
【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数	860	2,905
1 CEFR B2 以上	290 (860人中)	970 (2,905人中)
2		
3		

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

現在実施している ENGINE プランにおいて、学生の卒業要件としては CEFR B2 以上を目標としている。これは各学部によって要求される能力が異なるため、最終的に CEFR B2 を導入しているものである。例えば、学部を卒業し、そのまま就職することが多い法政経学部や文学部については、企業で利用される TOEIC のスコアが求められることが多い。一方で医学部や薬学部のように大学院あるいは学部時代に留学をする要件としては TOEFL が要求される。さらに語学系などにおいては、英国や オーストラリアに留学する場合、IELTS を要求されるため、このように最終的には CEFR B2 を要件としている。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2027年度まで）

外国語力については、学部ごとにそのレベルの格差が存在している。それぞれの学部に合わせたレベルで CEFR B2 をクリアできるようにする。そのために、ENGINE プランにおいては、学部 4 年間及び修士課程 2 年間のすべての期間において外国語力すなわち英語の学習を継続して実施している。このように常に英語の学習を実施することによって、学部間の格差をなくすとともに、それぞれの学部で必要とされる英語の能力の内容、例えばコミュニケーションツールとしての英語が必要な学部から、英語による学会論文のような高度な英語による執筆能力を必要とするところまで、多様なレベルに対応できるようにしている。本事業での目標達成においては、ENGINE プランで実施しているような英語学習の倍増、さらにはネイティブの教員によるコミュニケーションレベルの向上と言うものが目標達成のプロセスとなる。また COIL/VE でも利用できる英語の学習プログラムは多数存在しているため、英語の自習プログラムについても考慮し、目標達成に向けて英語学習を強化していく。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2024年度まで）

中間評価の目標達成に向けたプロセスは、英語を先導的に利用している国際教養学部や、英語のレベルが高い学部で先導的なプログラムを設置実施する。これらのプログラムに理学や工学の学生、さらには法政経学部の学生が加わることによって、プログラムの中身を学習するとともに英語力を向上させるという 2 つの目的を持ってプログラムを実施していく。プログラムを実施することにより、ユニークなプログラムを学習できるとともに、それらのプログラムがすべて英語で提供されることで、英語力の向上にもつながると考えている。

③-2 学生に習得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）

本事業における COIL/VE プログラムで重要なことは、デザイン・シンキングの方法の取得である。これにより創造型人材を育成する。創造型人材を育成する事は、本プログラムに限らず重要な課題になっている事は言うまでもない。そこで本プログラムでは特にデザイン・シンキングを取り入れることによって、何度も繰り返し複数の課題について解決の方法を可能な限り幅広に提案することを行い、多様な解を得ることができるようなプロセスを学ぶことで、真のデザイン・シンキ

シングのプロセスを学習し、その方法論を学習する。トライ＆エラーにより成り立つデザイン・シンキングを、体系的に学ぶことで、創造型人材を育成する。これにより、参加する学生は、デザイン・シンキングを方法論として身につけ、それを実社会で利用することが可能な人材となる。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）

千葉大学が提供する科目は36科目以上を予定している。その全てを中間評価までに構築する予定でいる。そして、この36科目がすべてデザイン・シンキングを方法論として体系的に学習することができるものになっている。科目の一部は国際教養学部、総合国際学位プログラム、工学部・デザインコース、融合理工学府・創造工学専攻のデザイン専門領域から、実際にデザインを実施するプログラムもある。これらは、デザイン・シンキングであり、デザインそのものもある。また、これらのプログラムはアトリエ・プログラムとして実施するが、その対面のプログラムは東京の新たな墨田サテライトキャンパスで実施する。これは、多くの学生が集まりやすい拠点で実施することで、多くの学生の参加を促すものである。

④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

○ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組が設定されているか。

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）

【3大学共通の取組】

● **国内3大学間の大学間単位互換の枠組み形成**

2023年度中に、国内連携3大学間では単位互換合意協定が締結される。これにより、例えば関西大学が中心となり実施する Multilateral COIL 科目に、他2大学の学生が参加し学修した場合、その科目的単位認定を、本合意書を持って対応することができるようになる。COIL/VE 科目は、一般的に既存の国内の科目と、海外の科目的担当者らが、重なる学期の活動部分を協働学習として設計することで成立するものであるため、国内連携大学間において本合意があることで、所属大学の学生層に幅広いテーマの COIL/VE 活動への参加を可能にことができる。

また、3大学共にオンライン型提供カリキュラム（千葉大学の場合「オンライン留学プログラム」、関西大学の場合「KU-EOL(Engaged/Exchange Online Learning)」、東北大学の「国際共修科目」の一部）を展開しており、物理的な距離を支障とするのではなく、それぞれの大学が参加を認める科目等において学生が参加し、海外相手大学、国内他大学の学生らと交流し学ぶことができる魅力ある教育の機会を提供することができる。2027年度までの事業期間中に、多様なカリキュラム連携を模索し、維持可能であり展開のある枠組みを完成させる。

● **海外相手大学および国内3大学間の多方向の国際パートナーシップ形成**

従来の海外大学との関係構築は、日本の教育機関と海外がバイラテラルに活動をするケースが多いが、COIL/VE型実践や、オンライン化・デジタル化した学修を有機的に融合する本事業では、多方向・複数大学機関が一斉に交流し、マルチラテラルな国際パートナーシップ形成を実現することができる。日本の3大学が、本展開力強化事業を契機として海外相手大学等との関係構築の音頭を取り、それぞれが持つ個々のリソースを持ちながら、互恵性の高い海外大学との交流活動を計画・実施する仕組みを構築する。事業期間中に、本事業参加大学による国際コミュニティ形成を実現させ、最終年度までに、さらに新たな参画パートナー大学を誘致することができるようなスキームとして確立させる。このパートナーシップ形成のモデルは、経過とともに国内外で情報発信し、本事業の広報としても役立てていく。

● **国際大学ネットワーク等との連携**

本事業 JIGE によって構築される海外大学との交流の枠組みの拡大を目的として、UMAP (University Mobility in Asia and Pacific)、IAU(International Association of Universities)といった国際的な海外ネットワークとの連携を、初年度から積極的に推進し、日米以外の海外大学への枠組みの拡大の可能性を探る。本展開力事業としてエントリーする北米中心の海外相手大学にとどめ、そして国内3大学にとどめ、広く本事業が推し進める Blended Mobility のスキームが理解されることで、その中で交流学習に参加する学生達の可動範囲がより広がる。2027年度の事業終了までに、BMのスキームがこれらの連携ネットワーク加盟大学においても一般的に認知され波及されるよう、JIGEも尽力する。

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

各大学独自の取組

【関西大学】

関西大学の『Kandai Vision 150 (2036年度までの大学の重点戦略)』では、インターナル・カルチャーリ・イマージョンキャンパスの構築を目指し、国内外の学生、教員、教育職員の流動性を高めるとともに、その結果多様な価値観が混沌とするコミュニティが大学キャンパスの中で創出され、その中で強くしなやかに活躍する能力を培ったグローバル人材の育成の輩出を行うことが謳われている。また、2023年度から5年間の中期行動計画では、国際部が主導する取組として「高度外国人材育成基盤の形成—コンソーシアムによる留学生キャリア形成支援体制の構築ー」、「国際共同研究支援の展開」、そして『「ブレンデッドモビリティ国際教育」のカリキュラム化の推進』を挙げている。これらを視野に入れ、本事業においても、国籍・年代・文化背景といった表層的段階の多様性にとどまらず、志向や価値観といった深層的段階のダイバーシティが豊かな学びのコミュニティを、オンライン化・デジタル化した学修手法も活用しながら実現させる。このため、関西大学が今般海外相手大学として参加を誘ったパートナーは多数であり、公式に記載した大学群との個々もしくは複数大学間において COIL/VE 型教育プログラムを構築できるような仕掛けを創出する。

【千葉大学】

千葉大学は、2016年にそれまでの高等教育研究機構を改組・発展させ、国際未来教育基幹を設置した。基幹長は学長であり、国際的なアドバイザリーボードとして国際未来教育基幹キャビネットを置き、キャビネット長を教育・国際担当理事がつとめる全学体制を形成した。2020年からは全員留学、スマートラーニング、英語教育改革を基軸とする ENGINE プランを実施しはじめ、コロナ禍でも国際化教育を継続的に実現してきた。2021年には、千葉大学ビジョンを策定し、その中の教育目標として、「Global Education: 世界に学び世界に貢献する人材の育成」を掲げた。これは、(1)世界をキャンパスに最先端を学修できる優れた教育環境を提供、(2)グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養、(3)幅広い教養と豊かな知性とともに高度な専門性を鍛磨、(4)国際未来教育基幹の強化による最高水準の先進的教育基盤を構築の4点からなっている。

国立大学の第4期中期目標・中期計画期間における教育目標として、2022年に「千葉大学次世代人材育成計画 Blueprint 2028 for Chiba University Global Education」を制定し、包括的な人材育成計画の中で、「海外大学との国際的な教育連携の推進と全員留学の充実」として、ダブルディグリーの拡大とジョイントディグリーの実現を見据え、教育の質を担保したグローバル教育を推進。海外キャンパスや推進拠点、大学間交流協定を基盤とした海外留学プログラムの戦略的充実と細やかな留学支援を実施することを掲げた。COIL 型教育はこうした千葉大学の国際化教育の中核的位置を占めている。

【東北大学】

東北大学では、2018年に国際戦略室が総長直下の組織として設置し、「東北大学ビジョン 2030」で示した重点戦略「戦略的な国際協働の深化」を推進すべく「東北大学の国際戦略」を策定し、教育面での質の卓越を実現するための国際教育、国際交流やネットワークの形成を戦略的・機動的に推進してきた。本プロジェクトでは、この国際戦略を着実に実行、発展させていく。具体的には、東北大学と互恵的関係を構築できる海外大学（本申請関係ではワシントン大学）との戦略的パートナーシップを、本プロジェクトを通じてさらに深化させる。また、本プロジェクトの連携大学であるカリフォルニア大学、ペンシルベニア州立大学、ノースカロライナ大学シャーロット校、モンタナ大学、ウォータールー大学等との学生交流をさらに双方向の共同教育へと強化していくとともに、本学の学生からもニーズの高い北米の大学との学生交流やパートナーシップのさらなる強化を図っていく。特に、戦略的パートナーシップを締結するワシントン大学については、アカデミック・オープン・スペース（AOS）の協定更新を2022年4月に行い、活動が2期目に入った。同大学とは、AOSの活動を中心に、戦略的パートナーシップを進化させていく。本学とワシントン大学の間では、AOS 第2期の活動の柱の一つとして DEI 推進における連携を掲げている。

また、レジリエントでグリーンな未来社会の創造と国際展開を実現できる人材には、エネルギー、材料、情報科学を核としたグリーンテクノロジーに関する最先端の知識の創出力とアントレプレ

レナーによる社会実装力及び災害科学を核としたグローバルな危機管理力が必要である。特に従来の社会にブレークスルー、イノベーションをもたらすには、アントレプレナー教育による斬新アイディアの社会実装が望まれる。ワシントン大学と東北大学で共同連携して設置した AOS を中心として、国際的な産官学連携を深化させて、外国人と日本人が組んで行う国際共修アントレプレナーシッププログラムを立ち上げ、オンライン活用を含めて①アントレプレナーキャリアデザイン教育、②プロトタイピング（試作）教育、③研究シーズ発スタートアッププラン構想教育を行う。ワシントン大学のあるシアトルには多くの IT 企業やスタートアップ企業があり、AOS を介した連携により、ニーズ探索、プロトタイプ、ビジネスモデル構築、モデルのテストを行い、スタートアップを設立するまでの一連のマインド・スキルを習得する連携プログラムを創設する。さらに、在シアトル日本国総領事館やシアトルの民間企業などとの連携を強化することを目指していく。

（ii）中間評価までの達成目標（事業開始～2024 年度まで）

【3 大学共通の取組】

- 事業開始から 2024 年度までに、国内における枠組みは完成する予定である。また、関西大学と千葉大学の 2 大学については、教育研究の連携協力に関する協定も締結される（2023 年度）ため、この枠組みをもって 2026 年度までに国内共同学位プログラムの構築を進めるべく、2024 年度に検討作業を具体的に開始させていく。
- IAU では、関西大学は 2022 年度に加盟しており、国立大学協会（JANU）も組織メンバーとして加盟している。メンバーシップを継続すると共に、IAU 事務局と連携の相談を 2023 年度後半（11 月末に実施される年次大会@カタールを予定）に開始する。
- UMAP の国際事務局（バンクーバー・カナダ）とは、従来から互恵性のある活動を IIGE（関西大学）を通して実施しており、本事業においても連携の意思を表明いただいている。これを踏まえ、2024 年度 3 月の APAIE (@パース市・オーストラリア) にて 2024 年度の協働活動についてミーティングを行い、年度企画に取り込んでいく。

大学独自の取組に関する達成目標

【関西大学】

- 本事業にて正式に参画した海外相手大学それぞれと継続して 2024 年度以降の交流活動計画を固める。
- 海外相手大学間同士において、関西大学を介して新たに交流を開始する機会を設けるため、2023 年度の EAIE（オランダ・ロッテルダム市）や先述のような IAU・APAIE の場を活用する。
- 新規協定対象大学となっている米国の大学については、2024 年度から JIGE 主催のオンライン型国際教育実践プログラム科目の履修が実現するよう、担当窓口と具体的な対話を開始する。

【千葉大学】

- 海外の連携校とのラーニング・アグリーメントの再締結の実施と、米国外の国々の大学とのラーニング・アグリーメントの確保による質の保証の契約を締結する。
- 国内 JD 及び国内海外 JD、さらには、メジャー+マイナー・プログラム構築のためのシステムを整備する。学修課程の共通化による国際間履修課程のシステム化を行う。全プロセスをデジタル化した学修課程を提供する。
- 6 大学、AUN、など様々な大学間連携へのプラットフォームの提供 国内、海外問わず、本プラットフォームを提供し、世界規模の新たな教育システムを構築する。

【東北大学】

- 東北大学国際戦略室が策定した国際戦略をもとに、本事業で連携する北米をはじめとする海外大学と質の高い交流を戦略的・機動的に推進する。
- 特に北米における戦略的パートナーとなるワシントン大学とは AOS を中心とした施策（特に大学院レベルでの交流）を軌道に乗せていく。
- 今回連携するカリフォルニア大学、ペンシルベニア州立大学等とのオンライン教育、博士課程国際共同教育プログラム、超短期の学生交流プログラム等による連携強化を起点に他の大学への働きかけを強めパートナーシップの拡大につとめる。

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【3ページ以内】**関西大学**

現状（2023年5月1日現在）※1 97 人

(i) 日本人学生数の達成目標

単位：人（延べ人数）

事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）	6,359
中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）	940

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
実際に渡航する学生	10	68	69	75	75	297
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	47	601	1,155	1,441	1,837	5,081
実渡航とオンライン受講を行う学生	6	208	241	262	264	981
合計人数	63	877	1,465	1,778	2,176	6,359

(a) 実渡航による交流

2023年度は既存の学生交換協定を活用した渡航や、2018年度から実施している COIL Plus プログラム、短期研修プログラムの実施、研究ラボに渡航して参加するインターンシップ型活動などが想定されている。新規海外相手大学との関係性の構築が進むにつれ、短期型研修の派遣先や、6-12か月（1学期から2学期間）の中長期間で関西大学から留学する学生層が増える想定である。一方で、本事業において推奨したいのは、blended mobility であり、渡航をする際にもオンライン型学習を事前や事後に行うことで、学修の進化・深化を図る。そのため、渡航のみの学生数は一定数の増加を図るもの、徐々に BM 型プログラムへ移行するため、(c) の参加者数を増加させていく。

(b) オンラインによる交流

自国（日本人学生の場合は日本）でオンラインで本事業が提供するプログラムを参加する場合、(i) COIL/VE 型実践科目に参加する層と、JV-campus 上で提供するコース群（アトリエ MCP 等）、(ii) JV-campus のオンライン教育コンテンツを活用した科目を履修する層、そして学生主体で行う非伝統的な活動に参加する（JIGE の共通活動では①ASEF の Youth Leader プログラム、Global BOLD プログラム等の活動のオンラインによる交流活動）層がふくまれる。JV-campus のコンテンツが拡充し、評価設計などが充実するにつれ、学内において活用範囲が広がるため、オンライン受講数は各段に増加すると見込んでいる。オンライン受講をする者が、長期的に渡航型の交流活動への関心が高まる可能性は十分に期待できる。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

本カテゴリには、BM プログラムとして柔軟なオンライン教育の受講と渡航タイプを融合させて参加する学生層と、関西大学が従来進めている COIL Plus プログラム（オンライン受講部分と、渡航部分がパッケージになっており、COIL 型活動の直後に派遣プログラムを伴い、また帰国後にもオンライン受講に参加するなどで学びを継続させるカリキュラムとなったもの）への参加の双方がカウントされる。従来の COIL Plus プログラムも、厳密にいえば BM プログラムの 1 つのモデルである。BM プログラムの場合、参加学生自身がどのオンライン型国際教育実践で学び、どんな渡航留学をしたいのかを自身のニーズに合わせてカスタマイズできる点が、COIL Plus とは特徴が異なる点がある。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2023年5月1日現在の人数。

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【3ページ以内】**東北大学**

現状（2023年5月1日現在）※1	54	人
-------------------	----	---

(i) 日本人学生数の達成目標

単位：人（延べ人数）

事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）	3,275
中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）	775

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
実際に渡航する学生	53	115	117	122	125	532
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生	162	285	448	513	680	2,088
実渡航とオンライン受講を行う学生	70	90	135	165	195	655
合計人数	285	490	700	800	1,000	3,275

(a) 実渡航による交流

①大学院学位プログラム（国際共同大学院プログラムなどの国際共同教育プログラム）、②学期単位の留学プログラム、③2-4週間程度のショートプログラムのいずれについても実渡航による交流を実施する。実渡航学生数は年次進行で増やしていく。

(b) オンラインによる交流

コロナ禍において培った経験を踏まえ、2-4週間程度のショートプログラムを中心に一定数オンラインによる交流を実施する。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

コロナ禍において培った経験を踏まえ、①大学院学位プログラム（国際共同大学院プログラムなどの国際共同教育プログラム）、②学期単位の留学プログラム、③2-4週間程度のショートプログラム、④国際共修プログラムのいずれについても、実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流を実施する。オンラインでは、渡航前の事前研修も兼ねた語学研修や専門知識の学修といった渡航前教育を実施する。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2023年5月1日現在の人数。

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ：B）

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【3ページ以内】**千葉大学**

現状（2023年5月1日現在）※1	56	人
-------------------	----	---

(i) 日本人学生数の達成目標

単位：人（延べ人数）

事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）	2,905
中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）	860

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
実際に渡航する学生	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	265	560	615	665	690	2,795
実渡航とオンライン受講を行う学生	15	20	25	25	25	110
合計人数	280	580	640	690	715	2,905

(a) 実渡航による交流

COIL型授業においては、渡航をともなうとしても、実渡航とオンラインを組み合わせた形式が主たる形態となるため、実渡航のみの学生はいないものと考え、計上していない。

(b) オンラインによる交流

COIL型授業の通常の形態は、オンラインの形態が中心であり、これまでのCOIL-JUSUにおいてはコロナ禍であっても大規模に展開した実績を有することから、漸増していくものと考え、最も多い数を計上した。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

オンラインによる交流で優秀な成績をおさめた学生を選抜し、実渡航を伴うハイブリッド型の交流に導くことを基本とする。また、実渡航の事前学習・事後学習をCOILで行う場合も考慮して、予算規模を考慮の上、一定数を計上した。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2023年5月1日現在の人数。

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【3ページ以内】関西大学

現状（2023年5月1日現在）※1	1,320	人
-------------------	-------	---

(i) 外国人学生数の達成目標【関西大学】

単位：人（延べ人数）

事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）	3,925
中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）	527

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
実際に渡航する学生	0	19	22	38	38	117
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	68	392	739	1,126	1,246	3,571
実渡航とオンライン受講を行う学生	3	45	63	63	63	237
合計人数	71	456	824	1,227	1,347	3,925

(a) 実渡航による交流

関西大学では、短期プログラムにおいては英語で日本文化/ビジネス等を学ぶ Summer/Winter School、日本語で日本語・日本文化を学ぶ短期日本語研修プログラムがある。これらの短期プログラムは夏と冬に行う2週間～1か月のプログラムであり（過去5年以上の活動実績）、本事業においても積極的に連携大学の留学生の受入を行う。また1-2学期の中長期留学となる交換留学プログラム、日本・日本文化教育プログラム語学留学コース、さらに大学院研究室（ラボ）における受入においても本事業の連携大学からの留学生を積極的に受け入れる。また、3大学連携プログラムとしては、交流活動内容③のキャリア形成サポート活動において実渡航型のインターンシップ（OJT型、高度専門型、研究型）を行う。受入人数に関しては現在の連携大学の数を毎年増やし、5年後までに年間150名程度の受入を目指す。

(b) オンラインによる交流

関西大学では2020年度よりオンライン参加型科目として提供するプログラム「関西大学 協定/交流 オンライン学習（KU-EOL）」を開始しており、本事業においても連携大学にこの枠組みを利用し、日本人学生と海外学生の交流を促進する。また、本事業における3大学連携プログラムとして、交流活動内容①の「COIL/VE型学びのアトリエ」プロジェクトにてJV-Campusを活用し、日本人学生との国際共修活動を行う。また、交流活動内容③のキャリア形成サポート活動におけるリモート・インターンシップも、新規にJV-Campus上に開発するポータルを活用し実施する予定である。オンラインの交流人数としては、上記「COIL/VE型学びのアトリエ」プロジェクトのプログラムが中間評価の段階で充実する予定であり、それ以後に関しては飛躍的に参加人数が増えると見込んでいる。最終的な目標としては、年間1300名程度（のべ数）のオンラインによる参加を目標とする。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

関西大学では留学の前後にCOIL科目を受講し、COIL科目を受講する中で取り組んだ共修活動をさらに進化（深化）させるため、実際に現地へ赴き留学を体験し、日米双方の学生が共修相手と現地で対面し交流を深めるCOIL Plusプログラムがある。本事業においても本プログラムを活用し、ハイブリッド型の交流を促進していく。また、3大学連携プログラムとして、2023-2027年度の間に様式1の交流活動内容②にあるBMモデル・プログラムを実施し、交流活動を促進する。ハイブリッド型交流の目標数値としては、BMモデル・プログラムを充実させ、5年後には約200程度のBMを実現したいと考えている。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2023年5月1日現在の人数。

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ：B）

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【3ページ以内】東北大學

現状（2023年5月1日現在）※1	2,145	人
-------------------	-------	---

(i) 外国人学生数の達成目標

単位：人（延べ人数）

事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）	681
中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）	146

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
実際に渡航する学生	13	33	47	58	81	232
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	30	55	75	90	130	380
実渡航とオンライン受講を行う学生	3	12	15	18	21	69
合計人数	46	100	137	166	232	681

(a) 実渡航による交流

①学期単位の留学プログラム、②2-4週間程度のショートプログラム、③大学院学位プログラム（ダブルディグリーなどの国際共同教育プログラム）のいずれについても実渡航による交流を実施する。実渡航学生数は年次進行で増やしていく。

(b) オンラインによる交流

コロナ禍において培った経験を踏まえ、1-2週間程度のショートプログラムを中心に一定数オンラインによる交流を継続する。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

コロナ禍において培った経験を踏まえ、①学期単位の留学プログラム、②2～4週間程度のショートプログラム、③大学院学位プログラム（ダブルディグリーなどの国際共同教育プログラム）のいずれについても、実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流を実施する。オンラインでは、渡日前の事前研修も兼ねた語学研修や専門知識、日本文化の学修といった渡日前教育を実施する。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2023年5月1日現在の人数。

（大学名：関西大学、東北大學、千葉大学）（タイプ：B）

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【3ページ以内】**千葉大学**

現状（2023年5月1日現在）※1	972	人			
(i) 外国人学生数の達成目標					
単位：人（延べ人数）					
事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで）		2,905			
中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで）		860			
(上記の内訳)					
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）					
単位：人					
2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生	265	560	615	665	690
実渡航とオンライン受講を行う学生	15	20	25	25	25
合計人数	280	580	640	690	715
(a) 実渡航による交流					
COIL型授業においては、渡航をともなうとしても、実渡航とオンラインを組み合わせた形式が主たる形態となるため、実渡航のみの学生はいないものと考え、計上していない。					
(b) オンラインによる交流					
COIL型授業の通常の形態は、オンラインの形態が中心であり、これまでのCOIL-JUSUにおいてはコロナ禍であっても大規模に展開した実績を有することから、漸増していくものと考え、最も多い数を計上した。					
(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流					
オンラインによる交流で優秀な成績をおさめた学生を選抜し、実渡航を伴うハイブリッド型の交流に導くことを基本とする。また、実渡航の事前学習・事後学習をCOILで行う場合も考慮して、予算規模を考慮の上、一定数を計上した。					

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2023年5月1日現在の人数。

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

⑦ 交流学生数について（2023年度は事業開始以後の人数）

(単位：人)

(i) 本事業で計画している交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照）	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
628	397	1,917	1,106	2,795	1,591	3,268	2,083	3,891	2,294	12,499	7,471	
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	63	13	183	52	186	69	197	96	200	119	829	349
自国にて国際教養・受講する学生 (以下「オンライン」)	474	363	1,416	977	2,208	1,419	2,619	1,881	3,207	2,066	9,924	6,706
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	91	21	318	77	401	103	452	106	484	109	1,746	416

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	学生別	A	学部生	実 渡 航					
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		B	大学院生						
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流									
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流									
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流									
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流									
①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		④：上記以外の交流期間30日未満の交流		⑤：上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	

1. 【代表申請大学】

大学名	関西大学			採択実績												合計			
	交流プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態	2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			合計			
				実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ				
Global Mindest 酒成BMプログラム (コーネル大学)	派遣	①	A	0	20	0	0	73	10	0	119	10	0	151	10	0	188	10	591
Global Mindest 酒成BMプログラム (コーネル大学)	派遣	②	B	0	10	0	2	18	0	2	32	0	4	43	0	4	56	0	171
Global Mindest 酒成BMプログラム (コーネル大学)	受入	⑤	B	0	0	0	0	12	2	0	22	2	0	35	2	0	39	2	116
Global Mindest 酒成BMプログラム (コーネル大学)	受入	①	A	0	15	0	4	26	0	4	43	9	4	70	9	4	71	9	268
Global Mindest 酒成BMプログラム (デボール大学)	派遣	①	A	0	12	0	20	55	20	20	94	20	20	108	20	20	118	20	547
Global Mindest 酒成BMプログラム (デボール大学)	派遣	②	B	0	0	0	4	18	0	4	26	0	6	32	0	6	38	0	134
Global Mindest 酒成BMプログラム (デボール大学)	受入	①	A	0	15	0	1	26	0	2	51	0	10	72	0	10	80	0	267
Global Mindest 酒成BMプログラム (デボール大学)	受入	⑥	B	0	0	0	0	12	2	0	22	2	0	35	2	0	39	2	116
STEAM BMプログラム (ニューヨーク州立アッシュン工科大学)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
STEAM BMプログラム (ニューヨーク州立アッシュン工科大学)	派遣	①	A	0	5	0	0	32	10	0	56	10	0	76	10	0	93	10	302
STEAM BMプログラム (ニューヨーク州立アッシュン工科大学)	受入	①	A	0	0	0	1	26	5	1	43	9	1	56	9	1	60	9	221
異文化理解BMプログラム (フロリダ国際大学)	派遣	①	A	0	0	0	2	28	10	2	48	20	2	63	20	2	92	20	309
STEAM BMプログラム (フロリダ国際大学)	派遣	②	B	0	0	0	1	11	0	2	24	0	4	26	0	4	28	0	100
異文化理解BMプログラム (フロリダ国際大学)	受入	①	A	0	15	0	1	26	0	2	51	0	10	82	0	10	90	0	287
STEAM BMプログラム (フロリダ国際大学)	受入	⑤	B	0	0	0	0	12	2	0	22	2	0	35	2	0	39	2	116
STEAM BMプログラム (ハイウェイ大学カビオラニコミニティカレッジ)	派遣	①	A	0	0	0	2	28	10	2	48	20	2	63	20	2	92	20	309
SustainabilityBMプログラム (ハイウェイ大学カビオラニコミニティカレッジ)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
STEAM BMプログラム (ハイウェイ大学カビオラニコミニティカレッジ)	受入	⑥	B	0	0	0	0	12	2	0	22	2	0	35	2	0	39	2	116
STEAM BMプログラム (ノースカロライナ州立大学)	派遣	②	B	0	0	0	0	10	1	0	20	1	0	22	1	0	24	1	80
STEAM BMプログラム (ノースカロライナ州立大学)	受入	⑥	B	0	0	0	0	0	2	0	22	2	0	35	2	0	39	2	104
SustainabilityBMプログラム (北アリゾナ大学)	派遣	②	B	0	0	0	0	10	1	0	20	1	0	22	1	0	24	1	80
STEAM BMプログラム (北アリゾナ大学)	受入	⑥	A	0	0	3	0	0	3	0	22	4	0	35	4	0	39	4	114
SustainabilityBMプログラム (ポートランド州立大学)	派遣	①	A	0	0	0	2	28	10	2	48	20	2	63	20	2	92	20	309
Applied Global Certificate プログラム (ポートランド州立大学)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
異文化理解BMプログラム (ポートランド州立大学)	受入	⑥	A	0	0	0	0	12	2	0	13	2	0	21	2	0	23	2	77
Applied Global Certificate プログラム (オハイオ州立大学)	派遣	②	B	0	0	0	0	10	0	0	20	2	0	22	2	0	24	2	82
Applied Global Certificate プログラム (オハイオ州立大学)	受入	⑥	A	0	0	0	0	12	2	0	13	2	0	21	2	0	23	2	77
Applied Global Certificate プログラム (ノースカロライナ大学チャペルヒル校)	派遣	①	A	0	0	0	2	28	10	2	48	10	2	63	10	2	92	10	279
SustainabilityBMプログラム (ノースカロライナ大学チャペルヒル校)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
STEAM BMプログラム (ノースカロライナ大学チャペルヒル校)	受入	⑥	A	0	0	0	0	12	0	0	13	2	0	21	2	0	23	2	75
STEAM BMプログラム (ハイウェイ大学ヒロ校)	派遣	①	A	0	0	0	2	28	10	2	63	10	2	78	20	2	98	20	335
STEAM BMプログラム (ハイウェイ大学ヒロ校)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
SustainabilityBMプログラム (ハイウェイ大学ヒロ校)	受入	⑥	B	0	0	0	0	12	2	0	22	2	0	35	2	0	39	2	116
STEAM BMプログラム (ハイウェイ大学マノア校)	派遣	①	A	0	0	0	2	28	10	2	48	10	2	63	10	2	92	10	279
SustainabilityBMプログラム (ハイウェイ大学マノア校)	受入	⑥	A	0	0	0	0	24	2	0	40	4	0	60	4	0	76	4	214
異文化間コミュニケーションとビジネス (サンバウロ州立パリリスト大学)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
STEAM BMプログラム (サンバウロ州立パリリスト大学)	受入	⑥	A	0	0	0	1	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	11
STEAM BMプログラム (サンバウロ州立パリリスト大学)	受入	①	A	0	5	0	0	24	0	0	65	0	0	76	0	0	84	0	254

STEAM BMプログラム (ウェスタン大学)	派遣	①	A	0	0	0	2	28	15	2	63	15	2	78	15	2	98	15	335
STEAM BMプログラム (ウェスタン大学)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
STEAM BMプログラム (ウェスタン大学)	受入	②	A	0	0	0	1	12	2	1	13	2	1	21	2	1	23	2	81
異文化間コミュニケーションとビジネス (ケバンガサン大学)	派遣	①	A	0	0	0	0	28	15	0	63	15	0	78	15	0	98	15	327
異文化間コミュニケーションとビジネス (ケバンガサン大学)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
SustainabilityBMプログラム (ケバンガサン大学)	受入	⑥	A	0	0	0	1	12	2	1	13	2	1	35	2	1	39	2	111
異文化間コミュニケーションとビジネス (サン・ベドロカレッジ)	派遣	①	A	0	0	0	0	28	0	0	63	0	0	78	0	0	98	0	267
STEAM BMプログラム (サン・ベドロカレッジ)	受入	①	A	0	8	0	0	24	0	0	66	0	0	75	0	0	82	0	255
STEAM BMプログラム (サン・ベドロカレッジ)	受入	⑥	A	0	0	0	1	12	2	1	13	2	1	35	2	1	39	2	111
Well-Being & Resiliency BMプログラム (南洋ボリテック(NYP))	派遣	①	A	0	0	0	2	28	10	2	63	10	2	78	20	2	98	20	335
SustainabilityBMプログラム (南洋ボリテック(NYP))	受入	①	A	0	0	0	0	26	8	0	66	8	0	75	8	0	82	8	281
Well-Being & Resiliency BMプログラム (CEUカルデナル・エレーラ大学)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	7
Applied Global Certificate プログラム (CEUカルデナル・エレーラ大学)	派遣	①	A	0	0	0	0	28	15	0	63	15	0	78	15	0	98	15	327
Applied Global Certificate プログラム (CEUカルデナル・エレーラ大学)	受入	⑥	A	0	0	0	1	12	2	1	13	2	1	35	2	1	39	2	111
Applied Global Certificate プログラム (東吳大学)	派遣	①	A	0	0	0	5	28	20	5	63	20	5	78	20	5	98	20	367
Applied Global Certificate プログラム (東吳大学)	派遣	⑥	B	0	0	0	1	0	2	1	0	4	1	0	4	1	0	6	20
Applied Global Certificate プログラム (東吳大学)	受入	①	A	0	5	0	5	26	0	5	43	0	5	70	0	5	77	0	241
Applied Global Certificate プログラム (東吳大学)	受入	⑥	A	0	5	0	1	12	2	1	13	2	1	35	2	1	39	2	116
異文化間コミュニケーションとビジネス (バンヤビット経営大学)	派遣	①	A	10	0	6	10	28	20	10	63	20	10	78	20	10	98	20	403
SustainabilityBMプログラム (バンヤビット経営大学)	受入	②	A	0	0	0	1	8	0	1	13	0	1	21	0	1	23	0	69

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	5年間合計	
全学収容定員数※ (C)	28,025	28,025	28,025	28,025	28,025	140,125	28,025
対米国派遣人数合計 (D)	63	877	1,465	1,778	2,176	6,359	1,272
対米国派遣人数合計 (D) / 全学収容定員数※ (C)	0.22%	3.13%	5.23%	6.34%	7.76%	4.54%	4.0%
(参考) 対米国派遣人数 基準値	1,121	1,121	1,121	1,121	1,121	5,605	

※1：学則に定める大学全体の収容定員数のうち、日本人学生の数

※2：①米国に実渡航した日本人学生数（各プログラム参加数を延べ人数でカウント）、②オンラインで米国の学生等と交流した日本人学生数（1年間で複数のプログラムに参加した場合は1カウント）及び③実渡航とオンラインのハイブリッドで米国の学生等と交流した日本人学生数の計

2. 【国内連携大学等】

大学名	東北大			採択実績	あり																							
	交流 プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態		2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			合計								
					実	オ	ハ																					
短期海外派遣プログラム (カリフォルニア大学)	派遣	①	A	15				15	20		15	20		15	25		15	30		170								
交換留学プログラム (カリフォルニア大学)	派遣	③	A	10				10			10			10			10			50								
国際共修プログラム (カリフォルニア大学)	派遣	④	A			10			20			10			20			20		80								
国際共同教育プログラム (カリフォルニア大学)	派遣	④	B		5	5						8	10		10	10		30	10	88								
ショートプログラム (カリフォルニア大学)	受入	①	A				5		5	10		5	10		5	15		5	60									
中～長期受入れプログラム (カリフォルニア大学)	受入	③	A	6		2	5		5	10		5	10		5	10		7	65									
中～長期受入れプログラム (カリフォルニア大学)	受入	③	B											1		1			2									
国際共修プログラム (カリフォルニア大学)	受入	④	A		10			10			10			15			20		65									
短期海外派遣プログラム (ベンシルバニア州立大学)	派遣	①	A				20			20			20			35			95									
交換留学プログラム (ベンシルバニア州立大学)	派遣	③	A	2			2			2			2			2			10									
国際共修プログラム (ベンシルバニア州立大学)	派遣	④	A			10			10			10			20			35	20	145								
国際共同教育プログラム (ベンシルバニア州立大学)	派遣	④	B		5			10			10			2	10		2	10		49								
ショートプログラム (ベンシルバニア州立大学)	受入	①	A				3		1	3		1	3		1	3		1	16									
中～長期受入れプログラム (ベンシルバニア州立大学)	受入	③	A					1	1		1	1		1	1		1	2		7								
中～長期受入れプログラム (ベンシルバニア州立大学)	受入	③	B									1			1			1		2								
国際共修プログラム (ベンシルバニア州立大学)	受入	④	A		5			5			10			15			20			55								
国際共同教育プログラム (ベンシルバニア州立大学)	受入	③	B							1			1			1			3									
短期海外派遣プログラム (ノースカロライナ州立大学)	派遣	①	A			20	20		20	20		20	20		20	20		20	20	160								
交換留学プログラム (ノースカロライナ大学シャーロット校)	派遣	③	A	4			4			4			4			4			20									
国際共修プログラム (ノースカロライナ大学シャーロット校)	派遣	④	A			10		15	10		30	10		30	10		35	20	170									
国際共同教育プログラム (ノースカロライナ大学シャーロット校)	派遣	④	B				5												5									
ショートプログラム (ノースカロライナ大学シャーロット校)	受入	①	A										1			1			2									
中～長期受入れプログラム (ノースカロライナ大学シャーロット校)	受入	③	A	1			1			1		1	1		1	1		1	8									

中～長期受入れプログラム（ノースカロライナ大学シャーロット校）	受入	③	B								1		1		2
国際共修プログラム（ノースカロライナ大学シャーロット校）	受入	④	A		5		5		10		15		15		50
短期海外派遣プログラム（ペイラー大学）	派遣	①	A		10		15		25		30		40		120
交換留学プログラム（ペイラー大学）	派遣	③	A	1		1		1		1		1			5
国際共修プログラム（ペイラー大学）	派遣	④	A		10	20	10	25	15	30	20	40	20	190	
国際共同教育プログラム（ペイラー大学）	派遣	④	B											0	
ショートプログラム（ペイラー大学）	受入	①	A							1		2		3	
中～長期受入れプログラム（ペイラー大学）	受入	③	A	2		2		2	1	2		2	1	12	
中～長期受入れプログラム（ペイラー大学）	受入	③	B								1		1		
国際共修プログラム（ペイラー大学）	受入	④	A		5		5		10		10		15		45
短期海外派遣プログラム（ワシントン大学）	派遣	①	A	10		10		10	25	10	30	10	40		145
交換留学プログラム（ワシントン大学）	派遣	③	A	1		2		2		2		2		9	
国際共修プログラム（ワシントン大学）	派遣	④	A		10	10	10	25	15	25	20	40	20	175	
国際共同教育プログラム（ワシントン大学）	派遣	④	B		10		15	2	15	2	15	5	15		79
ショートプログラム（ワシントン大学）	受入	①	A			10		10		10		15		45	
中～長期受入れプログラム（ワシントン大学）	受入	③	A	1		1		1		1		1		7	
中～長期受入れプログラム（ワシントン大学）	受入	③	B							1		1		2	
国際共修プログラム（ワシントン大学）	受入	④	A		5		5		10		10		10		40
短期海外派遣プログラム（モンタナ大学）	派遣	①	A			20		20	15	20	30	20	40		165
交換留学プログラム（モンタナ大学）	派遣	③	A							1		1		2	
国際共修プログラム（モンタナ大学）	派遣	④	A		50	10	50	10	50	10	50	10	60	30	330
国際共同教育プログラム（モンタナ大学）	派遣	④	B											0	
ショートプログラム（モンタナ大学）	受入	①	A							1		2		3	
中～長期受入れプログラム（モンタナ大学）	受入	③	A			1		1		1		1		8	
中～長期受入れプログラム（モンタナ大学）	受入	③	B								1		1		
国際共修プログラム（モンタナ大学）	受入	④	A					5		5		5		10	25
短期海外派遣プログラム（オハイオ州立大学）	派遣	①	A		5		5		30		33		40		113
国際共修プログラム（オハイオ州立大学）	派遣	④	A		15		15								30
国際共同教育プログラム（オハイオ州立大学）	派遣	④	B												0
ショートプログラム（オハイオ州立大学）	受入	①	A								1		2		3
中～長期受入れプログラム（オハイオ州立大学）	受入	③	A			1		1		1		1		2	1
中～長期受入れプログラム（モンタナ大学）	受入	③	B									1		1	
国際共修プログラム（モンタナ大学）	受入	④	A				5		5		5		10		25
短期海外派遣プログラム（オハイオ州立大学）	派遣	①	A			5		5		30		33		40	
国際共修プログラム（オハイオ州立大学）	派遣	④	A		15		15								30
国際共同教育プログラム（オハイオ州立大学）	派遣	④	B												0
ショートプログラム（オハイオ州立大学）	受入	①	A						1		1		2		4
中～長期受入れプログラム（オハイオ州立大学）	受入	③	A							1		1		1	
中～長期受入れプログラム（オハイオ州立大学）	受入	③	B									1		1	
国際共修プログラム（オハイオ州立大学）	受入	④	A				5		5		5		10		25
短期海外派遣プログラム（テンブル大学）	派遣	①	A		5		10		25		25		30		95
交換留学プログラム（テンブル大学）	派遣	③	A							1		1		2	
国際共修プログラム（テンブル大学）	派遣	④	A	1	5	5	10	5	15	5	15	5	15	5	86
国際共同教育プログラム（テンブル大学）	派遣	④	B												0
ショートプログラム（テンブル大学）	受入	①	A			1		1		1		2		5	
中～長期受入れプログラム（テンブル大学）	受入	③	A					1		1		1		1	
中～長期受入れプログラム（テンブル大学）	受入	③	B								1		1		
国際共修プログラム（テンブル大学）	受入	④	A				5		5		5		10		25
短期海外派遣プログラム（ウォータールー大学）	派遣	①	A		15	20	15	20	20	20	25	20	30		185
交換留学プログラム（ウォータールー大学）	派遣	③	A			0		0		0		0		0	
国際共修プログラム（ウォータールー大学）	派遣	④	A		10		15		20	15	30	20	40	20	170
国際共同教育プログラム（ウォータールー大学）	派遣	④	B							1		1		2	
ショートプログラム（ウォータールー大学）	受入	①	A			1		1		2		3		7	
中～長期受入れプログラム（ウォータールー大学）	受入	③	A	3	1	1		1		2		1		11	
中～長期受入れプログラム（ウォータールー大学）	受入	③	B									1		1	
国際共修プログラム（ウォータールー大学）	受入	④	A				5		5		5		10		25
短期海外派遣プログラム（マラヤ大学）	派遣	①	A	8	12	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
交換留学プログラム（マラヤ大学）	派遣	③	A	1		1		1		1		1		5	
国際共修プログラム（マラヤ大学）	派遣	④	A			5		5		5		5		5	
国際共同教育プログラム（マラヤ大学）	派遣	④	B		15									15	
ショートプログラム（マラヤ大学）	受入	①	A					1		2		2		5	
中～長期受入れプログラム（マラヤ大学）	受入	③	A			2		1		1		1		7	
中～長期受入れプログラム（マラヤ大学）	受入	③	B								1		1		
国際共修プログラム（マラヤ大学）	受入	④	A			5		5		5		5		25	

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	5年間合計	
全学収容定員数※(C)	16,336	16,336	16,336	16,336	16,336	81,680	16,336
対米国派遣人数合計(D)	285	490	700	800	1,000	3,275	655
対米国派遣人数合計(D)／全学収容定員数※(C)	1.74%	3.00%	4.29%	4.90%	6.12%	4.01%	4.0%
(参考) 対米国派遣人数基準値	653	653	653	653	653	3,267	

※1：学則に定める大学全体の収容定員数のうち、日本人学生の数

※2：①米国に実渡航した日本人学生数（各プログラム参加数を延べ人数でカウント）、②オンラインで米国の学生等と交流した日本人学生数（1年間で複数のプログラムに参加した場合は1カウント）及び③実渡航とオンラインのハイブリッドで米国の学生等と交流した日本人学生数の計

大学名	千葉大学			採択実績			あり												
				2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			合計
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ				
アラバマ大学、シンシナティ大学、ニュースクール大学、ストーンーブルック大学、レジーナ大学	派遣	①	A		185	10		390	15		420	20		455	20		470	20	2,005
Professional Studies at the National Museum of Japanese History	受入	①	A		185	10		390	15		420	20		455	20		470	20	2,005
アラバマ大学、シンシナティ大学、ニュースクール大学、ストーンーブルック大学、レジーナ大学	派遣	①	B		80	5		170	5		195	5		210	5		220	5	900
Professional Studies at the National Museum of Japanese History	受入	①	B		80	5		170	5		195	5		210	5		220	5	900

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	5年間合計	
全学収容定員数※(C)	12,825	12,896	12,932	12,955	12,938	64,546	12,909
対米国派遣人数合計(D)	280	580	640	690	715	2,905	581
対米国派遣人数合計(D)／全学収容定員数※(C)	2.18%	4.50%	4.95%	5.33%	5.53%	4.50%	4.5%
(参考) 対米国派遣人数基準値	577	580	582	583	582	2,905	

※1：学則に定める大学全体の収容定員数のうち、日本人学生の数

※2：①米国に実渡航した日本人学生数（各プログラム参加数を延べ人数でカウント）、②オンラインで米国の学生等と交流した日本人学生数（1年間で複数のプログラムに参加した場合は1カウント）及び③実渡航とオンラインのハイブリッドで米国の学生等と交流した日本人学生数の計

(大学名： 関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ： B))

(iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
年度別合計人数	学生別	628	1,917	2,795	3,268	3,891	12,499
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		413	1,530	2,224	2,603	3,064	9,834
実渡航	A	43	146	146	146	146	627
実渡航	B	0	0	0	0	0	0
オンライン	A	268	1,001	1,635	1,974	2,427	7,305
オンライン	B	81	168	193	213	221	876
ハイブリッド	A	16	210	245	265	265	1,001
ハイブリッド	B	5	5	5	5	5	25
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		10	86	154	185	212	647
実渡航	B	0	7	8	14	14	43
オンライン	B	10	77	142	167	194	590
ハイブリッド	B	0	2	4	4	4	14
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		19	20	20	22	22	103
実渡航	A	19	20	20	22	22	103
オンライン	A	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	A	0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		186	260	375	435	568	1,824
実渡航	A	1	0	0	0	0	1
実渡航	B	0	0	2	5	8	15
オンライン	A	80	140	180	205	270	875
オンライン	B	35	30	58	60	95	278
ハイブリッド	A	65	80	110	135	165	555
ハイブリッド	B	5	10	25	30	30	100
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	21	22	23	25	91
実渡航	A	0	9	9	9	9	36
実渡航	B	0	1	1	1	1	
オンライン	A	0	0	0	0	0	0
オンライン	B	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	A	0	9	8	9	9	35
ハイブリッド	B	0	2	4	4	6	16

(大学名： 関西大学、東北大大学、千葉大学)

(タイプ： B)))

【外国人学生の受入】		2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
年度別合計人数	学生別	397	1,106	1,591	2,082	2,294	7,470
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		343	831	1,175	1,423	1,530	5,302
実渡航	A	0	32	41	62	77	212
実渡航	B	0	0	0	0	0	0
オンライン	A	247	590	880	1,088	1,171	3,976
オンライン	B	81	168	193	212	221	875
ハイブリッド	A	10	36	56	56	56	214
ハイブリッド	B	5	5	5	5	5	25
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	24	30	46	50	150
実渡航	A	0	2	2	2	2	8
オンライン	A	0	20	26	42	46	134
ハイブリッド	A	0	2	2	2	2	8
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		16	19	29	38	49	151
実渡航	A	13	13	19	21	23	89
実渡航	B	0	0	1	5	11	17
オンライン	A	0	0	0	0	0	0
オンライン	B	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	A	3	6	9	12	15	45
ハイブリッド	B	0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		30	55	75	90	130	380
実渡航	A	0	0	0	0	0	0
オンライン	A	30	55	75	90	130	380
ハイブリッド	A	0	0	0	0	0	0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	28	48	74	82	232
実渡航		0	0	0	0	0	0
オンライン		0	24	44	70	78	216
ハイブリッド		0	4	4	4	4	16
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		8	149	234	411	453	1,255
実渡航	A	0	5	6	6	6	23
実渡航	B	0	0	0	0	0	0
オンライン	A	5	84	113	238	264	704
オンライン	B	0	36	88	140	156	420
ハイブリッド	A	3	16	19	19	19	76
ハイブリッド	B	0	8	8	8	8	32

(大学名: 関西大学、東北大宇、千葉大学) (タイプ: B))

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣【計画】

年度	交流期間	派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学 生数	(内訳)		
									実渡航	オンライン	ハイブ リッド
2023	2024.1~2024.2	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	20	0	20	0
2023	2024.1~2024.2	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	10	0	10	0
2023	2024.1~2024.2	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	12	0	12	0
2023	2024.1~2024.2	関西大学	ニューヨーク州立ファッ ショント科大学	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	5	0	5	0
2023	2024.1~2024.2	関西大学	バンヤビット経営大学	タイ	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	16	10	0	6
2024	2024.7~2024.9	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	83	0	73	10
2024	2025.1~2025.2	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	20	2	18	0
2024	2024.7~2024.9	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	95	20	55	20
2024	2024.7~2024.9	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	22	4	18	0
2024	2024.4~2024.9	関西大学	ニューヨーク州立ファッ ショント科大学	米国	STEAM BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2024.7~2024.9	関西大学	ニューヨーク州立ファッ ショント科大学	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	42	0	32	10
2024	2024.7~2024.9	関西大学	フローラ国際大学	米国	異文化理解BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	40	2	28	10
2024	2025.1~2025.2	関西大学	フローラ国際大学	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	12	1	11	0
2024	2024.7~2024.9	関西大学	ハワイ大学カハラニコ ミュニティカレッジ	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	40	2	28	10
2024	2024.4~2024.9	関西大学	ハワイ大学カハラニコ ミュニティカレッジ	米国	SustainabilityBMプログラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2025.1~2025.2	関西大学	ノースカロライナ州立大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	11	0	10	1
2024	2025.1~2025.2	関西大学	北アリゾナ大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	11	0	10	1
2024	2024.7~2024.9	関西大学	ポートランド州立大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	40	2	28	10
2024	2024.9~2025.3	関西大学	ポートランド州立大学	米国	Applied Global Certificate プロ グラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2025.1~2025.2	関西大学	オハイオ州立大学	米国	Applied Global Certificate プロ グラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	10	0	10	0
2024	2024.7~2024.9	関西大学	ノースカロライナ大学チャ ペルヒル校	米国	Applied Global Certificate プロ グラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	40	2	28	10
2024	2024.9~2025.3	関西大学	ノースカロライナ大学チャ ペルヒル校	米国	SustainabilityBMプログラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2024.7~2024.9	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	40	2	28	10
2024	2024.9~2025.3	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2024.7~2024.9	関西大学	ハワイ大学マノア校	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	40	2	28	10
2024	2024.9~2024.9	関西大学	サンパウロ州立パウリスタ 大学	ブラジル	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2024.7~2024.9	関西大学	ウェスタン大学	カナダ	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	45	2	28	15
2024	2025.3~2025.3	関西大学	ウェスタン大学	カナダ	STEAM BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2024.7~2024.9	関西大学	ケバングサン大学	マレーシア	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	43	0	28	15
2024	2024.4~2024.9	関西大学	ケバングサン大学	マレーシア	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2024.7~2024.9	関西大学	サン・ベトロ・カレッ ジ	フィリピン	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	28	0	28	0
2024	2024.7~2024.9	関西大学	南洋ボリテクニック	シンガポール	Well-Being & Resiliency BMプロ グラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	40	2	28	10
2024	2024.9~2025.3	関西大学	CEUカルデナル・エレーラ 大学	スペイン	Well-Being & Resiliency BMプロ グラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2024.7~2024.9	関西大学	CEUカルデナル・エレーラ 大学	スペイン	Applied Global Certificate プロ グラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	43	0	28	15
2024	2024.7~2024.9	関西大学	東京大学	台湾	Applied Global Certificate プロ グラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	53	5	28	20
2024	2024.4~2024.9	関西大学	東京大学	台湾	Applied Global Certificate プロ グラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	B	3	1	0	2
2024	2025.1~2025.2	関西大学	バンヤビット経営大学	タイ	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	58	10	28	20
2025	2025.7~2025.9	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	34	2	32	0
2025	2025.7~2025.9	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	134	20	94	20
2025	2025.7~2025.9	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酒成BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	B	30	4	26	0
2025	2025.4~2025.9	関西大学	ニューヨーク州立ファッ ショント科大学	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	66	0	56	10
2025	2025.7~2025.9	関西大学	ニューヨーク州立ファッ ショント科大学	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	70	2	48	20
2025	2026.1~2026.2	関西大学	フローラ国際大学	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	26	2	24	0
2025	2025.7~2025.9	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	70	2	48	20
2025	2025.4~2025.9	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	SustainabilityBMプログラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2025	2026.1~2026.2	関西大学	ノースカロライナ州立大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	21	0	20	1
2025	2026.1~2026.2	関西大学	北アリゾナ大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	21	0	20	1
2025	2025.7~2025.9	関西大学	ポートランド州立大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	70	2	48	20
2025	2025.9~2026.3	関西大学	ポートランド州立大学	米国	Applied Global Certificate プロ グラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2025	2026.1~2026.2	関西大学	オハイオ州立大学	米国	Applied Global Certificate プロ グラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	B	22	0	20	2
2025	2026.1~2026.2	関西大学	ノースカロライナ大学チャ ペルヒル校	米国	Applied Global Certificate プロ グラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	60	2	48	10
2025	2025.9~2026.3	関西大学	ノースカロライナ大学チャ ペルヒル校	米国	SustainabilityBMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	2	1	0	1
2025	2026.1~2026.2	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	75	2	63	10
2025	2025.9~2026.3	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	2	1	0	1
2025	2025.7~2025.9	関西大学	ハワイ大学マノア校	米国	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	60	2	48	10
2025	2025.4~2025.9	関西大学	サンパウロ州立パウリスタ 大学	ブラジル	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2025	2025.7~2025.9	関西大学	ウェスタン大学	カナダ	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	80	2	63	15
2025	2025.4~2025.9	関西大学	ウェスタン大学	カナダ	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	2	1	0	1
2025	2025.7~2025.9	関西大学	ケバングサン大学	マレーシア	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	78	0	63	15
2025	2025.4~2025.9	関西大学	ケバングサン大学	マレーシア	異文化間コミュニケーションとビ ジネス	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2025	2025.7~2025.9	関西大学	サン・ベトロ・カレッジ	フィリピン	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	63	0	63	0
2025	2025.7~2025.9	関西大学	南洋ボリテクニック	シンガポール	Well-Being & Resiliency BMプロ グラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	75	2	63	10
2025	2025.9~2026.3	関西大学	CEUカルデナル・エレーラ 大学	スペイン	Well-Being & Resiliency BMプロ グラム	⑥:上記以外の交流期間 3ヶ月以上の交流	A	1	1	0	0
2025	2025.7~2025.9	関西大学	CEUカルデナル・エレーラ 大学	スペイン	Applied Global Certificate プロ グラム	①:単位取得を伴う交流期 間30日以上3ヶ月未満の交 流	A	78	0	63	15

2025	2025.7~	2025.9	関西大学	東吳大学	台湾	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	88	5	63	20
2025	2025.9~	2026.3	関西大学	東吳大学	台湾	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	B	5	1	0	4
2025	2025.7~	2025.9	関西大学	バンヤビット経営大学	タイ	異文化間コミュニケーションとビジネス	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	93	10	63	20
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酸成BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	161	0	151	10
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酸成BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	47	4	43	0
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酸成BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	148	20	108	20
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酸成BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	38	6	32	0
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	ニューヨーク州立ファッショニ工科大学	米国	STEAM BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	ニューヨーク州立ファッショニ工科大学	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	86	0	76	10
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	フロリダ国際大学	米国	異文化理解BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	85	2	63	20
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	フロリダ国際大学	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	30	4	26	0
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	ハワイ大学カイオラニコミニティカレッジ	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	85	2	63	20
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	ハワイ大学カイオラニコミニティカレッジ	米国	SustainabilityBMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	ノースカラロイナ州立大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	23	0	22	1
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	北アリゾナ大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	23	0	22	1
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	ポートランド州立大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	85	2	63	20
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	ポートランド州立大学	米国	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	オハイオ州立大学	米国	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	24	0	22	2
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	ノースカラロイナ大学チャーチルヒル校	米国	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	75	2	63	10
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	ノースカラロイナ大学チャーチルヒル校	米国	SustainabilityBMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	100	2	78	20
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	ハワイ大学マノア校	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	75	2	63	10
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	異文化間コミュニケーションとビジネス	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	ウェスタン大学	カナダ	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	95	2	78	15
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	ウェスタン大学	カナダ	STEAM BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	ケバングサン大学	マレーシア	異文化間コミュニケーションとビジネス	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	93	0	78	15
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	ケバングサン大学	マレーシア	異文化間コミュニケーションとビジネス	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	サン・ベドロ・カレッジ	フィリピン	異文化間コミュニケーションとビジネス	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	78	0	78	0
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	南洋ボリテクニック	シンガポール	Well-Being & Resiliency BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	100	2	78	20
2026	2026.9~	2027.3	関西大学	CEUカルデナル・エレーラ大学	スペイン	Well-Being & Resiliency BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	CEUカルデナル・エレーラ大学	スペイン	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	93	0	78	15
2026	2027.1~	2027.2	関西大学	東吳大学	台湾	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	103	5	78	20
2026	2026.4~	2026.9	関西大学	東吳大学	台湾	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	B	5	1	0	4
2026	2026.7~	2026.9	関西大学	バンヤビット経営大学	タイ	異文化間コミュニケーションとビジネス	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	108	10	78	20
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酸成BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	198	0	188	10
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	コーンELL大学	米国	Global Mindset 酸成BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	B	60	4	56	0
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酸成BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	158	20	118	20
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	デボール大学	米国	Global Mindset 酸成BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	44	6	38	0
2027	2027.4~	2027.9	関西大学	ニューヨーク州立ファッショニ工科大学	米国	STEAM BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	ニューヨーク州立ファッショニ工科大学	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	103	0	93	10
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	フロリダ国際大学	米国	異文化理解BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	114	2	92	20
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	フロリダ国際大学	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	32	4	28	0
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	ハワイ大学カイオラニコミニティカレッジ	米国	STEAM BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	114	2	92	20
2027	2027.4~	2027.9	関西大学	ハワイ大学カイオラニコミニティカレッジ	米国	SustainabilityBMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	2	1	0	1
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	ノースカラロイナ州立大学	米国	SustainabilityBMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	B	25	0	24	1
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	北アリゾナ大学	米国	SustainabilityBMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	25	0	24	1
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	ポートランド州立大学	米国	SustainabilityBMプログラム	⑥：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	114	2	92	20
2027	2027.9~	2028.3	関西大学	ポートランド州立大学	米国	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	2	1	0	1
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	ポートランド州立大学	米国	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	オハイオ州立大学	米国	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	26	0	24	2
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	ノースカラロイナ大学チャーチルヒル校	米国	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	104	2	92	10
2027	2027.9~	2028.3	関西大学	ノースカラロイナ大学チャーチルヒル校	米国	SustainabilityBMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	120	2	98	20
2027	2027.4~	2027.9	関西大学	ハワイ大学ヒロ校	米国	STEAM BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	ハワイ大学マノア校	米国	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	104	2	92	10
2027	2027.4~	2027.9	関西大学	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	異文化間コミュニケーションとビジネス	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	ウェスタン大学	カナダ	STEAM BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	115	2	98	15
2027	2027.9~	2028.3	関西大学	ウェスタン大学	カナダ	STEAM BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2027	2028.1~	2028.2	関西大学	ケバングサン大学	マレーシア	異文化間コミュニケーションとビジネス	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	113	0	98	15
2027	2027.4~	2027.9	関西大学	ケバングサン大学	マレーシア	異文化間コミュニケーションとビジネス	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	サン・ベドロ・カレッジ	フィリピン	異文化間コミュニケーションとビジネス	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	98	0	98	0
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	南洋ボリテクニック	シンガポール	Well-Being & Resiliency BMプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	120	2	98	20
2027	2027.9~	2028.3	関西大学	CEUカルデナル・エレーラ大学	スペイン	Well-Being & Resiliency BMプログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	A	2	1	0	1
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	CEUカルデナル・エレーラ大学	スペイン	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	113	0	98	15
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	東吳大学	台湾	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	123	5	98	20
2027	2027.4~	2027.9	関西大学	東吳大学	台湾	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上での交流	B	7	1	0	6
2027	2027.7~	2027.9	関西大学	バンヤビット経営大学	タイ	異文化間コミュニケーションとビジネス	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	128	10	98	20
2023	2024.2~	2024.3	東北大	カリフォルニア大学	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	15		
2023	2023.1~	2024.12	東北大	カリフォルニア大学	米国	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上での交流	A	10	10		
2023	2023.1~	2024.2	東北大	カリフォルニア大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	10			10
2023	2023.1~	2024.3	東北大	カリフォルニア大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		5	5

2026	2026.1~	2027.2	東北大	テンプル大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	20	15	5
2026	2026.1~	2027.3	東北大	テンプル大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	0		
2026	2027.2~	2027.3	東北大	ウォータールー大学	カナダ	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	45	20	25
2026	2026.1~	2027.12	東北大	ウォータールー大学	カナダ	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	0	0	
2026	2026.1~	2027.2	東北大	ウォータールー大学	カナダ	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	50	30	20
2026	2026.1~	2027.3	東北大	ウォータールー大学	カナダ	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	1	1	
2026	2027.2~	2027.3	東北大	マラヤ大学	マレーシア	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	20	10	10
2026	2026.1~	2027.12	東北大	マラヤ大学	マレーシア	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	1	1	
2026	2026.1~	2027.2	東北大	マラヤ大学	マレーシア	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	15	5	10
2026	2026.1~	2027.3	東北大	マラヤ大学	マレーシア	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	0		
2027	2028.2~	2028.3	東北大	カリフォルニア大学	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	45	15	30
2027	2027.1~	2028.12	東北大	カリフォルニア大学	米国	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	10	10	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	カリフォルニア大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	20		20
2027	2027.1~	2028.3	東北大	カリフォルニア大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	40	30	10
2027	2028.2~	2028.3	東北大	ベンシルバニア州立大学	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	35		35
2027	2027.1~	2028.12	東北大	ベンシルバニア州立大学	米国	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	2	2	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	ベンシルバニア州立大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	55	35	20
2027	2027.1~	2028.3	東北大	ベンシルバニア州立大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	12	2	10
2027	2028.2~	2028.3	東北大	ノースカラローナ大学 シャーロット校	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	40	20	20
2027	2027.1~	2028.12	東北大	ノースカラローナ大学 シャーロット校	米国	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	4	4	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	ノースカラローナ大学 シャーロット校	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	55	35	20
2027	2027.1~	2028.3	東北大	ノースカラローナ大学 シャーロット校	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	0		
2027	2028.2~	2028.3	東北大	ベイラー大学	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	40		40
2027	2027.1~	2028.12	東北大	ベイラー大学	米国	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	1	1	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	ベイラー大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	60	40	20
2027	2027.1~	2028.3	東北大	ベイラー大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	0		
2027	2028.2~	2028.3	東北大	ワシントン大学	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	50	10	40
2027	2027.1~	2028.12	東北大	ワシントン大学	米国	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	2	2	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	ワシントン大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	60	40	20
2027	2027.1~	2028.3	東北大	ワシントン大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	20	5	15
2027	2028.2~	2028.3	東北大	モンタナ大学	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	60	20	40
2027	2027.1~	2028.12	東北大	モンタナ大学	米国	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	1	1	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	モンタナ大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	90	60	30
2027	2027.1~	2028.3	東北大	モンタナ大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	0		
2027	2028.2~	2028.3	東北大	オハイオ州立大学	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	40		40
2027	2027.1~	2028.2	東北大	オハイオ州立大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	0		
2027	2027.1~	2028.3	東北大	オハイオ州立大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	60	40	20
2027	2028.2~	2028.3	東北大	テンプル大学	米国	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	30		30
2027	2027.1~	2028.12	東北大	テンプル大学	米国	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	1	1	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	テンプル大学	米国	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	20	15	5
2027	2027.1~	2028.3	東北大	テンプル大学	米国	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	0		
2027	2028.2~	2028.3	東北大	ウォータールー大学	カナダ	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	50	20	30
2027	2027.1~	2028.12	東北大	ウォータールー大学	カナダ	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	0	0	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	ウォータールー大学	カナダ	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	60	40	20
2027	2027.1~	2028.3	東北大	ウォータールー大学	カナダ	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	1	1	
2027	2028.2~	2028.3	東北大	マラヤ大学	マレーシア	短期海外派遣プログラム	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	20	10	10
2027	2027.1~	2028.12	東北大	マラヤ大学	マレーシア	交換留学プログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上上の交流	A	1	1	
2027	2027.1~	2028.2	東北大	マラヤ大学	マレーシア	国際共修プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	A	15	5	10
2027	2027.1~	2028.3	東北大	マラヤ大学	マレーシア	国際共同教育プログラム	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	B	0		
2023	2024.2~	2024.3	千葉大	アラバマ大学	米国	日米の社会科教育	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	53	0	50
2023	2024.2~	2024.3	千葉大	アラバマ大学	米国	日米の美術教育	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	53	0	50
2023	2024.2~	2024.3	千葉大	シンシナティ大学	米国	日本の芸能と文化	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	52	0	50
2023	2024.2~	2024.3	千葉大	ニュースクール	米国	Data Visualization	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	37	0	35
2024	2024.8~	2024.9	千葉大	アラバマ大学	米国	グローバルイシュー	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40
2024	2024.8~	2024.9	千葉大	シンシナティ大学	米国	実践デザイン演習	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40
2024	2024.8~	2024.9	千葉大	アラバマ大学	米国	日本のポピュラーカルチャー	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40
2024	2025.2~	2025.3	千葉大	アラバマ大学	米国	Global Health and Nursing	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40
2024	2025.2~	2025.3	千葉大	アラバマ大学	米国	日米の社会科教育	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	41	0	40
2024	2025.2~	2025.3	千葉大	シンシナティ大学	米国	薬学とコスメティックサイエンス	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	41	0	40
2024	2025.2~	2025.3	千葉大	レジャイナ大学	カナダ	環境開発と生物多様性	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	31	0	30
2024	2025.2~	2025.3	千葉大	アラバマ大学	米国	日米の社会科教育	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	31	0	30
2024	2025.2~	2025.3	千葉大	アラバマ大学	米国	日米の美術教育	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	31	0	30
2024	2025.2~	2025.3	千葉大	ニュースクール	米国	Data Visualization	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	31	0	30
2024	2025.2~	2025.3	千葉大	シンシナティ大学	米国	日本の芸能と文化	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	31	0	30
2025	2025.8~	2025.9	千葉大	アラバマ大学	米国	グローバルイシュー	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40
2025	2025.8~	2025.9	千葉大	シンシナティ大学	米国	実践デザイン演習	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40
2025	2025.8~	2025.9	千葉大	アラバマ大学	米国	日本のポピュラーカルチャー	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	37	0	35
2025	2025.8~	2025.9	千葉大	レジャイナ大学	カナダ	日加の先住民と共生	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	32	0	30
2025	2026.2~	2026.3	千葉大	アラバマ大学	米国	Global Health and Nursing	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	37	0	35
2025	2026.2~	2026.3	千葉大	アラバマ大学	米国	日米の社会科教育	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	37	0	35
2025	2026.2~	2026.3	千葉大	シンシナティ大学	米国	薬学とコスメティックサイエンス	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	37	0	35

2025	2026.2~	2026.3	千葉大学	レジャイナ大学	カナダ	環境開学と生物多様性	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	37	0	35	2
2025	2026.2~	2026.3	千葉大学	アラバマ大学	米国	日米の社会科教育	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	36	0	35	1
2025	2026.2~	2026.3	千葉大学	アラバマ大学	米国	日米の美術教育	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	36	0	35	1
2025	2026.2~	2026.3	千葉大学	シンシナティ大学	米国	日本の芸能と文化	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	36	0	35	1
2025	2026.2~	2026.3	千葉大学	ニュースクール	米国	Data Visualization	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	31	0	30	1
2026	2026.8~	2026.9	千葉大学	アラバマ大学	米国	グローバルイシュー	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40	2
2026	2026.8~	2026.9	千葉大学	シンシナティ大学	米国	実践デザイン演習	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40	2
2026	2026.8~	2026.9	千葉大学	アラバマ大学	米国	日本のポピュラーカルチャー	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40	2
2026	2026.8~	2026.9	千葉大学	レジャイナ大学	カナダ	日加の先住民と共生	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	37	0	35	2
2026	2027.2~	2027.3	千葉大学	アラバマ大学	米国	Global Health and Nursing	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40	2
2026	2027.2~	2027.3	千葉大学	アラバマ大学	米国	日米の社会科教育	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40	2
2026	2027.2~	2027.3	千葉大学	シンシナティ大学	米国	薬学とコスメティックサイエンス	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40	2
2026	2027.2~	2027.3	千葉大学	レジャイナ大学	カナダ	環境開学と生物多様性	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	42	0	40	2
2026	2027.2~	2027.3	千葉大学	アラバマ大学	米国	日米の社会科教育	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	36	0	35	1
2026	2027.2~	2027.3	千葉大学	アラバマ大学	米国	日米の美術教育	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	36	0	35	1
2026	2027.2~	2027.3	千葉大学	ニュースクール	米国	Data Visualization	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	36	0	35	1
2026	2027.2~	2027.3	千葉大学	シンシナティ大学	米国	日本の芸能と文化	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	36	0	35	1
2027	2027.8~	2027.9	千葉大学	レジャイナ大学	カナダ	日加の先住民と共生	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	63	0	60	3
2027	2027.8~	2027.9	千葉大学	アラバマ大学	米国	グローバルイシュー	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	63	0	60	3
2027	2027.8~	2027.9	千葉大学	シンシナティ大学	米国	実践デザイン演習	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	63	0	60	3
2027	2027.8~	2027.9	千葉大学	アラバマ大学	米国	日本のポピュラーカルチャー	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	63	0	60	3
2027	2028.2~	2028.3	千葉大学	アラバマ大学	米国	Global Health and Nursing	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	62	0	60	2
2027	2028.2~	2028.3	千葉大学	アラバマ大学	米国	日米の社会科教育	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	62	0	60	2
2027	2028.2~	2028.3	千葉大学	シンシナティ大学	米国	薬学とコスメティックサイエンス	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	62	0	60	2
2027	2028.2~	2028.3	千葉大学	レジャイナ大学	カナダ	環境開学と生物多様性	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	52	0	50	2

②外国人学生の受入【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学生数	(内訳)		
										実渡航	オンライン	ハイブリッド
2023	2024.1~	2024.2	コーネル大学	米国	関西大学	Global Mindset 酸成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	0	15	0
2023	2024.1~	2024.2	デポール大学	米国	関西大学	Global Mindset 酸成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	0	15	0
2023	2024.1~	2024.2	フロリダ国際大学	米国	関西大学	異文化理解BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	0	15	0
2023	2023.9~	2024.3	北アリゾナ大学	米国	関西大学	STEAM BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	3	0	0	3
2023	2024.1~	2024.2	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	関西大学	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	5	0	5	0
2023	2024.1~	2024.2	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	SustainabilityBMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	8	0	8	0
2023	2023.9~	2024.3	東吳大学	台湾	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	5	0	5	0
2023	2023.9~	2024.3	東吳大学	台湾	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	5	0	5	0
2024	2024.7~	2024.9	コーネル大学	米国	関西大学	STEAM BMプログラム	⑤:上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	14	0	12	2
2024	2024.7~	2024.9	コーネル大学	米国	関西大学	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	30	4	26	0
2024	2024.7~	2024.9	デボール大学	米国	関西大学	STEAM BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	27	1	26	0
2024	2024.9~	2025.3	デボール大学	米国	関西大学	STEAM BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	14	0	12	2
2024	2025.1~	2025.2	ニューヨーク州立ファッショントech工科大学	米国	関西大学	Well-Being&Resiliency BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	32	1	26	5
2024	2024.7~	2024.9	フロリダ国際大学	米国	関西大学	STEAM BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	27	1	26	0
2024	2024.7~	2024.9	フロリダ国際大学	米国	関西大学	Global Mindset 酸成BMプログラム	⑤:上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	14	0	12	2
2024	2025.9~	2026.3	カビオラニコミュニティカレッジ	米国	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	14	0	12	2
2024	2024.9~	2025.3	ノースカロライナ州立大学	米国	関西大学	STEAM BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	2	0	0	2
2024	2024.9~	2025.3	北アリゾナ大学	米国	関西大学	IGPプログラム	⑤:上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	3	0	0	3
2024	2024.4~	2024.9	ポートランド州立大学	米国	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	14	0	12	2
2024	2024.9~	2025.3	オハイオ州立大学	米国	関西大学	SustainabilityBMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	14	0	12	2
2024	2024.4~	2024.9	ノースカロライナ大学チャーチ	米国	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	12	0	12	0
2024	2024.4~	2024.9	ベルヒル校	米国	関西大学	Well-Being&Resiliency BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	14	0	12	2
2024	2024.4~	2024.9	ハワイ大学ヒロ校	米国	関西大学	Well-Being&Resiliency BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	26	0	24	2
2024	2024.4~	2024.9	ハワイ大学マノア校	米国	関西大学	アトリエMCP BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	2	1	0	1
2024	2024.4~	2024.9	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	関西大学	アトリエMCP BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	24	0	24	0
2024	2025.1~	2025.2	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	関西大学	アトリエMCP BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	15	1	12	2
2024	2024.4~	2024.9	ウェスタン大学	カナダ	関西大学	アトリエMCP BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	15	1	12	2
2024	2024.4~	2024.9	ケバングサン大学	マレーシア	関西大学	Well-Being&Resiliency BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	15	1	12	2
2024	2025.1~	2025.2	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	アトリエMCP BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	24	0	24	0
2024	2024.4~	2024.9	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	アトリエMCP BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	15	1	12	2
2024	2025.1~	2025.2	南洋ボリテクニック	シンガポール	関西大学	アトリエMCP BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	34	0	26	8
2024	2024.4~	2024.9	CEUカルデナル・エレーラ大学	スペイン	関西大学	Well-Being&Resiliency BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	15	1	12	2
2024	2024.7~	2024.9	東吳大学	台湾	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	31	5	26	0
2024	2024.4~	2024.9	東吳大学	台湾	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	15	1	12	2
2024	2025.1~	2025.2	バンヤビワット経営大学	タイ	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	9	1	8	0
2025	2025.7~	2025.9	コーネル大学	米国	関西大学	GX BM プログラム	⑤:上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	24	0	22	2
2025	2025.7~	2025.9	コーネル大学	米国	関西大学	GX BM プログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	56	4	43	9
2025	2025.7~	2025.9	デボール大学	米国	関西大学	Global Mindset 酸成BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	53	2	51	0
2025	2025.4~	2025.9	デボール大学	米国	関西大学	Global Mindset 酸成BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	24	0	22	2
2025	2026.1~	2026.2	ニューヨーク州立ファッショントech工科大学	米国	関西大学	アトリエMCP BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	53	1	43	9
2025	2025.7~	2025.9	フロリダ国際大学	米国	関西大学	GX BM プログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	53	2	51	0
2025	2025.7~	2025.9	ハワイ大学カビオラニコミニティカレッジ	米国	関西大学	GX BM プログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	24	0	22	2
2025	2025.4~	2025.9	ノースカロライナ州立大学	米国	関西大学	GX BM プログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	24	0	22	2
2025	2025.7~	2025.9	北アリゾナ大学	米国	関西大学	GX BM プログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	24	0	22	2
2025	2025.4~	2025.9	ポートランド州立大学	米国	関西大学	GX BM プログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	15	0	13	2
2025	2025.9~	2026.3	オハイオ州立大学	米国	関西大学	GX BM プログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	15	0	13	2
2025	2025.4~	2025.9	ノースカロライナ大学チャーチ	米国	関西大学	デザイン思考BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	15	0	13	2
2025	2025.9~	2026.3	ハワイ大学ヒロ校	米国	関西大学	SustainabilityBMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	24	0	22	2
2025	2025.9~	2026.3	ハワイ大学マノア校	米国	関西大学	SustainabilityBMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	44	0	40	4
2025	2025.9~	2026.3	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	関西大学	GX BM プログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	3	2	0	1
2025	2026.1~	2026.2	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	関西大学	デザイン思考BMプログラム	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	65	0	65	0
2025	2026.1~	2026.2	ウェスタン大学	カナダ	関西大学	デザイン思考BMプログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	16	1	13	2
2025	2025.4~	2025.9	ケバングサン大学	マレーシア	関西大学	Business Entrepreneurship BM	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	16	1	13	2
2025	2025.7~	2025.9	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	66	0	66	0
2025	2025.9~	2026.3	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	GX BM プログラム	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	16	1	13	2
2025	2025.7~	2025.9	CEUカルデナル・エレーラ大学	スペイン	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	74	0	66	8
2025	2025.4~	2025.9	大学	スペイン	関西大学	Business Entrepreneurship BM	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	16	1	13	2
2025	2025.7~	2025.9	東吳大学	台湾	関西大学	Business Entrepreneurship BM	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	48	5	43	0
2025	2025.4~	2025.9	東吳大学	台湾	関西大学	Business Entrepreneurship BM	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	16	1	13	2
2025	2026.1~	2026.2	バンヤビワット経営大学	タイ	関西大学	Business Entrepreneurship BM	⑥:上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	14	1	13	0
2026	2026.7~	2026.9	コーネル大学	米国	関西大学	Business Entrepreneurship BM	⑤:上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	37	0	35	2
2026	2026.7~	2026.9	コーネル大学	米国	関西大学	Business Entrepreneurship BM	①:単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	83	4	70	9

2026	2026.7~	2026.9	デボール大学	米国	関西大学	STEAM BM プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	82	10	72	0
2026	2026.9~	2027.3	デボール大学	米国	関西大学	STEAM BM プログラム	⑤：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	37	0	35	2
2026	2027.1~	2027.2	ニューヨーク州立ファッショントech工科大学	米国	関西大学	アトリエMCP BM プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	66	1	56	9
2026	2027.1~	2027.2	フロリダ国際大学	米国	関西大学	アトリエMCP BM プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	92	10	82	0
2026	2026.7~	2026.9	フロリダ国際大学	米国	関西大学	STEAM BM プログラム	⑤：上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	37	0	35	2
2026	2026.9~	2027.3	ハワイ大学カオラニコミニティカレッジ	米国	関西大学	STEAM BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	37	0	35	2
2026	2026.9~	2027.3	ノースカロライナ州立大学	米国	関西大学	STEAM BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	37	0	35	2
2026	2026.4~	2026.9	北アリゾナ大学	米国	関西大学	Business Entrepreneurship BM	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	39	0	35	4
2026	2026.4~	2026.9	ポートランド州立大学	米国	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	④：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	23	0	21	2
2026	2026.4~	2026.9	オハイオ州立大学	米国	関西大学	異文化間コミュニケーションビジネス	④：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	23	0	21	2
2026	2026.9~	2027.3	ノースカロライナ大学チャペルヒル校	米国	関西大学	STEAM BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	23	0	21	2
2026	2026.4~	2026.9	ハワイ大学ヒロ校	米国	関西大学	Well-Being & Resiliency BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	37	0	35	2
2026	2026.4~	2026.9	ハワイ大学マノア校	米国	関西大学	Well-Being & Resiliency BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	64	0	60	4
2026	2026.4~	2026.9	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	関西大学	Well-Being & Resiliency BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	3	2	0	1
2026	2027.1~	2027.2	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	関西大学	Well-Being & Resiliency BM プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	76	0	76	0
2026	2026.7~	2026.9	ウェスタン大学	カナダ	関西大学	Japanese language training BM	④：上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	24	1	21	2
2026	2026.4~	2026.9	ケバングサン大学	マレーシア	関西大学	Well-Being & Resiliency BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	38	1	35	2
2026	2026.7~	2026.9	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	75	0	75	0
2026	2025.9~	2026.3	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	④：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	38	1	35	2
2026	2026.7~	2026.9	南洋ボリテクニックCEUカルデナル・エレーラ大学	シンガポール	関西大学	ASEAN Studies BM プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	83	0	75	8
2026	2026.4~	2026.9	スペイン大学	スペイン	関西大学	Global Mindset 酸成BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	38	1	35	2
2026	2026.7~	2026.9	東京大学	台湾	関西大学	Global Mindset 酸成BM プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	75	5	70	0
2026	2026.4~	2026.9	東京大学	台湾	関西大学	Global Mindset 酸成BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	38	1	35	2
2026	2026.7~	2026.9	バンヤビット経営大学	タイ	関西大学	Global Mindset 酸成BM プログラム	④：上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	22	1	21	0
2027	2027.7~	2027.9	コーネル大学	米国	関西大学	Japanese Business BM	⑤：上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	41	0	39	2
2027	2027.7~	2027.9	コーネル大学	米国	関西大学	Japanese Business BM	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	84	4	71	9
2027	2027.7~	2027.9	デボール大学	米国	関西大学	Japanese Business BM	⑤：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	90	10	80	0
2027	2027.9~	2028.3	デボール大学	米国	関西大学	Japanese Business BM	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	41	0	39	2
2027	2028.1~	2028.2	ニューヨーク州立ファッショントech工科大学	米国	関西大学	SDGs理解促進 BM	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	70	1	60	9
2027	2028.1~	2028.2	フロリダ国際大学	米国	関西大学	SDGs理解促進 BM	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	100	10	90	0
2027	2027.7~	2027.9	フロリダ国際大学	米国	関西大学	Japanese language training BM	⑤：上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	41	0	39	2
2027	2027.9~	2028.3	カビオラニコミュニティカレッジ	米国	関西大学	ASEAN Studies BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	41	0	39	2
2027	2027.9~	2028.3	ノースカロライナ州立大学	米国	関西大学	STEAM BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	B	41	0	39	2
2027	2027.4~	2027.9	北アリゾナ大学	米国	関西大学	Global Mindset 酸成BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	43	0	39	4
2027	2025.9~	2026.3	ポートランド州立大学	米国	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	25	0	23	2
2027	2027.9~	2028.3	オハイオ州立大学	米国	関西大学	ASEAN Studies BM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	25	0	23	2
2027	2025.9~	2026.3	ノースカロライナ大学チャペルヒル校	米国	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	25	0	23	2
2027	2027.9~	2028.3	ハワイ大学ヒロ校	米国	関西大学	SustainabilityBM プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	41	0	39	2
2027	2025.9~	2026.3	ハワイ大学マノア校	米国	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	80	0	76	4
2027	2027.9~	2028.3	サンパウロ州立パウリスタ大学	ブラジル	関西大学	SDGs理解促進 BM	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	3	2	0	1
2027	2027.7~	2027.9	大学	ブラジル	関西大学	Japanese language training BM	⑥：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	84	0	84	0
2027	2028.1~	2028.2	ウェスタン大学	カナダ	関西大学	SDGs理解促進 BM	⑥：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	26	1	23	2
2027	2025.9~	2026.3	ケバングサン大学	マレーシア	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	42	1	39	2
2027	2028.1~	2028.2	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	SDGs理解促進 BM	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	82	0	82	0
2027	2027.9~	2028.3	サン・ベドロカレッジ	フィリピン	関西大学	SDGs理解促進 BM	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	42	1	39	2
2027	2027.7~	2027.9	南洋ボリテクニックシンガポール大学	シンガポール	関西大学	GX BM プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	90	0	82	8
2027	2025.9~	2026.3	CEUカルデナル・エレーラ大学	スペイン	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	42	1	39	2
2027	2027.7~	2027.9	東京大学	台湾	関西大学	Applied Global Certificate プログラム	⑥：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	82	5	77	0
2027	2027.9~	2028.3	東京大学	台湾	関西大学	Japanese language training BM	⑥：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	42	1	39	2
2027	2027.7~	2027.9	バンヤビット経営大学	タイ	関西大学	Japanese language training BM	⑥：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	24	1	23	0
2023	2024.2~	2024.3	カリフォルニア大学	米国	東北大学	ショートプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	0			
2023	2023.1	2024.3	カリフォルニア大学	米国	東北大学	中～長期受入れプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	8	6		2
2023	2023.1	2024.3	カリフォルニア大学	米国	東北大学	国際共修プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	10		10	
2023	2023.1	2024.3	ベンシルバニア州立大学	米国	東北大学	国際共修プログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	5		5	
2023	2023.1	2024.3	ノースカロライナ大学シャーロット校	米国	東北大学	中～長期受入れプログラム	④：上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	A	1	1		
2023	2023.1	2024.3	ノースカロライナ大学シャーロット校	米国	東北大学	国際共修プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	5		5	
2023	2023.1	2024.3	ペイラー	米国	東北大学	中～長期受入れプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2	2		
2023	2023.1	2024.3	ペイラー	米国	東北大学	国際共修プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	5		5	
2023	2023.1	2024.3	ワシントン大学	米国	東北大学	中～長期受入れプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	1	1		
2023	2023.1	2024.3	ワシントン大学	米国	東北大学	国際共修プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	5		5	
2023	2023.1	2024.3	ワシントン大学	米国	東北大学	中～長期受入れプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	0			
2023	2024.2~	2024.3	ワシントン大学	カナダ	東北大学	ショートプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	3	3		
2024	2024.6~	2024.8	カリフォルニア大学	米国	東北大学	ショートプログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	10	5		5
2024	2024.4	2025.3	カリフォルニア大学	米国	東北大学	中～長期受入れプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	10	5		5
2024	2024.4	2025.3	カリフォルニア大学	米国	東北大学	中～長期受入れプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	0			

2027	2027.8~	2027.9	シンシナティ大学	米国	千葉大学	生体模倣ロボットとロボティクス	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	245	0	235	10
2027	2028.2~	2028.3	ニュースクール	米国	千葉大学	Disaster Preparedness	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	245	0	235	10

(大学名: 関西大学、東北大大学、千葉大学)

(タイプ: B)

⑧ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する海外相手大学数	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	16	14	37	21	37	22	37	22	37	22	164	101

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 関西大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	合計
コーネル大学	認定者数	A	20	83	129	161	198	591
	認定単位数		40	166	258	322	396	1182
コーネル大学	認定者数	B	10	20	34	47	60	171
	認定単位数		20	40	68	94	120	342
デポール大学	認定者数	A	12	95	134	148	158	547
	認定単位数		24	190	268	296	316	1094
デポール大学	認定者数	B	0	22	30	38	44	134
	認定単位数		0	44	60	76	88	268
ニューヨーク州立ファッショング工科大学	認定者数	A	5	42	66	86	103	302
	認定単位数		10	84	132	172	206	604
フロリダ国際大学	認定者数	A	0	40	70	85	114	309
	認定単位数		0	80	140	170	228	618
フロリダ国際大学	認定者数	B	0	12	26	30	32	100
	認定単位数		0	24	52	60	64	200
ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ	認定者数	A	0	40	70	85	114	309
	認定単位数		0	80	140	170	228	618
ノースカロライナ州立大学	認定者数	B	0	11	21	23	25	80
	認定単位数		0	22	42	46	50	160
北アリゾナ大学	認定者数	B	0	11	21	23	25	80
	認定単位数		0	22	42	46	50	160
ポートランド州立大学	認定者数	A	0	40	70	85	114	309
	認定単位数		0	80	140	170	228	618
オハイオ州立大学	認定者数	B	0	10	22	24	26	82
	認定単位数		0	20	44	48	52	164
ノースカロライナ大学チャペルヒル校	認定者数	A	0	40	60	75	104	279
	認定単位数		0	80	120	150	208	558
ハワイ大学ヒロ校	認定者数	A	0	40	75	100	120	335
	認定単位数		0	80	150	200	240	670
ハワイ大学マノア校	認定者数	A	0	40	60	75	104	279
	認定単位数		0	80	120	150	208	558
ウェスタン大学	認定者数	A	0	45	80	95	115	335
	認定単位数		0	90	160	190	230	670

ケバングサン大学	認定者数	A	0	43	78	93	113	327
	認定単位数		0	86	156	186	226	654
サン・ペドロカ・レッジ	認定者数	A	0	28	63	78	98	267
	認定単位数		0	56	126	156	196	534
南洋ポリテクニック	認定者数	A	0	40	75	100	120	335
	認定単位数		0	80	150	200	240	670
CEUカルデナル・エレーラ大学	認定者数	A	0	43	78	93	113	327
	認定単位数		0	86	156	186	226	654
東吳大学	認定者数	A	0	53	88	103	123	367
	認定単位数		0	106	176	206	246	734
パンヤピワット経営大学	認定者数	A	16	58	93	108	128	403
	認定単位数		32	116	186	216	256	806
年度別認定者数合計			63	856	1443	1755	2151	6268
年度別認定単位合計			126	1712	2886	3510	4302	12536

2. 国内連携大学 【大学名 : 東北大学】

相手大学名		学生別	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	合計
カリフォルニア大学	認定者数	A	25	45	45	50	55	220
	認定単位数		50	90	90	100	110	440
ペンシルベニア州立大学	認定者数	A	0	20	20	20	35	95
	認定単位数		0	40	40	40	70	190
ノースカロライナ大学シャーロット校	認定者数	A	0	40	40	40	40	160
	認定単位数		0	80	80	80	80	320
ペイラー大学	認定者数	A	10	15	25	30	40	120
	認定単位数		20	30	50	60	80	240
ワシントン大学	認定者数	A	11	12	37	42	52	154
	認定単位数		22	24	74	84	104	308
モンタナ大学	認定者数	A	0	20	35	51	61	167
	認定単位数		0	40	70	102	122	334
オハイオ州立大学	認定者数	A	5	5	30	33	40	113
	認定単位数		10	10	60	66	80	226
テンプル大学	認定者数	A	5	10	25	26	31	97
	認定単位数		10	20	50	52	62	194
ウォータールー大学	認定者数	A	15	35	40	45	50	185
	認定単位数		30	70	80	90	100	370
マラヤ大学	認定者数	A	21	21	21	21	21	105
	認定単位数		42	42	42	42	42	210
年度別認定者数合計			51	71	96	104	116	438
年度別認定単位合計			102	142	192	208	232	876

【大学名： 千葉大学

相手大学名		学生別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
アラバマ大学	認定者数	A	4	6	7	7	7	31
	認定単位数		4	6	7	7	7	31
シンシナティ大学	認定者数	A	5	6	8	8	8	35
	認定単位数		5	6	8	8	8	35
ニュースクール大学	認定者数	A	3	4	5	5	5	22
	認定単位数		3	4	5	5	5	22
ストーニーブルック大学	認定者数	A	3	4	5	5	5	22
	認定単位数		3	4	5	5	5	22
レジヤイナ大学	認定者数	A	3	4	5	5	5	22
	認定単位数		3	4	5	5	5	22
年度別認定者数合計			18	24	30	30	30	132
年度別認定単位合計			12	16	20	20	20	88

(大学名：○関西大学、東北大学、千葉大学)

(タイプ：

B

)

⑨ オンライン教育を受けた学生数の内、実渡航につながった学生数について

学生別	A	学部生
	B	大学院生

1. 代表申請大学 【大学名 : 関西大学

交流プログラム名 (相手大学名)	実渡航した学生	学生別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
Global Mindest醸成BMプログラム (コーネル大学)	実渡航した学生	A	0	10	10	10	10	40
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	10	10	10	10	40
Global Mindest醸成BMプログラム (コーネル大学)	実渡航した学生	B	0	2	2	4	4	12
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	2	2	4	4	12
Global Mindest醸成BMプログラム (デボール大学)	実渡航した学生	A	0	40	40	40	40	160
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	40	40	40	40	160
Global Mindest醸成BMプログラム (デボール大学)	実渡航した学生	B	0	4	4	6	6	20
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	4	4	6	6	20
STEAM BMプログラム (ニューヨーク州立ファッショントン工科大学)	実渡航した学生	A	0	2	2	2	2	8
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	2	2	2	2	8
STEAM BMプログラム (ニューヨーク州立ファッショントン工科大学)	実渡航した学生	A	0	10	10	10	10	40
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	10	10	10	10	40
異文化理解BMプログラム (フロリダ国際大学)	実渡航した学生	A	0	12	22	22	22	78
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	12	22	22	22	78
STEAM BMプログラム (フロリダ国際大学)	実渡航した学生	B	0	1	2	4	4	11
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	1	2	4	4	11
STEAM BMプログラム (ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ)	実渡航した学生	A	0	12	22	22	22	78
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	12	22	22	22	78
SustainabilityBMプログラム (ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ)	実渡航した学生	A	0	2	2	2	2	8
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	2	2	2	2	8
SustainabilityBMプログラム (ノースカロライナ州立大学)	実渡航した学生	B	0	1	1	1	1	4
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	1	1	1	1	4
SustainabilityBMプログラム (北アリゾナ大学)	実渡航した学生	B	0	1	1	1	1	4
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	1	1	1	1	4
SustainabilityBMプログラム (ポートランド州立大学)	実渡航した学生	A	0	12	22	22	22	78
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	12	22	22	22	78

Applied Global Certificate プログラム (ポートランド州立大学)	実渡航した学生	A	0	2	2	2	2	8
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	2	2	2	2	8
Applied Global Certificate プログラム (オハイオ州立大学)	実渡航した学生	B	0	0	2	2	2	6
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	0	2	2	2	6
Applied Global Certificate プログラム (ノースカロライナ大学チャペルヒル校)	実渡航した学生	A	0	12	12	12	12	48
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	12	12	12	12	48
SustainabilityBM プログラム (ノースカロライナ大学チャペルヒル校)	実渡航した学生	A	0	2	2	2	2	8
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	2	2	2	2	8
STEAM BM プログラム (ハワイ大学ヒロ校)	実渡航した学生	A	0	12	12	22	22	68
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	12	12	22	22	68
STEAM BM プログラム (ハワイ大学ヒロ校)	実渡航した学生	A	0	2	2	2	2	8
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	2	2	2	2	8
STEAM BM プログラム (ハワイ大学マノア校)	実渡航した学生	A	0	12	12	12	12	48
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	12	12	12	12	48
異文化間コミュニケーションとビジネス (サンバウロ州立パウリスタ大学)	実渡航した学生	A	0	2	2	2	2	8
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	2	2	2	2	8
STEAM BM プログラム (ウェスタン大学)	実渡航した学生	A	0	17	17	17	17	68
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	17	17	17	17	68
異文化間コミュニケーションとビジネス (ケバングサン大学)	実渡航した学生	A	0	17	17	17	17	68
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	17	17	17	17	68
Well-Being & Resiliency BM プログラム (南洋ポリテクニック)	実渡航した学生	A	0	12	12	22	22	68
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	12	12	22	22	68
Well-Being & Resiliency BM プログラム (CEUカルデナル・エレーラ大学)	実渡航した学生	A	0	2	1	2	2	7
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	2	1	2	2	7
Applied Global Certificate プログラム (CEUカルデナル・エレーラ大学)	実渡航した学生	A	0	15	15	15	15	60
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	15	15	15	15	60
Applied Global Certificate プログラム (東吳大学)	実渡航した学生	A	0	25	25	25	25	100
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	25	25	25	25	100
Applied Global Certificate プログラム (東吳大学)	実渡航した学生	B	0	3	5	5	7	20
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生		0	3	5	5	7	20
異文化間コミュニケーションとビジネス (パンヤピワット経営大学)	実渡航した学生	A	16	30	30	30	30	136
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生			30	30	30	30	120
実渡航した学生数合計			16	274	308	335	337	1270
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			0	274	308	335	337	1254

2. 国内連携大学 【大学名 : 東北大学

交流プログラム名 (相手大学名)		学生別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
短期海外派遣プログラム（カリフォルニア大学）	実渡航した学生	A	15	15	15	15	15	75
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	8	9	12	14	14	56
交換留学プログラム（カリフォルニア大学）	実渡航した学生	A	10	10	10	10	10	50
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	6	6	6	6	6	30
交換留学プログラム（ペンシルベニア州立大学）	実渡航した学生	A	2	2	2	2	2	10
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	1	1	1	2	2	7
国際共同教育プログラム（ペンシルベニア州立大学）	実渡航した学生	B				2	2	4
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	B				2	2	4
短期海外派遣プログラム（ノースカロライナ大学シャーロット校）	実渡航した学生	A		20	20	20	20	80
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	12	16	18	18	64
交換留学プログラム（ノースカロライナ大学シャーロット校）	実渡航した学生	A	4	4	4	4	4	20
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	1	2	2	3	4	12
短期海外派遣プログラム（ペイラー大学）	実渡航した学生	A						0
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	0	0	0	0	0
交換留学プログラム（ペイラー大学）	実渡航した学生	A	1	1	1	1	1	5
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	0	1	1	1	3
短期海外派遣プログラム（ワシントン大学）	実渡航した学生	A	10	10	10	10	10	50
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	5	6	8	9	9	37
交換留学プログラム（ワシントン大学）	実渡航した学生	A	1	2	2	2	2	9
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	1	1	1	2	2	7
国際共同教育プログラム（ワシントン大学）	実渡航した学生	B			2	2	5	9
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	B			1	2	4	7
短期海外派遣プログラム（モンタナ大学）	実渡航した学生	A		20	20	20	20	80
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	12	16	18	18	64
交換留学プログラム（モンタナ大学）	実渡航した学生	A				1	1	2
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	0	0	1	1	2
短期海外派遣プログラム（テンプル大学）	実渡航した学生	A						0
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	0	0	0	0	0
交換留学プログラム（テンプル大学）	実渡航した学生	A	1			1	1	2
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	0	0	1	1	2
短期海外派遣プログラム（ウォーターラー大学）	実渡航した学生	A		20	20	20	20	80
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	12	16	18	18	64
国際共同教育プログラム（ウォーターラー大学）	実渡航した学生	A				1	1	2
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	0	0	1	1	2
短期海外派遣プログラム（マラヤ大学）	実渡航した学生	A	8	10	10	10	10	48
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	4	6	8	9	9	36
交換留学プログラム（マラヤ大学）	実渡航した学生	A	1	1	1	1	1	5
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	0	0	1	1	1	3
実渡航した学生数合計			53	115	117	122	125	531
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			26	67	89	108	111	400

【大学名： 千葉大学

交流プログラム名 (相手大学名)		学生別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
アラバマ大学、シンシナティ大学、 ニュースクール大学、ストーニーブ ルック大学、レジヤイナ大学	実渡航した学生	A	10	15	20	20	20	85
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	A	10	15	20	20	20	85
アラバマ大学、シンシナティ大学、 ニュースクール大学、ストーニーブ ルック大学、レジヤイナ大学	実渡航した学生	B	5	5	5	5	5	25
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	B	5	5	5	5	5	25
実渡航した学生数合計			15	20	25	25	25	110
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			15	20	25	25	25	110

(大学名： 関西大学、東北大大学、千葉大学) (タイプ： B)

様式2

⑩ 米国等との大学との間で実施する真に学び合う学修活動（アクティブラーニング等）数について

	協働／共修学修活動 名称	開催年月	開催回数	参加人数	参加国
1	学びのアトリエMCP	2023.11	5回×3コース	90	アメリカ+日本 +カナダ+マ レーシア+シン ガポール他
2	学びのアトリエMCP	2024.4～ 2025.2	5回×10コース	300	同上
3	学びのアトリエMCP	2025.4～ 2026.2	5回×10コース	300	同上
4	学びのアトリエMCP	2026.4～ 2027.2	5回×12コース	360	同上
4	学びのアトリエMCP	2027.4～ 2028.2	5回×12コース	360	同上
5	COIL/VEバイラテラルプログラム	2023.11～ 2028.2	4-5週間×35 コース×10ター ム	350×25	アメリカ+日本 +カナダ+マ レーシア+シン ガポール他
6	COIL/VEマルチラテラルプログラム	2023.11～ 2028.2	4-5週間×10 コース×10 ターム	2,500	同上
7	ドクトラルコロキアム	2024.9～ 2028.2	6回	90	同上
8	国際共修プログラム	2023.11	1	105	米国/カナダ/ マレーシア
9	国際共修プログラム	2024.4～ 2025.2	3	255	米国/カナダ/ マレーシア
10	国際共修プログラム	2025.4～ 2026.2	4	380	米国/カナダ/ マレーシア
11	国際共修プログラム	2026.4～ 2027.2	5	450	米国/カナダ/ マレーシア
12	国際共修プログラム	2027.4～ 2028.2	6	570	米国/カナダ/ マレーシア

(大学名： 関西大学、東北大学、千葉大学

)

(タイプ：

B

)

⑪ 学生主催イベント・ワークショップの開催数、参加規模について

形態	実 オ ハ	実渡航 オンライン ハイブリッド
----	-------------	------------------------

	イベント・ワークショップ名	形態	開催年月	開催回数	参加人数	参加国
1	ASEFと共にWorld Expo2025に向けたYouth Leaders Summitt プログラム-PHASE 1	オ	2024	4	100	ASEAM加盟51か国+米国
2	ASEFと共にWorld Expo2025に向けたYouth Leaders Summitt プログラム-PHASE 2	オ	2025	4	90	ASEAM加盟51か国+米国
3	Japan BOLD Program	オ	2025/2026/2 027	年5回	20名/年	日本・米国
4	Japan BOLD Program	実	2025/2026	年1回	10名/年	日本・米国
5	アメリカ領事館と共にバビリオンボランティア	実	2023/2024 /2025	年1回	30名/年	日本・米国
6	日米連携ワークショップ	オ	2024.11～ 2025.5	1	50	米国
7	グローバル・レジリエンスサミット	オ	2025.11～ 2026.5	1	50	米国・カナダ
8	グローバル・レジリエンス研究ラウンドテーブル	オ	2026.11～ 2027.5	1	50	米国・カナダ
9	JIGEプラットフォームを通じたワーク	オ	2024.11～ 2028.3	5	150	米国・カナダ

(大学名： 関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ： B)

⑫ インターンシップの実施計画について (2023年度は事業開始以後の人数)

(単位:人)

(i) 本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数

各年度の派遣及び受入合計人數(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii)表参照)	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
19	48	281	280	297	318	315	315	324	334	1,236	1,295	
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	1	11	12	9	6	11	6	12	7	43	32
自国にてインターンシップをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	16	36	160	186	179	215	189	215	199	231	743	883
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	3	11	110	82	109	97	115	94	113	96	450	380

(ii) 国内大学及びプログラムごとのインターンシップに参加する学生数

交流形態	①:単位取得を伴う交換期間30日未満の交流	学生別	A	学部生	実渡航
	②:単位取得を伴う交換期間30日以上3ヶ月未満の交流		B	大学院生	オンライン
	③:単位取得を伴う交換期間3ヶ月以上の交流				ハイブリッド
	④:単位取得を伴う交換期間30日未満の日系外國の交換				
	⑤:単位取得を伴う交換期間30日以上3ヶ月未満の日系外國の交換				
	⑥:上記以外の交換期間3ヶ月以上の交換				

1. 【代表申請大学】

大学名	関西大学												合計						
	プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態	学生別	2023年度			2024年度			2025年度			2026年度					
					実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ			
JIGE海外企業フィールドスタディ (コネル大学)	派遣	④	A	0	10	0	0	10	10	0	30	10	0	40	6	0	40	6	162
JIGE海外企業フィールドスタディ (コネル大学)	派遣	②	B	0	0	0	2	10	10	2	10	0	4	10	0	4	10	0	62
JIGEインターンシッププログラム (コネル大学)	受入	④	A	0	0	0	0	5	2	0	5	2	0	5	2	0	5	2	28
JIGEインターンシッププログラム (コネル大学)	受入	⑤	B	0	5	0	4	10	4	0	10	10	0	10	10	0	10	10	83
JIGE海外企業フィールドスタディ (デボール大学)	派遣	①	A	0	0	0	0	15	5	0	10	5	0	10	5	0	15	5	70
JIGE海外企業フィールドスタディ (デボール大学)	派遣	②	B	0	0	0	2	6	0	2	6	4	0	6	4	0	6	4	40
JIGEインターンシッププログラム (デボール大学)	受入	①	A	0	0	0	0	15	5	0	10	5	0	10	5	0	15	5	70
JIGEインターンシッププログラム (デボール大学)	受入	⑥	B	0	0	0	2	6	0	2	6	4	0	6	4	0	6	4	40
JIGEインターンシッププログラム (ニューヨーク州立ファンショーン工科大学)	受入	①	A	0	0	0	1	10	5	0	10	10	0	8	10	0	15	10	79
JIGEインターンシッププログラム (フロリダ国際大学)	受入	①	A	0	15	0	1	10	5	0	30	5	0	30	5	0	30	5	136
JIGEインターンシッププログラム (フロリダ国際大学)	受入	⑤	B	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	8
グローバル経営とホスピタリティ産業 (ハワイ学カオラニコミュニティカレッジ)	受入	⑥	B	0	0	0	0	5	2	0	5	2	0	5	2	0	5	2	28
JIGE海外企業フィールドスタディ (ノースカロライナ州立大学)	派遣	②	B	0	0	0	0	5	1	0	6	1	0	5	1	0	5	1	25
JIGEインターンシッププログラム (ノースカロライナ州立大学)	受入	⑥	B	0	0	0	0	0	2	0	5	2	0	5	2	0	5	2	23
JIGE海外企業フィールドスタディ (北アリゾナ大学)	派遣	②	B	0	0	0	0	5	1	0	5	1	0	5	1	0	5	1	24
JIGEインターンシッププログラム (北アリゾナ大学)	受入	③	A	0	0	3	0	0	5	0	5	5	0	5	6	0	5	6	40
JIGE海外企業フィールドスタディ (ポートランド州立大学)	派遣	④	A	0	0	0	0	20	15	0	20	15	0	20	15	0	20	15	140
JIGEインターンシッププログラム (ポートランド州立大学)	受入	⑥	A	0	0	0	0	10	2	0	10	2	0	10	2	0	10	2	48
JIGEインターンシッププログラム (オハイオ州立大学)	受入	⑥	B	0	0	0	0	5	2	0	3	2	0	3	2	0	5	1	23
JIGE海外企業フィールドスタディ (ノースカロライナ大学チャペルヒル校)	派遣	①	A	0	0	0	0	15	10	0	15	10	0	15	10	0	15	10	100
JIGE海外企業フィールドスタディ (ノースカロライナ大学チャペルヒル校)	派遣	⑥	B	0	0	0	1	0	3	1	0	3	1	0	3	1	0	1	14
JIGE海外企業フィールドスタディ (ハワイ大学ヒロ校)	派遣	①	A	0	0	0	2	15	10	0	15	10	0	15	20	0	20	20	127
JIGEインターンシッププログラム (ハワイ大学ヒロ校)	受入	④	B	0	0	0	0	10	5	0	10	5	0	10	5	0	10	5	60
JIGEインターンシッププログラム (サンクワコロ州立パウリスタ大学)	受入	⑤	B	0	0	0	1	0	1	2	0	1	2	0	1	1	0	0	9
JIGEインターンシッププログラム (サンクワコロ州立パウリスタ大学)	受入	④	A	0	5	0	0	15	0	0	15	0	0	15	0	0	15	0	65
JIGEインターンシッププログラム (カスタン大学)	受入	②	A	0	0	0	1	5	2	0	3	2	0	5	0	0	5	2	25
JIGE海外企業フィールドスタディ (ケバングサン大学)	派遣	①	A	0	0	0	0	10	5	0	10	5	0	10	5	0	10	5	60
JIGE海外企業フィールドスタディ (ケバングサン大学)	派遣	④	A	0	0	0	0	10	5	0	10	5	0	10	5	0	10	5	60
JIGEインターンシッププログラム (ケバングサン大学)	受入	⑥	A	0	0	0	0	15	5	0	15	5	0	15	5	0	15	5	80
JIGEインターンシッププログラム (サン・ベドロ・カレッジ)	受入	⑤	A	0	0	5	0	10	5	0	10	5	0	10	5	0	10	5	80
JIGE海外企業フィールドスタディ (CEUカルデナル・エレーラ大学)	派遣	①	A	0	0	0	0	5	10	0	5	10	0	5	10	0	5	10	60
JIGEインターンシッププログラム (CEUカルデナル・エレーラ大学)	受入	⑤	A	0	0	0	1	5	2	0	3	2	0	5	0	0	5	2	25
日本語TAインターンシップ (東京大学)	派遣	①	B	0	0	0	0	4	4	0	5	5	0	5	5	0	5	5	38
日本語TAインターンシップ (東京大学)	派遣	⑥	A	0	0	0	1	0	0	0	2	4	0	2	4	0	2	4	19
グローバルマネジメント (東京大学)	受入	①	A	0	5	0	0	10	5	0	10	5	0	10	5	0	10	5	65
グローバル経営とホスピタリティ産業 (バンヤビット経営大学)	派遣	①	A	0	0	0	0	10	15	0	10	15	0	10	15	0	10	15	100
グローバル経営とホスピタリティ産業 (バンヤビット経営大学)	受入	②	A	0	0	0	0	10	5	0	10	5	0	10	5	0	10	5	60

2. 【国内連携大学】

大学名	東北大										東北大									
	プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態	学生別	2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			合計
					実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	
交換留学プログラム（カリフォルニア大学）	派遣	③	A					1			1			1			1			4
国際共同教育プログラム（カリフォルニア大学）	派遣	④	B																	0
中～長期受入れプログラム（カリフォルニア大学）	受入	③	A	1				1			1			1			1			5
交換留学プログラム（ペンシルベニア州立大学）	派遣	③	A																	0
国際共同教育プログラム（ペンシルベニア州立大学）	派遣	④	B												1			1		2
中～長期受入れプログラム（ペンシルベニア州立大学）	受入	③	B								1			1			1			3
交換留学プログラム（ノースカロライナ大学シャーロット校）	派遣	③	A					1			1			1			1			4
国際共同教育プログラム（ノースカロライナ大学シャーロット校）	派遣	④	B																	1
中～長期受入れプログラム（ノースカロライナ大学シャーロット校）	受入	③	A												1			1		2
交換留学プログラム（ペイラー大学）	派遣	③	A					1			1			1			1			4
国際共同教育プログラム（ペイラー大学）	派遣	④	B								1			1			2			6
中～長期受入れプログラム（ペイラー大学）	受入	③	A															1		1
交換留学プログラム（ワシントン大学）	派遣	③	A																	0
国際共同教育プログラム（ワシントン大学）	派遣	④	B								2			1		2	1		2	11
中～長期受入れプログラム（ワシントン大学）	受入	③	A														1			4
交換留学プログラム（モンタナ大学）	派遣	③	A																	0
国際共同教育プログラム（モンタナ大学）	派遣	④	B																	0
中～長期受入れプログラム（モンタナ大学）	受入	③	A																	0
国際共同教育プログラム（オハイオ州立大学）	派遣	④	B								2			2			2			8
中～長期受入れプログラム（オハイオ州立大学）	受入	③	B																	0
交換留学プログラム（テンプル大学）	派遣	③	A																	0
国際共同教育プログラム（テンプル大学）	派遣	④	B																	0
中～長期受入れプログラム（テンプル大学）	受入	③	A															1		1
交換留学プログラム（ウォータールー大学）	派遣	③	A																	0
国際共同教育プログラム（ウォータールー大学）	派遣	④	B															1		2
中～長期受入れプログラム（ウォータールー大学）	受入	③	A															1		1
交換留学プログラム（マラヤ大学）	派遣	③	A																	0
国際共同教育プログラム（マラヤ大学）	派遣	④	B																	0
中～長期受入れプログラム（マラヤ大学）	受入	③	A																	0

大学名	千葉大										千葉大									
	プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態	学生別	2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			合計
					実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	
アラバマ大学、シンシナティ大学、ニュースクール大学、ストーニーブルック大学、レジャイナ大学	派遣	①	A		4	2		10	4		10	4		10	4		10	4		62
Professional Studies at the National Museum of Japanese History	受入	①	A		4	2		10	4		10	4		10	4		10	4		62
アラバマ大学、シンシナティ大学、ニュースクール大学、ストーニーブルック大学、レジャイナ大学	派遣	①	B		2	1		5	2		5	2		5	2		5	2		31
Professional Studies at the National Museum of Japanese History	受入	①	B		2	1		5	2		5	2		5	2		5	2		31

(大学名: 関西大学、東北大、千葉大)

(タイプ: B)

(iii) 本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
年度別合計人数	学生別	19	281	297	315	324	1236
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		9	156	151	161	171	648
実渡航	A	0	2	0	0	0	2
実渡航	B	0	0	0	0	0	0
オンライン	A	4	80	75	75	85	319
オンライン	B	2	9	10	10	10	41
ハイブリッド	A	2	59	59	69	69	258
ハイブリッド	B	1	6	7	7	7	28
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	42	37	36	36	151
実渡航	B	0	4	4	4	4	16
オンライン	B	0	26	27	26	26	105
ハイブリッド	B	0	12	6	6	6	30
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	3	3	3	3	12
実渡航	A	0	3	3	3	3	12
オンライン	A	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	A	0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		10	75	96	105	106	392
実渡航	A	0	0	0	0	0	0
実渡航	B	0	0	1	3	4	8
オンライン	A	10	40	60	70	70	250
オンライン	B	0	5	5	6	6	22
ハイブリッド	A	0	30	30	26	26	112
ハイブリッド	B	0	0	0	0	0	0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	5	10	10	8	33
実渡航	A	0	1	0	0	0	1
実渡航	B	0	1	1	1	1	4
オンライン	A	0	0	2	2	2	6
オンライン	B	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	A	0	0	4	4	4	12
ハイブリッド	B	0	3	3	3	1	10

(大学名： 関西大学、東北大学、千葉大学)

(タイプ： B)

【外国人学生の受入】		2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
年度別合計人数	学生別	48	280	318	315	334	1295
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		29	88	106	104	116	443
実渡航	A	0	2	0	0	0	2
実渡航	B	0	0	0	0	0	0
オンライン	A	24	55	70	68	80	297
オンライン	B	2	5	5	5	5	22
ハイブリッド	A	2	24	29	29	29	113
ハイブリッド	B	1	2	2	2	2	9
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	23	20	20	22	85
実渡航	A	0	1	0	0	0	1
オンライン	A	0	15	13	15	15	58
ハイブリッド	A	0	7	7	5	7	26
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		4	6	12	18	17	57
実渡航	A	1	1	1	3	5	11
実渡航	B	0	0	1	1	1	3
オンライン	A	0	0	5	8	5	18
オンライン	B	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	A	3	5	5	6	6	25
ハイブリッド	B	0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		5	57	57	57	57	233
実渡航	A	0	0	0	0	0	0
実渡航	B	0	0	0	0	0	0
オンライン	A	5	35	35	35	35	145
オンライン	B	0	10	10	10	10	40
ハイブリッド	A	0	7	7	7	7	28
ハイブリッド	B	0	5	5	5	5	20
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		10	50	60	55	60	235
実渡航	A	0	1	0	0	0	1
実渡航	B	0	5	2	2	1	10
オンライン	A	0	15	23	20	25	83
オンライン	B	5	10	10	10	10	45
ハイブリッド	A	5	12	12	10	12	51
ハイブリッド	B	0	7	13	13	12	45
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	56	63	61	62	242
実渡航	A	0	0	0	0	0	0
実渡航	B	0	2	2	0	0	4
オンライン	A	0	25	25	25	25	100
オンライン	B	0	16	19	19	21	75
ハイブリッド	A	0	7	7	7	7	28
ハイブリッド	B	0	6	10	10	9	35

(大学名: 関西大学、東北大大学、千葉大学)

(タイプ: B)

(13) 質の保証を伴った交流プログラムの実現について【1ページ以内】

(設定指標)

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	合計
(指標1) 国際共同学位プログラム (JD) の実施(参加学生数)	0	0	0	6	12	18
(指標2) AP 科目の導入による高校から学部につながるようなプログラムへの参加者数 (国内外の総数)	0	65	90	115	135	405
(指標3) AP 科目の導入により学部から大学院につながるようなプログラムへの参加者数	0	11	20	30	40	101
(指標4) 学位やマイクロクレデンシャルの国際通用性の観点も含めた電子化の推進 (デジタルバッジの活用等) を取り入れたプログラム数	5	13	25	38	44	125
(指標5) 企業や自治体等と協力し、留学生 (日本人・外国人) の卒業後の進路に繋がるようなインターンシップのプログラムへの参加者数 (リモートインターンシップを含む)	93	234	342	384	400	1,453
(指標6) 授業料の相互不徴収協定を利用した交流プログラム数(国内連携 3 大学総合)	30	40	48	59	68	245

【計画内容】

(指標1) 様式2-①計画内容「(3)国内 JD から BM 型国際 JD の設置へ」に記載したように国内共同学位プログラムを、本事業最終年度 2027 年度に海外相手大学も取り込み国際共同学位プログラム (JD) を設置する。

(指標2) 様式2⑯に記載の通り。

(指標3) 様式1「質の保証を伴った交流プログラム、様式2⑯に記載の通り。

(指標4) 学生主体の活動事業、リモート・インターンシッププログラム、学びのアトリエ MCP コース、日本語マイクロクレデンシャルプログラム等、3 大学共通で実施する非伝統的な学習活動のマイクロクレデンシャル化を 2024 年度から制定し、履修証明を発行する。マイクロクレデンシャルの規格について、JV-Campus をはじめ、広く認知されたガイドラインに沿った基準に準じた提供を行う。

(指標5) 様式2-① (5)「产学研連携によるインターンシップカリキュラム構想と実装」に詳細を記載しているような、産官学連携型の国内外インターンシップ (リモートおよび渡航型) を 3 大学共通および各大学において開拓・企画し、日本人学生・外国人学生層に提供する。例えば、東北大学では、国内企業等と連携し、日本国内で行う留学生向けインターンシップや国内就職支援の取組として実施してきた IT 企業でアプリ開発を実践する PBL 型インターンシップや留学生就職促進事業「DATEntre」で培った产学研連携コンソーシアムによる就職支援を引き続き実施すると共に、原発被災地・福島の自治体、企業等と連携した被災地レジリエンスインターンシップ・就職支援プログラムを実施する。関西大学・千葉大学では、大阪府下の大学とスタートし全国 18 大学へと展開している留学生就職支援コンソーシアム SUCCESS と連動し課題解決型ビジネス企画創出を行う長期インターンシップ(共修型 Future Design Project)を実施する。

(指標6) 本事業において海外相手大学として挙げている大学のうち、すでに 29 校が 3 大学いずれかと学生交換協定の締結や、学部・研究科間において相互授業料不徴収の協定を持っており、これらの関係性を活用する他、本事業において新規で関係構築が進む大学とも、新たにこれらの合意ができた時点で活発な相互の交流を進めていく所存である。また、交流プログラム数であり、交流先機関数と同数ではない (1 つの大学と複数のプログラムが発生する)。

(14) (13)以外の、学内・学外への事業の波及効果について【1ページ以内】						
(設定指標)						
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	合計
(指標1) 米国の大学との新規大学間・部局間学術協定締結数	4	5	5	6	6	26
(指標2) 連携3大学が実施するJIGE海外相手大学以外で新たに構築された大学間協定数(学生交換または基本協定)	5	25	50	70	90	240
(指標3) JIGE海外相手大学間で展開する研究者交流数(オンライン・渡航)	15 5	25 10	35 10	45 10	55 10	175 45
(指標4) JIGE海外相手大学以外の国内大学でオンライン型国際教育実践に参加した学生数	61	99	157	190	208	715
(指標5) JIGE海外相手大学以外の大学で、3大学へBM留学を行った学生数	18	32	46	60	69	225
(指標6) JIGE海外相手大学以外の海外大学からアトリエMCPコースへ参加した学生数	38	57	66	90	104	355
【計画内容】						
(指標1) 本事業においてすでに大学間・部局間学術協定がある大学と、この事業において新たに国際パートナーシップを構築することができる大学が存在する。本展開力強化事業の趣旨として、新たな関係構築が拡充されることは望ましい成果となると考えている。3大学がそれぞれ関係を構築している海外相手大学と、他2大学の新たな関係構築も生まれることを想定している。						
(指標2) 本事業において記載がないが、事業の取組の認知度が高まるにつれ、同様の活動に参加を希望する海外大学は、米国のみならず多様な国地域から声が上がることが想定される。Blended Mobilityは世界の国際教育の標準として活動が定着しつつあり、例えば欧州ではすでに日本に先んじて活動が進む。これらの海外大学との活動連携に対しても、閉じることなく可能な展開を進める。						
(指標3) 国内3大学(JIGE)と海外相手大学という日本対海外の関係図だけではなく、海外相手大学間でも交流が進み、日本の大学が仕掛けた国際関係構築の拡充や新たな大学ネットワークが形成されることを望む大学は多い。日本の大学が、国際関係の円滑化促進の機能を果たすといった役割を担う動きは、従来の受け身の外交と異なり、存在感を示すことができる。						
(指標4) オンライン型国際教育の重要な利点は、対面型の交流活動ではできない物理的・距離的な障害を取り払い、学修を受けることができる層を各段に広げることができる点にある。本事業において海外相手大学として定める大学以外の国内外の大学所属の参加者にも、JIGEが提供する科目(例えばアトリエMCP科目群等)の履修を可能にする等の活動により、よりインクルーシブな国際教育の提供を実現することができる。						
(指標5) 上記指標の中でも、本事業でJIGEが運営する新たな国際化促進フォーラムプロジェクト「学びのアトリエ-Multilateral COIL Project」のコース群を履修する学習者の内、3大学以外の履修者への波及を、海外相手大学以外にも広く展開し、事業期間中に高校生層から社会人層まで取り込めるよう、科目提供を進めていく。						
(指標6) JIGE海外相手大学以外の海外大学の学生からも広くアトリエMCPコースへの参加を誘致していく。後に、将来的に海外協定大学構築へと繋がる可能性を持つ層であり、積極的に誘致を進めていく。						

(大学名:関西大学、東北大学、千葉大学)(タイプ:B)

⑯ 加点事項に関する取組【5ページ以内】

【実績・準備状況】

●日本人学生と外国人留学生がチームを組み、アントレプレナーシップの醸成に資する実践的なプログラムを行う計画

関西大学(IIGE)では、Business Entrepreneurship Camp コース(IIGE x Ludas Lab)、Global Mindset Program (Michigan State University x Kansai University IIGE)を2020年から実施してきた。このプログラムの中で、メタバースを活用したCOILにも着手し、その学習行動の分析などについても、IVEC2022、APAI 2023などの機会において成果発表をしてきており、海外大学から多くの参加希望および協働依頼をいただいている。

右図がその様子である。



●カーボンニュートラルやSDGs、防災・減災といった世界的課題解決に向け、外国人留学生と日本人学生が主体となり、地域・社会・企業と連携する計画

東北大学では、戦略的パートナーシップを締結するワシントン大学とアカデミック・オープン・スペース (AOS) の協定更新を2022年4月に行い、活動が2期目に入った。AOSの活動を中心に、戦略的パートナーシップを進化させている。AOSを、シアトルの企業や総領事館も参加できる枠組みとして発展させることで合意すると共に、さらに災害科学分野について、両大学が所属する「環太平洋大学協会 (APRU)」を通じた連携の強化にも合意している。また、東北大学とワシントン大学の間でAOS第2期の活動の柱の一つとしてDEI推進における連携を掲げている。

関西大学は、2010年に社会安全学部・研究科が設置された。2018年には、英語学位コース(Ph. D. course in disaster management)が研究科(博士課程)でスタートしている。防災・減災といった課題は、大学が所在する地域の自治体、社会、企業とも密な連携をとり活動を行ってきた経歴がある。また、2022年10月にカーボンニュートラルセンターが発足した。SDGsの教育事業としての啓発は、2025年に開催を控えたWorld Expo(万国博覧会)2025が大阪へ誘致が決定した2018度から現在に至るまで、大学の大きなミッションとして位置づけられている。特に、外国人留学生の存在と多様性を力とし、SDGsの達成を見据えたグローバルな課題解決型ビジネスの創出活動(共修型 Future Design Project)等を通して、大阪府、万博協会、大手金融機関等、産官学連携の活動を進める文化が醸成されている(参考 URL:<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/SUCCESS-Osaka/company/future-design/>) ※2大学間JD。

千葉大学では、全てのプログラムでデザイン・シンキングのプログラムを取り込み、創造型思考の可能な人材を育成していく。まず、千葉大学で実施するプログラムについてのみ展開していくが、デザイン・シンキングはアトリエ・プログラムでも実施していくため、3大学で実施しているプログラムで可能なものは全てこのデザイン・シンキングのプログラムを取り込み創造型思考の可能な人材を育成することに貢献する。

またこのプログラムについては、本事業で実施するCOIL/VEのプログラム以外にも、様々なところに展開できるように、デザイン・シンキングのみを取り出しそれをどのように具体的に実施していくかについても国内の大学に広く提供する事を目指している。

●交流する相互の学生が、眞の両国間の懸け橋となる人材を目指し、双方の文化及び言語について高いレベルで習得する計画

東北大学では、ペンシルバニア州立大学との交換留学プログラムに加えて、博士課程の学生の共同教育を行う覚書を交わし、質保証された学位プログラムの準備が整った状況にある。カリフォルニア大学との間の大学間学術交流協定でも、授業料不徴収協定に基づく交換留学プログラムの覚

(大学名:関西大学、東北大学、千葉大学)(タイプ:B)

書を交わし、単位互換をベースとした学生交流を双方向に30人規模で実施してきている。博士課程での共同教育プログラムおよび超短期の派遣プログラムも立ち上げており、多角的な学生交流プログラムを展開してきている。

千葉大学では、他の大学では実施することができないようなユニークなプログラムを実施する。これはこれまでの COIL-JUSU プログラムをすべて展開するものであり、「植物工場」「都市緑化」「治療学看護」「高齢者介護」などのように、国立大学で唯一の学部や研究科より、プログラムを提供し実施する。一方で、日本文化については、国立歴史民俗博物館の協力によるデジタルヒューマニティーズとデジタルアーカイブの両方を実現し、海外に発信する。

関西大学では、コーネル大学東アジア研究科日本言語文化専修を履修する学部生・大学院生と COIL/VE 型教育実践を数年にわたり継続してきており、双方の文化および言語の相互理解、使用機会の相互提供が生まれている。大半のコーネル大の学生層は、獣医学、情報科学といった理工学専攻の学生であるため、本事業で展開する BM プログラム構築の一環として、これらの学生層が国内の研究所や企業において研究インターンシップを行う。日本国内でのキャリア形成を望む層も少なくなく、彼らが非常に高次なレベルで両国間の架け橋となる人材として活躍してくれることを期待している。

【計画内容】

○補助期間内に共同学位プログラム（JD）を構築する計画

千葉大学と関西大学では、国内初の国立一私立一米国大学のトリプル・ジョイント・ディグリー・プログラムを設置する。このプログラムは、そのプログラム設置の難度別に以下の 6 段階になるが、本事業期間中に徐々に達成し、最終的にはこのいずれも設置する予定である。

（レベル6） 学部：国際ジョイント・ディグリー・プログラム

関西大学ビジネスデータサイエンス(以下 BDS)学部—千葉大学国際教養学部と米国大学 Japanese Studies 学部(検討中)

学部における4年課程| ※現時点で規定がないため、2大学間の JD の基準を適用し構築

（レベル5） 大学院：国際ジョイント・ディグリー・プログラム

関西大学 Global & Area Studies(以下 GAS)研究科—千葉大学総合国際学位プログラム— Japanese Studies 研究科(検討中) 大学院修士(博士前期)課程における2年課程

※現時点ではルールが存在しない(※2大学間 JD の基準を適用し構築を検討する)

（レベル4） 学部：ジョイント・ディグリー・プログラム+米国大学履修証明プログラム

関西大学 BDS 学部—千葉大学国際教養学部+コーネル大学アジア研究科履修プログラム他(予定)
学部における4年課程である 国内大学のみ JD + 米国大学履修証明

（レベル3） 大学院：ジョイント・ディグリー・プログラム+米国大学院履修証明プログラム

関西大学 GAS 研究科—千葉大学総合国際学位プログラム+FIU Asian Studies Program (MA) 履修プログラム他(予定) 大学院修士(博士前期)課程における2年課程 国内大学のみ JD + 米国大学履修証明

（レベル2） 学部：メジャー・マイナー・プログラム+米国大学履修証明プログラム

関西大学 BDS 学部(メジャー)—千葉大学国際教養学部(マイナー)+FIU Asian Studies (BA) 履修プログラム(予定) 学部における4年課程 国内大学のみメジャー・マイナー+米国大学履修証明

（レベル1） 大学院：メジャー・マイナー・プログラム+米国大学履修証明プログラム

関西大学 BDS 研究科(メジャー)—千葉大学総合国際学位プログラム(マイナー)+Asian Studies (MA) 履修プログラム他(検討中) 大学院修士(博士前期)課程における2年課程

国内大学(院)のみメジャー・マイナー+米国大学履修証明

○日本人学生と外国人留学生がチームを組み、アントレプレナーシップの醸成に資する実践的なプログラムを行う計画

関西大学が主体となり開発し、3 大学が参加するプログラムとして、アトリエ MCP の Room (Sustainability) の 1 つとして、「Entrepreneurship Camp」コースを想定している。アトリエ MCP は、日本人学生・外国人留学生共に参加できるコースであり、この科目では特に混合チームを意識的に組織形成し、初めからグローバルな視点に基づいたアントレプレナーシップの醸成を図るものである。以下、本事業において新たに計画しているコースの概要を事例として記載する。

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

AI x Aging Society for Business and Entrepreneurship (AI×エイジング ビジネス・アントレプレナーシップ社会)

AI×高齢化社会と題したオンラインプログラムで、IIGE と株式会社 Ludus Labs が共同開発した、米国の大学の結集を目指す「Entrepreneurship Camp」コースを前形にする。日本、米国、その他の学生が COIL 型異文化コラボレーションに参加し、AI 技術を融合させた日本の高齢化社会に対する課題を共に考え、解決ビジネスを創造する。「AI×高齢社会」プログラムは、4 週間のオンラインプログラムとし、受講生を対象に AI 技術を活用した革新的なソリューションの開発を目的としたビジネスモデルを考えていく。4 週間スケジュールにおいて、毎週 90 分のセッションが計 4 回バーチャルセッションとして実施される。プログラム期間中、学生は異文化交流の場においてのメンターやゲストスピーカーと交流する機会がある。最終発表および途中経過のグループ活動においては、メタバースを活用したバーチャルコングレス形式を採用する。これらの活動は、本事業において新たに JV-Campus 上に開発するシステムを活用する。

AI×Aging Society for Business and Entrepreneurship (JIGE と (株)Ludus Labsによる共同開発4週間オンラインプログラム)



東北大では、ワシントン大学と共同連携して設置した AOS を中心として、国際的な産官学連携を深化させて、外国人と日本人が組んで行う国際共修アントレプレナーシッププログラムを立ち上げ、オンライン活用を含めて①アントレプレナーキャリアデザイン教育②プロトタイピング（試作）教育③研究シーズ発スタートアッププラン構想教育を行う。ワシントン大学のあるシアトルには多くの IT 企業やスタートアップ企業があり、AOS を介した連携により、ニーズ探索、プロトタイプ、ビジネスモデル構築、モデルのテストを行い、スタートアップを設立するまでの一連のマインド・スキルを習得する連携プログラムを創設する。さらに、在シアトル日本国総領事館やシアトルの民間企業などとの連携を強化することを目指していく。

○カーボンニュートラルや SDGs、防災・減災といった世界的課題解決に向け、外国人留学生と日本人学生が主体となり、地域・社会・企業と連携する計画

関西大学が主体となり、他 2 大学も取り込んで展開する取組としては、株式会社共立メンテナス（学生寮）RA 制度とコラボした地域課題解決型 PBL プロジェクト（Japan BOLD プログラムの一環）が挙げられる。RA（レジデントアシstant）制度で参集したリーダー格の学生層（日本人学生）と、来日し寮に滞在する外国人留学生が主力となって行う産学地連携のグローカル課題解決アクション推進プロジェクトである。「学生会館ドーミー」を展開する株式会社共立メンテナスでは、学生同士が刺激し合え、コミュニケーションを創出する「学びと育成の場」を目指し、RA 制度を導入、現在では約 120 名以上の RA が様々なドーミーで活動している。

関西大学理工学研究科の研究者が関与し 2019 年に起業したスタートアップ INNOQUA 社でのリモートまたは長期実務型インターンシップでは、「海洋生態系」「SDGs 推進」「Deep Tech」の共同研究活動実践ができる。留学を経験した日本人・外国人学生のリモートおよび渡航型インターンシップを、3 大学にて修学する学生層に提供していく (<https://corp.innoqua.jp/recruit/>)。以下、INNOQUA 社でできる活動の事例を記載する：

- (i) 中等・初等教育などにおいて SDGs 理解や海洋生態系の理解を推進する教育活動
- (ii) クライアント企業の依頼に応じた海洋生態系実験環境の制作とそのメンテナンス
- (iii) 海外 Deep Tech 関係の企業との将来的なカーボンニュートラル事業企画に関する提案

株式会社 ZOZO(E コマース)と連携したデジタルマーケティング・テクノロジー研究・プロジェクト型イン

(大学名：関西大学、東北大、千葉大学) (タイプ：B)

ターンシップは、千葉大学が主体となり進める。本インターンシップにおいても、サスティナ・ファッショントといった SDGsコンセプトを取り扱う。これらの活動にはすべて日本人学生・外国人留学生双方が参加可能である。

○AP（アドバンスト・プレースメント）科目の導入

東北大学では、オンライン教育を活用した国際学士課程の予備教育（受入）と入学前国際研修（派遣）を AP（アドバンスト・プレースメント）科目として統合し、入学後の単位化を図る「高大連携予備教育プログラム（新設）」が展開する。

千葉大学では、これまで実施してきた高等学校への開放授業を拡張し、実施していく。開放授業の多くは、言語や文化に関することが多かったが、そこにCOIL/VEのシステムを導入する。これにより、18以上のプログラムで実施する。さらには千葉大学が昨年度から導入しているバンチプログラムをもとに、4単位以上、4科目以上の科目群で、同一の専門領域の科目を提供する。

また、高大接続としての、アクセラレーション・プログラムや、高校生理科研究発表会なども利用し、多角的に AP（アドバンスト・プレースメント）を実施する。

関西大学では、2024年開始研究科、構想中の新設学部において、アトリエ MCP 他本事業で開発するオンライン（COIL/VE型科目を含む）履修科目を入学後単位認定する研究科 AP と学部 AP の2つを進める。また、千葉大学と実施する国私共同学位プログラム（大学院）においても、入学前に履修した、オンラインコースのデジタル履修証明（本プログラムが指定するコースに限定）を持って一定単位数を入学後に認定する計画である。

○国内連携大学・海外相手大学や機関等と協同し、学修歴やインターンシップ等の正課外の活動歴等のデジタル化、マイクロクレデンシャルを進める計画

様式 1-④-2 の記載にある学生主体の活動（ASEFYL プログラム、World EXPO2025 でのアメリカパビリオン等におけるインターンシップ活動、Japan BOLD Program 等）の参加については、その中で展開する学習総量を明示したメタデータを付記した上で、オープンバッジ形式のデジタル証明を発行する。

その他、様式 1-④-3 に記載した JV-Campus を活用した学習プログラムの取組（海外大学および国内大学における活用）、様式 1-⑤に示した質の保証を伴った大学間交流の枠組み（高校生層を対象とした履修コースや、アトリエ MCP コースのマイクロクレデンシャルコース化）についても、それぞれ非伝統的な学習形態を取るものであるが、その履修や活動履歴をデジタル化・マイクロクレデンシャル化する計画である。なお、様式 9-10において示したように、マイクロクレデンシャル化を推進する上で、JV-Campus 等の組織と足並みをそろえ、広く認められた規格の策定にも参画し、「ディグリー・ミル」（実際に就学せずとも金銭と引き換えに高等教育の「学位」を授与すると称する機関・組織・団体・非認定大学のこと）のような形骸化が起こらないよう、この活用に貢献していく。

○国際共同研究や共同学位等の土台となるような、通常の大学間交流を超える総合的・互恵的な関係性を持つ海外相手大学との戦略的な国際ネットワークやパートナーシップを構築する計画

関西大学では、クレムソン大学（South Carolina）Department of Bioengineering とコーネル大学（New York）獣医学研究科等との理工学研究科ラボ間の関係を活用し、COIL/VE型オンライン共同研究プロジェクトを計画している。この一環として、互いの研究ラボにて、日米の博士課程の学生が数か月滞在し、対面でもプロジェクトを継続遂行する。本共同研究+ラボインターンシップ型 BM プログラムのスキームは、本事業のこの 2 大学に留まるものではなく、海外相手大学にも隨時紹介し、補助事業期間中にも新たな展開先を開拓していく。

千葉大学では、融合理工学府、園芸学研究科が中心となり、研究の公表を実施する。ドクトラル・コロキウムの良いところは、様々な複数の専門領域の学生が一丸となり、多角的に研究を理解するとともに、新たな研究方法について提案することにある。博士課程になると、極めて専門的な領域が多くなりすぎて、他の学生が理解できないようなことも多いのが普通であるが、ドクトラル・コロキウムによって、研究の分かりやすさについても検討することができ、これらをオンラインやオフライン COIL のような共同学習として実施できればより良い博士の研究になり得ると考える。

東北大学ではカリフォルニア大学との間で、交換留学や、海外での研究、国際学会への参加や発

表等を志す学生のために、夏季オンライン研修で、英語でのコミュニケーション力と世界の時事テーマを学び、春季の現地研修でライティングを学びつつ、実際の授業聴講、研究室訪問、Startup Center でのセミナーや活動への参加、シリコンバレー研修を通して、カリフォルニアの起業の実際に触れる機会を提供するプログラムを共同企画している。また、ペンシルバニア州立大学との間では単位互換をベースとした学生交流に加えて、College of Arts and Architecture および College of Mineral and Material Scienceとの間の Jointly Supervised Degree プログラムによる大学院生の共同指導による博士学位課程での共同教育を実施する（※JSDは、学位授与時に共同始動した証明書を発行するプログラムであり、共同学位ではない）。

○アウトカムに関する指標について、他大学の参考となる指標を設定する計画

本事業の連携3大学が共通して活動する取組は、Blended Mobilityの形態を次世代の国際教育の在り方として波及・定着させること（アウトカム・国際教育レベル）を念頭に置く。本取組では、言語・文化学習といった、国際交流学習の根幹をなす学びを推進するだけではなく、その基盤を前提とし、各専門分野における共同研究活動や、インターンシップ活動、そして高校生から社会人層に必要なリスクリミング・リカレント教育実践活動（アウトプット）に至るまで、すべての国際教育活動において、オンライン化・デジタル化した実践の有機的な融合を進める。この徹底したモデル形成は、これから社会（世界）のデフォルトが、デジタル技術がもたらす、多様な人間が主役となる社会の実現(Society5.0)となる（アウトカム・社会レベル）につながるためである。これを踏まえ、本事業が計画する指標は、5年間の期間を通して、従来型のオンライン型教育のみの活動や、渡航留学のみの国際教育活動が、①BM型として双方を有機的に活用する教育プログラムへと変容していくことを目指すものとなっている。

また、本事業が推奨したい②オンライン型教育の実践の在り方についても、次世代に適性を持つ人材資質をしっかりと生み出すことができる設計になっていなければならない。STEAM教育の重要性が再度高まっているのは、AI生成等デジタル革新社会で生きるからこそ、人間知能(human intelligence)、例えば想像・創造力、共感力、問題発見・解決力、美徳等の価値観の醸成が、今まで以上に必要となったからである。これを実現させる上で、オンライン型・一方向型のオンライン教育の活用では、次世代社会の人材に必要なデジタル変容した社会下で「人間の知性と能力を最大限生かした」活躍ができる適性を育成することは不可能である。②の実現は、従来の教育をアンラーン(unlearn)した、教育パラダイムの転換と改革が必須であり、この転換も重要なアウトカムであると言って過言ではない。

さらに、本事業の活動のもう1つの柱となっている③学修歴やインターンシップ等、正課外の活動歴等のデジタル化やマイクロクレデンシャルの推進も、単純に紙をデジタルにするだけの事象ではなく、そのデジタル化した情報がどのように個々の人生設計・キャリア設計において従来存在しなかった使い方ができるようになるのかを示唆するものである。AP制度や、国をまたいだ異なる教育機関への編入、共同学位構築などが、この取組の実現によって有効に活用される中期アウトカムをもたらす必要がある。

本事業においては、COIL/VE型学習活動を行う「アトリエ MCP」をはじめ、従来であれば正課科目ではない学習活動を、マイクロクレデンシャル化したコースとして整備し、学習者の修得した能力やスキル等、保証された評価の下授与されたクレデンシャルについて、入学後の単位としての認定など、マイクロからマクロ学位への活路を創出する。また、非伝統的な国際交流学習や活動（インターンシップ等）について学修歴をデジタル化し、その活動の内容や採用された評価基準、学習者のパフォーマンスの記録などを安全かつ偽証のない手法で閲覧できるようにすることで、個々の学習者のプロフィールをより総括的で、なおかつ信憑性のあるものに作り変えることができるようになる。プラットフォーム拠点として JIGE が掲げる指標は、上記のアウトカムの実現を導く目的を持ったものとなっている。具体的には、多様な BM プログラムのケースモデルの構築と実装を、3大学連携、各大学の取組として数値目標を設定して活動する他、オンライン型教育の質向上を図る担い手の研修プログラムの提供に関する指標の設定、リモートまたは渡航型インターンシップ、学生主体の交流が集う等の活動歴のデジタル履修歴証明化などがその事例となっている。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備【①～③合わせて 8 ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

【関西大学】

- 国際部に JAOS 認定留学カウンセラーを配置し、一対一の留学カウンセリングを通して学生の学習意欲・関心に基づく留学実現を支援している。併せて、留学経験者が「学生留学アドバイザー」となり、留学実体験を留学希望者に伝え、身近な相談役として留学相談に対応している。情報提供としては、すべての留学プログラム(国際部、学部・研究科が実施する留学)をウェブサイト「Global Navi」に掲載し、留学先や奨学金・経済支援制度を含む総合的な留学情報を常に更新、公開している。Mi-Room(Multilingual Immersion Room)では諸外国語でコミュニケーションを実践できるセッションを開催し、留学を検討している学生や留学前の学生の外国語運用能力の向上サポートを行う。また、共通教養科目の「グローバル科目群」内に英語開講科目を設置し、日本人学生と留学生が共修する学習環境を整備している。
- 渡航前の学生には、危機管理セミナーを受講必須とし、海外で起こりうる危機事象(盗難・窃盗、ドラッグ、ヘイトクライム、交通事故、感染症、賠償事故、テロ、災害、性暴力等)とその回避方法について解説。学生の危機意識とリスクマネジメントの知識を高める。留学予定の学生には、国際部での留学相談のほか、教務センターでの留学先・帰国後の履修相談、キャリアセンターでの帰国後の就職活動やキャリア相談に対応し総合的に支援している。特に、留学によって履修・就学計画に支障が出ないよう、中長期での留学予定者にはラーニングアグリーメントとして留学中に履修を希望する科目と本学での単位認定の互換性について教務担当者と相談し、留学後から卒業までの履修計画を立てることを出願時の条件としている。
- キャリアセンターと各種産業界との連携による国内インターンシップ提供に加え、中長期留学プログラムでは、インターンシップや職場体験など就業体験ができる留学先を複数用意し、国内外での就業体験の機会を創出している。留学渡航前の各種オリエンテーションにて、現地で行われる就職説明会の情報提供を行う。留学帰国者には、留学帰国生を専門とするキャリアカウンセラー(国家資格2級キャリア・コンサルティング技能士)を招き、留学経験を就職活動に活かすための振り返りワークショップを実施し、留学成果の言語化を行うとともに、エントリーシートや面接での表現力を涵養する。

【千葉大学】

日本人の派遣については、以下三重の体制をとっている。

- 教員による留学ケア** 留学する学生の留学先との適性などを確認するとともに、それに必要な他の知識についての履修なども促している。各教員が学生それぞれの適性を測ることによって、プログラムそれぞれへの適性、留学先との適性などを判断する。
- SULAによるケア** 2番目は、SULA(Super University Learning Administrator)による相談がある。SULAは SGU の開始後に新たに設置した学務系専門特化型職員であり、学修支援を中心に学生とのコミュニケーションを図っている。特に留学に関しては、様々な知識を有しており、学生に適した留学先の提案や、新たな留学先の発掘などを行っている。留学前のこれらの相談に加え、留学中に学修及び生活面の支援を行っている。留学後には、留学フォローを行い、留学の成果を最大限に活かせるような履修や専門学習の提案、さらには、2回目、3回目の複数回の留学の推奨を行っている。
- 留学生課による対応** 留学生課では、留学における「留学前」「留学中」「留学後」すべてのプロセスにおいて、様々な支援を行っている。

留学前の対応については、留学中に起こり得る様々な危機に対する資料提供や危機管理セミナーの開催、OSSMA、たびレジ、保険加入の3点セットの提供を徹底するとともに、留学中のコミュニケーション方法の確認を各大学の窓口と密な連絡を取りながら行っている。留学先とのラーニング・アグリーメントの確約も必ず行っている。

留学中においては、SNS を用いたネットワークを活用し、科目履修などに関する相談、単位取得状況の確認など、留学生課を中心に対応している。また、留学中のメンタルケア、生活面、環境面、食事等の確認を実施している。留学後の対応についても、修学状況の確認、例えばスムーズな復帰ができているか、単位の互換などもスムーズに行っているかなどのフォロー・アップ確認を行っている。

このように、教員・専門職員・留学生課の三重の体制で日本人の留学の環境整備を実施している。

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

【東北大学】

- 2018年度に「東北大学学生の国際交流に係る危機管理マニュアル」を整備し、渡航前のリスク教育、渡航後に起こりうる事故等への組織的対応について定めている。学期単位の交換留学はもちろんのこと、短期海外留学プログラムに至るまで「派遣前研修プログラム」の時間を設け、本学教員のほか、外部の専門家(海外留学生安全対策協議会)を招いての海外での危機管理対応に関する講義を実施している。そのほか独自に『東北大学生のためのセーフティハンドブック』も発行し安全対策に対する教材として配布・活用している。以上のとおり学内での危機管理体制は既に整備されている。
- 全学的推進組織であるグローバルラーニングセンター(GLC)は「留学アドバイジング」をすべての学生に対して開放・提供している。GLC教員(各地域ごとに配置)が留学前～留学中～留学後に至るまで各学部・研究科と連携しながら留学に関する様々な疑問に解決できる体制を整えている。また、教育・学生支援部留学生課も上記アドバイジング支援のほか、東北大学が提供する奨学金や現地大学からの奨学金情報、生活・宿舎情報などに学生への相談に随時対応している。さらに、留学経験をもつ学生による支援組織:「グローバルキャンパスソポーター(GCS)」も組織し学生同士によるピアサポート体制も充実している。留学時までの英語力向上にあたっては課外の英語学習支援として「東北大学英語リッシュアカデミー(オンライン)」による集中的英語講座のほか、グローバルラーニングセンター主催 TOEFL ITP®テストも定期的に実施している。
- 2017年度にラーニングアグリーメントとして「事前確認シートを活用した交換留学時等の単位互換・認定マニュアル」を全学的に整備し、留学取得単位の本学における単位互換・認定可否を事前に学生と大学双方が確認し帰国後円滑に単位互換・認定申請する仕組み・環境を整備している。
- 毎年4月後半に「東北大学留学フェア」を開催し、本学が提供する各種留学プログラムの紹介のほか、本学を卒業しグローバル企業等で活躍する海外留学経験同窓生を招いた講演会などを開催するなど、海外留学ならびに海外インターンシップの機運の醸成を図っている。

【計画内容】

【関西大学】

本事業では、COIL や JV-campus を活用した学びに加えて、短期・中期・長期の海外留学を通して、主体性・コミュニケーション力・対応力など多様な能力の開発が企図されており、それぞれのニーズに合った指導が必要になる。これには、すでに国際部に配置されている、一対一で対応する留学カウンセラーを通じてニーズに見合った情報提供や履修指導などを継続しつつ、中長期留学のサポートを充実する。以下、具体的な内容を記す。

- 無理なく海外のアカデミックな環境に入っていくための準備として、英語で開講され、留学生との共修の場ともなっている「グローバル科目群」の履修を強く促し、留学生との交流の場である Mi-Room にも誘い、正課および課外の学習・交流活動を通じてレディネスを高める。
- 海外での生活で欠かせない危機管理能力についても、従来から交換派遣・認定留学・短期語学研修に参加する学生を対象にレディネスセミナーを実施しており、本事業で留学を予定している学生に対しても、この受講を必須とする。なお、このセミナーでは危機管理だけでなく、多様なプログラムをオンラインを中心に、場合によっては対面も交えながら、学生の指導を行なっている。ちなみに、2023年度(春)は、「危機管理セミナー」に加えて、「海外体験をキャリアに活かす目的確認ワークショップ」、「留学前に知っておきたいジェンダー・人種と交差性の話」、「メンタルヘルスセミナー」、「TOEIC® セミナー」を、内外の講師を招いて実施する。今後もメニューの骨格はそのまま継続し、本事業にも適用する。さらに、このようなセミナー・ワークショップとあわせて、国際部教員によるオーディマンド式のレディネスセミナー(1本90分)も実施しており、「留学の心得/カルチャーショックとは」、「海外体験で学ぶ」、「日本文化を通して自分を語ろう」、「留学前準備としての語学学習」の視聴を必須とする。こうした諸活動を通じて、本事業で留学する学生にも多面的な観点からサポートを継続する。
- 留学は、留学前・留学中・留学後が1本の線で強く結ばれている必要があり、キャリアカウンセラーを招いて実施している「振り返りワークショップ」も、本事業で活用する。また、一般に、海外留学といえば言語運用能力の向上だけに注目する傾向が強いが、本学ではこれまで BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory)を活用して、学生の多様な価値観の変化を測定しており、得られた知見をもとに、本事業で計画されているキャリア形成サポートにも活かす。

【千葉大学】

- **新たなラーニングプロセスの提供 教育 DX** 千葉大学は現在学生ポータルを中心として教育及びその支援を行っている。本授業で推進する COIL/VE は新たな教育システムであり、教育プロセスそのものが今までとは全く異なっている。そのためこの学生ポータルにおいて COIL/VE を履修する学生用のシステムを構築し、その学習経過全てがデジタルで見られるようなシステムを構築する予定である。
- **JD・メジャー+マイナーの学位の重要性の波及** 本事業で設置しようとしているジョイント・ディグリー・プログラムやメジャー+マイナー・プログラムは、COIL/VE のもとでバーチャルとリアルの連携により成り立つものである。そのため、これまでの学習方法とは全く異なる方法によって JD やメジャー+マイナーを獲得できると言うメリットがある。これらのメリットは学生に戦略的に広報しなければ、全く伝わらないと考えている。そこで本事業ではこれらの学位獲得の具体的な学習プロセスを提示し、それらを学生に波及させ JD 及びメジャーマイナーの学位取得を促していく。最初にサクセス・モデルを構築し、3 大学から全国に広げる。

【東北大学】

- **危機管理システムの強化** 本部と学部・研究科との連携の下、緊急連絡網を強化し、海外危険情報のほか感染症危険レベルも考慮した危機管理マニュアルをバージョンアップのうえ整備する。教職員による定期的な危機管理研修を実施する。
- **現地連携担当者の確保** 北米との連携を強化するため本補助金で雇用する教員を中心に本学がこれまで構築してきた北米連携大学との人的ネットワーク強化を特に現場レベルで更に強化する。
- **ラーニングアグリーメントの実質的運用** 海外相手大学のカリキュラムやアカデミックカレンダーの十分な事前把握により、ラーニングアグリーメントの実質的な運用を図り「留学をすることによる卒業への影響・不安」の解消に資する。
- **海外インターンシップの機運の醸成強化** 本事業採択を契機に、海外協定大学と連携したインターンシップ開発や国際共同研究等を活用したインターンシップの開拓を更に進める。また、研修成果を卒業・修了単位として評価する全学的仕組みも整備する。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

【関西大学】 関西大学では、国際教育グループ(受入留学生支援チーム)において「外国人学生の受入のための環境整備」を担当しており、18名の担当スタッフの他、DIASS(Division of International Affairs Student Staff)と呼ばれる学生スタッフを含めた支援・相談体制を整備している。奨学金をはじめとする重要な情報については、海外の各大学の窓口と来日前に連携を取る他に、来日(入学)後のオリエンテーションで情報提供をしており、不参加の学生に対しても別途個別対応を取ることで、確実に情報が伝わる体制を取っている。また、日本語会話プラッシュアップセミナーや日本語アカデミック・リテラシー養成講座、日本語チューター・チューティー制度など、課外での日本語サポートプログラムを充実させている。この他、グローバルバディープログラムや臨床心理士による留学生向けの心理カウンセリング(英語対応可)等による生活サポート体制に加え、行政書士法人との顧問契約による連携体制を取ることで、合法的かつ適切な在留状況を維持するための専門的な相談体制を整えている。

外国人留学生の適切な在籍管理については、学部ごとに成績不良者への面談等の対応を取るほか、外国人留学生には専用のフォーム(学内の Wi-Fi 環境から接続可能)による在籍報告を義務付けており、報告のない学生には個別で連絡を取り状況を確認するといった対応を取っている。この他にも、学生のアルバイト情報や卒業後の情報登録を義務付けており、適切な在籍管理を継続する体制を整えている。出入国在留管理局より、外国人留学生の在籍管理が適切に行われているとして、「適正校」に選定されている。

交換受入留学生の履修指導・教育支援体制については、留学生一人ひとりに国際部教員をアカデミックアドバイザーとして配置し、受入期間中の修学等における相談窓口としている。留学生の来日後に日本語プレイスメントテストを実施し、留学生の日本語能力を測った上で、日本語科目のレベル分け、学部専門科目の履修可否の判断等を行い、その情報を基にアカデミックアドバイザーとのオフィスアワーを通じて

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

履修指導を行うことで、留学生各々の能力に応じた科目履修につなげている。

本学が所有する国際学生寮(4寮)においては、全ての寮に RA(レジデントアシスタント)を配置し、日本での日常生活における様々なサポートを行うほか、RA が企画する交流イベントを通じて、日本人・留学生双方の異文化理解の促進に寄与している。

留学生の就職支援においては、本学キャリアセンターでのサポートの他に、本学に事務局を置く「留学生就職支援コンソーシアム SUCCESS」を通して、同コンソーシアムに参画する関係企業・団体との連携により、キャリアデザインやビジネス日本語教育のみならず、インターンシップ機会の提供を行っている。

【千葉大学】

- ISD(International Support Desk)では、16名のスタッフが常駐し、外国人学生の受け入れの支援を実施している。このISDでは、学習に関する支援ばかりでなく生活の面においても常に支援をしている。多くの職員が、多様な経験を有しており様々な国からの留学生に対して対応している。また日本語、英語ばかりではなく、中国語、韓国語、ドイツ語、スペイン語など、様々な言語で対応することが可能となっている。
- 奨学金をはじめとする様々な情報についても、このISDで対応する。また 奨学金等の情報についてはウェブページにも掲載しており、インターネットを通じて様々な情報が得ができるようになっている。
- 日本語の学習についても、ウェブによる登録が可能となっており、5つのレベルの日本語のコースを準備しており、各自の日本語の習得状況に応じて履修することができる。
- 寮としては、国際交流会館があるとともに、日本人学生との混住寮も準備されている。また、大学周辺には十分な宿泊施設があり、短期から長期に至るまで十分に学生の受け入れが可能な環境となっている。10年以上前より近隣の住宅公団のアパートを借り受け、シェアルームとしての利用も進めており、宿泊施設については充分な個数が用意されている。
- 長期の交換留学生については、学生のチューターが必ず1人つき、生活のサポートから学習のサポート、授業の選択等の学習に関するサポートに至るまで、様々な相談に対応している。チューターは、基本的にはそれぞれの専門領域の学生から選抜される。したがって、今回の事業の対象となる学生もそれぞれの専門領域からのチューターである。
- 危機管理についてもISDが対応している。万が一事件事故に巻き込まれた場合でも、24時間体制でISDが対応できるように、連絡窓口が整備されている。以上のように万全な対応が既にできている。

【東北大学】

- すべての外国人学生は、学則もしくは学内申し合わせ等に従い学部・研究科・研究所等で必要な審査の後、受入れ許可と在留許可に係る手続きを行っている。在留資格申請は国際サポートセンターが一元的に管理している。入学後、外国学生は「東北大学学務情報システム」で在籍管理され、休学・退学といった学籍異動も含めシステム管理のうえ隨時見える化される体制が整っている。出入国在留管理局より、外国人留学生の在籍管理が適切に行われているとして、「適正校」に選定されている。
- 全学的推進役であるグローバルラーニングセンター(GLC)のほか、各学部・研究科にも国際交流室が設置され外国人留学生に対する渡日前からのサポート体制が整備されている。また、2022年度から新たに留学生ならびに研究者の一元的な生活支援のための新たな組織として「国際サポートセンター」が創設された。入学者には必ずチューターが配置されるとともに、修学面や留学生活の悩みに対応する多言語対応の「学生相談所」が全学ならびに部局にも設置されている。さらに、留学生と国内学生の相談員が留学生からの質問に答える「オンライン留学生ヘルプデスク」も2キャンパスに開設し気軽に相談できる体制も整備した。
- 国内最大規模の国際混住型学生寄宿舎(ユニバーシティハウス)を整備し、その数は1720戸にのぼる。新規渡日留学生は希望すればいざれかの本学寄宿舎で生活できる収容力を誇っている。就職支援の取組としては、日本で企業への就職や起業を目指す、外国人留学生を対象としたサポートプログラム「DATEntre 東北イノベーション人材育成プログラム」を実施している。
- 東北大学で履修可能な科目についてシラバス(日英)で公開しており留学前から科目に関する情報提供とラーニングアグリーメントが可能な環境となっている。

- GLC ならびに各学部・研究科には履修相談対応可能な組織(国際交流室、教務委員会)があり、すべての大学院生には指導教員が配置され細やかな相談体制が既に整備されている。
- キャリア支援センターでは、日本貿易振興機構(JETRO)とともに、外国人留学生等と外資系企業交流会を例年開催し外国人留学生へのキャリア支援を充実させている。また、日本で企業への就職や起業を目指す外国人留学生を対象としたサポートプログラム「DATEntre 東北イノベーション人材育成プログラム」を東北地域の3経済団体と実施しておりインターンシップ機会を提供している。

【計画内容】

【関西大学】

本事業の実施にあたって、上記受け入れ環境の状況に加え、新たな環境整備として、以下の3点を主に取り組む予定である。

- まず、本事業に関わる①新たな人員の配置(JIGE コーディネーター・アトリエ MCP を担う講師等)の配置である。本事業の実施による外国人学生の受入の拡大に対応するため、本事業に関わる JIGE コーディネーターが JIGE 拠点及び各大学に新たに配置され、アトリエ MCP を担う講師についても国内外の大学で教鞭をとった経験のある教員を配置する。JIGE コーディネーターの内1名は、外国人留学生支援を主担当とし、BM プログラムにおいて来日し関西大学にて修学する層の日々の言語、生活、学習、キャリア形成に関するあらゆるサポートを行っていく。
- 次に、②JV-Campus を活用した準備コースの設置である。様式 1【交流活動②】で言及しているように、本事業に参加する留学生については、MCP コースへの参加、渡航後の生活及びインターンシップ参加に向けた、コミュニケーション能力・外国語運用能力のレディネス向上を目的とした PREP-Room 学習コース、マイクロクレデンシャル日本語学習コースを設置する。特に下記に言及するインターンシップの一部は日本語能力も一定必要であるため、来日前から言語面の能力向上サポートを行う必要がある。これらの準備コースがその大きなリソースとなる。
- 最後に、③国内外におけるキャリア形成サポート活動の実施である。様式 1【交流活動内容③】で言及しているように、本事業では外国人留学生層と日本人学生層双方を対象としたキャリア形成サポート活動を行う。そのための環境整備として、まず、国内の活動に関して、企業と学生の交流会、企業説明会等の活動においては、PASONA グループ、株式会社オリジネーター等の法人協力組織と3大学の産学連携にて実施し、留学生達が参加できるイベントを、年間を通して実施する。この活動についても、JIGE で雇用するコーディネーターを中心に、SUCCESS の活動ノウハウを生かし、東京・大阪・仙台の3拠点にて実施する。次に、国外におけるキャリア形成サポート活動については、日本人留学生が、海外留学中にも参加できるオンライン型および米国現地開催型の【企業×学生交流会】を、海外相手大学とも協業して企画実施する。この実現にあたり、現地アメリカ JETRO 支社や、アメリカ PASONA の協力を得て、在米日系企業や、日本に所在するが、本取組に賛同する国内企業の参加を誘致して実現する。この活動については各地域に所在する日米商工会議所(イリノイ州・ノースカロライナ州等)に協力依頼中である。

以上、3点が外国人学生の受入のための環境整備として、主に本事業にて新たに行うことを計画しているものであるが、その他様々な環境整備、留学生支援を必要に応じて臨機応変に行っていく予定である。

【千葉大学】

- 採択後には、本事業専用の SULA をおく。SULA は、日本人の学生の留学に長けているため、先方の大学の学習にも精通している。そのため協定校の学生に対しても、ある程度の知識を有する協定校の授業カリキュラムをもとに、日本での履修モデルを提案することができる。このように、グローバルな知識を持った専門職員である SULA は、本事業のように様々な形態での学習が可能な複雑なプログラムであっても、学生に対して迷うことなく提案できる人材である。
- 協定校から派遣される学生は、プログラムの中でも優秀な学生が選抜されて派遣される。そのため様々な領域のプログラムを履修したいと考えている学生が多い。本事業では JV-Campus を自由に利用させることで、多様なプログラムを履修することを提供する。一方で、知識の獲得によるオーバーロードにならないように、学生の教育状況を確認し適切な支援を行っていく。
- 留学生に対してのキャリア支援は、極めて重要な課題である。これまで千葉大学では修士課程や博士課程の大学院レベルでのキャリア支援が主体であった。しかし、このプログラムによって、学部にお

(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

けるキャリア支援が拡張されるとともに、大学院における博士課程におけるキャリア支援も拡張される。このように多様な学位のレベルでのキャリア支援を実現することが重要であり、関西大学とともにキャリア支援については十分な準備を行い3つのレベルでのキャリア支援に展開していく。

【東北大学】

- **在籍管理の見える化促進** DX化をさらに推進し、留学生の在籍状況（国別・課程別）ほか入学から卒業までの流れ等がさらに可視化される仕組み（東北大学ダッシュボード）を構築する。
- **国際サポートセンターを中心とした留学生支援の更なる拡充** 2022年度に新設された国際サポートセンターが渡日前からの情報発信や入国に至るまでの諸手続き、入国後の生活立上げ、ハウジングに至るまで一元的に取り扱うことにより部局によってサービスが不均衡にならないよう体制を整備する。
- **教職員による共同指導体制の確立** GLC ならびに各学部・研究科の指導教員体制はもちろんのこと、事務組織の全学的推進役である教育・学生支援部と各学部・研究科の事務部（教務担当係、国際交流室）も受け入れ学生を修学面で指導できる共同指導体制を確立する。
- **自治体、地元企業と連携した就業体験機会の提供** 本学は仙台市や宮城県と人事育成に係る包括的連携協定を締結するとともに、東日本大震災からの復興と地域活性化の更なる加速化へ寄与を目的に福島県との包括的連携協定を締結している。これら自治体との外国人の活用を目的としたインターンシップも順次計画中である。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

【関西大学】

- 現在、関係大学（協定大学）に対する日常的な連絡はメールを使用するが、緊急時など必要に応じて国際電話その他のツールで常時連絡が取れる体制を整備している。また、NAFSA, EAIE, APAIE 等国際教育関連の会議には毎年出席し、協定大学のコンタクトパーソンとの関係構築の強化を行っている。なお、交換受入留学生の募集時には、協定大学を通じて学生募集を行うため、学生を派遣している協定校とメールでの連絡が取れないという状況は発生しない。
- 派遣学生の安全管理については「学校法人関西大学危機管理規程」に則り、『海外事故対応マニュアル』を整備し、海外における事故等の緊急事態に対する方針や体制、対応等のスキームを構築している。海外での事故発生時に関係者が適切に、初期対応にあたれるようシミュレーション訓練も実施している。派遣学生への日常のサポートについては、国際部の専任教職員が連携して臨むとともに、（株）JTB 及び（株）ジェイアイ傷害火災保険と連携して、24 時間日本語での相談対応が可能な「関大トータルリスクマネジメントサポート」を導入し、学生のトラブルに迅速に対応している。メンタル面での相談については、別途カウンセラーの予約を取り、カウンセリングを提供している。有事の際の安否確認については、日本アイラック株式会社による「安否確認システム」を導入している。
- 外国人留学生の安全管理については、来日時のオリエンテーションにおいて学生証と共に、夜間、日祝、その他大学の休業日の緊急連絡先が記載されたカードを配布しており、24 時間 365 日緊急連絡が取れる体制を整えている。なお、大半の交換受入留学生が入寮する国際学生寮においても、24 時間体制で管理人が常駐している。

【千葉大学】

- 本事業実施する関係大学（協定大学）には、千葉大学の OB が勤務していることが多い。また直接関係大学だけではなくても、米国に在住する千葉大学の OB のネットワークも存在する。本事業ではこの OB のネットワークを最大限に利用することを前提に協定校との連携を進めていく。派遣学生の安全管理については、先にも述べた通り留学前に 3 つの対応（OSSMA への登録、たびレジへの登録、任意の留学保険への加入）を行うという条件がある。この 3 つをクリアしなければ、留学には行けないと言う設計になっている。留学前には必ずこの 3 つに加入していることを確認し、その上で留学をさせている。また留学する学生には必ず SNS を利用させることで、逐次留学の状況把握を実施している。もちろんメール等による連絡も併用するが、SNS は即時性があり極めて有効な情報連絡手段であるため導入している。

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ：B）

【東北大学】

- 本申請調書に記載の関係大学間は、本学の国際教育交流において長年にわたり重要なパートナー大学として連携してきた大学であり、参加大学の担当教育教職員相互間では、メールやオンライン会議はもちろんのこと、定期的な訪問、国際教育交流団体の年次大会などで常に交流を図っており十分な連絡・情報共有体制は整備されている。本事業採択により更なる連携が加速されることが期待される。
- 東北大学同窓会である「萩友会」には、海外同窓会として、中国校友会、タイ萩友会、ベトナム萩友会など9か国・地域が整備され、現地同窓生とのネットワーク強化、共同ワークショップ開催による活発な研究者交流の実現などを推進している。海外同窓生向けのプラットフォーム(ウェブサイト)を新たに構築し、2021年3月より運用を開始。2022年度には、学内の外国人研究者が出身国(地域)の同窓生と連携する体制(リエゾン・チーム)を構築し、海外同窓生ネットワークの更なる拡大と活発化を図っている。
- 2018年度に「東北大学学生の国際交流に係る危機管理マニュアル」を整備し、渡航前のリスク教育、渡航後に起こりうる事故等への組織的対応について定めている。学期単位の交換留学はもちろんのこと、短期海外留学プログラムに至るまで「派遣前研修プログラム」の時間を設け、本学教員のほか、外部の専門家(海外留学生安全対策協議会)を招いての海外での危機管理対応に関する講義を実施している。そのほか独自に『東北大学生のためのセーフティハンドブック』も発行し安全対策に対する教材として配布・活用している。すべての派遣学生は必要な海外留学保険に加入するとともに、受入れ学生についても外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険(インバウンド付帯学総)への加入を必須としている。以上のとおり、学内での危機管理体制は既に整備されている。

【計画内容】

【関西大学】

- 本事業において、JIGE拠点のオペレーションの一環として、BMプログラムに参加する留学生層(留学前・中・後どれをも含む)のコミュニティーネットワークを、J-CC(JIGE Community Campus)を活用して創設する(様式1④-2も参照)。海外の学生層にとって、関西大学をはじめ他大学に在籍する国内の学生と来日前から繋がっていることは大きなサポートとなる。日本人留学生層・これからBMプログラムに参加する潜在層にも、本キャンパスコミュニティースペースに参加することで、彼らの学習意欲、渡航留学を計画する上でも重要なリソースとなるであろう。これらの意図から、本サポートを事業開始後すぐに導入する予定である。J-CCは、例えば、連携大学キャンパス情報の発信や、各種イベントへの参加通知、テーマや学生達の「バーチャルサークル」の場としての活用なども可能である。本J-CCは、アプリ活用もしているため、スマートフォンからの使用が容易であり、留学中や移動先でもコミュニケーションを継続することが可能となっている。正課で使用するLMSとは異なる「第3のネット上の学生間スペース」として位置付け、JV-campusで共修した者同士が双方向の交流を事業時間外で継続し、様式1(概念図も参照)に記述したドクトラル・コロキウムの教育研究活動から派生して、外部研究助成等の申請を計画する大学院生と研究者(教員)が活用するといったケースも想定される。
- J-CCの参加者層の登録・常時の活発な活動の維持については、関西大学およびJIGEでスタートさせるJapan BOLDプログラム(様式1に記述)のメンバー(有志学生で、3大学の学生寮におけるRA/Resident Assistantを担う学生)達にその役目を担ってもらう。一定の使用数に到達し、JIGEが提供する教育活動のサイクルが一巡した段階で、彼らのリードによって「JIGE学生アラムナイネットワーク」をJ-CC内に立ち上げる。留学後(日本から帰国または留学先から帰国しBMプログラムを完遂した学生層)の学生に登録してもらい、その後の活動のフォローアップを行う他、大学を卒業した後にも連絡チャンネルとしてJ-CCを機能させる。具体的には、J-CCにおいて彼ら自身のビジネスSNS(Linkedin等)との連携を構築し、J-CCアラムナイメンバーの卒業後のキャリアトラックについても追跡できるようにする。なお、本サービスについては、開発及び運営を行っているStudy Abroad Association社と提携し提供する。安全なサーバーを使用し、SAA社の保守・メンテナンスによって、ネット上の炎上やハラスメントといったリスクについても対応を行う。

【千葉大学】

- 千葉大学は本プログラムで5つの大学と連携しプログラムを開発していく。それぞれの大学で6から12のプログラムが実施される。この5つの大学に集約している理由は、それぞれの大学で学部及び大学院レベルでのプログラムを構築することで、極めて集約した中での展開を可能としている。そのため本事業においては、学生の管理危機管理などを含めて連携大学と毎月定期連絡をすることを計画している。
- すでに現在ある校友会のOBネットワークを利用することで、さらなるプログラムの充実を図る。また本プログラムに参加した千葉大学以外の連携校の学生もOBとして扱うことで、OBのネットワークを拡張させる。これらの学生がプログラムに対するレビュー及び提案をすることにより良いプログラムを開発していく。学生からのフィードバックは極めて有効なものであり、本事業においても日本人だけでなく外国人からのフィードバックを受け入れることにより、より充実したそして講座のプログラムを開発し継続して改良していく。

【東北大学】

- 関係大学間での連携強化** 関係大学間で定期的にミーティングを開催し本事業に関連する教職員による連携を強化し合同FD等を企画、実施する。
- 同窓会組織を活用した優秀な留学生のリクルート** 2022年度に創立115周年・総合大学100周年の記念事業の一角として、海外同窓会による活動の一層の促進化が図られるため、上述のリエゾン・チームと海外同窓会の連携を強化したことから、引き続き東北大学への留学促進プロモーションをリエゾン・同窓生ネットワークの主要なミッションの一つとして改めて位置づけ、優秀な留学生のリクルートを進めていく。
- 危機管理システムの強化** 本部と学部・研究科との連携の下、緊急連絡網を強化し、海外危険情報のほか感染症危険レベルも考慮した危機管理マニュアルをバージョンアップのうえ整備する。教職員による定期的な危機管理研修を実施する。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及【①、②合わせて 4 ページ以内】

① 事業の実施に伴う大学の国際化

【実績・準備状況】

【関西大学】

関西大学の国際化は、コロナ禍のインパクトを受けて大きな転換期を迎えた。2014 年ごろから継続して尽力してきたブレンド型学習および COIL を取り込んだ大学カリキュラムの国際化に加え、2021年度には国際教育の DX(デジタルトランスフォーメーション)「KU-DX」を大学の大きなミッションと捉え全学で着手し始めた。2021 年度に「令和2年度大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)」の採択を受け、大阪府下に 5 か所あるキャンパスをつなぎ臨場感のある教室学習を可能とする Global Smart Classroom を設置した。また、学内 LMS に、授業動画収録機能を搭載し、また学習者の活動記録をもとに個人の学びに寄り添うことができる学習環境の整備も進んでいる。このようなデジタル技術の活用を、COIL/VE 実践の海外連携大学にも活用範囲を広げ、国際教育実践をよりインクルーシブに、そしてより多様な地域・国の学生と共に修する機会がキャンパスで日常化する状態を生み出すことが、大学の国際化を推進する上で最優先であると位置づけ尽力している。

KU-DX の実装の一環として、バーチャル空間に 2D アバターで参加し第 3 のワークスペース・オフィスを設けて学生交流やスタッフ間が活動する(1)ovice の採用や、360° 動画等の教材をふんだんに取り込み、利用者が Google Earth のような学習対象エリアを自由に探索することができる(2)360° Global Learning Education (360GLE) 設定を取り入れた教育プログラムの導入、そして COIL/VE 型活動においてもメタバーススペースの活用を積極的に推進している。参考 URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ku-dx/>

【千葉大学】

千葉大学では、第四期中期計画におけるビジョンにおいて、教育の大きな目標として、グローバル・エデュケーションを掲げ、世界に学び世界に貢献する人材の育成をビジョンとして、

- 1 世界をキャンパスに最先端を学修できる優れた教育環境を提供
- 2 グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養
- 3 幅広い教養と豊かな知性を礎とした高度な専門性を養成
- 4 国際未来教育基幹の強化による最高水準の先進的教育基盤を構築

これら 4 つを目標として掲げている。本事業で実施するプログラムは、まさに、「世界に学び」を実現するものである。また、新たな「文理混合のプログラム」となる本プログラムは、千葉大学だけではなく、関西大学、東北大学のすべての学生が参加可能なものである。これは、現在千葉大学が推進しているスーパーグローバル大学創成支援事業「グローバル千葉大学の新生ーRising Chiba Universityー」や全員留学の ENGINE プランと強力に連携しながら進めることができることも強みの一つである。

本学の強みをすべての大学で共有し、3 大学の連携と、横展開により、日本の COIL プログラムの礎になることを目指す。一方、千葉大学の大学間協定締結状況(2023 年データ)では、アジア地域では 165 協定あるが、このうち中国が 58、台湾 26 のところ、インドは 3 である。オセアニア地域では 4 協定、英国は 8 である。これらの国際連携ネットワークも大いに利用し、BM 型プログラムを米国・北米だけではなく、世界規模で実施できるようにする。

【東北大学】

中長期将来構想である「東北大学ビジョン 2030」において、海外有力大学との強い連携のもとでの共同教育の実施や全学的に連携させた包括的な国際化の推進など、大学の国際化に関する戦略が明確に謳われており、本事業は、同ビジョンに寄与する有力なプロジェクトとして位置付けられる。

大学院教育では、「国際共同大学院プログラム」において、ダブル・ディグリー(DD)及びジョイント・スーパーヴァイズド・ディグリー(JSD)プログラムに関する覚書の締結も含め、海外有力大学と連携して国際共同教育を推進しているほか、「卓越大学院プログラム」において、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を行い、高い教育力・研究力を結集した取組を実施している。学部教育においても「東北大学挑創カレッジ」において、TGL プログラムをはじめとする国際通用性のある全学的教育プログラムを展開している。

さらに、世界約 10 か国に海外事務所を設置し、国際交流、教育研究、産学連携活動を推進しており、

(大学名 : ○関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ : B)

本事業の連携大学であるワシントン大学とも、Academic Open Space (AOS)を共同開設し、国際産学官連携共同研究・教育ネットワークを構築している。また、環太平洋圏の主要大学が参加する APRU(環太平洋大学協会)など、研究者や学生の国際交流を目的とした国際的大学コンソーシアムにも参画し、オンライン・対面の両方において、グローバルな共同研究・教育交流の活発化に貢献している。

【計画内容】

国内外の他大学の学生も参加できる取組

JIGE が主体となって実施する交流活動は、プラットフォーム拠点としての役割を同時に備える母体であることから、連携する国内 3 大学に所属する学生層にのみ貢献する取組を創出するというよりは、国立私立、そして地理的な文化背景が異なる 3 機関が取組み実装することで、他大学が参考とし、自大学でも取り込んでいくことができる 多様な Good practice のモデル発信を意識して行う事例となっている。

- 様式 1④-1 に詳細を記載した「アトリエ MCP」は、COIL/VE 実践を複数大学がそのリソースを持ちより、さらにその国際関係のあるネットワークに所属するパートナー大学の学生にその教育の機会を開放する。これにより、より多様な背景を持ち、異なる価値観を持ちよった学生達が集い、その中で日本人学生層も刺激され、切磋琢磨することで自身のマインドセットの範疇を、従来のものからより地球市民レベルの視点に広げる機会と出会いを得ることができる。このスキームは、本事業期間の上半期は 3 大学が主体的にけん引しモデルを確立するために尽力するが、下半期には、他大学（例えは国内の関心のある大学）にも横展開し、第4, 第5の大学機関もアトリエ MCP の新たなコースを提供することができるような発展的なものとして成長させることを想定している。JV-campus において、新たな国際化促進フォーラムプロジェクトとして「アトリエ MCP」を設定するのは、この横展開を見据えている所以である。様式 2④「質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成と拡大」に資する枠組み形成についても、国内外の大学の関与が柔軟に期待できる以下を想定している。
- JIGE が音頭を取り、アメリカ領事館・カナダ大使館（および BCCIE[ブリティッシュコロンビア州国際教育協会]）と連携し日米・日加の大学の新たな国際パートナー構築の機会を提供する取組を、事業期間中に定期的に開催する。単に表面的ないわゆる社交の機会とするのではなく、JIGE では双方の希望による①COIL/VE 型科目の成立、②教員間・職員間で取り組むワークショップ型交流活動、③領事館・大使館と共に主催する互いの大学の訪問・交流事業の企画と実施など、中立な互恵性があり、維持可能な国際パートナーシップ (mutually benefiting/sustainable partnership) の関係構築に貢献するコミュニティ形成を進める。本取組を通して、今般の事業の海外相手大学、海外相手大学間、国内連携大学間のみならず、採択の有無を問わず日米等の高等教育機関の参加が望める。

国内連携大学・海外相手大学も含めた組織的・継続的な教育連携を実施する体制の構築

- JIGE の運営体制として、概念図 N に示した通り、3 大学がそれぞれの人的・環境的なリソースを互いに提供し合い体制を形成する仕組みとなる。2023 年度中に、関西大学千里山キャンパス内に JIGE-Osaka オフィスを Head Quarter として拠点を設置する他、今後の 3 大学および全国へのプラットフォーム拠点機能の展開を視野に入れ、JIGE-Tokyo オフィスを千葉大学墨田キャンパス内にも設置する。物理的な拠点には、それぞれの大学が雇用する JIGE 活動を主な職掌（エフォート）とする①特別任用教員②コーディネーター③教職員スタッフが配置される。
- 大阪・千葉・宮城（仙台）の 3 大学の距離を鑑み、JIGE では物理的なオフィスにおける活動に加え、ovice アプリ等で「バーチャルオンラインオフィス」を設置し、それぞれの大学から実務担当スタッフ・教員が日々「チェックイン」し、作業を協働することができる運営を進める。
- さらには、3 大学の海外拠点や、海外相手大学の協力者などもこのバーチャル JIGE オフィスを活用できるようにして、いわば 24 時間活動可能な、次世代型のチーム形成を実現する。



(大学名：○関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

記準備状況で述べたように、関西大学の DX 構想の一環として、同様の形式のスペースを活用した教育活動実践はすでに経験知がある（上図参照）。



- 最先端の AI 生成ベースの技術を用いることで、多言語対応を伴ったスタッフ・教員間のやり取りも、言語能力の補完を行うことができるため有効である。例えば、zoom や Google Meet（左図参照）に搭載されている自動翻訳の字幕機能は、細かな部分のニュアンスの翻訳は困難ではあるが、参加者間の理解を促進するアシストとして活用できるため（左図参照）、バーチャルオフィスでのミーティングや、学生への発信等、JIGE に従事する者だけで活動が閉じられることがないよう環境整備を行っていく。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

大学のグローバル化に向けた戦略的な国内外への教育情報の発信

連携する 3 大学とも、これまでの自大学の国際化の活動について、大学のホームページや大学総合案内冊子といった媒体により、多言語にて情報発信を行っている。①協定を締結している海外の大学一覧、②これらの大学との教員・学生交流や単位互換、ダブル・ディグリー・プログラム等の実績、および③国内外の大学によるネットワークへの参加状況等、それぞれの情報を以下のリンクから確認することができる。

外国人留学生の受け入れに関する情報についても、入学手続に関する項目や、国際編入に関する制度の情報、入学後の生活に関する項目（宿舎整備、日本語指導、カウンセリング、奨学金情報等）、学位取得後の就職等の状況に関する支援体制や、過去の留学生の就職先等の情報、英語による授業のみで学位を取得可能なコースの設置状況、大学間交流協定に基づく交換留学プログラムや短期留学プログラムの設定状況といった情報を日英（もしくは他言語も可能な限り）で掲載している。

これまでに活用した有効な情報発信・成果普及活動としては、ホームページ、I-Paper のような E ジャーナル配信や、国際ネットワークとの協働を積極的に推進し、事業活動について国外で認知してもらう活動が功を奏した。単独発信よりも、グローバルに連携して共催した発信がより多くの者に届くことを、これまでの活動において十分に経験し、そのノウハウを培ってきた。JIGE と連携する IIGE（関西大学）は、この効果によって、「アジア・日本地域の COIL/VE 実践の拠点」として認知度を高めることができている。JIGE としての新たに拡充された活動について、そして新組織についても、対外的なプレゼンスを挙げることが重要である。本申請の連携 3 大学共に、それぞれの海外拠点を活用し情報発信チャネルを強化し、さらには、それぞれの大学の世界に散在するアラムナイ（校友）ネットワーク等とも密な関係構築を図り、多次元の情報発信に尽力している。また、NAFSA/EAIE/APAIE といった国際コンベンションの機会や、JASSO 留学フェア等の機会を活用し、海外大学担当者や、海外の学生層に直接情報を届ける活動も通年で実施してきている。

【計画内容】

取組の実施状況等や交流プログラムの積極的な情報発信

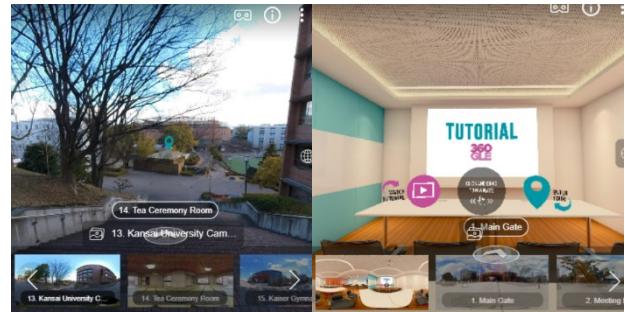
- JIGE は事業開始年度である 2023 年度に事業の広報媒体としてまずホームページを開設する。日英の他、本事業において連携を行う第 3 国地域や、多様な地域の学生層への発信についても意識し、中国語・スペイン語等の多言語対応も行う。JV-campus にて受講を開始する科目への動線を作るため、ホームページ上で、①学生層、②教育機関担当者層などターゲット別の情報発信・情報提供が可能な機能を搭載する。
- 本事業では、高校生層から、在学学部生・大学院生、そして社会人層でリスキリング・リカレント（学び直し）を志望する層など、学びの対象となる層が多岐に渡る。それぞれの層のニーズを調査し、必要となる情報がいち早く届くよう、マスメディア・ソーシャルメディア媒体における一元的な発信と共に、定期的な問い合わせや相談に応じる目的で、国際コンベンション等の機会を活用し対面による広報活動も定期的に実施する。

柔軟で発展的かつユニークな取組（情報公開・発信、成果の波及）

- 本事業では、事業趣旨の根幹でもある Society 5.0 社会の礎となる、情報技術・デジタル技術を日常使いし、より情報受給者のニーズに寄り添った新しい情報発信・共有、公開の取組を進める。上記準備状況箇所にも記載したが、DX（デジタルトランスフォーメーション）は、単なるデジタル化ではなく、

人々の行動や考え方、生活様式がそれによって「変容」することを意味する。この変容を意識した情報公開の取組として、JIGE では「体験型」・「没入型」そして「情報を押し付ける」のではなく学びたい者が自らの意思と判断で情報を獲得する、情報プル(pull)アプローチを主軸とする。

- 具体的には、上記で研究した 360° 動画等を掲載できるデジタルスペースを、本事業の情報共有・公開ツールとして活用する。このスペースを訪問した者自身が、PC上のカーソルで自分の方向を選択し、そこに現れる情報(動画、画像、その他データ等)を閲覧する、いわゆる「学びのカスタマイズ」ができるツールである。従来の情報 push 型の情報公開・情報発信の場合、それを受け止める側の既知情報や、何を学びたいのかという個々のニーズなどに適切に調整できないまま、伝えたい情報だけを押し付けてしまう。一方で、pull 型であれば、学ぶ側が主体であるため、より情報が効果的に吸収され、例えば自大学や自身の次のアクションに応用される可能性が高くなる。
- ソーシャルメディアなどでの発信についても、特に学生層へのリーチとして積極的に取り扱う。様式1 ④-2 および様式 2⑪で説明した学生主体の活動である **Japan BOLD Program** の学生有志メンバーが進める正課外活動事業の「依頼主」として、彼らに JIGE の学生層などへの広報活動を委託する。学生目線の広報が実現することで、JIGE 運営側にとってもよりユーザーの声を反映させた活動としての改善もかなうため、双方にメリットが生まれることが期待できる。
- JIGEにおいても、IIGE が刊行していたオンライン季刊誌「I-Paper」のようなジャーナル発信を行う。年 2 回程度のインターバルにて、その半年間に展開した活動の報告や、国内外の潮流など、読み手にとって有益なテーマを都度設定し、特集を組んで発信する。JIGE-Osaka, JIGE-Tokyo、そして 3 大学それぞれの広報担当者らが中心となり、海外相手大学からも情報を提供してもらい制作し、「日英バイリンガル情報誌」として発信する。I-Paper を受信していた、海外相手大学、IIGE グローバルネットワーク、UMAP 加盟大学、JPN-COIL 協議会等、国内外の大学へと広く発信を行う。
- 国際共同シンポジウムの開催、国際学会等を通じた成果報告** 本事業の取組や成果について、連携大学との国際共同シンポジウムを開催し国内外の大学のほか広く社会へ発信する。本事業で得た教授法や大学院教育改革の取組等についても国際教育交流団体が主催する各種交流イベントや国際学会等で成果報告を行う。
- 海外同窓生ネットワークへの参画** 本事業で輩出した人材がプログラム終了後も本学の海外同窓生ネットワークに参画し、海外同窓会ネットワークの活動の一環として、本事業の取組の成果について情報発信を行うような仕組みを構築する。



交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	クレムソン大学 (Clemson University) (米国)
---------------	--------------------------------------

① 交流実績（交流の背景）

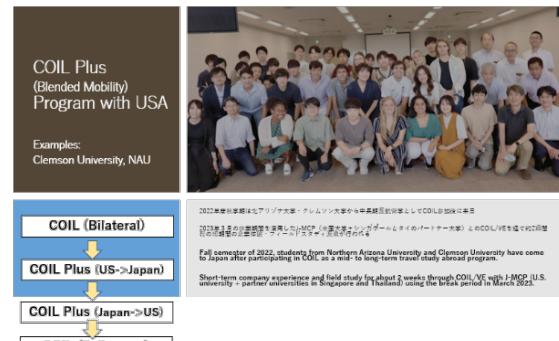
2015年7月に、クレムソン大学バイオエンジニアリング専攻の長富教授を本学に招き、講演を依頼した。これをきっかけに、同専攻と関西大学の化学生命工学部及び理工学研究科との間で、2016年2月18日に短期学生交流に関する覚書を結んだ。以後、留学、学生交換、研究、インターンシップ、プラクティカルトレーニング、社会人教育、サービス・ラーニング等のプログラムを実施している。

CU とは、以下のとおり着実に学生交流を実施している。本学学生は、「化学・物質工学科グローバル人材育成プログラム『中期留学』」として派遣している。以下が交流の実績である。

2016年	5~7月	Undergraduate Bioengineering Research in Japan プログラム受け入れ先として本学を追加、クレムソン大学生1名を受入
2017年	5~7月	クレムソン大学生3名を受入
2018年	4月	International Biomaterials Symposium に本学の岩崎教授を招待
2018年	5~7月	クレムソン大学生5名を受入
2018年	8~11月	本学学生2名をクレムソン大学に派遣予定
2018年		世界展開力強化事業において COILPlus プログラムを実施

		2018	2019	2020	2021	2022
CU - KU 理工プログラム (COIL+)	受入（短期；2か月弱）	5	4	0	0	10
	派遣（中期；3か月）	2	1	0	0	0
		7	5	0	0	10

2020-2021年度はコロナ禍期のためモビリティは中断したが、2022年度に受け入れを再開した。クレムソン大学と実施している COILPlus の活動については以下のスライドも参照されたい。



参考 URL:

<https://www.kansai.ac.jp/Kokusai/IIGE/COIL/detail.php?seq=279>

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

2023年度以降の交流については、バイオエンジニアリング専攻の学生達との bilateral 型 COIL と研究ラボインターンシップを渡航留学として行う BM プログラムを、主として関西大学の化学生命工学部及び理工学研究科にて実施する。

加えて、クレムソン大学言語学科 (Department of Languages) とも、日本語を専攻しているクラスと、関西大学の留学生対象科目である「キャリアデザイン3」の間でセメスターベースの COIL を行い、30日未満の短期型の来日を行う BM プログラムも新たに執り行う。短期滞在中に、企業訪問などの活動も取り入れ、キャリア形成の意識醸成に貢献する教育設計を行う。2023年度からプログラムはさっそく開始することで計画が進んでいる。

クレムソン大学とは、5月～6月の夏学期間を活用した BM プログラムを事業期間中毎年開催する予定である。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	コーネル大学 (Cornell University) (米国)
---------------	-------------------------------------

① 交流実績（交流の背景）

コーネル大学と関西大学は、2021 年度に IIGE が締結した ALLEX 財団との協力体制の下、Language Learning Focused COIL の実践のためのファカルティディベロップメントの機会に関係大学を誘致した際にトレーニングに参加いただいたことを契機に、Department of Asian Studies との連携がスタートした。

2022 年度秋学期には、先方の赤松恵理子講師の担当されている日本語 300 レベルの科目履修学生と、関西大学の一般教養科目「海外大学と連携して行う PBL」において COIL 授業を行っている。

「アメリカの企業が日本に進出する際のローカライゼーション」をテーマとし、以下にあるようなビジネス提案を学生達のグループプロジェクトとして着手した。最終発表には、国内外の企業の取締役や管理部門等、青年会議所のメンバー等に参加いただき、有益なフィードバックをもらう機会を盛り込んだ。今後も本テーマでの COIL 活動は継続する。

加えて、2023 年度においても現在同様に Department of Asian Studies の学部科目と関西大学の「Global Awareness」科目にて COIL 授業が展開しており、複数の教員が今後も継続を希望している。



参考 URL: <https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/COIL/detail.php?seq=316>

② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

2023-2027 年度において BM プログラムを構築する学科は、まずは①Department of Asian Studies と②Department of Molecular Medicine の 2 学科からのスタートとなる。上記に挙げた C コーネル大学との COIL 活動の実績により、関西大学と当該大学の学生間の交流が進み、これに加えてコーネル大学の日本語を学びつつ STEM 分野の専攻をする学生層が非常に多く、日本への留学を希望していることが、情報交換を進める中で明らかになった。2023 年 4 月にコーネル大学を理工学研究科教授および国際部担当者が訪問した際も、キャリアにつながるような活動を滞在中に行いたいという志向の強い学生（コーネル大学の米国籍学生及び留学生）層から直接声を拾うことができた。

これらの準備活動を踏まえ、関西大学とコーネル大学では、以下のような活動を取り組むことで合意を得ている：

- (1) Department of Asia Studies にて日本語を履修している学生層を対象に、Bilateral COIL 科目を関大と実施し、その後中長期（1 か月～半年）の渡航型インターンシップ活動を行う BM プログラムを構築する。2024 年度を皮切りに、年間 2-4 名程度から受け入れを開始し、毎年の受け入れを継続する。
- (2) Department of Molecular Medicine の教授で、Director of Graduate Studies for the Field of Biophysics でいらっしゃる Dr. Toshi Kawate 氏の研究室と、理工学研究科の上田正人氏および理工学研究科教員間で継続した相談がなされており、2024 年度から COIL 型研究教育実践活動を取り込む。
- (3) ビジネス分野の教授の Dr. Mark Milstein (Clinical Professor, Director, Center for Sustainable Global Enterprise) 氏とも Dr. Kawate 氏から紹介を受けており、今後話し合いを継続し、ビジネス専攻の学生層についても BM プログラムの可能性を検討する。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	デポール大学 (DePaul University) (米国)
---------------	------------------------------------

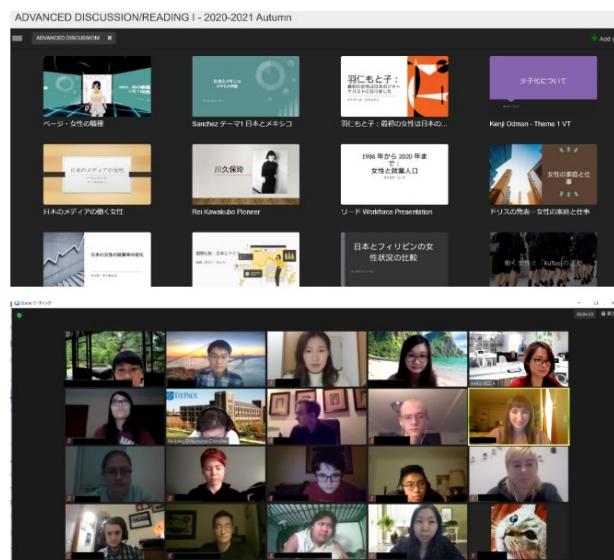
① 交流実績（交流の背景）

関西大学とは、デポール大学(以下 DPU)の言語学科と文学部の日本語教師養成講座科目における COIL 授業実践(下写真)を 2020 年度から開始し、今も継続した科目提供を行ってきた。2023 年には活動について考察を加えた研究論文も出版された(下記)。

これに加え、DPU は 2018-2022 年度の世界展開力強化事業の海外連携大学として 2021 年に追加登録し、以後先方が開催している Global Conversation シリーズなどにおいて、関西大学の IIGE 担当の教員らが参加するなど、多岐に渡り国際教育活動のよきパートナー大学となっている。

Kremer experiment

- Michael Kremer, a profesor at University of Chicago
- In 1993, he and his wife went to Kenya for holiday and make an experiment
- One big question: which activities will improve students' attendance and score?
- Started by researching fourteen schools in rural areas



(参考)

COIL 実践に関する出版図書:

Keiko Ikeda & Nobuko Chikamatsu (2023)

“Transcending Borders and Limitations with Digitally Enhanced Pedagogy: Language Learning-focused COIL (LLC) for Japanese Learners and Prospective Teachers.”

In Li &Chikamatsu(Eds.) *A Transdisciplinary Approach to Chinese and Japanese Language Teaching Collaborative Pedagogy Across Languages, Disciplines, Communities, and Borders* (Routledge).

② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

2023 年 4 月にシカゴの DPU キャンパスを訪問し、Associate Provost for Global Engagement and Online Learning の Besana GianMario 氏および Director of Virtual Exchange and Online Learning の Rosita Leon 氏との面談を行った。その後のやり取りも含め、以下のような取組を進める予定している。

- (1)これまでの活動を踏まえ、DPU と関西大学間の大学間協定を 2024 年度中に構築し、多様な BM プログラムにおいて学生のモビリティを遂行できるように進めることで合意している。
- (2)DPU とこれまでに COIL/VE を実施した経歴がある UNESP(ブラジルサンパウロ)とも話し合い、3 大学による Multilateral COIL 授業実践を開拓し、可能な BM プログラムにおいて日本への学生受け入れ(渡航型インターンシップ等の活動への参加)を実施する。
- (3) IVEC(International Virtual Exchange Conference) のコアパートナー機関である DPU と連携し、2026 年度に日本にて国際学会を誘致し、アジアにおける COIL/VE の波及を推進する。

これらに加え、これまでの言語学科との COIL 科目授業活動は継続し実施し、交換学生協定が成立した時点で、半年～1 年間の中長期の渡航留学を含めた BM プログラムの構築を進めていく。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ニューヨーク州立ファッション工科大学 (Fashion Institute of Technology, The State University of New York) (米国)
---------------	---

① 交流実績（交流の背景）

ニューヨーク州立ファッション工科大学(以下 FIT)は本学の KU-COIL ネットワークメンバーであり、COIL 実践を 2017 年から行っている大学である。

過去の COIL 科目の事例としては、2017 年春学期:「Asian Art Civilization」(FIT) Kyunghee Pyun &「KUGF Independent Study」(KU) Shoko Nagata

テーマ:日本の伝統美術

2017 年秋学期:「Comparative Political Systems」(FIT) Praveen Chaudry &「グローバル PBL」(KU) Shoko Nagata

テーマ: Introduction to current world affairs(現在の世界事情)

2019年秋学期 「Japanese Language Conversation」Prof. Nobuko Kodama (FIT) &「Global Awareness I」(KU) Prof. Elvita Wiasih

テーマ: 日米文化比較と言語タンデム

などがあり、いずれも 4-6 週間の期間、共修を行った。

2017 年 11 月には FIT の Helen Gaudette (Assistant Dean for International Education) 氏が来日し、本学の教員と交流を行った。2018 年 3 月には FIT を KU-COIL チームが訪問した。2019 年度夏には、3 名の FIT の学生が関西大学千里山キャンパスを訪問し、COIL の延長上で、実際に交流した関大学生らと対面し共修を行った。

2020 年1月には、コロナ禍によるロックダウン直前に関西大学から 3 名の学生が短期渡航を行い、FIT を数日訪問し、対面による交流活動を行う COILPlus 型の交流も実現した。FIT と KU は、これまで NAFSA などの機会において今後の大学間交流について話合う機会を持つなど、相互の交流は活発である。



② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

今期の取組では、FIT と関西大学、そして千葉大学の 3 大学で COIL 科目を設置する。2023 年5月の NAFSA(於ワシントン DC)において、千葉大学の国際課、関西大学の国際部の担当者らと Assistant Dean for International Education Dr. Helen Gaudette および Dean for International Education である Dr. Deirdre Sato の両名と合同で面談を行い、BM モビリティの計画を話し合った。

千葉大学では、サービスデザイン、産業デザイン、および情報デザインの学科において COIL 科目の開発が進んでおり、FIT が提供する分野と多く共通項を持つ。したがって、今般の大学間単位互換合意の締結を活用し、千葉大学で提供する科目と FIT との間の COIL 実践に、関西大学の学生が参加する形で COIL 実践を行う。BM プログラムとして、国内 2 大学から、ニューヨークへの短期研修型渡航留学を計画する(2024 年度・2025 年度)。FIT からは、交換留学制度を活用し、半年～1 年間を関西大学および千葉大学にて滞在し学修する BM 型プログラムを計画している。滞在期間中、学生の専門にあったインターンシップの機会提供も行う予定である。日本語を要する企業でのインターンシップを希望する場合は、本申請書に記載したようにマイクロクレデンシャル日本語コースの履修等を行い、来日までの期間を逆算して BM プログラムを構築する。

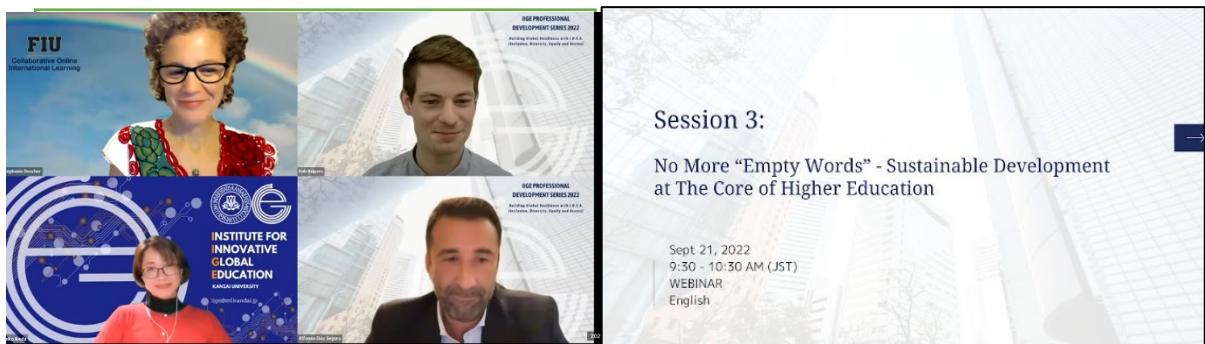
交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	フロリダ国際大学 (Florida International University) (米国)
---------------	---

① 交流実績（交流の背景）

フロリダ国際大学(以下 FIU)と関西大学は共にCOIL/VE実践を推進するセンター(機構)を持つ大学であり、COIL Connect、IVEC といった関連ネットワーク・組織において構成委員を担うなど、これまで協働の機会を多く持ってきた。2022 年度の IIGE 主催(JAFSA/ETS Japan/Gateway International 共催)のプロフェッショナルディベロップメントウェビナーシリーズでは、下記に言及する CEU カルデナル・エレーラ大学と共にパネル登壇を行った(下写真参照)。

2018-2022 年度の世界展開力強化事業の期間に実施した米国における研修やセミナーの機会などにも FIU は積極的に参加してくれており、COIL センターが発足後も相互のチームの交流が継続している。



② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

FIU と関西大学においては、様々な活動において協業を予定している。まず、JIGE(プラットフォーム拠点)としては、FIUCOIL センターとの連携によって、COIL コーディネーター train the trainer プログラムを日米・日加の高等教育機関の希望者層対象に研修コースを構築する。

準備状況としては、2023 年 1 月にマイアミにある FIU キャンパスを関西大学が訪問し、関係者と上記について協議を行った。

COIL 型実践を通した連携も行う。FIU とスペイン CEU カルデナル・エレーラ大学はすでに多くの COIL 授業を行った経験があり、本事業において関西大学もそこに参入し、学際的なテーマにおいて複数大学による COIL 実践を展開する。現時点において、3 大学の COIL の窓口の担当者となる 3 名 (FIU: Stephanie Doscher Director FIU COIL Center, CEU:Alfonso Diaz, Corporate Director for Business Operations, Marketing & Internationalization at CEU Educational Group, KU: Keiko Ikeda, Vice-Director, IIGE) がコミュニケーションを取り、「Investigative Reporting Techniques」「Architectural Design」といったテーマのセメスターベースの COIL を 2024 年度、2025 年度に計画している。

BM プログラムの構築についても、FIU への関西大学からの①交換留学ベース ②中長期ベース・研究ラボインターンシップ ③短期研修 COILPlus プログラムの 3 タイプを、事業期間中に推進していく。FIU からの受け入れについても同様であり、2023 年度中に学生交換協定を締結し、多様な BM プログラムを構築し学生を受け入れられるように環境整備を行っていく。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ(Kapi‘olani Community College) (米国)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ(以下 KCC)と関西大学の総合情報学部の間で、教員及び研究者交流、学生交流、学術情報並びに資料の交換、共同研究や会議の促進を目的とした国際交流に関する基本協定を 2016 年 2 月 4 日に締結しており、主として 1~2 年次相当の学生との交流を行っている。ハワイ州立システムと本学の協定に基づき、過去 13 年に合計 10 人がハワイ大学から交換留学制度で受入れを行ってきている。

KCCにおけるCOIL実践の関心は高く、2018 年 2 月 6 日に KCC にて COIL ワークショップを開催し、合計 10 名の教員が参加し、今後の COIL 実践における本学との関係構築について議論を行った。その際に参加した教員らと、継続して各学期における Bilateral COIL を行ってきた。

2019 年度には、ホノルルとハワイ島ヒロの 2 大学への訪問を行う COILPlus プログラムが実現した。KCC は、ホノルル(ワイキキ)の観光業界と深いつながりをもっており、本事業の COIL Plus プログラムにおいても、本学の学生がキャリアマインドを培う体験のできる派遣プログラムを構築することができた(以下の写真はその時の様子)。KCC プログラムは 10 名の参加があった。



KCCは、本学の紹介を通して、本事業の海外連携大学でもある PIM(パンヤピワット経営大学)・タイ王国とも交流があり、2018-2022 年度の世界展開力強化事業においても、KCC-PIM-KU を含む Multilateral COIL プログラム(2020-)等を通してオンラインでの共修を執り行っている。

KCCからは、2018 年以降以下のような、教員・国際課関係者による本学訪問があった:

2018 年度 Lisa Kobuke 教授 (2019 年度に TOEFL Score UP (Prof. Villa Kaoru)と COIL を実施)
2019 年度 Damian Zukeiran 氏 (title) Takashi Miyake 氏

② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

KCC の窓口担当者ら(上記)とは、メール等のやり取りを隨時継続している。また、NAFSA2022 においてコミュニケーションをとり、2023 年 5 月には Zukeiran 氏と Miyake 氏が本学を来訪し、国際部にて今期事業における連携の意思確認を行い、①アトリエ MCP コースの履修を KCC の学生に誘致すること ② COIL Plus 型の関大からの受け入れプログラムを構築すること ③前回事業と同様に、PIM との複数大学間による共修活動を継続することについて合意した。

KCC では日本語学習を行う学生も多数おり、BM プログラムの一環として観光産業やホテルなどにおける中長期インターンシップを行う活動を JIGE において提供する計画である。大阪が 2 年後に控える World Expo2025 や、IR (international resort) 構想等、KCC の学生層にとって魅力的なキャリア形成の機会があることから、優秀な外国人材の定着を視野にいれた BM プログラムと留学生支援を実施したいと考えている。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ノースカロライナ州立大学 (North Carolina State University) (米国)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

ノースカロライナ州立大学(以下 NCSU)と関西大学は、コロナ禍の中関係構築が生まれた。先方の日本センターの窓口から II GE に問い合わせがあり、2021 年に以下の COIL 科目授業を共に行った。

2020 年度 NCSU 「American Politics」Dr. Andrew Taylor - KU 「Japan in International Affairs」Dr. Don Bysouth

2021 年度 NCSU「Gender Studies」Dr. Frances Graham - KU 「Contemporary Gender Studies」Dr. Don Bysouth

2022 年度 NCSU 「American Politics」Dr. Andrew Taylor - KU 「Japan in International Affairs」Dr. Don Bysouth

NCSU「Anthropology (animal behavior)」Dr. Tara Clarke - KU 「海外大学との連携で行う言語文化学習」Dr. Keiko IKEDA

2022 年度 10 月には、COIL 科目を複数回継続して行っている Dr. Andrew Taylor が関西大学を訪問され、COIL を行った学生達との交流と特別セッションを実施するなど、教員・学生間において活発なやり取りが展開してきた。



② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

本事業において連携を行うにあたり、2023 年 1 月末に関西大学 II GE および化学生命工学部教授 1 名が NCSU を訪問し、Michael J. Bustle 教授 (Associate Vice Provost (Global Education and Engagement) Director, Global Training Initiative (GTI)) 他と面談し、両大学における COIL 型授業実践や、インターンシッププログラムの相互構築等多岐に渡る相談を行った。

NCSU の日本センター (NC Japan Center) も歴史があり、本センターの所長 Jonathan Brewster (-2023) 氏ともコミュニケーションを密にとり、日本語を副専攻とする NCSU の学生達に今後 BM プログラムを展開することなどについても合意している。本センターの Advisory Board members は NCSU の各 colleges から参加しており、今後全学で両大学間の関係構築が期待できる。

<https://japan.ncsu.edu/people/academic-advisory-committee/>

NCSU の所在する Raleigh 市は、トヨタ社が新たに EV 工場を設置する予定地でもあり、日系企業への就職機会やエンプロイアビリティ向上に資する教育への関心が高い。本事業で取り組む BM 型留学生支援・キャリア形成プログラムにおいて積極的に相互協力をしていく相手大学である。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	北アリゾナ大学 (Northern Arizona University) (米国)
---------------	---

① 交流実績（交流の背景）

北アリゾナ大学(以下 NAU)と本学の間で 2008 年 8 月 13 日に学生交換に関する協定を結んでおり、毎年同大学から交換留学生を受け入れている。学生交換協定は 2008 年の締結であり、長く関係がある大学である。また、研究者交換協定も締結しており、数名の研究者が関西大学においてリサーチフェローとして来日、滞在するといった実績もある。

2018-2022 年度の世界展開力強化事業においても、NAU は海外相手大学として参画した。NAU とは以下のような Bilateral の COIL 科目が事例として挙げられる：

2018 KU「通年商学部 Global Marketing ゼミ」- NAU「Human Resource Management」Prof. Jermy Brees テーマ「health care app and marketing project」

商学部岩本教授のゼミと実施した本 COIL では、NAU からの受け入れ COILPlus に加え、2019 年 8 月に NAU への短期研修も実現した。COIL 担当者間でも積極的な交流が実施され、2018 年度に NAU の教員が本学を訪問し、岩本教授と COIL 科目設計を対面で計画するなどの活動が行われた。

NAU との交流については、右図にあるように、NAU が実施している IGP(Interdisciplinary Global Program)において 1 年間留学する学生層に対し、来日前のレディネスとして、J-MCP 科目を履修してもらい、その後留学期間中においても、関西大学で実施される COIL 実践活動に積極的に参加してもらうと同時に、2 学期目にはそれぞれの専門分野における長期インターンシップを実施した。

本学から同大学への派遣数は受け入れほど多くはないが、2017 年から語学留学に加えて専門科目を履修する「ブリッジプログラム」が同大学にて 2017 年 8 月 7 日に提供され約 10 名の学生が NAU にて留学経験をしてきている。

交換受入：2017 年度 6 名、2018 年度 5 名、2019 年度 2 名

交換派遣：2018 年度 1 名、2019 年度 1 名

語学研修の派遣数 合計 2 名



② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

メール等を介したやり取りは常時行っておりコミュニケーションが取れる関係性があるが、本事業の交流については、NAFSA2023(於ワシントン DC)で、新しく Vice Provost for Global Affairs に就任した Dr. Yimin Wang 氏および Director, Interdisciplinary Global Programs の Melissa Armstrong 氏両名と、関西大学国際部担当者間で改めて面談を行い、以下のような連携において協働することを合意した。

- ① IGP プログラムに参加する NAU の学生層に、アリエ MCP コースもしくは J-MCP プログラムへの参加を引き続き設定すること
- ② 渡航型インターンシップ活動において、企業における活動を希望する場合は、2 か月以上など比較的長期型とすること
- ③ JIGE が構築するリモートインターンシッププログラムを、NAU の学生層が履修可能にするインフラを整備すること
- ④ 関西大学の学生達が参加する COILPlus プログラム(短期研修渡航)または理工学 3 学部から渡航するラボインターンシップ参加希望者の受け入れ環境の整備を行うこと

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ポートランド州立大学 (Portland State University) (米国)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

ポートランド州立大学(以下 PSU)は関西大学の語学研修(短期)及び語学留学先として過去 5 年間でも合計 37 名の学生派遣を継続してきた米国大学である。大学間の基本協定は、2022 年 5 月 10 日に締結した。

COIL/VE 授業科目への関心が先方で高まり、2021 年 4-7 月において、日米の倫理価値観の異なりをテーマとした COIL を、PSU の Communication Studies 科目と、関西大学の「Global Sociology」(Dr. Don Bysouth)の科目と行った。

PSU の応用言語学科が、国際教育の実践として COIL 型教育への関心が高く、以下のように学内で実践を推奨する取組が近年ローンチしている。

The Collaborative Online International Learning (COIL) Scholars Program was launched at PSU in 2019. It is a special collaboration of the Provost, [Internationalization Council](#) and [Office of International Affairs](#).



② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

AIEA2023(於ワシントン DC)が 2 月にあり、その際に Director, Office of International Partnerships である Sally Mudiamu 氏と面談を行い、また以下の 2 名の教授とのメールおよびウェブ会議でのやり取りを行い、以下のような活動を展開することで合意している。

Kimberly Brown, Professor, Applied Linguistics and International Studies

Lynn Santleman, Associate Professor, Applied Linguistics – Liberal Arts & Sciences

(1)現時点において PSU と関西大学は基本協定が締結されているが、学生交換協定の締結を検討し早い段階で締結する。

(2)従来執り行ってきた派遣留学プログラムや語学留学プログラムを、BM プログラムとして転換し、COIL/VE 型の交流学習を渡航前に執り行う。

(3) PSU の日本語科とも連携をとり、関西大学が提供するリモートインターンシップや、アトリエ MCP コース、マイクロクレデンシャル日本語学習コースの履修を誘致し、BM 型の渡航留学を希望する者を対象に受け入れモビリティを構築する。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	オハイオ州立大学 (The Ohio State University) (米国)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

【関西大学】

オハイオ州立大学(以下 OSU)は、2020 年に ACE(米国教育協議会)が在日本アメリカ大使館からの助成を受けて実施した Japan-US Rapid Response Lab のイニシアティブのプログラムに、筑波大学との COIL 実践を推進する上で、参加した大学である。本プログラムに、関西大学(IIGE)はトレーニング提供者として参画し、OSU への COIL 型授業実践のノウハウ伝授を行った経緯がある。

OSU Vice Provost for Global Strategies and International Affairs である Dr. Gil Latz 氏とは、AIEA や様々な機会を通して国際教育分野の意見交換を従来行う関係があった。Latz 氏は渋沢栄一財団の運営にも関与されており、研究所のメンバーである関西大学文学部教授陶 徳民氏(中国学専修)とも長く面識があり学術交流がなされてきた。

OSU では 2021 年度から COIL/VE の取組が始まった。

<https://oia.osu.edu/news/coil-virtual-exchange-learning-community-launched/>

【東北大学】

- ・2016 年 8 月 文学部とオハイオ州立大学文理学部の部局間協定を締結 (2022 年 7 月終結済み)。
- ・2017 年 8 月 文学研究科とオハイオ州立大学文理学部の部局間協定を締結。
- ・2018~2019 年度において、共同研究を目的として研究者の受入・派遣を行った。
2017 年度 受入 1 名 派遣 3 名、2018 年度 派遣 3 名、2019 年度 派遣 2 名 受入 2 名
- ・2018 年度、2019 年度において、部局間学術交流協定に基づき、各 1 名の大学院学生を派遣した。

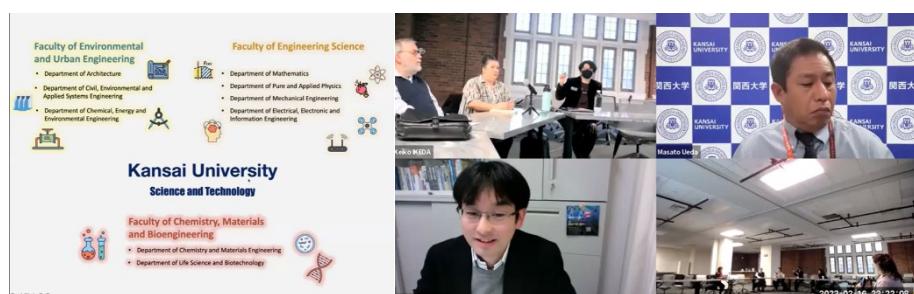
② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

【関西大学】

本事業においては、関西大学および東北大学の 2 大学において COIL を取り込んだ BM プログラムの構築を検討することで準備を進めている。2023 年 2 月に、関西大学国際部で OSU を訪問し、複数の College との相談を開始し、現時点において EDGE(Equity, Diversity, and Global Engagement (EDGE) College of Education and Human Ecology (EHE) と COIL 科目を構築し実施することからスタートする計画となっている。

また、関西大学の理工学研究科と、OSU のデータサイエンスラボ (College of Engineering & Translational Data Analytics (TDAI)) との交流も開始しており、研究プロジェクトベースでの COIL の応用についても今後展開を進める予定である。下写真は、その時のオンライン会議の様子である。



【東北大学】

2023 年 4 月 29 日に群馬県高崎市で開催された US-Japan Digital Innovation Hub Workshop にて東北大学副学長の山口昌弘教授がオハイオ州立大学の Gil Latz 副プロボストと面談し、本プロジェクトで連携することを合意した。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 (The University of North Carolina at Chapel Hill) (米国)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

ノースカロライナ大学チャペルヒル校(以下 UNC)の Associate Provost for Global Affairs Heather Ward 氏は、2018-2022 年度世界展開力強化事業の際、ACE(米国教育協議会)において Global Engagement Office のディレクターとして活動しており、関西大学がプラットフォーム校を担った際のカウンターパートとして協働した担当者であった。UNC に移転された後も、IIGE の活動や、NAFSA・AIEA などの国際教育関係者が集まる大会などにおいて情報共有を継続し交流関係を構築してきた。今後UNCとは学生交換協定の締結が予定されている。

COIL at Carolina

COIL courses involve shared learning between students in a course at UNC-Chapel Hill and peer students at a global partner university. Faculty members at both institutions design collaborative activities for their students lasting at least three weeks, such as completing small group projects, engaging in dialogue drawing on their different societal or disciplinary perspectives, or exchanging scholarly or creative work.

During the program's first year in 2020-21, Carolina faculty led 19 COIL courses in partnership with universities in 13 countries, including two of Carolina's



② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

今回の申請のタイミングを受け、2023 年 1 月にUNCのキャンパスを国際部関係者及び理工学研究科教員が訪問し、以下の Global Office の担当者と面談を行った。

Office of the Vice Provost for Global Affairs

Barbara Stephenson, Vice Provost for Global Affairs and Chief Global Officer

- Heather Ward – Associate Provost for Global Affairs
- Krista Northup – Director of Global Partnerships
- Melissa McMurray – Associate Director of Global Partnerships
- Emmy Grace – Program Manager for Global Education

また、UNC の看護学科、ビジネス経営学科の教員らで COIL 実践を行っている経験者らとの交流し、今後の関西大学とのマッチングの相談を開始している。

UNC の COIL/VE 活動は、Office of Vice Provost for Global Affairs (OVPGA) が担っている。UNC のカリキュラムの国際化を進めるための継続的な取り組みの一環として、Collaborative Online International Learning (COIL) を実施するためのサポートと資金を教員に提供している。プログラムの初年度である 2020 年から 21 年にかけて、UNC の戦略的パートナーであるキングス・カレッジ・ロンドンとサンフランシスコ・デ・キト大学を含む 13 カ国の大学と連携し、19 の COIL コースを実現させている。

<https://global.unc.edu/programs/coil/>

また、UNCと関西大学の BM プログラムの構築に加え、ASEAN 諸国との海外大学関係構築を共に開拓するため、本取組において UKM(マレーシア国民大学)を含めた複数大学による COIL・VE授業を計画している。また、UNCはアトリエMCP、そしてリモートインターンシップおよび渡航型インターンシップ等の活動についても関心が高く、より多くの学生層で日本での留学を希望する者へ今般の取組の紹介を行っていくことで合意している。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo) (米国)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

関西大学は、2018年2月にハワイ大学ヒロ(以下UHH)校から招聘を受け、約20名の現地の教員のためのファカルティ・ディベロップメント活動の一環として「KU-COIL ワークショップ」を開催した。ワークショップは、ハワイ州立システム全体にも遠隔会議システムを用いて共有された(参加大学: Kau'ai Community College, University of Hawaii at Mānoa, University of Hawaii at Hilo)。

2018-2022年度の世界展開力強化事業でも、UHHは海外相手大学として参画した。その上で、2019年2月20日に大学間協定が締結されている。

過去数年間において、UHHとは以下のようなCOIL型教育実践における協働を実現することができた。2020年UMAP-COILプログラムにおいて、UHHのYumiko Ohara教授がMF(Main Facilitator)として参加し、UHH学生も共修活動に参加した。

2019年UHH Scott Saft教授と、「Hawaiian languages and cultures」科目と、関西大学の「KUGF Field Study (Global Awareness II)」においてBilateral COILを実施 テーマ:言語文化の相違点と異文化理解

2019年度(2020年1月)UHHに合計7名が短期渡航留学を行った(COILPlus)。

2021年度には、商学部岩本ゼミとUHHのInternational Marketing(Prof. Helen Tan)のCOILも展開し、ANA社も参加した産学連携型のCOIL実践が実現した。



UHHは、フィリピンダバオ市に位置する私学 San Pedro College および関西大学間で行う3大学COILも2018年以来継続的に実施している。Entrepreneurshipをテーマとし、UHHでは「不動産経営と金融」、SPCでは「グローバル経営」、KUでは「SDGs for Business」の科目担当者がそれぞれ参加する trilateral COIL科目となっている。以下のURLから、学生達がCOILプロジェクトとして協働作成したプレゼン動画などを閲覧することができる。

URL:
<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/COIL/detail.php?seq=185>
<https://youtu.be/GuciNjgZ1Gs>

② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分にされているか。

UHHは、これまでと同様にSPC(フィリピン)との複数大学によるCOIL実践を行い、これをBMプログラムとして提供する計画をしている。また、UHHは、カナダのウェスタン大学とも連携することで合意しており、こちらについてもTrilateralもしくはそれ以上の複数大学によるvirtual exchange型コースを、所属する専任教師らの参加を含め、共同開発することで合意している。

BMプログラムとしては、アトリエMCP+中長期ラボインターンシップ型渡航留学もしくは短期研修プログラムを行うCOILPlusの受け入れ先となると共に、UHHの学生達にリモートインターンシップへの参加の誘致、およびBMプログラムとしてリモートインターンシップ後に来日する短期型研修留学を開発することを相談している。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ハワイ大学マノア校 (University of Hawai'i at Mānoa) (米国)
---------------	--

② 交流実績（交流の背景）

ハワイ大学マノア校(以下 UHM)とは、関西大学は 2012 年 3 月 12 日に基本協定を締結しており、2019 年までは学生協定も締結していた。その後も人間健康学部、社会安全学部の個々の研究者らが在外等の機会を通して学術交流を積極的に進めて来ている。

以下、関西大学から過去数年において学生派遣・学術交流を行った者・情報を事例して列記する。

【2022 年度】

交流内容	期間	派遣人数	所管
語学セミナー	2023.02.05～02.26	8 名	国際部
国際健康福祉実習	2023.02.20～03.02	12 名	人間健康学部

【2023 年度】

総合情報学部 松本涉教授が学術研究員として滞在予定。

また、2015 年後期学期には、KU/ KUGF Independent Study と UH /Language Acquisition Study Marta Gonzalez-Lloret (University of Hawaii at Manoa) (大学院クラス)において COIL を実施した実績がある。



② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

UHM とは 2022 年 NAFSA および 2023 年 NAFSA の 2 年に渡り、COIL 型協働学習実践とそれに付随するモビリティプログラムの計画を相談してきており、今般の IUEP において BM プログラムを実装することができるようになる。特に、JHSEII(日本・ハワイ社会経済イノベーション事業)の一環として、BM・学生交流を行うことを計画している。

UHM は、以下の 2 名が窓口となり、今後の活動を共同で計画し実施することとなる。

Denise Eby Konan, Ph.D.

College of Social Sciences | Dean

Hawai'i Asia Pacific Institute |

University of Hawaii at Mānoa

Nori Tarui

Professor and Graduate Chair, Department of Economics

Research Fellow, University of Hawai'i Economic Research Organization (UHERO)

University of Hawai'i at Mānoa

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	サンパウロ州立パウリスタ大学(Universidade Estadual Paulista (UNESP)) (ブラジル)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

サンパウロ州立パウリスタ大学(以下 UNESP)は、2015 年に先方より依頼があり、COIL ワークショップを関西大学がブラジルで提供した際に交流が開始し、大学間の基本協定を 2016 年 3 月 29 日に締結、学生交換協定を 2016 年 7 月 19 日に締結した。これまでに、交換留学受入が 2017 年度 1 名、2018 年度 1 名と進んでいる。2015 年度に開催した KU-COIL 国際シンポジウム(於関西大学千里山キャンパス)においても、UNESP からの参加があった。

コロナ禍期にはモビリティを通しての交流がなかったが、ブラジル・メキシコを中心とした南米の COIL ネットワーク(LAtam Network)が 2020 年に発足し、本ネットワークと、IIGE の関係構築を通して、国際部局および副学長レベルにて交流を続けてきた。

UNESP はサンパウロの日系コミュニティーとも近しい関係にあり、関西大学のサンパウロの校友会を通じた交流も行われてきた経緯がある。

② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

以下に挙げる 2 名と密に連絡をとり、NAFSA2023(ワシントン DC)で最終打合せを行った。

Ana Cristina B. Salomão – PhD

Assessora Arex / Assistant Provost for International Affairs

Coordinator of the Brazilian Virtual Exchange Program (BRaVE-UNESP)

Jose Celso Carlos Junior

Associate Provost for International Affairs UNESP

以下のような協業を進めることで合意している:

- (1) 2023IVEC (San Paulo) にて、COIL Connect およびIIGEとともに連携した活動を開始することをアナウンスし、事業に関する取組の説明を行う機会を予定
- (2) UNESPとデポール大学のCOIL科目に関西大学化学生命工学部の科目を合流させ、Trilateral COIL を執り行う。また、このCOIL実践に連動した日本への受け入れプログラムおよび希望する学生層のブラジルでの短期・中長期留学の受け入れ(BMプログラム)についても開発する
- (3) Dr. Jose Celso Carlos 氏がFAUBAIの会長に就任したことを受け、2024 年の FAUBAI(4月)に FAUBAI学会においても IIGE の活動報告を予定

FAUBAI – Associação Brasileira de Educação Internacional
<https://faubai.org.br/>



交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ウェスタン大学 (Western University) (カナダ)
① 交流実績（交流の背景）	
<p>ウェスタン大学(以下 WU)の Director, International Learning at Western University である Eunjung Riauka 氏とは、彼女の前任校である Algoma University との協定を本学と締結する際にも橋渡し役となつた人物であり、今般も関西大学との学生交換協定がかない、2023 年 2 月 9 日に締結した。</p> <p>協定に基づいた学生に関する交流はまだないが、WU の学生は夏休み期間を利用して日本への留学を決める者が多く、今後定期的な学生のモビリティが期待できる。</p> <p>NAFSA2022(デンバー), APAIE2023(タイ・バンコク)の双方の機会において、両大学の国際部局間で交流し、それぞれの大学のニーズなどについて相談し、今回の参加へつながっている。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。</p> <p>WU は、関西大学の米国相手大学であるハワイ大学ヒロ校と合わせて複数大学において SDGs, 先住民文化継承といったテーマを取り扱う Trilateral COIL を行う。また、STEM分野においても協働学習を進めていく上で、アトリエMCPのコースへの参加および修士や博士レベルの学生がドクトラル・コロキウムに参加できるよう、学内調整を進めることを相談している。</p> <p>学生交換協定が締結したことを受け、セメスターベースの学生の留学を伴う BM プログラムに加え、COILPlusプログラムとして関西大学の学生達が参加する BM プログラムの開発も進める。</p> <p>WUにおいて今後 COIL/VE 科目活動を主導したいという希望を共有されており、IIGE をはじめ今後の BM 活動においてキャパビル研修に参加する予定である。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ケバングサン大学 (Universiti Kebangsaan Malaysia) (マレーシア)
① 交流実績（交流の背景）	
<p>ケバングサン大学(以下 UKM)とは、基本協定を 2014 年 12 月 3 日に締結、学生交換協定を 2014 年 12 月 3 日に締結している。</p> <p>直近 5 年の学生交換は、コロナ禍もあり今後のBMプログラムの実行による実績を期待しているところである。UKM はUMAPの中核メンバーでもあるため、国際部局関係者間での交流は活発である。</p> <p>Associate Professor Dr. Abdul Latiff Ahmad、Director of UKM Global (International Relations Centre) Universiti Kebangsaan Malaysia は、IIGE のプロフェッショナルディベロップメントにおいても登壇していただいた。</p> <p>以下がこれまでに UKM-KU 間で実施した COIL/VE の事例である：</p> <p>2021 Fall KU ASEAN Studies (Keiko IKEDA) — Intercultural Communication UKM (Latiff Abdul)</p> <p>2022 Fall KU ASEAN Studies (Keiko IKEDA) — Intercultural Communication UKM (Latiff Abdul)</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。</p> <p>APAIIE2023(バンコク)にて面談を行い、その後のメール等でのやり取りの上以下の点を合意している。</p> <p>(1) BM プログラム(COIL を行いその後交換・短期ベースで双方向で留学)の開発</p> <p>(2) UKM内にKU-JIGE リエゾンパーソンを設置し、活動のサポートを行う</p> <p>(3) UKM-UNC Chapel Hill- Kansai University において複数大学によるCOILを開発する。BMとしてもマレーシアに日米で派遣するなどのプログラムの構築も行う。</p> <p>また、6/15 に UKM から本学への来訪が予定されており、引き続き交流に向けた相談を継続する。</p> <p>参加予定者：</p> <p>Prof. Dr. Mohammad Kassim, Deputy Vice Chancellor (Academic & International Affairs) Dean, Faculty of Science and Technology Dean, Faculty of Engineering and Built Environment Dean, School of Liberal Studies Director, UKM International Relations Centre Director, Centre for Teaching and Curriculum Development Director, Institute of Islamic Civilization Director, Institute of Ethnic Studies Chief Assistant Registrar, UKM International Relations Centre</p>	

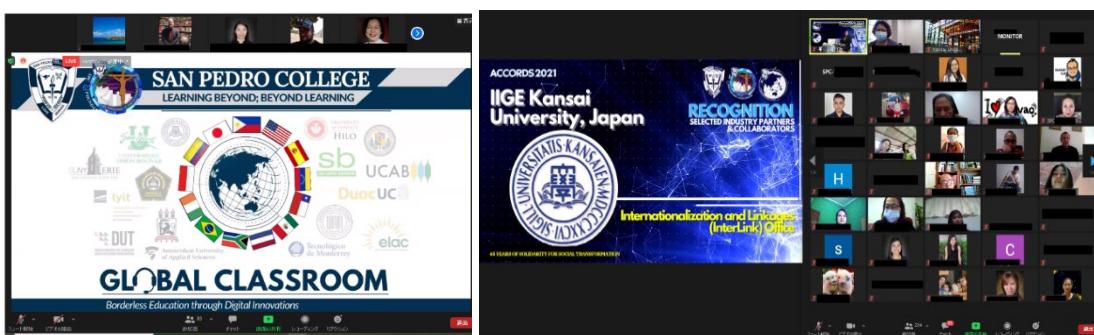
交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	サン・ペドロ・カレッジ (San Pedro College) (フィリピン)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

サン・ペドロ・カレッジ(以下 SPC)は 2019 年のコロナ禍前に COIL/VE の活動に関心を持ち、IIGE(関西大学)に指導を依頼してきた大学である。ハワイ大学ヒロ校(以下 UHH)との関係が深く、金融・ビジネスマネジメント分野での学術交流があつたため、関西大学と Trilateral のCOILの実施を 2019 年以降実施してきている。

2021 年 6 月には、SPC から本学に国際化推進アワードが授与された(下写真)。SPC の Internationalization and Linkage Office (InterLink)が窓口となり、COIL/VE 実践、関西大学が推進する DX 事業 (KU-DX) においても海外協力パートナーとして参加している。KU-EOL 科目の履修も例年 SPC から登録しており、活発な学生間・教員間の交流が続いている大学である。



参考 URL:

UHH-SPC-KU の COIL に関するニューストピック記事(IIGE):

<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/COIL/detail.php?seq=274>

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

SPC と UHH との 3 大学の連携を継続し、BM プログラムを構築し、UHH もしくは日本への研修プログラム、リモート型と渡航型インターンシップの双方を実施し、学生に参加を誘う。

関西大学から SPC へ 2023 年 7 月に訪問を予定しており、学生交流の機会の具体的な検討を進める予定である。

SPC は IIGE グローバルネットワークのメンバーであるが、今後大学間の基本および学生交換協定を締結すべく相談を開始している。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	南洋ポリテクニック (Nanyang Polytechnic) (シンガポール)
① 交流実績（交流の背景）	
<p>南洋ポリテクニック(以下 NYP)は、2018-2022 年度世界展開力強化事業において海外相手教育機関(ポリテクニカル)として参加した。College of Business Management 及び Center for Information Technology、および日本語プログラムと交流があり、以下のような COIL/VE, COILPlus プログラムを実施してきている。</p> <p>2020 年 NYP 日本語 level 200 class -KU 日本語教育実践研究 A(大学院) Language Learning focused COIL</p> <p>2021/2022/2023 年 Business Entrepreneurship Camp にて NYP Dr.Benson Ong と学生が J-MCP に参加</p> <p>2023 年 3 月 COILPlus プログラム(Entrepreneurship)に 14 名の学生が参加、NYP にて PBL 共修活動を、COIL 学習の延長上で実施(以下、タイの PIM・NYP・関西大学をつなぎで実施した最終発表会の様子)</p>	
	
② 交流に向けた準備状況	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 <p>NYP から 2023 年 2 月に Dr. Lina Chong, Ms. Loh Chuu Yi が関西大学を訪問し、その際に相談を改めて行った。</p> <p>関西大学から NYP へも訪問を行い上記 COILPlus プログラムの活動期間中)、シンガポール・ノースカロライナ州立大学と関西大学をつなぎ COIL を含む BM プログラムの構築を行うことで合意した。また、Business Management 学科では、NYP から日本へのインターンシップを含む留学を希望しており、BM プログラム(受け入れ)として、JV-campus を用いたオンライン日本語学習・キャリア教育を受講する活動と合わせてモビリティを計画している。</p> <p>従来から継続している J-MCP 及び新規で実施するアトリエ MCP でも、NYP の教員らの協力及び学生達の参加誘致は継続して行う。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	CEU カルデナル・エレーラ大学 (University CEU Cardenal Herrera) (スペイン)
---------------	--

① 交流実績（交流の背景）

フロリダ国際大学(以下 FIU)の項目にも挙げたように、CEU カルデナル・エレーラ大学-FIU-関西大学は、IIGE のプロフェッショナルディベロップメントシリーズにおいてもパネルに共同登壇をするなど、互いの機関の理解を促進する交流が数多く行われてきている。2022 年に開催された IVEC2022 は、CEU カルデナル・エレーラ大学(バレンシア)が開催校となり、特別セッションの担当を IIGE が依頼を受けて執り行つた。その時の様子の報告は、以下の URL で閲覧可能である。

URL: <https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/news/detail.php?seq=311>

CEU カルデナル・エレーラ大学は欧州の中でも COIL を積極的に早い段階で導入している。関西大学との COIL は、2019 年度に実現しており(下右写真)、Language Learning focused COIL(LLC)を実施した。また、FIU と CEU カルデナル・エレーラ大学の COIL 科目実施の経歴もあり、これらのシナジーを活用することになる。

CEU カルデナル・エレーラ大学「teacher education」—関西大学「Global AwarenessII」
テーマ: Cultural showcase of classrooms between Spain and Japan



② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

CEU カルデナル・エレーラ大学とは、サーティフィケート(マイナー・履修証明プログラム)をジョイントで開発し、その活動の一部として COIL/VE 型科目を必修とする。CEU カルデナル・エレーラ大学はサン・パブロ CEU 大学財団(以下 CEU)傘下の大学であり、CEU は他にも CEU サン・パブロ大学(マドリッド)、アバト・オリーバ CEU 大学(バルセロナ)と、複数の大学を傘下に持つており、それぞれの大学が本事業への参加合意をしている。したがって COIL 授業のマッチングについても多岐に渡るテーマ・分野が可能であり、CEU カルデナル・エレーラ大学だけではなく、他 2 大学についても合同での BM プログラムを検討していくことを話し合っている。

CEU での渡航留学プログラムを FIU と合同で開発し、日本と米国から学生派遣を行いスペインで合流し、これらの大学の学生で PBL を実施するといったトライラテラル BM プログラムの開発を行う。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	東吳大学 (Soochow University) (台湾)
---------------	-----------------------------------

① 交流実績（交流の背景）

大学間の交流実績としては、東吳大学と関西大学では①CLIL研究者間のプロジェクトおよび②COILに関する教育実践に関する関係者間の学術交流、および③日本語教育に関連した活動等多側面において継続している。基本協定が2019年2月28日に締結され、その後、学生交換協定が最近(2023年2月28日)に成立した。今後、交換留学などの学生交換を行うチャンネルが構築された。

2016年に東吳大学の招聘により、IIGEの前形であるKU-COILチームがトレーニングを提供して以来、東吳大学とは、以下のようなCOIL交流実績がすでにある。

2019:

Japan in International Affairs (Kansai University, Japan)
Social Problems (Soochow University, Taiwan) topic: Compare social issues in Japan and Taiwan (free choice of topic)



2020:

Kansai University (contemporary gender studies)

Soochow university social problems Topic: Compare social issues in Japan and Taiwan

東吳大学は、2018年、2019年度のIIGE国際シンポジウムにも本学へ来日し、教員らが参加している。この際に、上記のCOIL科目マッチングが成立している。

東吳大学とのsummer joint online programが2020年のコロナ禍期に始まり、2023年現在も継続して共同開催を実施している。英語で開講する本プログラムは、北米・オーストラリアの大学に所属するも、ゼロコロナ措置によって中国本土から留学がままならなかつた層を対象としたオンライン履修科目カリキュラムであり、それぞれのホーム校での単位互換が可能となるスキームが構築されている。本プログラムにおいて、正課外学習コースとして、日本語・日本文化を学ぶコースを関西大学が受け持ち、100名を超す履修者が毎回出てくるリアルタイムセッションのVirtual Exchangeを提供している。これらの背景により、本事業においても当該大学は適性があり、日米と共に活動することでより有益な学びをそれぞれに提供できると考えている。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

2022年12月と2023年3月にそれぞれ関西大学から訪問を行い、本事業における参画についての相談と、活動企画に関する相談を開始した。以下のような活動を東吳大学と関西大学、そして本事業の米国等との海外相手大学のmultilateral online learningの活動を計画している。学生交換協定に基づき、双方に学生を受け入れることも可能であるため、そのルートも最大限活用する所存である。

- (1)マイクロクレデンシャル日本語コースを含めたBMプログラムの構築
- (2)日本語教育科目のTAやインターンシップとしての活動を派遣研修とするBMプログラム(関大から東吳への)開発と運営
- (3)Joint Online ProgramにおいてCOIL/VE型科目を提供し、オンサイトでの科目履修プログラムが再開した際にはBMプログラムとして米国・カナダ・オーストラリアの大学所属の参加学生層に対しBMプログラムを展開する。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	パンヤピワット経営大学 (Panyapiwat Institute of Management) (タイ)
---------------	--

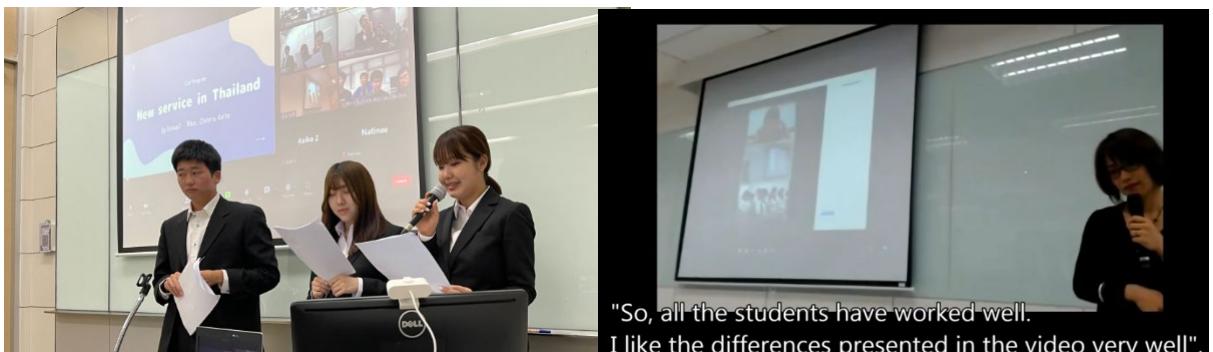
① 交流実績（交流の背景）

CPALL が運営する経営大学であるパンヤピワット経営大学(以下 PIM)とは、基本協定及び学生交換協定を 2015 年 8 月 21 日に締結している。直近の数年には、COILPlus プログラムとして以下のようなプログラムテーマで、PIM に学生を派遣してきている。

年度	大学	人数	摘要
2019	PIM	5名	Business in Thailand
2019	PIM	8名	Japanese TA Experience Overseas
2022	PIM	9名	COIL Plus Program Global Market in Thailand

PIM の日本語学科および CPALL 社との交流は大変活発であり、幹部の関西大学への訪問が毎年ある。2018-2022 年度世界展開力強化事業においても、PIM は海外相手大学として追加認定されている。

PIM はハワイのカピオラニコミュニティカレッジとも連携があり、COIL/Virtual Exchange 活動においても協働を行ってきた。また、2023 年 3 月には、PIM-NUP-KU が参加する COILPlus プログラムも構築し、合計 21 名が参加した。



"So, all the students have worked well.
I like the differences presented in the video very well".

② 交流に向けた準備状況

- 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

PIM とは、3 月の研修時の来訪以外に、Zoom を活用したオンラインでの相談の機会を多く設けており、交流に向けた準備状況は良好である。以下が、本事業において行う活動計画である。

- (1) ホテルマネジメント・ホテル業務関連の渡航型インターンシップの開発を行い、BM プログラムとして PIM から受け入れを行う。
- (2) CPALL の協力の下、インターンシップ留学プログラムを PIM と開発し、関西大学の学生対象の派遣 BM プログラムを開発する。
- (3) アトリエ MCP 及び J-MCP において講師(MF)の提供および学生の参加誘致を進める。
- (4) PIM には international MBA program もあり、共同研究ラボ・インターンシップについても関心を持っているため、相談を継続し修士レベルの BM プログラムも構築する。
- (5) Demonstration School(中高一貫)も併設されているため、高大連携(AP)を視野にいれて高校生層にも COIL/VE 授業を提供する。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	カリフォルニア大学(University of California) (米国)
① 交流実績（交流の背景） <ul style="list-style-type: none"> ・1990年3月大学間学術交流協定を締結 ・2013年2月、東北大学は、留学・教育環境の一層の充実を図るため、カリフォルニア大学リバーサイド校エクステンションセンター内に東北大学センターを設置した。 ・2018年7月、アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の Gene Block 学長を代表とする訪問団が本学を訪れ、大野英男総長と今後の協力連携について意見交換を行った。 ・2022年9月、アルバート ピサノ教授(Dean, Jacobs School of Engineering, UC San Diego)が国際的な知見と高い専門性を持つ海外有識者から構成される東北大学国際アドバイザーに就任した。 	
【学生交流】 <p>1)派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学・コミュニケーション力向上、異文化理解、国際教養力の養成等を目的とした短期海外研修プログラムを実施し以下のとおり学生を派遣した。 2013 年度：112 名、2014 年度：87 名、2015 年度：84 名、2016 年度：65 名、2017 年度：54 名、2018 年度：35 名、2019 年度 32 名、2021 年度：43 名、2022 年度 32 名 ・大学間学術交流協定に基づく交換留学により以下のとおり学生を派遣し、専門分野の知識を基盤としてイノベーションを導くことのできる多角的視点を持つグローバルリーダーを養成した。 2016 年度：11 名、2017 年度：12 名、2018 年度：6 名、2019 年度：2021 年度：10 名、2022 年度：8 名 <ul style="list-style-type: none"> ・カリフォルニア大学デービス校 (UC Davis) と連携し、UC Davis 大学教員・学生との文化的・知的交流並びに UC Davis 大学教員からの研究指導等により構成された自然科学系の大学院生を主な対象とした短期研修プログラムを 2014 年度に実施し、11 名の学生を派遣した。 ・自然科学系の大学院生を主な対象とした研究中心型学生派遣プログラムにより以下のとおり学生を派遣し、高度な専門知識と研究力を兼ね備え、各分野においてグローバルに活躍できる人材を養成した。 <p>2013 年度：1 名、2016 年度：1 名、2017 年度：3 名、2019 年度：1 名、2022 年度：1 名</p> <p>2)受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015 年度及び 2018 年度に世界トップレベルの学術交流協定校より優秀な留学生を招へいし、日本語教育や文化研修を通して日本理解を促進し、高度な専門教育に触れる 2～4 週間短期集中型プログラムである「Tohoku University Japanese Program」(TUJP) において、各 1 名の学生を受け入れた。 ・大学間学術交流協定に基づく交換留学(短期留学生受入プログラム)により、2016 年度：15 名、2017 年度：10 名、2018 年度：8 名、2019 年度：13 名を受け入れた。また、2023 年度に 14 名を受け入れる予定である。 	
② 交流に向けた準備状況 <ul style="list-style-type: none"> ○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。本年 3 月のバンコクでの APAIE において、カリフォルニア大学の Associate Vice Provost and Executive Director である Vivian-Lee Nyitray 教授に協力の合意を得たところである。なお、本年の NAFSA の会議においても本申請の学生交流の深化について多角的な打ち合わせを行い事業への協力の合意を得た。 	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ペンシルベニア州立大学(The Pennsylvania State University) (米国)
① 交流実績（交流の背景） <ul style="list-style-type: none"> ・1988年11月大学間学術交流協定を締結 ・共同研究のため、2017年度、2018年度、2019年度に研究者各1名（国際集積エレクトロニクス研究開発センター、理学研究科、医学系研究科）の派遣を行った。また、2017年度にポスドク研究員の長期受入れを行った（工学研究科）。 	
【学生交流】 <p>1)派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間学術交流協定に基づく交換留学により 2014 年度に 1 名の学生を派遣し、専門分野の知識を基盤としてイノベーションを導くことのできる多角的視点を持つグローバルリーダーを養成した。 ・自然科学系の大学院生を主な対象とした研究中心型学生派遣プログラムにより以下のとおり学生を派遣し、高度な専門知識と研究力を兼ね備え、各分野においてグローバルに活躍できる人材を養成した。 <p>2015 年度 1 名、2016 年度 4 名、2017 年度 1 名</p> <p>2)受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間学術交流協定に基づく交換留学（短期共同研究留学生受入プログラム）により、2016 年度、2017 年度に各 1 名、2018 年度に 2 名、2022 年度に 1 名を受け入れた。 ・世界最高水準の独創的な研究を基盤とした高等教育環境で留学生が理工系の先端的で高度な専門科目・研究のトピックスを英語による集中講義形式で聴講するとともに、日本語、日本文化等を履修する東北大学理工系サマープログラムにおいて、2023 年度 5 名の学生を受け入れる予定である。 	
② 交流に向けた準備状況 <ul style="list-style-type: none"> ○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 <p>本年 3 月のバンコクでの APAIE において、ペンシルベニア州立大学の Vice Provost for Global である Roger Brindley 教授に協力の合意を得たところである。なお、本年の NAFSA の会議においても本申請の学生交流の深化について多角的な打ち合わせを行い事業への協力の合意を得た。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ノースカロライナ大学シャーロット校 (University of North Carolina at Charlotte) (米国)
① 交流実績（交流の背景） <ul style="list-style-type: none"> 2014年12月大学間学術交流協定を締結 	
【学生交流】 <p>1) 派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 2016年度～2022年度にかけ国際共修、異文化理解、特定のテーマに沿った現地学生との協働を目的とした短期海外研修を実施し、計64名を派遣した。 2016年度～2022年度に大学間学術交流協定に基づく交換留学により計17名の学生を派遣した。 <p>2) 受入</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学間学術交流協定に基づく交換留学(短期共同研究留学生受入プログラム)により、2015年度に1名、2016年度に5名、2017年度に4名を受け入れた。また2023年に1名を受け入れる予定である。 2017年度に世界トップレベルの学術交流協定校より優秀な留学生を招へいし、日本語教育や文化研修を通して日本理解を促進し、高度な専門教育に触れる2～4週間短期集中型プログラムである「Tohoku University Japanese Program」(TUJP)において、3名の学生を受け入れた。 	
② 交流に向けた準備状況 <ul style="list-style-type: none"> 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 <p>交換留学による学生交流から発展し、2年前よりファカルティレッドプログラムとして本学からノースカロライナ大学シャーロット校に学生を派遣している。第一回目はパンデミックにより、実渡航型の研修が直前に中止となったが、急遽、オンラインに切り替えてカリキュラムを変更することなく、学生満足度の高いプログラムを遂行することが出来た。長年、育んできた信頼関係により、このように、危機にも即座に対応することができた。ノースカロライナ大学シャーロット校の国際部の副プロボストには本学のSGUのアドバイザリーボードメンバーとしても本学の国際化に貢献してもらっている。ノースカロライナ大学シャーロット校の副プロボストのJoel Gallegos氏と協議を行い、本プロジェクトを通じてより活発な国際交流教育の実施について合意を得ている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ベイラー大学(Baylor University) (米国)
① 交流実績（交流の背景） <ul style="list-style-type: none"> 2018年2月大学間学術交流協定を締結 <p>【学生交流】</p> <p>1) 派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学間学術交流協定に基づく交換留学により以下のとおり学生を派遣し、専門分野の知識を基盤としてイノベーションを導くことのできる多角的視点を持つグローバルリーダーを養成した。 2021年度：2名、2022年度：1名 <p>2) 受入</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学間学術交流協定に基づく交換留学(短期共同研究留学生受入プログラム)により、2022年度に2名を受け入れる予定である。 コロナ禍以降初めて、2023年6月、本学学生とベイラー大学学生による協働プロジェクト「多文化間コミュニケーション「仙台の地域社会活動に参加して多様な人々と交流しよう」により、10名の学生を受け入れる予定である。 	
② 交流に向けた準備状況 <ul style="list-style-type: none"> 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 <p>ベイラー大学日本語教育担当のプレフェューメ教授によるファカルティレッドプログラムを過去5年にわたり受け入れ（コロナ禍は中断）、本学の国際共修授業と連動させて被災地を訪問したりするなど、協働教育を実施してきた。この短期派遣が双方向の交換留学に発展しており、これらの短期・長期の教育交流を基盤に、本プロジェクトではさらに交流を発展させる。ベイラー大学のJeffrey Hamilton教授と協議を行い、本プロジェクトへの参画について合意している。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ワシントン大学(University of Washington) (米国)
① 交流実績（交流の背景）	
<ul style="list-style-type: none"> 1996年7月大学間学術交流協定を締結 2017年4月 北米で学術・学生交流・産学連携を進めるための拠点として海外拠点「アカデミック・オープン・スペース (AOS)」を設置。開所式と合わせ、専門ワークショップや記念シンポジウムを開催された。 2019年ワシントン大学物質材料学科125周年式典にて大野総長が基調講演、両大学が副学長レベルでこれまでのAOSの活動を評価するとともに、更に協力を進めることで合意した。また、2月から12月にかけて、ワシントン大学より、教職員及び学生計36名が東北大学を訪問し、その後の協力の方向性等について協議を行った。 2020年 東北大学、ワシントン大学、リヨン大学、アブドラ王立科学技術大学「低炭素社会の実現に向けたアンモニア燃焼・材料国際研究交流拠点の構築」がJSPS「研究拠点形成事業」に採択された。 2022年、東北大学、ユニバーシティカレッジロンドン (UCL)、ヨーク大学、イーストアングリア大学、ワシントン大学の「レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携」が文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された。 	
<p>【学生交流】</p> <p>1) 派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ワシントン大学と連携し、ワシントン大学教員・学生との文化的・知的交流並びにワシントン大学教員からの研究指導等により構成された自然科学系の大学院生を主な対象とした短期研修プログラムを実施し、以下のとおり学生を派遣した。 2015年度：13名、2016年度：14名、2017年度：7名、2018年度：8名、2019年度6名 大学間学術交流協定に基づく交換留学により2016年度に1名の学生を派遣し、専門分野の知識を基盤としてイノベーションを導くことのできる多角的視点を持つグローバルリーダーを養成した。 自然科学系の大学院生を主な対象とした研究中心型学生派遣プログラムにより以下のとおり学生を派遣し、高度な専門知識と研究力を兼ね備え、各分野においてグローバルに活躍できる人材を養成した。 <p>2016年度：1名、2018年度：1名</p> <p>2) 受入</p> <ul style="list-style-type: none"> 2015年度及び2018年度に世界トップレベルの学術交流協定校より優秀な留学生を招へいし、日本語教育や文化研修を通して日本理解を促進し、高度な専門教育に触れる2～4週間短期集中型プログラムである「Tohoku University Japanese Program」(TUJP)において、各1名の学生を受け入れた。 世界最高水準の独創的な研究を基盤とした高等教育環境で留学生が理工系の先端的で高度な専門科目・研究のトピックスを英語による集中講義形式で聴講するとともに、日本語、日本文化等を履修する東北大学理工系サマープログラムにおいて、2015年度2名、2018年度17名、2019年度22名の学生を受け入れた。また、2023年度においては14名の学生を受け入れる予定である。 <p>② 交流に向けた準備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 <p>2023年5月、ワシントン大学リーディング副学長と本構想について協議を行い、事業参加の合意を得ている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	モンタナ大学(University of Montana) (米国)
① 交流実績（交流の背景） <ul style="list-style-type: none"> 2016年9月大学間学術交流協定を締結 <p>【学生交流】</p> <p>1) 派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際共修、異文化理解、特定のテーマに沿った現地学生との協働を目的とした短期海外研修を実施し、以下のとおり学生を派遣した。 2018年度：20名、2019年度：20名、2021年度：20名、2022年度：22名 <p>2) 受入</p> <ul style="list-style-type: none"> 2017年度及び2019年度に世界トップレベルの学術交流協定校より優秀な留学生を招し、日本語教育や文化研修を通して日本理解を促進し、高度な専門教育に触れる2～4週間短期集中型プログラムである「Tohoku University Japanese Program」(TUJP)において、各1名の学生を受け入れた。 大学間学術交流協定に基づく交換留学(短期共同研究留学生受入プログラム)により、2018年度に1名、2022年度に2名を受け入れた。 	
② 交流に向けた準備状況 <ul style="list-style-type: none"> 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 <p>協定締結初期には双方の大学執行部が大学を訪問し合い、活発な教育・研究交流を行うことに合意した。その後は、特に本学からの短期留学を重点的に行い、環境保全をテーマとしたファカルティレッドプログラムを実施し、先方からはジャーナリズム専攻の学生を教員が引率し本学を訪問している。近年は双方向の交換留学にもつながっており、本プロジェクトについて協議し、短期・交換、受入・派遣をバランスよく取り入れた教育交流に発展させることを、モンタナ大学マンスフィールドセンター所長のDeena Mansour氏と協議し、合意している。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	テンプル大学(Temple University) (米国)
① 交流実績（交流の背景）	
<ul style="list-style-type: none"> ・2010年6月大学間学術交流協定を締結 ・共同研究のため、2018年度に研究者1名(経済学研究科)を受け入れた。 	
<p>【学生交流】</p> <p>1)派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度、2022年度にテンプル大学が主催する言語学習や異文化理解を目的とした短期プログラムに各1名派遣した。 ・大学間学術交流協定に基づく交換留学により以下のとおり2017年度、2018年度に1名ずつ学生を派遣し、専門分野の知識を基盤としてイノベーションを導くことのできる多角的視点を持つグローバルリーダーを養成した。 ・自然科学系の大学院生を主な対象とした研究センター型学生派遣プログラムにより2013年度に1名の学生を派遣し、高度な専門知識と研究力を兼ね備え、各分野においてグローバルに活躍できる人材を養成した。 	
<p>② 交流に向けた準備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 <p>2023年4月に本学を訪問したテンプル大学アメリカン言語文化センターJacqueline McCafferty所長と新たな留学モデルの共同開発につき意見交換を行った。また、今後さらなる双方方向の教育交流の活性化に向け、Erika Clemons副学長補佐とオンライン会議を行い、本プロジェクトで連携することを確認した。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ウォータールー大学(University of Waterloo) (カナダ)
① 交流実績（交流の背景） <ul style="list-style-type: none"> 2006年10月大学間学術交流協定を締結 <p>【共同研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同研究、フィールドワークのため、2017年度に5名の研究者（情報科学研究科）を受け入れるとともに、2019年度に研究者3名（高度教養教育・学生支援機構）の派遣を行った。 <p>【学生交流】</p> <p>1) 派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 語学・コミュニケーション力向上、異文化理解、国際教養力の養成等を目的とした短期海外研修プログラムを実施し以下のとおり学生を派遣した。 2016年度：20名、2017年度：35名、2018年度：40名、2019年度：46名、2021年度：20名、2022年度：19名 自然科学系の大学院生を主な対象とした研究中心型学生派遣プログラムにより2013年度に1名の学生を派遣し、高度な専門知識と研究力を兼ね備え、各分野においてグローバルに活躍できる人材を養成した。 <p>2) 受入</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界トップレベルの学術交流協定校より優秀な留学生を招へいし、日本語教育や文化研修を通して日本理解を促進し、高度な専門教育に触れる2～4週間短期集中型プログラムである「Tohoku University Japanese Program」(TUJP)において、2016年度、2017年度に各1名、2018年度、2019年度に各2名、2023年度に5名の学生を受け入れる予定である。 大学間学術交流協定に基づく交換留学(短期共同研究留学生受入プログラム)により、2019年度に2名、2022年度に1名を受け入れた。また、2023年度には6名の学生を受け入れる予定である。 <p>② 交流に向けた準備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 <p>本学のスタディアブロードプログラム(SAP)のパートナーとしてこれまで多くの学生を派遣しており、現在は双方向の交換留学にもつながっている。質の高い語学プログラムを有するウォータールー大学のレニソンカレッジとは特に有効な信頼関係が出来ており、Ian Rowlands副学長補佐と本プロジェクトで協力することを確認した。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに① ②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	マラヤ大学(University of Malaya) (マレーシア)
① 交流実績（交流の背景）	
・2016年1月大学間学術交流協定を締結	
<p>【学生交流】</p> <p>1) 派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度～2022年度にマラヤ大学が主催する言語学習や異文化理解を目的とした短期プログラム及び英語により専門科目を履修する短期プログラムに計131名を派遣した。 ・大学間学術交流協定に基づく交換留学により以下のとおり学生を派遣し、専門分野の知識を基盤としてイノベーションを導くことのできる多角的視点を持つグローバルリーダーを養成した。 <p>2017年度：1名、2018年度：2名、2021年度：1名、2022年度：1名</p> <p>2) 受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界トップレベルの学術交流協定校より優秀な留学生を招へいし、日本語教育や文化研修を通して日本理解を促進し、高度な専門教育に触れる2～4週間短期集中型プログラムである「Tohoku University Japanese Program」(TUJP)において、2017年度、2018年度に各1名、2022年度においては10名を受け入れた。 ・大学間学術交流協定に基づく交換留学(短期留学生受入プログラム)により、2017年度に1名、2023年度に2名の学生を受け入れた。 	
② 交流に向けた準備状況	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。マレーシアの最高学府でもある同大との協定には、本学の複数の学部・研究科が参画しており、盤石な関係が構築されている。近年は、交換留学や短期研修における学生交流を活発化させており、本プロジェクトでは米国の連携校であるノースカロライナ大学シャーロット校も交えた共同プログラムの開発について既存の教育交流に追加し発展させることをプログラム担当者の国際部 Ahmad Hilmi Mohamad Noor 氏と合意した。その後、マラヤ大学副学長補佐と本学副学長の間で協定書を取り交わした。 	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	アラバマ大学(The University of Alabama) (米国)
<p>① 交流実績（交流の背景）</p> <p>1984 年に大学間交流協定を締結し、長年にわたり言語教育・文化教育の分野で海外研修英語文化及び海外研修英語プログラム等を実施してきた(2023 年も開講予定)。また、教育学部の学生を長期の派遣留学で派遣している。2018 年の COIL-JUSU プログラムの発足以来、国際教養学部との COIL Basic プログラム、教育学部との社会科教育(地理教育)プログラム、看護学部とのグローバル・ヘルス・ナーシング・プログラムを発足させ、2019 年からはこれに加え、教育学部との美術史・美術教育プログラム、国際教養学部との国際社会史、安全保障論、アカデミック・ライティング等が加わり、この時点で、全 8 科目を開講した。2020 年には中東政治と日米関係のプログラムを法政経学部と開講するなど、関係学部を拡大しつつ 10 科目を開講した。2021 年には園芸学部と新たに日本の庭園と園芸学に関するプログラムを開講し、マンガの受容や、日本のポピュラーカルチャーに関わる科目など、都合 12 科目を開講した。この中には、コロナ禍を反映したパンデミックと国際機構という科目も含まれる。2022 年度にも 9 科目を継続開講した。</p>	
<p>② 交流に向けた準備状況</p> <p>○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。</p> <p>交流実績の箇所に記載したとおり、アラバマ大学との間ではすでに COIL-JUSU を行ってきた経験が蓄積されており、英語教育についても継続的な協力関係にある。千葉大学側でもアラバマ大学との COIL 授業については、国際教養学部、法政経学部、教育学部、園芸学部、看護学部と複数の学部の教員が交流の経験を有している。内容的にも国立大学で唯一千葉大学に設置されている国際教養学部、園芸学部、看護学部のプログラムを継続的に実施しており、なかでも看護学部との緊密な関係を持続しており、ユニークなプログラムとして学生の参加を見込むことができるなど、十分な準備状況にある。アラバマ大学については、看護学部を中心としつつ、人文社会科学、自然科学、生命科学のバランスを取れた交流の準備ができている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	シンシナティ大学(University of Cincinnati) (米国)
① 交流実績（交流の背景）	
<p>2012 年に大学間交流協定を締結し、2016 年の千葉大学国際教養学部創立記念シンポジウムに当時の Santa Jeremy Ono 学長が招待講演に来日し、千葉大学から名誉博士号を授与するなど、関係を深めた。また、長期の派遣留学で、融合理工学府、園芸学部、国際教養学部から学生を継続的に派遣している。2018 年の COIL-JUSU プログラムの発足によって、同年に国際教養学部とのグローバル・スタディ・プログラム、文学部との留学学、工学部とのパッケージ・デザインの科目をいずれも COIL によって開講し、関係を強化した。翌 2019 年には工学部とのデザイン関連の科目を増設するとともに、新たに文学部との間で日本の宗教・文化に関する科目を開設した。2020 年にはアラバマ大学に続き、看護学部のグローバル・ヘルス・ナーシング・プログラムがシンシナティ大学との間でも開設された。2021 年度にはさらに国立歴史民俗博物館の協力を得て、同館における歴史教育実習という展示作成のインターンシップ・プログラムを COIL で展開した。2022 年にも計 4 科目を継続開講した。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。</p> <p>交流実績の箇所に記載したとおり、シンシナティ大学との間ではすでに COIL-JUSU を実施してきた経験が蓄積されている。特に文学部の日本・ユーラシア文化コースは、COIL 以前から実施してきたシンシナティ大学との共同授業を COIL-JUSU の中で発展させ、千葉大学が保有する古医書コレクションの閲覧、日本における文化体験プログラムの実施、シンシナティ大学教員の公開講演会の開催など、十分な準備状況にある。文学部以外でも、国際教養学部、工学部、看護学部など複数学部の教員が交流の経験を有している。また、長期の派遣留学を経験した学生もおり、COIL 型授業の継続実施の準備はできている。このように、シンシナティ大学については、文学部を中心としつつ、人文科学、自然科学、生命科学のバランスの取れた交流の準備ができている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 (State University of New York at Stony Brook) (米国)
<p>① 交流実績（交流の背景）</p> <p>1996 年に大学間交流協定を締結した。また、国際教養学部から長期の派遣留学として学生を派遣している。2018 年の COIL-JUSU プログラムの発足以来、特色あるプログラムを共同開講してきた。2018 年には地域や自治体における PBL 授業と現代日本の宗教についての科目を開講し、2019 年にも両科目を開講した。2020 年には、日英両言語を使用する、日本宗教についての二言語併用授業を開講した。2021 年には、他大学とともに国立歴史民俗博物館の協力を得て、同館における歴史教育実習という展示作成のインターンシップ・プログラムを COIL で展開した。2022 年にも計 2 科目を継続開講した。</p>	
<p>② 交流に向けた準備状況</p> <p>○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。</p> <p>交流実績の箇所に記載したとおり、ストーニーブルック校との間ではすでに COIL-JUSU を開催してきた経験が蓄積されており、長期派遣の学生交流の実績もある。特に千葉大学の全学副専攻であるローカルイノベーション学との関連で、地域 PBL の課題解決型学習を COIL で共同実施している点がユニークであり、国際教養学部を中心とした交流と COIL 型授業の継続実施の準備ができている。また、米国学生の関心が高い日本の宗教の問題については、米国の宗教事情と日本の宗教事情、特に日本の習俗と宗教との関係、新興宗教の社会的位置等についてギリシア国籍の教員が比較検討する COIL 型授業を開催するなど、今後に交流を発展させる体制も準備も完成している。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ニュースクール大学(The New School) (米国)
<p>① 交流実績（交流の背景）</p> <p>2012 年に大学間交流協定を締結した。また、国際教養学部から長期の派遣留学として学生を派遣している。2018 年の COIL-JUSU プログラムの発足以来、特色あるプログラムを共同開講してきた。2019 年には災害研究 Disaster Preparedness を工学部・国際教養学部との間で開講した。また、2020 年には同じく工学部・国際教養学部との間でデータの可視化 Data Visualization についての新科目を開講し、2021 年には前期 2 科目を同時に開講した。これは 2022 年にも継続開講した。特に 2020 年の COVID-19 の流行もあって、他大学を含め、同期・非同期を併用した COIL 授業を展開することになった。</p>	
<p>② 交流に向けた準備状況</p> <p>○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。</p> <p>交流実績の箇所に記載したとおり、ニュースクール大学との間ではすでに COIL-JUSU を行ってきた経験が蓄積されている。ニュースクール大学との間では特に工学部のデザイン系の交流が緊密であり、データの可視化についての COIL-JUSU プログラムはこの交流を基盤としたものである。また、ニュースクール大学の教員が千葉大学に来訪したおり、新たな交流のテーマとして災害研究 Disaster Studies を提案され、それに応ずる形で Disaster Preparedness の COIL 型授業を実施してきた。千葉大学では、こうした工学系の災害研究に加え、災害看護や災害治療学という特色ある分野で教育研究が展開されていることから、今後この分野で COIL 型授業を拡大する準備体制は構築されている。特に 2021 年には千葉大学災害治療学研究所を発足させており、高度な教育研究を展開する基盤が整備されている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	レジャイナ大学(University of Regina) (カナダ)
<p>① 交流実績（交流の背景）</p> <p>2017 年に大学間交流協定を締結した。比較的新しい協定校であるが、これまでに国際教養学部から長期の派遣留学として 3 名を連続して派遣している。短期の語学・文化プログラムでは夏・春各 30 名ほどの学生を受け入れている。COVID-19 の流行にともなって千葉大学で導入されたオンライン留学プログラムでも、積極的に本学の学生を受け入れ、カナダの地理的多様性、先住民との共存の研究、現地学生や地域住民との交流プログラムも組み込まれたプログラムを企画した。このオンライン留学プログラムの実現は、今後の COIL 型授業の展開の基盤となる。また、千葉大学の全員留学のプログラムのうち、2022 年に渡航を伴う短期プログラムが再開されると、レジャイナ大学は速くこれを受け入れ、28 名の学生が渡航プログラムに参加した。</p>	
<p>② 交流に向けた準備状況</p> <p>○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。</p> <p>レジャイナ大学との間では COIL 型授業の経験はないものの、渡航をともなう留学やオンライン留学を実施してきた経験がある。そのため、COIL 型授業を行う準備はできている。特にカナダについては、米国における先住民研究に加え、イヌイット等カナダ北部の先住民についての教育研究が進んでおり、多様性研究が活発である。また、レジャイナ大学では Geography & Environmental Studies というプログラムがあり、生物多様性をはじめ環境学の教育研究分野でも特色がある。そのため、本学の環境 ISO 学生委員会などの学生を主体とした活動経験の交流を COIL 型授業を通じて実施することも構想している。千葉大学においては、2024 年度から環境学の分野で全学副専攻を作り、部分的に開始することを構想しており、米国大学及びレジャイナ大学との COIL 型授業の交流を、より広い文脈に位置付け発展させる準備をしている。</p>	

事業計画の実現性、事業の発展性【①は3ページ以内、②～④は合わせて8ページ以内】

① 年度別実施計画

【2023 年度（申請時の準備状況も記載）】

第1四半期 4-6月 | 第2四半期 7-9月 | 第3四半期 10-12月 | 第4四半期 翌年1-3月

【共通活動】2023 年 第2四半期

- 関西大学と国立大学法人千葉大学との連携協力に関する協定締結
- 連携3大学間単位互換合意協定締結

2023 年 第3四半期

- JIGE (Japan hub for Innovative Global Education) 運営委員会第一回開催
- JIGE Osaka Office (HQ) と JIGE Tokyo Office 開設

2023 年 第4四半期

- 「アトリエ MCP」国際化促進フォーラムプロジェクト開始 (JV-Campus 上)
- Blended Mobility プログラム事業の広報活動@IVEC2023, IAU2023, EAIE2023, APAIE2024
- 日本語 DX 反転授業・PREP-Room 開始 【以後継続】
- JIGE 年度末国際シンポジウム第1回 開催 (JIGE 主催採択大学集会開催) 【以後毎年開催】

【関西大学】

- IIIGE による JIGE との共同活動の開始
- JV-Campus オリジナル教育コンテンツの提供 (※社会科学・ビジネスデータサイエンストピック)

【千葉大学】

- 「アトリエ MCP」向けのデザイン・イノベーションプログラム構築
- JD プログラム構築のための規程整備
- 国立歴史民族博物館との連携による日本文化プログラム開発 AR/VR 活用のプログラム開発

【東北大学】

- オンライン・ハイブリッドを取り入れた短期研修から研究までの幅広い派遣・受入プログラムを連携校と共同で企画・実施
- 本事業実施運営のための委員会「世界展開力事業（北米）推進運営委員会（仮）」を設置
- 他大学、連携大学との共同教育カリキュラムの設計および連絡調整で主体的な役割を担うカリキュラムコーディネータを雇用
- 本学教職員が連携大学を訪問し、今後の事業の展開、とりわけ学生交流の活性化について協議を開始

【2024 年度】

【共通活動】2024 年第1四半期

- アトリエ MCP 5-6月 5 Weeks Program (マイクロクレデンシャル化) 【以後継続】
- 共同研究+ラボインターンシップ (通年) 開始
- 渡航型・課題解決型インターンシッププログラム(Future Design Project) 参加開始

2024 年 第2四半期

- 創創チャレンジ PJ: ASEF と連動した Youth Leader サミットオンラインプログラム開始
- アトリエ MCP 8-9月 5 Weeks Program 【3コース開催】
- JIGE キャパシティビルディング研修セミナー 3 Weeks Program 【2コース提供】
- 3 大学共通型 BM プログラム (派遣プログラム 短期 30 日以内) 開始 【以後継続】

2024 年 第3四半期

- アメリカ領事館と連携した学生交流事業 (パビリオン関連) 実施
- マイクロクレデンシャル日本語コース開始 3か月プログラム開始
- 米国大学における JV-Campus コンテンツ使用カリキュラム準備 (2025 年 Spring term から実装)
- ドクトラル・コロキウム COIL バーチャルスペース開発・12 月スタート

2024 年 第4四半期

- JIGE 年度末国際シンポジウム第2回 開催 【以後毎年開催】
- 日米・日加大学間国際パートナーシップ促進イベント第1回 実施【以後毎年開催】
- 渡航型・課題解決型インターンシッププログラム(Future Design Project) 最終報告会
- JIGE 特設リモート・インターンシッププログラム 開始 【以後継続開催】

【関西大学】

- JV-Campus 科目のダブルディグリープログラムにおける活用開始(ギーセン大学理工学研究科)
- 新設研究科(Global & Area Studies 仮称)における AP 制度の開始

【千葉大学】

- 共通デザインシンキングプログラムのプラットフォーム構築
- 日本文化プログラム開発のチャットボット開発 インタラクティブな AR/VR 構築で DX 推進

【東北大学】

- 入学前研修対象生、学部生及び大学院生について、国際共修を取り入れた短期及び中長期の受入れと派遣を実施し、事前・事後研修にデジタル教育を導入
- 派遣および受入プログラムのカリキュラムマッピングを実施し公表
- 連携大学と合同グローバル・インターンシップの開発およびジョブ・フェア、アントレプレナーワークショップを開催
- 博士課程ドクトラル・コロキウム実施展開のためのシステム構築

【2025 年度】

【共通活動】 2025 年 第 1 四半期

- JIGE キャパシティビルディング研修セミナー 3 Weeks Program
【以後各四半期毎に 1-2 コース提供】
- 採択大学対象活動調査・アンケート調査及び結果分析
- 海外大学と連携したリスクリング・リカレント教育コンテンツの開発開始

2025 年 第 2 四半期

- 共創チャレンジ PJ: ASEF Youth Leader サミットプログラム来阪
- アトリエ MCP 8-9 月 5 Weeks Program 【以後通年 全四半期合計 5-10 コース以上 提供】
- マイクロクレデンシャル日本語語コース開始 3 か月プログラム開始
- 米国大学における JV-Campus コンテンツ使用カリキュラム準備
- JIGE PREP-ROOM プログラムコース提供 【3 コース開始】

2025 年 第 3 四半期

- JIGE 年度末 国際シンポジウム開催
- JIGE バーチャルインターンシッププログラム 開始 【3 プログラム】 【以後継続】

2025 年 第 4 四半期

- JIGE AP 制度開始 | AP 対象 アトリエ MCP コース、PREP-ROOM 開始)
- BM(国際教育)カリキュラムアドバイザー養成コース履修証明プログラム登録
- Global BOLD プログラム始 | RA サミットにて告知

【関西大学】

- リスクリング・リカレントプログラムへの科目提供(JV-Campus へのコンテンツ提供) 【以後継続】
- 日本人・外国人留学生対象ペアインターンシッププログラムの開始 【以後継続】

【千葉大学】

- JD プログラムを想定した修士課程におけるグローバル・イシュー展開
- 2W の PBL プログラムによる JD 向け共通プログラムの実施
- AR/VR プログラムの拡張による AI を用いたプログラム実施 日本文化 AI ベースプログラム開発

【東北大学】

- 入学前国際研修と国際学士課程予備教育を統合した Pre-college 高大連携国際準備コースを開始。AP との連動準備を加速
- 短期・中長期の派遣・受入(オンライン、ハイブリッド含む)プログラムのさらなる拡充
- 学生の主体性を育む課外学習活動プログラムの開発・整備、学習・研究成果をデジタル化し JV-Campus での成果発信・コンテンツ提供
- 企業との共同プロジェクト(例:グローバル・アプリ開発)を推進

【2026 年度】

【共通活動】2026 年 第 1 四半期

- 国内大学連携型共同学位取得（大学院）プログラム（千葉大学・関西大学）開始
- 複数大学連携グローバル*ジョイント・マイナープログラム（サテイフィケート）開始 *国内大学＋スペイン CEU/ブラジル UNESP/KCC/NCSU 等の参画を現在想定・相談中

2026 年 第 2 四半期

- アトリエ MCP 8-9 月 5 Weeks Program 【3 コース開催】
- マイクロクレデンシャル日本語語学コース開始 3 か月プログラム開始
- 米国大学における JV-Campus コンテンツ使用カリキュラム準備
- JIGE PREP-ROOM プログラムコース提供 【3 コース開始】

2026 年 第 3 四半期

- JIGE 年度末 国際シンポジウム 開催

2026 年 第 4 四半期

- 国内連携共同学位取得（大学院）プログラム 第1回報告会
- Global BOLD プログラム (with 共立メンテナンス株式会社) 発表会

【関西大学】

- 新設学部において JV-Campus 科目等オンライン提供科目利用（単位互換および AP 制度の導入）開始（注：2026 年新設学部開始予定に基づく）

【千葉大学】

- JD におけるオープン・イノベーション・プログラム実施
- デジタル・ツイン等 DX を利用した日本文化プログラム構築

【東北大学】

- 入学前研修から高度専門フィールドワークまで、全ての研修に国際共修、デジタル教育を導入
- グローバルキャリア形成プログラム、イベント開催における協働パートナーの拡充
- 全ての研修プログラムの概要・成果を可視化したグローバル活動発信サイトを HP に追加
- ドクトラル・コロキウムの運営体制構築 COIL/VE ドクトラル・コロキウムのネットワーク世界展開

【2027 年度】

【共通活動】

- 2027 年 第 1 四半期 ○国際大学連携型共同学位取得（大学院）JD プログラム（千葉大学・関西大学・米国大学*）開始 現時点で国際フロリダ大学を想定（相談中）
- 2027 年 第 2 四半期 ○3 大学国際教育活動の効果検証および検証成果出版
- 2027 年 第 3 四半期 ○JIGE グローバルサミット実施（最終年度成果報告会）
- 2027 年 第 4 四半期 ○事業最終とりまとめ報告会・検証委員会、シンポジウム開催

【関西大学】

- ビジネスデータサイエンス学部他複数学部・研究科において AP 制度の採用

【千葉大学】

- 修士課程 JD の進化 学部 JD のフレーム構築
- 日本文化プログラムのデジタル化の集大成構築 全デジタル化による教育成果の計測と自走化

【東北大学】

- 学生主体の課外学習・研究活動の成果を習熟度別にシリーズ化して開催。事業終了後の継続について学生を含むコミッティーを立ち上げ検討

- グローバル・ドクトラル・コロキウム世界展開 自走化

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

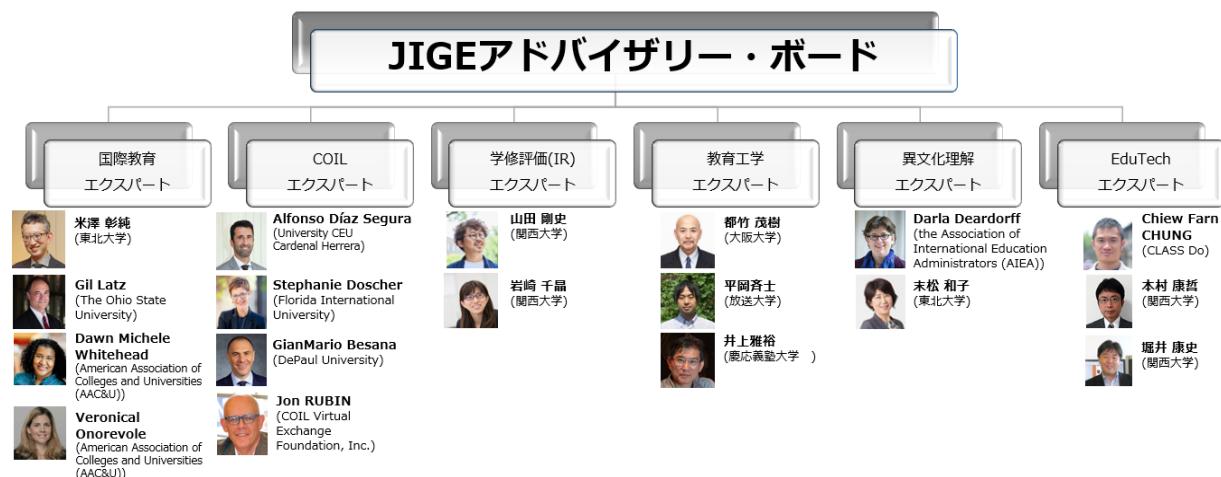
【交流プログラムの実施および評価体制】

グローバル・アドバイザリー・ボードの設置

本事業における多層的交流プログラム等の全体的検証と評価機能を持つ仕組みとして、国際教育・国際共修分野のエキスパートからなる国際的アドバイザリー・ボードを設置する。アドバイザーとしては、現時点において以下のメンバーを予定している。

【アドバイザリー・ボードの組織形態とメンバー候補者】

※2023年6月現在



JIGE アドバイザリー・ボードは、それぞれの専門的な助言を提供する活動の他(様式 1—⑤参照)に、年に一度、事業評価を目的とした検証委員会として集会される。検証の際には、本事業の運営主体である JIGE Steering Committee から提出されるレポートをもとに、定量的目標のみならず定性的目標についても検証し、その達成度を評価するとともに、改善や新たな提案が必要な部分について、建設的な提言を行うことが期待されている。本検証委員会は、日英の両言語を用いて行われる。

インパクト・リサーチ (事業の効果検証) 及び国際比較調査

BM プログラム、キャパシティ・ビルディング、留学生(日本人・外国人留学生)のキャリア形成支援など、本事業における多様なプログラムを実働で遂行する JIGE イニシアティブ・オペレーション (JIGE Initiative Operation/JIO) は、2025 年(中間年度)、2027 年度(最終年度)において、本事業全体の効果を多様なアセスメント手段を用いてその効果を検証し、分析を加え、国内外に発信する。JIGE はプラットフォーム拠点として機能するため、連携 3 大学における効果検証にとどまらず、採択大学、そして他大学への横展開、国外へのアウトリーチの効果についても調査が必要である。さらに、国内の事業としての効果検証にとどまらず、国外において同様に Blended Mobility が展開している現象を鑑み、効果検証を国際比較調査として実施する。本調査については、COIL/VE 型実践において同様のインパクト・リサーチをグローバルに展開している SUNY COIL Center (ニューヨーク州立大学)、Aspen Institute/Steven Initiative (米国・DC)、AAC&U (米国・DC)、IAU(International Association of Universities)、IVEC(International Virtual Exchange Conference)、COIL Connect ともその足並みをそろえて調査を遂行する予定である。様式 1 にあるように、JIGE としてこれらの組織ともすでに関係構築が進んでおり、調査を含め多岐にわたる連携をすることで合意が形成されている(下図:SUNY COIL Center Support Letter, AAC&U Support Letter, COIL Connect Support Letter)。



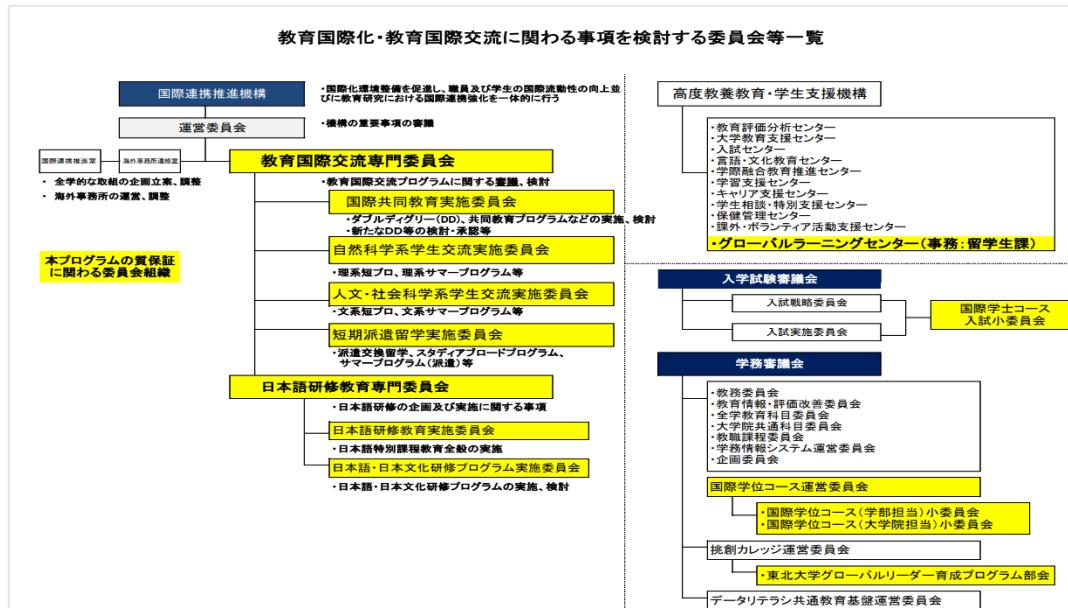
大学独自の取組

[関西大学] 関西大学では、創立 150 周年にあたる 2036 年を見据えた将来構想『Kandai Vision 150』を策定し、その実現のために 5 年をサイクルとする中期行動計画を策定し公開している。この中期行動計画の中に全学で取り組むべき課題の一つとして「**デジタル・オンラインを活用した国際教育の展開**」が掲げられている。中期行動計画に掲げた課題は毎年その進捗度をチェックして、全学で共有し、理事会に報告して外部に公開するという PDCA サイクルを構築している。本事業の実施・達成度もこのサイクルの中で点検・評価されるものとなる。

全学の国際化と国際教育の推進を担う国際部のもとに、副学長・国際部長を機構長とする IIGE が設置されており、COIL/VE 科目の運営や COIL と結びついた海外派遣・受入れプログラムの立案・立案、海外連携体制の構築と維持を行っている。この **IIGE が本事業で本学が独自に展開するプログラムの実施主体となるが、ここに評価部門を設置し、自己点検・評価の機能を持たせる**。なお、関西大学は **2025 年度に大学機関別認証評価を受審する予定**であり、本学における本プログラムの遂行状況は、質保証を厳しく問う外部評価をうけることになる。

また、学修成果の可視化のため、教育推進部のもとに「**教学 IR (Institutional Research) プロジェクト**」が始動しており、学生アンケート等の教学データを分析して各部署にフィードバックし、教育改善に役立てる仕組みとして有効に機能している。分析結果は 2 カ月に 1 回、大学執行部に報告され、毎週開催される内部質保証プロジェクトの議論に反映される体制が整っている。本事業に参加する本学学生についても、教学 IR と連動させて全学規模で多角的に比較・検証することができる。

【東北大】



東北大学では、上記図のとおり、主に国際連携推進機構に組織される各種実施委員会がその役割を担っており、受入れ交換留学プログラムに関しては「自然科学系学生交流実施委員会」又は「人文・社会科学系学生交流実施委員会」、派遣交換留学に関しては「短期派遣留学実施委員会」、ダブルディグリー等をはじめとする共同学位プログラムに関しては「国際共同教育実施委員会」、これらを総括する形で「教育国際交流専門委員会」が本プロジェクトを含む教育国際交流プログラムに関する審議・検討を行う体制となっている。また、教育課程全体（特にオンライン教育の取扱い等）については学務審議会や学務審議会教務委員会が担うこととなる。また、国内学生との国際共修全般に関しては「東北大グローバルリーダー育成プログラム部会」が担当する体制としている。以上のとおり、本学では教育国際化、教育国際交流に関する委員会を整備し様々な交流プログラムに対応する実施体制を既に整備している。

本事業での実施・評価体制については、連携する 3 大学間での委員会のほか、本学の取組に特化する形で、「**世界展開力強化事業（北米）事業運営委員会（仮称）**」を設置し、進捗管理などを、本委員会開催を通じ議論し、プログラムに対する短期自己評価を行う。また、本プログ

ラムの成果は、シンポジウムにて発表、および国際学会、国際雑誌への論文発表を通じ有効にフィードバックし、より効果的なプログラム運営を推進する。

【千葉大学】 千葉大学は、2021年に、千葉大学ビジョンを策定し、その中の教育目標として、「Global Education: 世界に学び世界に貢献する人材の育成」を掲げた。これは、(i) 世界をキャンパスに最先端を学修できる優れた教育環境を提供 (ii) グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養 (iii) 幅広い教養と豊かな知性とともに高度な専門性を鍛磨 (iv) 国際未来教育基幹の強化による最高水準の先進的教育基盤を構築、の4点からなっている。これをもとに、2022年には、国立大学の第4期中期目標・中期計画期間における教育目標として、「千葉大学次世代人材育成計画 Blueprint 2028 for Chiba University Global Education」を制定し、包括的な人材育成計画の中で、「海外大学との国際的な教育連携の推進と全員留学の充実」として、ダブルディグリーの拡大とジョイントディグリーの実現を見据え、教育の質を担保したグローバル教育を推進。海外キャンパスや推進拠点、大学間交流協定を基盤とした海外留学プログラムの戦略的充実ときめ細やかな留学支援を実施することを掲げている。

全学の教育における企画・立案・実施機能は国際未来教育基幹(2016年設立)が担っており、教学の企画・立案は2022年に基幹内に創設した高等教育センターが担い、このセンター内に質保証・FD部と教育改革・IR部を置いている。本事業にかかる実施組織としては、国際教育センターが本学学生の短期留学・派遣留学(留学生派遣推進部)、海外留学生の受け入れ・留学生教育(留学生受入推進部)を担い、スマートラーニングセンターがCOIL-Moodleの運用をはじめ、国際協働学習の基盤整備・メディア授業支援を行い、アカデミック・リンク・センター(教育関係共同利用拠点)が学習支援を行う体制を構築している。これらセンターはそれぞれ自己点検評価機能を内部に有しており、これによって企画・立案・実施のそれぞれにおいて重層的な評価体制が形成されている。

さらに、グローバル教育のアドバイザリー・ボードとして国際未来教育基幹キャビネットが本事業を含む教育全般のレビューを行う。同キャビネットは教育担当理事がキャビネット長をつとめ、外部委員として、私立大学前学長、国立大学現学長、国立大学の学生支援専門家、米国大学教員、オーストラリア大使館元公使等が年2回、グローバル教育をはじめ、教育全般についてレビューを実施し、学生との直接懇談会を通じて意見聴取を実施することとしている。

③ 補助期間終了後の事業展開

補助期間終了後のJIGEの事業展開

本事業の実施を担うJIGEは、補助期間終了後も組織として存続させ、各大学での取組を共有しつつその後の継続的発展をはかる。プログラムのコンテンツは、各大学が自己の責任において維持と更新に努め、さらに可能な限り拡充をめざす。国際共修やオンライン国際教育の担い手を育成するキャパシティ・ビルディングの取組は、受講料を可能な対象層(社会人層など)から徴収することを想定して、一定の運営資金を調達し、そのカリキュラム内容について恒常的なアップデートを行なながら継続する。

【関西大学】

関西大学では、2014年からTriple I(トリプル・アイ)構想の下、大学教育の国際化を推進してきた。2014年には他に先駆けてCOIL型授業を導入し、2018年度からは学生のモビリティを伴うCOIL Plusプログラムを始動させ、海外大学と連携した国際協働学習環境の構築と充実に努め、その運営主体として学内にIIGEを設置し、ICTを活用した国際教育の実施に組織的に取り組んできた。本事業で実施する交流プログラム「アトリエ MCP」は、IIGEが実施してきたMultilateral COIL Programの展開型でもあり、補助期間が終了しても、継続して発展させる体制が整っている。本事業が推進にするBM型の国際交流事業は、JPN-COIL協議会や本事業をきっかけに連携する国際的な大学連盟組織を通じて、その普及をはかる。

外国人留学生に対するJIGE特設のリモートおよび渡航型インターンシップも、関西大学が事務局を務め、18の加盟大学(2023年度6月時点)が全国的に拡大しつつある「留学生就職支援コンソーシアムSUCCESS」との連携を図りながら、継続と発展に努める。

【東北大学】

学部教育におけるグローバルリーダー育成の教育基盤整備について

国内学生向けに平成25年度より実施している「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)」を契機に、令和元年度よりTGLを含む3コースによる「東北大学挑創カレッジ」を創設し

TGL の成功事例を横展開する形でスタートした。TGL に加え、東北大学企業家リーダー育成プログラム (TEL プログラム)、東北大学 SDGs プログラム (SDGS)、東北大学コンピュテーション・データサイエンス・プログラム (CDS)、東北大学ブルリリンク・スタディーズ・プログラム (TUPuS) を立上げた。国際共修を横展開する形で、大学の国際化促進フォーラムの選定プロジェクトとして『国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開』を国内 6 大学と既に開始しておりオンラインによる国際共修の実績も十分にある。今後も国際通用性のある全学的教育プログラムである TGL や学生のオンラインを含む流動性向上に向けた取組は継続・発展される。これら全学的学部教育の推進体制として、平成 26 年度に設置した「高度教養教育・学生支援機構」は、高大接続と入試 (入試センター)、全学教育の開発と推進 (学際融合教育推進センター)、高等教育国際化の推進 (グローバルラーニングセンター)、学生相談と学生支援 (学生相談・特別支援センター)、高等教育の研究と開発 (教育評価分析センター) を一体的に行う組織として学内に定着しており今後も本事業における教育プログラムの中核的推進組織として継続・発展される。

国際共同教育プログラム、学位プログラムをはじめとする大学院教育について

本学では研究科横断型の学位プログラムである「国際共同大学院プログラム」群を創成し、海外有力大学との強い連携のもと国際共同教育を飛躍的に推進・拡充してきた。既に 10 分野でのプログラムを完成させ、海外有力大学との強い連携のもと国際通用性の高い教育を実践している。これら学位プログラムを運営する全学的組織として「東北大学高等大学院機構」が全学的普及と質保証組織として中心的役割を担っている。東北大学ビジョン 2030 の主要施策では、学位プログラムの更なる拡大と全学的組織としての「東北大学高等大学院」の発展が将来構想として謳われ、学位プログラムを推進する体制整備は十分整っている。本事業により、主に北米における海外有力大学との新たな分野でのオンラインも活用した国際共同教育プログラム、学位プログラムの拡充が見込まれるが、本学においては新たな国際共同大学院プログラム、オンラインを活用した大学院レベルでの交流プログラム等を内在化する体制は十分整備されており、事業終了後も継続可能である。

大学の将来構想との連動

「東北大学ビジョン 2030」は本学の中長期将来構想として以下のとおり謳っており、事業終了後も本学ビジョンへ寄与する有力なプロジェクトとして継続する。

東北大学ビジョン 2030 ビジョン 1、大学の変革を加速する「コネクテッドユニバーシティ戦略」教育（主要施策より）

- 学生が未来社会に向けて備えるべき現代的リベラルアーツとしての実践的な教育プログラム（グローバルリーダー教育、AI・数理・データリテラシー教育、アントレプレナーシップ教育）や、既存の学部・学科の枠組みにとらわれない学修などを可能とする多様で柔軟な教育プログラムを実現。
- 海外留学や海外研修プログラムを全学的に促進・拡充、オンラインによる国際共修型授業の新規開発など、オープンでボーダレスなキャンパスにおける国際共修を展開。
- 従来の教育実施体制の枠を超えて、海外有力大学との強い連携のもとに共同教育を実施する「国際共同大学院プログラム」をはじめとする新たな教育プログラムを創出・展開。
- オンラインを戦略的に活用した多様な教育プログラムの機動的展開
- 距離・時間・国・文化等の壁を越えた多様な学生の受入れ推進
- オンラインと対面のベストミックスによるインクルーシブな教育環境の提供

【千葉大学】

千葉大学は、SGU や ENGINE プランを実施し、各種世界展開力強化事業を運営してきた実績があり、SGU の国際日本学の定着、ENGINE プランの全員留学・スマートラーニング・英語教育改革は継続的に実施することとしている。また、大学の世界展開力強化事業についても、これまで補助期間終了後も大学院国際実践教育(4~7 単位の履修証明書と 8 単位の修了証)として、大学院の教育体制に組み込み、定着させている。大学院国際実践教育は、課題解決型の実践学習、海外学生との協働学習、複数分野にまたがる混合型専門教育を特徴とし、グローバルに活躍できる人材、高度な実践型人材、今日的で複合的な課題を解決できる人材、を育成する人材像として定めている。この大学院国際実践教育は、現在、P-Square (植物デザインプログラム)、CODE (大陸間デザイン教育プログラム)、TWINCLE (ツイン型学生派遣プログラム)、PULI (ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム)、CAPE (植物環境イノベーション・プログラム)、FARM (未来農業プログラム)

ラム)、COIL JUSU (COIL を使用した日米ユニーク・プログラム)、SDI-A (ソーシャル・デザイン・イニシアティブ)、GRIP (グローバル地域ケア IPE プラス創生人材の育成) の 9 プログラムで運用している。なかでも、海外学生との協働学習が大学院国際実践教育の特徴にかかげられているよう、COIL 型学習は本学のグローバル教育においてすでに定着しており、補助期間終了後も事業展開をする経験も実績もすでに有していることから、本事業の期間終了後においても継続的な事業展開を行う準備はできている。

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

【補助期間終了後の JIGE 事業の展開】

補助期間終了後 (2028 年度～) を視野に入れ、本事業では产学連携を前提とした取組を多く構築する計画となっている。Society5.0 社会に適性のある人材の育成において、出口でありその人材の受け皿となるのは、経済界を推進する産業分野であり、その分野の多様な企業である。高度なスキルを備えた優秀な外国人層や、留学経験などを経験に持つ日本人層に提供するインターンシップや企業との交流の機会の提供などの取組の成果として、本事業の輩出する人材層が国内企業へ就職し、定着する循環が構築されれば、その循環を継続するため、産業界からの寄付・支援金などを一定の運営資金として活用することができるようになる。もう 1 つの产学連携の在り方として、JIGE 事業では社会人層対象の生涯学習のチャンネル創出 (リスキリング・リカレント教育の提供) を行う。人口減少が回避できない日本にとって、企業にとって事業のグローバル化や、従業員層のスキル向上を手掛け加速する産業の DX 化への対応を急ぐことが喫緊の課題となっている。高等教育機関がリスキリング・リカレント教育の提供者として貢献することは大いに期待されており、このニーズに応える取組である。BM 型実践が展開するオンライン型 (国際) 教育、キャパシティビルディングプログラム等を活用して実装するものである。社会人の履修については有償化を図るなど、プログラムの事業終了後の自走化に資する仕組みの設計を、事業当初から計画し、中間年度である 2025 年度から徐々に開始していく。

【関西大学】

本学学生が参加する COIL/VE 型提供科目や、アトリエ MCP 提供コースについては、その維持・継続に必要な経費を学内予算として継続的に確保することができる。また本学教育のグローバル化のための自主財源として、大学執行部に一定の補填予算 (グローバル化促進費) がニーズベースで準備されており、補助期間終了後の企画等に対して、弾力的・効果的に支出することが可能である。学生のモビリティにかかる費用については、学費支弁者の理解を得ながら原則として学生負担を求めるが、一定の条件を満たす学生に対しては本学の国際交流助成基金による奨学金を支給する。同時に、50 万人を超える本学校友に対し、校友会を通じて留学促進のための「Kan-Dai 学生サポート募金」への募金を呼びかける。また、JASSO 海外留学支援制度による奨学金を申請するなど、可能な限り外部資金の獲得に努める。

留学生のキャリア形成支援については、本学が事務局を務める「留学生就職支援コンソーシアム SUCCESS」のネットワークをとおして高度外国人材を求める企業等へ積極的にアプローチし、協賛金・寄附金を募る。優秀な人材層の獲得ルートとして、本事業の育成プログラムへの参画が、産業界にとって有益な結果を導くよう、よりケアの厚い产学連携スキームを創出することにより、このような循環が生まれる。

【東北大学】

グローバル 30 採択やスーパーグローバル大学創成支援など補助金だけでは不足する経費を自主財源 (総長裁量経費など) で支援しており事業終了後においても欠かすことができない重要な取組については自主財源の範囲内で持続的に実施可能である。

学生支援に関しては、2021 年 2 月に採択された文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」(支援予定人数 120 名／学年)、2021 年 9 月に採択された科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」(支援予定人数 511 名) において、高等大学院機構が中核的な役割として科学技術・イノベーション創出を担う博士課程学生の待遇向上と研究力向上・キャリア形成支援 (総額 23.8 億円) を推進し、博士後期課程学生への生活費相当額の経済支援は 1,312 名に大幅に拡大することを決定しており、本事業に参加する大学院学生の支援は自走化可能である。

留学生に対する日本での修学支援、日本人学生に対する海外での修学支援に関する奨学金については、日本学生支援機構「海外留学支援制度 (協定受入、協定派遣)」による財源を確保しているが、事業終了後も積極的に申請、必要な財源を確保する。また、本学の将来構想や取組に合致する他の外部資金 (競争的資金) へも積極的に申請する。以上のとおり、独自財源や学外資金等を確

保することにより事業終了後の自走化を進める。

【千葉大学】

千葉大学は、事業の継続的実施にあたって、補助期間終了後も学長裁量経費を準備することが了承されており、スムースな資金計画の移行を実現することが可能である。また、2020 年に開始した ENGINE プランの柱として、全員留学とスマートラーニングとを掲げており、授業料改定にともなう収入増を踏まえて、その一部を COIL 型学習の継続・発展に使用することを考えている。これに加えて、大学院においては、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」、科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」、文部科学省「卓越大学院プログラム」など多様な補助金による支援の経験があり、今後も大学院学生に対する経済的支援の拡充を通じて、大学院における COIL 型連携の開発・発展を予定している。また、本学独自の千葉大学基金(SEEDS 基金)においても、学生の修学支援や大学院生を含む若手研究者支援を対象としている。将来の事業展開全体の資金計画の中で、この基金の利用についても検討する予定である。さらに、これまで日本学生支援機構の海外留学支援制度による支援も継続的に受けており、これらの資金を有効に利用することを通じて、資金面での自走化をはかることとしている。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	クレムソン大学 Clemson University	国名	米国		
設置形態	州立	設置年		1889年		
設置者(学長等)	President: James P. Clements					
学部等の構成	College of Agriculture, Forestry and Life Sciences / College of Architecture, Arts and Humanities / College of Behavioral, Social and Health Sciences / Wilbur O. and Ann Powers College of Business / College of Education / College of Engineering, Computing and Applied Sciences / College of Science / Graduate School					
学生数	総数	28,466	学部生数	22,566		
受け入れている留学生数		1,651	日本からの留学生数	5		
海外への派遣学生数		1,398	日本への派遣学生数	48		
Webサイト(URL)	https://www.clemson.edu/					

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

クレムソン大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

Clemson University

United States of America - South Carolina

General Information

General Information

Address	Street: 201 Sikes Hall City: Clemson Province: South Carolina Post Code: 29634-0001 WWW: http://www.clemson.edu
Other Sites	Also Centres for Architectural Studies (Genoa, Italy and Charleston, S.C.); Archbold Tropical Research Centre, Dominica; MBA programmes in Italy, Germany, and Russian Federation
Institution Funding	Public
History	Founded 1889 as Agricultural College of South Carolina, acquired present status and title 1964.
Academic Year	August to May (August-December; January-May)
Admission Requirements	Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students
Language(s)	English
Accrediting Agency	Southern Association of Colleges and Schools

(大学名: 関西大学) (タイプ: B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) コーネル大学 (英) Cornell University	国名	米国
設置形態	私立	設置年	1865 年
設置者（学長等）	President: Martha E. Pollack		
学部等の構成	College of Agriculture and Life Sciences / College of Architecture, Art and Planning / College of Arts and Sciences / Cornell SC Johnson College of Business / Cornell Ann S. Bowers College of Computing and Information Science / College of Engineering / College of Human Ecology / School of Industrial and Labor Relations (ILR) / Cornell Jeb E. Brooks School of Public Policy / Cornell SC Johnson College of Business / Cornell Tech (New York City) / Cornell Law School / College of Veterinary Medicine / Graduate School / Weill Cornell Medicine (New York City) / Weill Cornell Medicine-Qatar (Doha, Qatar) / Weill Cornell Graduate School of Medical Sciences (New York City) / School of Continuing Education and Summer Sessions		
学生数	総数 25,898	学部生数 15,735	大学院生数 7,256
受け入れている留学生数	6,700	日本からの留学生数	51
海外への派遣学生数	427	日本への派遣学生数	3
Web サイト (URL)	https://www.cornell.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

コーネル大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-003244

Cornell University

United States of America - New York

General Information

Address: Martin Y. Tang Welcome Center
616 Thurston Ave.
City: Ithaca
Province: New York
Post Code: 14853
WWW: <https://www.cornell.edu>

Other Sites: Also Cornell Study Abroad programme and Weill Cornell Campus

Institution Funding: Private

History: Founded 1865, opened 1868. The University comprises privately endowed Schools and Colleges (College of Architecture, Art and Planning, College of Arts and Sciences, College of Engineering, School of Hotel Administration, Law School, Graduate School of Management; Cornell University Medical College, and Graduate School of Medical Sciences); and State-supported 'Statutory Colleges' (College of Agriculture and Life Sciences, College of Human Ecology, School of Industrial and Labour Relations, and College of Veterinary Medicine)

Academic Year: August to May (August-December; January-May), Also Summer Session (June-August)

Admission Requirements: Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students. Minimum requirements may vary depending on the area of studies

Language(s): English

Accrediting Agency: Middle States Commission on Higher Education

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) デポール大学 (英) DePaul University	国名	米国
設置形態	私立	設置年	1898 年
設置者（学長等）	President: Robert L. Manuel		
学部等の構成	College of Communication / College of Education / College of Law / College of Liberal Arts and Social Sciences / College of Science and Health / Driehaus College of Business / Jarvis College of Computing and Digital Media / School of Continuing and Professional Studies / School of Music / The Theatre School		
学生数	総数 20,917	学部生数 14,481	大学院生数 6,436
受け入れている留学生数	1,911	日本からの留学生数	10
海外への派遣学生数	931	日本への派遣学生数	87
Web サイト (URL)	https://www.depaul.edu/Pages/default.aspx		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

デポール大学は、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。




In collaboration with



DePaul University

IAU-003670
United States of America - Illinois

General Information
General Information

Address

 Street: 1 East Jackson Boulevard
 City: Chicago
 Province: Illinois
 Post Code: 60604
 WWW: <https://www.depaul.edu>

Other Sites
Also online courses, and campuses in Naperville, Oak Forest, Des Plaines, Rolling Meadows

Institution Funding
Private

History
Founded 1898 by the Roman Catholic Congregation of the Mission as St. Vincent's College, chartered as DePaul University 1907

Academic Year
September to June (September-December; January-March; March-June)

Admission Requirements
Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students

Language(s)
English

Accrediting Agency
Higher Learning Commission

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	ニューヨーク州立ファッション工科大学 Fashion Institute of Technology, The State University of New York	国名	米国
設置形態	州立		設置年	1944 年
設置者（学長等）	President: Joyce F. Brown			
学部等の構成	School of Art and Design / School of Business & Technology / School of Liberal Arts / School of Graduate Studies / Center for Continuing and Professional Studies			
学生数	総数	8,125	学部生数	7,871
受け入れている留学生数		875	日本からの留学生数	29
海外への派遣学生数		500	日本への派遣学生数	20
Web サイト (URL)	https://www.fitnyc.edu/			

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

ニューヨーク州立ファッション工科大学は、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-006266

Fashion Institute of Technology (FIT)

Address
Street: 227 West 27th Street
City: New York
Province: New York
Post Code: 10001-5992
WWW: <https://www.fitnyc.edu/>

General Information
General Information

Institution Funding	Public
History	Founded 1944. A specialized institution of the State University of New York (SUNY)
Academic Year	August to May. Also Summer Session (June-July)
Admission Requirements	Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students
Language(s)	English
Accrediting Agency	Middle States Commission on Higher Education; National Association of Schools of Art and Design, Commission on Accreditation

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) フロリダ国際大学 (英) Florida International University	国名	米国
設置形態	州立	設置年	1965年
設置者(学長等)	President: Kenneth A. Jessell		
学部等の構成	Arts, Sciences & Education / Business / Chaplin School of Hospitality and Tourism Management / Communication, Architecture + The Arts / Engineering & Computing / Herbert Wertheim College of Medicine / Honors College / Law / Nicole Wertheim College of Nursing & Health Sciences / Robert Stempel College of Public Health & Social Work / Steven J. Green School of International and Public Affairs		
学生数	総数 55,582	学部生数 45,480	大学院生数 10,102
受け入れている留学生数	4,949	日本からの留学生数	26
海外への派遣学生数	1,124	日本への派遣学生数	100
Webサイト(URL)	https://www.fiu.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

フロリダ国際大学は、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

  		Florida International University (FIU)
IAU-006374		United States of America - Florida
<input data-bbox="997 1462 1224 1491" type="button" value="General Information"/>		General Information
Address Street: 11200 SW 8th Street City: Miami Province: Florida Post Code: 33199 WWW: https://www.fiu.edu/		General Information
Institution Funding Public		
History Founded 1965. A State institution with Branch Campus in North Miami		
Academic Year August to April. Also Summer Session (May-August)		
Admission Requirements Co-operative education. 60 semester hours from accredited institution. College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students		
Language(s) English		
Accrediting Agency Southern Association of Colleges and Schools, Commission on Colleges		

(大学名: 関西大学) (タイプ: B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ Kapi‘olani Community College	国名	米国		
設置形態	州立	設置年		1946 年		
設置者（学長等）	Chancellor: Misaki Takabayashi					
学部等の構成	Arts, Sciences & Education / Business / Chaplin School of Hospitality and Tourism Management / Communication, Architecture + The Arts / Engineering & Computing / Herbert Wertheim College of Medicine / Honors College / Law / Nicole Wertheim College of Nursing & Health Sciences / Robert Stempel College of Public Health & Social Work / Steven J. Green School of International and Public Affairs					
学生数	総数	5,828	学部生数	5,828		
受け入れている留学生数	427		日本からの留学生数	225		
海外への派遣学生数	約 40		日本への派遣学生数	約 15		
Web サイト (URL)	https://www.kapiolani.hawaii.edu/					

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジは、ACCJC(Accrediting Commission for Community and Junior Colleges)に次のとおり掲載されている。



ACCREDITING COMMISSION FOR
COMMUNITY AND JUNIOR COLLEGES
WESTERN ASSOCIATION OF SCHOOLS AND COLLEGES

ABOUT

ACCREDITING COMMISSION

DIRECTORY

Kapi'olani Community College

Accreditation Status: Accredited

Action Letter(s): [View Action Letter\(s\)](#)

Chancellor: Misaki Takabayashi

Address:
4303 Diamond Head Road
Honolulu, HI 96816

Phone: (808) 734-9111

Fax: (808) 734-9162

Website: www.kapiolani.hawaii.edu

Student Achievement Data: [View Data](#)

Federal College Scorecard: [View Data](#)

Institution Type: Public (State/local) two-year

System: University of Hawai'i Community Colleges

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ノースカロライナ州立大学 (英) North Carolina State University	国名	米国
設置形態	州立	設置年	1887 年
設置者（学長等）	Chancellor: Randy Woodson		
学部等の構成	College of Agriculture and Life Sciences / College of Design / College of Education / College of Engineering / College of Humanities and Social Sciences / College of Natural Resources / Poole College of Management / College of Sciences / Wilson College of Textiles / College of Veterinary Medicine / The Graduate School / University College		
学生数	総数 37,873	学部生数 25,312	大学院生数 9,566
受け入れている留学生数	3,900	日本からの留学生数	14
海外への派遣学生数	1,693	日本への派遣学生数	8
Web サイト (URL)	https://www.ncsu.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

ノースカロライナ州立大学は、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。




In collaboration with



unesco
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

North Carolina State University
NC State University

IAU-012770
United States of America - North Carolina

General Information
General Information

Address

Street: Campus Box 7103
City: Raleigh
Province: North Carolina
Post Code: 27695-7103
WWW: <https://www.ncsu.edu/>

Institution Funding

Public

History

Founded 1887. A public Land-Grant Institution. Merged with Institute of Textile Technology, Virginia

Academic Year

August to May (August-December;January-May). Also Summer Sessions (May-June;July-August)

Admission Requirements

Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students

Language(s)

English

Accrediting Agency

Southern Association of Colleges and Schools, Commission on Colleges

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	北アリゾナ大学 Northern Arizona University	国名	米国
設置形態	州立		設置年	1899年
設置者（学長等）	President : José Luis Cruz Rivera			
学部等の構成	College of Arts and Letters / College of Education / College of Engineering, Informatics, and Applied Sciences / College of Health and Human Services / College of Social and Behavioral Sciences / College of the Environment, Forestry, and Natural Sciences / Graduate College / Honors College / The W. A. Franke College of Business			
学生数	総数	26,918	学部生数	22,646
受け入れている留学生数	1,300		日本からの留学生数	18
海外への派遣学生数	998		日本への派遣学生数	24
Web サイト (URL)	https://nau.edu/			

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

北アリゾナ大学は、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

Northern Arizona University

IAU-012816

United States of America - Arizona

General Information

General Information

Address: Street: 1900 S Knoles Drive, City: Flagstaff, Province: Arizona, Post Code: 86011-4092, WWW: <https://nau.edu>

Institution Funding: Public

History: Founded 1899

Academic Year: August to May (August-December; January-May). Also Summer Sessions

Admission Requirements: Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students

Language(s): English

Accrediting Agency: Higher Learning Commission; Academy of Nutrition and Dietetics, Accreditation Council for Education in Nutrition and Dietetics; American Dental Association, Commission on Dental Accreditation; American Physical Therapy Association, Commission on Accreditation in Physical Therapy Education; American Psychological Association, Commission on Accreditation; American Speech-Language-Hearing Association, Council on Academic Accreditation in Audiology and Speech-Language Pathology; Commission on Collegiate Nursing Education;

(大学名 : 関西大学) (タイプ : B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ポートランド州立大学 (英) Portland State University	国名	米国
設置形態	州立	設置年	1946 年
設置者（学長等）	President: Stephen L. Percy		
学部等の構成	College of Education / College of Liberal Arts & Sciences / College of the Arts / College of Urban & Public Affairs / Maseeh College of Engineering & Computer Science / OHSU-PSU School of Public Health / School of Social Work / The Graduate School / The School of Business / University Honors College		
学生数	総数 22,014	学部生数 17,237	大学院生数 4,777
受け入れている留学生数	1,084	日本からの留学生数	84
海外への派遣学生数	371	日本への派遣学生数	49
Web サイト (URL)	https://www.pdx.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

ポートランド州立大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-013691

Portland State University

United States of America - Oregon

General Information

General Information

Address	Street: PO Box 751 City: Portland Province: Oregon Post Code: 97207-0751 WWW: http://www.pdx.edu
Other Sites	Also Summer Study programmes, including those in: Japan, Germany, and People's Republic of China
Institution Funding	Public
History	Founded 1946 as Portland Extension Center, granted independent status as Portland State College within Oregon State System of Higher Education 1955, redesignated Portland State University 1969. One of 7 institutions within the Oregon University System (formerly Oregon State System of Higher Education).
Academic Year	September to June (September-December;January-March;March-June). Also Summer Session (June-September)
Admission Requirements	Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students
Tuition Fees	National: (Undergraduate) In-State residents 7,878 per annum. Out-of-State: 23,088. (USD)
Language(s)	English
Accrediting Agency	Northwest Commission on Colleges and Universities

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) オハイオ州立大学 (英) The Ohio State University	国名	米国
設置形態	州立	設置年	1870年
設置者(学長等)	President: Kristina M. Johnson		
学部等の構成	College of Social Work / College of Veterinary Medicine / College of Arts & Sciences / Fisher College of Business / College of Dentistry / College of Education and Human Ecology / College of Engineering / College of Food, Agricultural, and Environmental Sciences / John Glenn College of Public Affairs / Moritz College of Law / College of Medicine / College of Nursing / College of Optometry / College of Public Health / Graduate School / College of Pharmacy		
学生数	総数 62,523	学部生数 43,894	大学院生数 10,803
受け入れている留学生数	5,512	日本からの留学生数	24
海外への派遣学生数	2,535	日本への派遣学生数	65
Web サイト (URL)	https://www.osu.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

オハイオ州立大学は、IAU(International Association of Universities)の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。



IAU-016503

The Ohio State University
(OSU)

United States of America - Ohio

[General Information](#)

General Information

Address	Street: 205 Bricker Hall 190 North Oval Mall City: Columbus Province: Ohio Post Code: 43210-1357 WWW: http://www.osu.edu
Other Sites Also Lima Campus, Mansfield Campus, Marion Campus, Newark Campus	
Institution Funding Public	
History Founded 1870.	
Academic Year September to August (September-December; January-March; April-June; June-August)	
Admission Requirements Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination	
Tuition Fees National: Ohio resident: 10,037 per annum. Non resident: 26,537 (USD)	
Language(s) English	
Accrediting Agency North Central Association of Colleges and Schools	

(大学名：関西大学、東北大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学、東北大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (日) (英)	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 The University of North Carolina at Chapel Hill	国名	米国
設置形態	州立	設置年	1789年
設置者（学長等）	Chancellor: Kevin M. Guskiewicz		
学部等の構成	College of Arts and Sciences / School of Government / Hussman School of Journalism and Media / Adams School of Dentistry / the Graduate School / School of Medicine / School of Education / School of Information and Library Science / School of Nursing / Eshelman School of Pharmacy / Kenan-Flagler Business School / School of Social Work / Gillings School of Global Public Health / School of Law		
学生数	総数 31,539	学部生数 19,743	大学院生数 11,796
受け入れている留学生数	2,943	日本からの留学生数	22
海外への派遣学生数	1,772	日本への派遣学生数	36
Web サイト（URL）	https://www.unc.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU（International Association of Universities）の WHED（World Higher Education Database）掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

ノースカロライナ大学チャペルヒル校は、IAU（International Association of Universities）の WHED（World Higher Education Database）に次のとおり掲載されている。

IAU-020345

University of North Carolina at Chapel Hill
(UNC Chapel Hill)

United States of America - North Carolina

General Information

General Information

Address	City: Chapel Hill Province: North Carolina Post Code: 27599-0001 WWW: https://www.unc.edu/
Other Sites	Also Teaching Hospitals. Study Abroad through the Office of International Programmes in: United Kingdom, France, Italy, Denmark, Germany, Japan, China, Australia, Russian Federation, Argentina, Mexico, Spain, Hungary, Ireland, Poland
Institution Funding	Public
History	Founded 1789
Academic Year	August to May (August-December; January-May). Also 2 Summer Sessions (May-June; June-July)
Admission Requirements	Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students
Language(s)	English
Accrediting Agency	Southern Association of Colleges and Schools, Commission on Colleges

（大学名：関西大学）（タイプ：B）

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ハワイ大学ヒロ校 (英) University of Hawai'i at Hilo	国名	米国
設置形態	州立	設置年	1970年
設置者（学長等）	Chancellor: Bonnie D. Irwin		
学部等の構成	Accounting / Administration of Justice / Animal Health and Management / Aquaculture Specialty / Tropical Agroecology Specialty / Anthropology / Art / Astronomy / Biology / Cell, Molecular & Biomedical Sciences Track / Ecology, Evolution and Conservation Track / General Business / Chemistry / Biosciences / Health Sciences / Communication / Computer Science / English / Environmental Science / Geography / Geology / Hawaiian Studies / History / Japanese Studies / Kinesiology and Exercise Sciences / Liberal Studies / Linguistics / Marine Science / Mathematics / Natural Science / Nursing / Performing Arts / Pharmacy Studies / Philosophy / Physics / Political Science / Psychology / Sociology		
学生数	総数 2,977	学部生数 2,593	大学院生数 384
受け入れている留学生数	220	日本からの留学生数	51
海外への派遣学生数	20	日本への派遣学生数	8
Web サイト (URL)	https://hilo.hawaii.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

ハワイ大学ヒロ校は、IAU(International Association of Universities) の WHED(World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。



IAU-020179

University of Hawaii at Hilo



In collaboration with
unesco
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

General Information

Address

Street: 200 W. Kawili St
City: Hilo
Province: Hawaii
Post Code: 96720-4091
WWW: <https://hilo.hawaii.edu>

United States of America - Hawaii

Institution Funding: Public

General Information

History: Founded 1970

Language(s): English

Accrediting Agency: Western Association of Schools and Colleges (WASC)

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ハワイ大学マノア校 (英) University of Hawai'i at Mānoa	国名	米国
設置形態	州立	設置年	1907 年
設置者（学長等）	President: David Lassner		
学部等の構成	Colleges: College of Arts, Languages & Letters / College of Natural Sciences / College of Social Sciences / College of Education / College of Engineering / College of Tropical Agriculture & Human Resources / Outreach College / Shidler College of Business Schools: Hawai'iinuiākea School of Hawaiian Knowledge / John A. Burns School of Medicine / School of Architecture / Nancy Atmospēra-Walch School of Nursing / School of Ocean & Earth Science & Technology / Thompson School of Social Work & Public Health / William S. Richardson School of Law		
学生数	総数 19,074	学部生数 14,198	大学院生数 4,876
受け入れている留学生数	1,233	日本からの留学生数	202
海外への派遣学生数	108	日本への派遣学生数	30
Web サイト (URL)	https://manoa.hawaii.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

ハワイ大学マノア校は、IAU(International Association of Universities)の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。



IAU-020180

University of Hawaii at Mānoa
(UH)



United States of America - Hawaii

General Information

General Information

Address

Street: 2500 Campus Road
City: Honolulu
Province: Hawaii
Post Code: 96822
WWW: <https://manoa.hawaii.edu>

Other Sites

Also Study Abroad programmes

Institution Funding

Public

History

Founded in 1907, as a land-grant college of agriculture and mechanic arts. The University of Hawai'i System includes 3 universities, 7 community colleges and community-based learning centers across Hawaii

Academic Year

Semester terms August-December; January-May; Summer sessions May-August

Admission Requirements

Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination.
TOEFL test for foreign students

Language(s)

English

Accrediting Agency

Western Association of Schools and Colleges (WASC)

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) (英)	サンパウロ州立パウリスタ大学 Universidade Estadual Paulista (UNESP)	国名	ブラジル
設置形態	州立		設置年	1976 年
設置者（学長等）	President: Pasqual Barretti			
学部等の構成	Faculty of Architecture, Arts, Communication and Design / Faculty of Science / Faculty of Agricultural and Technological Sciences / Faculty of Agricultural and Veterinary Sciences / Faculty of Agricultural Sciences / Faculty of Science and Engineering / Faculty of Sciences and Letters / Faculty of Science and Technology / Faculty of Pharmaceutical Sciences / Faculty of Human and Social Sciences / Faculty of Sciences, Technology and Education / Faculty of Engineering / Faculty of Engineering and Science / Faculty of Philosophy and Sciences / Faculty of Medicine / Faculty of Veterinary Medicine of Araçatuba / Faculty of Veterinary Medicine and Animal Science / Faculty of Dentistry / Institute of Arts / Institute of Biosciences / Institute of Biosciences, Letters and Exact Sciences / Institute of Science and Technology / Institute of Sciences and Engineering / Institute of Geosciences and Exact Sciences / Institute of Chemistry			
学生数	総数	49,526	学部生数	37,415
受け入れている留学生数	186		日本からの留学生数	0
海外への派遣学生数	289		日本への派遣学生数	0
Web サイト (URL)	https://www2.unesp.br/			

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

サンパウロ州立パウリスタ大学は、IAU(International Association of Universities)の WHED(World Higher Education Database)に次のとおり掲載されている。



Júlio de Mesquita Filho São Paulo State University
Universidade Estadual Paulista Júlio de Mesquita Filho (UNESP)

IAU-018625
<https://www.whed.net/institutions/IAU-018625>

Brazil IAU Member



General Information

General Information

Address

Street: Rua Quirino de Andrade, 215

City: São Paulo

Province: São Paulo

Post Code: 01049-010

WWW: <https://www2.unesp.br>

Other Sites

Also campuses in Araçatuba, Araraquara, Assis, Bauru, Botucatu, Dracena, Franca, Guarantiqueta, Ilha Solteira, Itapeva, Jaboticabal, Marília, Ourinhos, Presidente Prudente, Registro, Rio Claro, Rosana, São João da Boa Vista, São José do Rio Preto, São José dos Campos, São Paulo, São Vicente, Sorocaba, Tupa. Teaching Hospital in Botucatu, Luiz de Oliveira Quintiliano Veterinary Hospital, Botucatu Veterinary Hospital, Governador Report Natel Veterinary Hospital

Institution Funding Public

History Founded 1976, incorporating previously existing faculties established 1923-1966. An autonomous institution under the jurisdiction of and financially supported by the State of São Paulo

Academic Year February to December (February-June; August-December)

Admission Requirements Secondary school certificate or equivalent, and entrance examination

Language(s) Portuguese

Accrediting Agency Ministry of Education

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ウエスタン大学 (英) Western University	国名	カナダ
設置形態	州立	設置年	1878 年
設置者（学長等）	President: Alan Shepard		
学部等の構成	Arts & Humanities / Don Wright Faculty of Music / Education / Engineering / School of Graduate and Postdoctoral Studies / Health Sciences / Information & Media Studies / Law / Ivey Business School / Schulich Medicine & Dentistry / Science / Social Science		
学生数	総数 41,940	学部生数 28,000	大学院生数 6,700
受け入れている留学生数	4,698	日本からの留学生数	10
海外への派遣学生数	1,500	日本への派遣学生数	10
Web サイト (URL)	https://www.uwo.ca/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

ウェスタン大学は、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

In collaboration with UNESCO
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

University of Western Ontario
Western University (UWO)

IAU-020629 Canada - Ontario

General Information

General Information

Address	Street: 1151 Richmond Street City: London Province: Ontario Post Code: N6A 3K7 WWW: http://www.uwo.ca
Other Sites	Also two Teaching Hospitals: St. Joseph's Health Care London.
Institution Funding	Public
History	Founded 1878 as The Western University of London, Ontario. Acquired present status and title 1923.
Academic Year	September to April (September-December; January-April); summer session, May to August
Admission Requirements	Secondary school certificate or recognized foreign equivalent. Specific requirements according to programme
Language(s)	English
Accrediting Agency	Association of Universities and Colleges of Canada

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	ケバングサン大学 Universiti Kebangsaan Malaysia		国名	マレーシア		
設置形態	国立		設置年	1970 年			
設置者（学長等）	Chairman: Mohamad Abd. Razak						
学部等の構成	Economics and Management / Education / Islamic Studies / Law / Engineering & Built Environment / Information Science & Technology / Social Sciences & Humanities / Medicine / Health Science / Science & Technology / Pharmacy / Dentistry						
学生数	総数	29,569	学部生数	17,645	大学院生数		
受け入れている留学生数		5,041	日本からの留学生数		4		
海外への派遣学生数		26	日本への派遣学生数		8		
Web サイト (URL)	https://www.ukm.my/studyukm/						

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

ケバングサン大学は、IAU(International Association of Universities)の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。




World Higher Education Database

In collaboration with



unesco
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

National University of Malaysia
Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM)

IAU-019921
Malaysia

General Information


General Information

Address

City: Bangi
Province: Selangor
Post Code: 43600
WWW: <http://www.ukm.my>

Institution Funding

Public

History

Founded 1970

Academic Year

July to March (July-October; December-March)

Admission Requirements

Malaysian higher school certificate (STPM); Matriculation; Diploma

Tuition Fees

National: Arts, 1,750; Science, 2,083; Medicine, 2,550 per annum (MYR)

Language(s)

Malay;English

Accrediting Agency

Malaysian Qualifications Agency (MQA); Ministry of Higher Education (MOHE)

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (日) (英)	サン・ペドロ・カレッジ San Pedro College	国名	フィリピン
設置形態	私立	設置年	1973年
設置者（学長等）	President: Aida T. Frencillo		
学部等の構成	Biology / Medical Laboratory Science / Nursing / Pharmacy / Physical Therapy / Radiologic Therapy / Respiratory Therapy / Accounting Information System / Business Administration / English / Human Services / Psychology		
学生数	総数 8,500	学部生数 5,500	大学院生数 300
受け入れている留学生数	800	日本からの留学生数	20
海外への派遣学生数	1,000	日本への派遣学生数	40
Web サイト（URL）	https://sanpedrocollegedavao.ph/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU（International Association of Universities）のWHED（World Higher Education Database）掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

サン・ペドロ大学は、PAASCU（Philippine Accrediting Association of Schools, Colleges and Universities）のホームページ（<https://paascu.org.ph/index.php/member-schools-a-c/member-schools-s/>）に次のとおり掲載されている。



San Pedro College

12 C. de Guzman Street, 8000 Davao City

[VISIT WEBSITE](#)

PROGRAMS

Program: BS Biology
Level: Level II
Validity: Dec. 2020
Initial Accreditation: Dec. 2005

Program: BS Psychology
Level: Level II
Validity: Dec. 2020
Initial Accreditation: Dec. 2005

Program: Medical Technology
Level: Level II
Validity: Apr. 2022
Initial Accreditation: Nov. 2012

Program: Nursing
Level: Level III
Validity: Apr. 2022
Initial Accreditation: Mar. 1982

Program: Pharmacy
Level: Level II
Validity: Dec. 2020
Initial Accreditation: Dec. 2009

Program: Business Administration
Level: Level II
Validity: May 2023
Initial Accreditation: Nov. 2013

Program: Secondary Education
Level: Level I
Validity: Apr. 2020
Initial Accreditation: May 2017

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

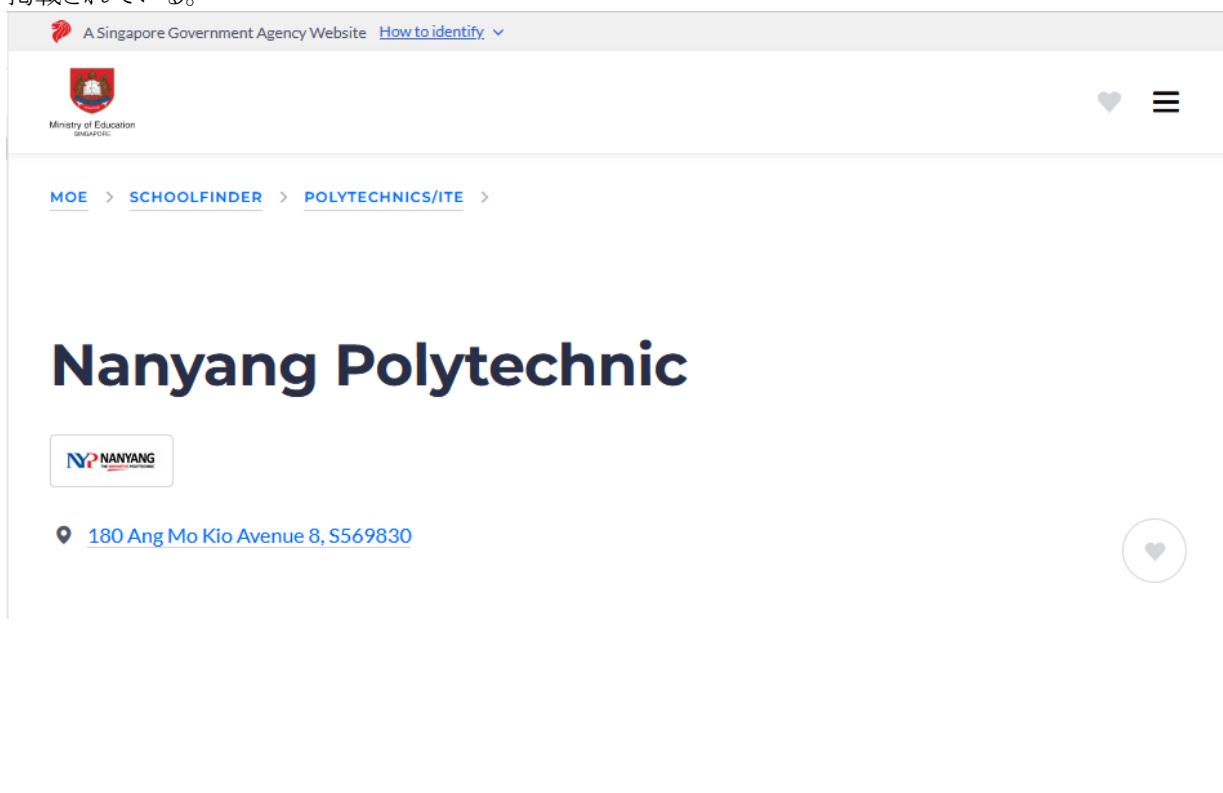
大学名称 (英)	(日) 南洋ポリテクニック (英) Nanyang Polytechnic	国名	シンガポール
設置形態	公立	設置年	1992年
設置者(学長等)	Chairman: Tan Tong Hai		
学部等の構成	School of Applied Science / School of Business Management / School of Design & Media / School of Engineering / School of Health & Social Sciences / School of Information Technology		
学生数	総数 13,268	学部生数 13,268	大学院生数 該当なし
受け入れている留学生数	約1,300		日本からの留学生数 不明
海外への派遣学生数	462		日本への派遣学生数 132
Webサイト(URL)	https://www.nyp.edu.sg/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

南洋ポリテクニックは、シンガポール教育省のホームページ(<https://www.moe.gov.sg/schoolfinder/schooldetail?schoolName=Nanyang%20Polytechnic>)に次のとおり掲載されている。



Nanyang Polytechnic

180 Ang Mo Kio Avenue 8, S569830

(大学名: 関西大学) (タイプ: B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (日) (英)	CEU カルデナル・エレーラ大学 University CEU Cardenal Herrera	国名	スペイン
設置形態	私立	設置年	1999 年
設置者（学長等）	President: Alfonso Bullón de Mendoza y Gómez de Valugera		
学部等の構成	Health Sciences / Communication / Law & Political / Design / Education / Business & Marketing / Sport / Engineering / Architecture / Veterinary Medicine / Gastronomy		
学生数	総数 10,798	学部生数 9,084	大学院生数 1,714
受け入れている留学生数	2,804	日本からの留学生数	2
海外への派遣学生数	113	日本への派遣学生数	0
Web サイト (URL)	https://www.uchceu.es/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

CEU カルデナル・エレーラ大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。




World Higher Education Database

In collaboration with



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Cardinal Herrera-CEU University
Universidad Cardenal Herrera-CEU (UCH)

IAU-017265
Spain

General Information
General Information

Address

Street: Avenida del Seminario, s/n
City: Moncada
Province: Valencia
Post Code: 46113
WWW: <https://www.uchceu.es>

Other Sites

Also centres in Elche and Castellón

Institution Funding

Private

History

Founded 1999

Language(s)

Spanish;English

Accrediting Agency

Ministry of Universities

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	東吳大学 Soochow University	国名	台湾
設置形態	私立		設置年	1900 年
設置者（学長等）	President: Wei-Ta Pan			
学部等の構成	School of Liberal Arts and Social Sciences / School of Foreign Languages and Cultures / School of Science / School of Law / School of Business / School of Big Data Management			
学生数	総数	15,287	学部生数	12,544
受け入れている留学生数		118	日本からの留学生数	26
海外への派遣学生数		170	日本への派遣学生数	73
Web サイト（URL）	https://www-en.scu.edu.tw/			

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

大学は、IAU(International Association of Universities)の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。



In collaboration with
unesco

Soochow University (SU)

IAU-015540 China - Taiwan

[General Information](#)

[General Information](#)

Address
Street: 70 Linshi Road
Shihlin
City: Taipei
Post Code: 111
WWW: <http://www.scu.edu.tw>

Institution Funding Private

History Founded 1900 in Soochow and received Charter from State of Tennessee. Supported by the Methodist Episcopal Church, South. Closed 1949 and re-established in Taipei 1950. Acquired present status and title 1954. A private institution under the supervision of the Ministry of Education.

Academic Year August to July (August-January; February-July)

Admission Requirements Graduation from high school and entrance examination

Language(s) Chinese;English

Accrediting Agency Ministry of Education

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) パンヤピワット経営大学 Panyapiwat Institute of Management	国名	タイ
設置形態	私立	設置年	2007 年
設置者（学長等）	President: Sompob Manarungsan		
学部等の構成	Faculty of Nursing / Faculty of Management Sciences / Faculty of Logistics and Transport Management / Faculty of Liberal Arts / Faculty of Engineering and Technology / Faculty of Creative Education Management / Faculty of Innovative Agriculture and Management / Faculty of Communication Arts / Faculty of Food Business Management / Faculty of Business Administration / Faculty of Agro-Industry		
学生数	総数 17,797	学部生数 16,790	大学院生数 1,007
受け入れている留学生数	3,446	日本からの留学生数	121
海外への派遣学生数	34	日本への派遣学生数	29
Web サイト (URL)	https://interprogram.pim.ac.th/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

大学は、IAU(International Association of Universities)の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。



Panyapiwat Institute of Management
Sataban Kanjatkran Panyapiwat

IAU-014528

Thailand

General Information

General Information

Address

Street: 85/1 Moo 2, Chaengwattana Rd., Bang-Talad, Pakkred

City: Nonthaburi

Post Code: 11120

WWW: <http://www.pim.ac.th>

Institution Funding | Private

History | Founded 2007. Formerly known Panyapiwat Institute of Technology

Language(s) | Thai;Chinese;English

Accrediting Agency | Higher Education Commission, Ministry of Education

(大学名 : 関西大学) (タイプ : B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：関西大学) (タイプ：B)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて 2 ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) カリフォルニア大学 (英) University of California	国名	米国
設置形態	国立（州立）	設置年	1868 年
設置者（学長等）	Michael V. Drake (President)		
学部等の構成	Social sciences; Education; Engineering & technology; Arts & humanities; Physical sciences; Life sciences; Psychology; Business & economics; Law; Computer science; Clinical, pre-clinical & health 他		
学生数	総数 294,309	学部生数 230,407	大学院生数 63,902
受け入れている留学生数	不明	日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明	日本への派遣学生数	不明
Web サイト（URL）	https://www.universityofcalifornia.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU（International Association of Universities）の WHED（World Higher Education Database）掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

カリフォルニア大学は、IAU（International Association of Universities）の WHED（World Higher Education Database）に次のとおり掲載されている。

IAU-020055

United States of America - California

General Information

General Information

Address

Street: 1111 Franklin Street

City: Oakland

Province: California

Post Code: 94607-5200

WWW: <http://www.ucop.edu>

Institution Funding

Public

History

Founded 1868. A State institution with ten Campuses: Berkeley, Davis, Irvine, Los Angeles, Riverside, San Diego, San Francisco, Santa Barbara, Santa Cruz, Merced.

Language(s)

English

Accrediting Agency

Western Association of Schools and Colleges

THE World University Ranking2023 では、

バークレー校:8 位、ロサンゼルス校:21 位、サンディエゴ校:32 位、デービス校:63 位、サンタバーバラ校:64 位、アーヴィン校:95 位、サンタクルス校:192 位、リバーサイド校:251-300 位、マーセド校:301-350 位

QS World University Ranking2023 では、

バークレー校: 27 位、ロサンゼルス校: 44 位、サンディエゴ校: 53 位、デービス校: 102 位、サンタバーバラ校: 149 位、アーヴィン校: 235 位、サンタクルス校: 375 位、リバーサイド校: 453 位

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて 2 ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ペンシルベニア州立大学 (英) The Pennsylvania State University	国名	米国
設置形態	国立（州立）	設置年	1855 年
設置者（学長等）	Neeli Bendapudi (President)		
学部等の構成	Agricultural Sciences; Arts and architecture; Business; Communications; Earth and Mineral Sciences; Education; Engineering; Health and Human Development; Information Sciences and Technology; Law; Liberal Arts; Medicine; Nursing; Science		
学生数	総数 89,816	学部生数 74,446	大学院生数 14,039
受け入れている留学生数	不明		日本からの留学生数 不明
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数 不明
Web サイト (URL)	https://www.psu.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカредィテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

ペンシルベニア州立大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-016512

United States of America - Pennsylvania

General Information

General Information

Address

Street: 201 Old Main

City: University Park

Province: Pennsylvania

Post Code: 16804-300

WWW: <https://www.psu.edu/>

Institution Funding | Public

History | Founded 1855, Pennsylvania's only land-grant university

Academic Year | September to May (August-December; January-May)

Admission Requirements | Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students

Language(s) | English

Accrediting Agency | Middle States Commission on Higher Education

THE World University Ranking2023 では 151 位、QS World University Ranking2023 では 93 位

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて 2 ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	ノースカロライナ大学シャーロット校 University of North Carolina at Charlotte		国名	米国		
設置形態	国立（州立）		設置年	1946 年			
設置者（学長等）	Sharon L. Gaber (Chancellor)						
学部等の構成	Arts + Architecture; Education; Computing & Informatics; Health & Human Services; Liberal Arts & Sciences; Engineering						
学生数	総数	30,146	学部生数	24,175	大学院生数		
受け入れている留学生数	不明		日本からの留学生数	不明			
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明			
Web サイト（URL）	http://www.uncc.edu						

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

ノースカロライナ大学シャーロット校は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-020346	United States of America - North Carolina
General Information ▾	
Address	Street: 9201 University City Blvd City: Charlotte Province: North Carolina Post Code: 28223-0001 WWW: http://www.uncc.edu
Other Sites	Also Center for International Studies
Institution Funding	Public
History	Founded 1946.
Academic Year	August to May (August-December; January-May). Also Summer Sessions
Admission Requirements	Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students
Tuition Fees	National: Undergraduate, 6,277 per annum for in-state residents and 19,448 per annum for out-of-state residents; Graduate, 4,008 per annum for in-state residents and 16,295 per annum for out-of-state residents (USD)
Language(s)	English
Religious Affiliation	None
THE World University Ranking2023 では 601-800 位、QS World University Ranking2023 では 1201-1400 位	

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ベイラー大学 (英) Baylor University	国名	米国
設置形態	私立	設置年	1845 年
設置者（学長等）	Linda A. Livingstone (President)		
学部等の構成	• 3 colleges and 9 schools (College of Arts & Sciences/Honors College/Robbins College of Health and Human Sciences; School Diana R. Garland School of Social Work/George W. Truett Theological Seminary/Graduate School/Hankamer School of Business/Law/Louise Herrington School of Nursing/Music/Education/Engineering & Computer Science)		
学生数	総数 20,626	学部生数 15,191	大学院生数 5,435
受け入れている留学生数	不明	日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明	日本への派遣学生数	不明
Web サイト (URL)	https://www.baylor.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

ベイラー大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-001503

United States of America - Texas

General Information

General Information

Address

Street: One Bear Place 97012,

City: Waco

Province: Texas

Post Code: 76798-7012

WWW: <https://www.baylor.edu/>

Institution Funding

Private

History Founded 1845. A private Baptist institution affiliated with the Baptist General Convention

Academic Year August to May (August-December; January-May) Also summer sessions (June; July)

Admission Requirements Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students

Language(s) English

Accrediting Agency Southern Association of Colleges and Schools

THE World University Ranking2023 では 601-800 位、QS World University Ranking2023 では 1001-1200 位

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて 2 ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ワシントン大学 (英) University of Washington	国名	米国
設置形態	国立（州立）	設置年	1861 年
設置者（学長等）	Ana Mari Cauce (President)		
学部等の構成	18 学部; Arts & Sciences, Built Environments, Business, Computer Science & Engineering, Dentistry, Education, Engineering, Environment, Graduate School, International Studies, Law, Information, Medicine, Nursing, Pharmacy, Public Policy & Governance, Public Health, Social Work		
学生数	総数 60,094	学部生数 42,616	大学院生数 17,478
受け入れている留学生数	不明	日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明	日本への派遣学生数	不明
Web サイト (URL)	http://www.washington.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

ワシントン大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-020622

United States of America - Washington

General Information

General Information

Address

City: Seattle

Province: Washington

Post Code: 98195-0001

WWW: <http://www.washington.edu>

Other Sites

Also Bothell and Tacoma campuses

Institution Funding

Public

History

Founded 1861. A State institution.

Academic Year

August to May. Also Summer Session (June-August)

Admission Requirements

Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination.
TOEFL test for foreign students

Language(s)

English

Accrediting Agency

Northwest Association of Schools and Colleges

THE World University Ranking2023 では 26 位、QS World University Ranking2023 では 80 位

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて 2 ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) モンタナ大学 (英) University of Montana	国名	米国
設置形態	国立 (州立)	設置年	1893 年
設置者 (学長等)	Seth Bodnar (President)		
学部等の構成	9 colleges: Humanities and Sciences; Education; Forestry and Conservation; Health; Missoula College; Bitterroot college; Honors; Business; Arts and Media		
学生数	総数 9,955	学部生数 8,111	大学院生数 1,844
受け入れている留学生数	不明	日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明	日本への派遣学生数	不明
Web サイト (URL)	https://www.umt.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカредィテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

モンタナ大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-016584

United States of America - Montana

General Information

General Information

Address	City: Missoula Province: Montana Post Code: 59812-0001 WWW: http://www.umt.edu
Institution Funding	Public
History	Founded 1893. A State institution.
Academic Year	August to May (August-December; January-May). Also Summer Session (May-July)
Admission Requirements	Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students
Tuition Fees	National: Undergraduate, 6,099 per annum for in-state residents and 22,372 per annum for out-of-state residents; Graduate, 4,135 per annum for in-state residents and 17,667 per annum for out-of-state residents (USD)
Language(s)	English
Accrediting Agency	Northwest Association of Schools and Colleges

QS World University Ranking2023 では 1001-1200 位

(大学名: 東北大学) (タイプ: B)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて 2 ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	テンプル大学 Temple University			国名	米国
設置形態	国立（州立）			設置年	1884 年
設置者（学長等）	JoAnne A. Epps (Acting President)				
学部等の構成	Education and Human Development; Engineering; Liberal Arts; Media and Communication; Music and Dance; Public Health; Science and Technology/ Art and Architecture; Business; Dentistry; Law; Medicine; Pharmacy; Podiatric Medicine; Social Work; Sport, Tourism and Hospitality Management; Theater, Film and Media Arts				
学生数	総数	33,606	学部生数	24,349	大学院生数 9,257
受け入れている留学生数	不明		日本からの留学生数	不明	
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明	
Web サイト（URL）	https://www.temple.edu				

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU（International Association of Universities）の WHED（World Higher Education Database）掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

テンプル大学は、IAU（International Association of Universities）の WHED（World Higher Education Database）に次のとおり掲載されている。

IAU-016319

United States of America - Pennsylvania

General Information

General Information

Address	Street: 1801 North Broad Street City: Philadelphia Province: Pennsylvania Post Code: 19122 WWW: https://www.temple.edu
Other Sites	Also Study Abroad programmes through Temple Overseas (including London, Rome, Tokyo, Paris). University Hospital
Institution Funding	Public
History	Founded 1884
Academic Year	September to May. Also Summer Session (May-August)
Admission Requirements	Graduation from high school or equivalent, and College Board SAT or ACT examination. TOEFL test for foreign students
Language(s)	English
Accrediting Agency	Middle States Commission on Higher Education

THE World University Ranking2023 では 301-350 位、QS World University Ranking2023 では 751-800 位

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) ウォータールー大学 University of Waterloo		国名	カナダ
設置形態	国立		設置年	1957 年
設置者（学長等）	Vivek Goel (President and Vice-Chancellor)			
学部等の構成	Arts; Engineering; Environment; Health; Mathematics; Science			
学生数	総数	40,513	学部生数	34,204
受け入れている留学生数	不明		日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明
Web サイト (URL)	http://uwaterloo.ca			

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

ウォータールー大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-020623

Canada - Ontario

General Information

General Information

Address
Street: 200 University Avenue West
City: Waterloo
Province: Ontario
Post Code: N2L 3G1
WWW: <http://uwaterloo.ca>

Other Sites Also Cambridge, Kitchener, and Stratford satelite campuses.

Institution Funding Public

History Founded 1957 as Waterloo College Associate Faculties in association with Waterloo College (a Liberal Arts College operated by the Lutheran Church, later Waterloo Lutheran University, now Wilfrid Laurier University). Acquired present status and title 1959. The University of Waterloo Act was updated 1972.

Academic Year September to August (September-December; January-April; May-August)

Admission Requirements Ontario Secondary school Diploma or recognized Canadian or foreign equivalent

Language(s) English

Accrediting Agency Association of Universities and Colleges of Canada; Ontario Council of Graduate Studies

THE World University Ranking2023 では 201-250 位、QS World University Ranking2023 では 154 位

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	マラヤ大学 University of Malaya	国名	マレーシア		
設置形態	國立	設置年		1905 年		
設置者（学長等）	Sultan Nazrin Shah (Chancellor)					
学部等の構成	· Faculties: Built Environment; Languages and Linguistics; Pharmacy; Engineering; Education; Dentistry; Business and Economics; Medicine; Science; Computer Science and Information Technology; Arts and Social Sciences; Creative Arts; Law; Sport & Exercise Sciences					
学生数	総数	30,568	学部生数	17,696		
受け入れている留学生数	不明		日本からの留学生数	不明		
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明		
Web サイト (URL)	https://www.um.edu.my/					

S

マラヤ大学は、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

IAU-019923

<https://www.whed.net/institutions/IAU-019923>

General Information	
Address	Street: Lembah Pantai City: Kuala Lumpur Post Code: 50603 WWW: https://www.um.edu.my
Other Sites	University Hospital; Medical Centre
Institution Funding	Public
History	Founded 1905 as King Edward VII College of Medicine. Raffles College founded in 1929. Both merged in 1949 to form the University of Malaya. Rapid growth of the University resulted in the setting up of two autonomous Divisions in Singapore and Kuala Lumpur 1956. Acquired present status and title by Legislation 1962. Reorganized 1997 with new governance, administration and financial structures
Academic Year	July to July
Admission Requirements	Sijil Pelajaran Malaysia (SPM) or Malaysian Certificate of Education (MCE) or recognized equivalent; Sijil Tinggi Persekolahan (STP) or Higher School Certificate (HSC) or Sijil Tinggi Persekolahan Malaysia (STPM); equivalent recognized qualification
Tuition Fees	National: 740-1,335 per semester; Postgraduate: 1,237-20,567 per semester for Malaysian candidates and 1,911-30,906 per semester for International candidates (MYR)
Language(s)	English
Accrediting Agency	Malaysian Qualifications Agency (MQA); Ministry of Higher Education (MOHE)

THE World University Ranking2023 では 351-400 位、QS World University Ranking2023 では ランキング外。

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	アラバマ大学 The University of Alabama	国名	米国
設置形態	州立大学		設置年	1831 年
設置者（学長等）	Stuart R. Bell			
学部等の構成	Capstone College of Nursing College of Arts & Sciences College of Communication & Information Sciences College of Community Health Sciences College of Education College of Engineering College of Human Environmental Sciences Culverhouse College of Commerce & Business Admin School of Law School of Social Work			
学生数	総数	38,145 人	学部生数	32,458 人
受け入れている留学生数	1,118 人		日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	1,256 人		日本への派遣学生数	不明
Web サイト (URL)	https://www.ua.edu/			

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアcreditation、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

The University of Alabama is accredited by the Southern Association of Colleges and Schools Commission on Colleges (SACSCOC) to award baccalaureate, master's, educational specialist, and doctoral degrees.

<https://oie.ua.edu/accreditation/>

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称 (英)	(日) シンシナティ大学 (英) University of Cincinnati	国名	米国
設置形態	公立大学	設置年	1819年
設置者（学長等）	Neville Pinto		
学部等の構成	College of Arts and Sciences College of Allied Health Sciences Carl H. Lindner College of Business UC Clermont College College-Conservatory of Music College of Design, Architecture, Art & Planning College of Education, Criminal Justice, and Human Services College of Engineering & Applied Science College of Law College of Medicine College of Nursing James L. Winkle College of Pharmacy UC Blue Ash College Graduate School		
学生数	総数 47,914	学部生数 36,402	大学院生数 11,512
受け入れている留学生数	3,282	日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	1,767	日本への派遣学生数	不明
Webサイト（URL）	http://www.uc.edu/		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

The University of Cincinnati and all regional campuses are accredited by the Higher Learning Commission (HLC).

The University of Cincinnati is an Ohio Public Institution, and each of its programs are approved by the Ohio Department of Higher Education (ODHE).

<http://www.uc.edu/about/accreditation.html>

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	ニューヨーク州立大学 ストーニーブルック校 State University of New York at Stony Brook	国名	米国
設置形態	州立大学	設置年	1957年	
設置者（学長等）	Maurie McInnis			
学部等の構成	College of Arts and Sciences College of Business College of Engineering and Applied Sciences Graduate School Renaissance School of Medicine School of Communication and Journalism School of Dental Medicine School of Health Professions School of Marine and Atmospheric Sciences School of Nursing School of Professional Development School of Social Welfare			
学生数	総数 25,710	学部生数 17,509	大学院生数 8,201	
受け入れている留学生数	3,611	日本からの留学生数		不明
海外への派遣学生数	不明	日本への派遣学生数		不明
Webサイト（URL）	http://www.stonybrook.edu/			

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU（International Association of Universities）の WHED（World Higher Education Database）掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

The Middle States Commission on Higher Education (MSCHE) is the regional accreditor recognized by the U.S. Department of Education and the Council for Higher Education Accreditation (CHEA) to accredit institutions of higher education in Delaware, the District of Columbia, Maryland, New Jersey, New York, Pennsylvania, Puerto Rico, the U.S. Virgin Islands, and more.

Each campus within the SUNY system is accredited separately by MSCHE. Stony Brook University was first accredited by MSCHE in 1957, with the most recent reaffirmation of our accreditation granted in 2014. Our most recent Mid-Point Peer Review occurred in 2020, and our next Self-Study Evaluation will take place in 2023–2024.

<https://www.stonybrook.edu/commcms/oee/accreditation/index.php>

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	ニュースクール大学 The New School	国名	米国
設置形態	私立大学		設置年	1919年
設置者（学長等）	Dwight A. McBride			
学部等の構成	Eugene Lang College The New School for Liberal Arts Mannes College The New School for Music The New School for Drama The New School for Jazz and Contemporary Music The New School for Public Engagement The New School for Social Research Parsons The New School for Design			
学生数	総数	10,815	学部生数	7,632 大学院生数 3,183
受け入れている留学生数	3,750		日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明
Web サイト（URL）	https://www.newschool.edu/			

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアcreditation、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。

The New School is accredited by the Middle States Commission on Higher Education (MSCHE, 3624 Market Street, 2nd Floor West, Philadelphia, PA 19104; 216.284.5000). MSCHE is a regional accreditor and federally recognized body. The New School has been accredited by MSCHE since 1960. All degree programs at the New York City campus of The New School are registered by the New York State Department of Education (NYSED, 89 Washington Avenue, Albany, New York 12234; 518.474.1551). Both NYSED and MSCHE provide assurance to students, parents, and all stakeholders that The New School meets clear quality standards for educational and financial performance.

<https://www.newschool.edu/Components/Wireframes/TwoColumnWireframe.aspx?pageid=331>

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) (英)	レジヤイナ大学 University of Regina	国名	カナダ
設置形態	州立大学		設置年	1974年
設置者（学長等）	Jeff Keshen			
学部等の構成	Arts Education Science Business Administration Engineering & Applied Science Nursing Media, Art, and Performance Centre for Continuing Education Kinesiology & Health Studies La Cité universitaire francophone Social Work			
学生数	総数	15,639	学部生数	13,303
受け入れている留学生数	2,938		日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明
Webサイト（URL）	https://www.uregina.ca/			

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。

また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアカレディテーション、IAU（International Association of Universities）の WHED（World Higher Education Database）掲載大学であること等）を受けている大学であるか。

All universities and colleges authorized by a charter to award academic degrees are members of Universities Canada. The University of Regina is a member in good standing with this organization and is also a full member of the Association of Registrars Universities and Colleges of Canada (ARUCC) and American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers (AACRAO).

<https://www.uregina.ca/student/registrar/faculty-staff/accreditation.html>

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

参考データ【国内の大学等 1 校につき、①～③は枠内に記入。④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】

※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名	関西大学
------	------

① 大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019 年 5 月 1 日現在）及び各出身国（地域）別の 2019 年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表 1 に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。

※「2019 年度受入人数」は、2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日の出身国（地域）別受入人数を記入。

※「全学生数」には日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の 2019 年 5 月 1 日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019 年度 受入人数
1	中華人民共和国	654	278
2	大韓民国	108	70
3	台湾	55	49
4	ベトナム	18	9
5	香港	11	3
6	タイ	10	3
7	アメリカ合衆国	9	12
8	マレーシア	8	6
9	イギリス	7	8
10	フランス	6	6
その他 (上記 10 国以外)	インドネシア、ドイツ、シンガポール	36	44
留学生の受入人数の合計		922	
全学生数		30,335	
留学生比率		3.04%	

② 2019 年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019 年度中（2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。

なお、2019 年 3 月 31 日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国（地域）		派遣先大学名		2019 年度 派遣人数
1	フィリピン		エンデラン大学		75
2	オーストラリア		アデレード大学		65
3	カナダ		カルガリー大学		61
4	シンガポール		ジェームス・クック大学		49
5	中国		北京外国语大学		37
6	カナダ		ゲルフ大学		32
7	タイ		チェンマイ大学		26
8	イギリス		ヨーク大学		25
9	アメリカ		ユタ大学		25
10	ニュージーランド		オークランド大学		24
その他 (上記 10 国以外)	(主な国名)	台湾	(主な大学名)	国立成功大学	
	計	25	力国	計	105 校
派遣先大学合計校数			115		
派遣人数の合計					1,145

大学等名	関西大学											
(3) 大学等全体における外国人教員数（兼務者も含む）(2023年5月1日現在)												
※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。												
※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任教員の数をそれぞれ記入。（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）												
全教員数	外国人教員数											
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計						
2,262	21	11	0	2	210	244						
うち専任教員（本務者）数	21	11	0	2	0	34						

大学等名	関西大学
(4) 取組の実績【6ページ以内】	
<p>○英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発等による国際的な教育環境の構築</p> <p>関西大学では、トリプル・アイ構想にてイマージョンキャンパスの実現を標榜し、キャンパス内で様々な国際交流ができる環境を整備してきた。以下に主な取り組みを列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語開講科目の提供 共通教養科目に英語で開講する科目「グローバル科目群」を設置し、交換留学生等も履修できるようし、学生同士が共修する授業内容を提供することで、教室内で国際交流ができる環境を実現させている。COIL型教育も最初はこのグローバル科目群の中でスタートさせ、その後専門科目での実施や、後述するICT技術を活用した発展的なプログラムや環境（KU-EOL、J-MCP、GSC）を構築してきた。 ・KU-EOL 本学のCOIL事業を通して、IIGEグローバルネットワークは現在40大学以上となっており、今年度においてはASEAN、アフリカ、南米、欧州といった多地域との連携の拡充が実現しつつある。このネットワークをベースとして、本学ではKU-EOL（Kansai University Engaged/Exchange Online Learning）を、コロナ禍を契機として2020年度の秋学期から開始した。これは、本学が意図的にオンライン開講科目として維持した英語で開講する科目群を、関西大学協定大学およびIIGEグローバルネットワークの学生に対して履修可能とするものである。KU-EOLは、関西大学が長年培ってきたCOILのノウハウを最大限に生かしたものである。一方の講義を受けるのではなく、アクティブな学習がオンラインで展開している。本学が独自で開発したCOILプラットフォームImmerseUを用いて、学外者もアカウントを取得し、授業の教材や動画素材を閲覧することもできる。 ・J-MCP 本プロジェクトは、国内外の大学機関それが持つ既存科目同士が一定期間共修する、いわゆるスタンダードなCOIL型の科目ではなくJV-Campusおよび本プロジェクトに賛同し参加する複数の大学が、共同で遂行するCOILプログラムである。これをJ-MCP（Japan Multilateral COIL/VE Project）と呼び、「SDGs in Business」「Diversity & Inclusion」「21st Century Skills」等をテーマとしたプログラムを、主に本学の長期休暇（8月～9月、2月～3月）を利用して実施している。その基盤となるシラバス（講義テーマ及び授業計画）、教育素材、オンラインで実施する上で必要なプラットフォーム（CMS）を関西大学IIGEが提供することで、本プロジェクトをけん引している。 ・GSC 「関西大学DX推進構想」（2021年度）に基づき、インクルーシブキャンパス実現の一環として、デジタル技術を活用したGlobal Smart Classroom（GSC）を全キャンパスに設置している。各キャンパスのGSCをつなぐことで、所属キャンパス以外で開講される授業について、バーチャルでありながら臨場感を失うことなく積極的に参加できる教育環境を構築し、FDや教育効果の評価などを織り交ぜつつ、対面とオンラインを組み合わせたハイフレックス型授業を推進している。大型ディスプレイ、PC、カメラ、スイッチャーなどのハードウェアとオンライン授業支援アプリやAI自動翻訳アプリなどのソフトウェアを組み合わせることにより、遠隔・対面のブレンド型教育や、学内だけではなく海外の教育機関とも多方向・多人数の学修を実現することができる。 ・Mi-Room/Virtual Mi-Room 日常では得られない異文化体験や国際交流を実体験できるグローバル・コミュニケーションズ 	

ベースとして、Mi-Room(Multilingual Immersion Room)を設置している。キャンパス内に設置されている部屋（対面バージョン）と、仮想空間としてアクセスできる部屋（オンラインバージョン）の2種類あり、語学力の向上はもちろん、国際感覚を培うことができる。

また、海外大学との共同で設置しているダブル・ディグリー、デュアル・ディグリー・プログラムを以下に列記する。

【外国語学部】

北京外国语大学ダブル・ディグリー・プログラム
(行先) 中国 (期間) 1学期間

スタディ・アブロード・プログラム（外国語学部では、2年次の学部必修専門科目として協定大学へ1年間留学）で北京外国语大学に留学した学生が、半年間留学を延長し、必要な単位を修得することによって、卒業時に両大学の学士号を取得することができるプログラム。

【外国語教育学研究科】

アストン大学ダブル・ディグリー・プログラム
(行先) イギリス (期間) 2学期間

修士1年生秋学期から1年間をアストン大学大学院に留学し、本研究科及びアストン大学大学院での指導のもと必要な単位を修得、修士論文を提出して、両大学の修士号を取得することができるプログラム。

【文学研究科・外国語教育学研究科・東アジア文化研究科】

嶺南大学校大学院デュアル・ディグリー・プログラム
(行先) 韓国 (期間) 1年間

関西大学大学院及び嶺南大学校大学院での学位取得を目的としており、そのためには、修士論文審査等それぞれの研究科が定める試験の合格が必須。

【理工学研究科】

ダブル・ディグリー（複数学位取得）プログラム
(行先) 台湾、ドイツ (期間) 2学期間

本学大学院理工学研究科博士課程前期課程に入学後、台湾・国立中央大学（Master's program in Science or Engineering）またはドイツ・ギーセン大学（Master's programme in Material Science/Chemistry）～1年間（1年次秋学期、2年次春学期）または（1年次春学期、1年次秋学期）留学し、両大学の修了要件を満たすことにより、関西大学から修士の学位が授与されると同時に留学先大学からも修士の学位が授与されるプログラム。

○外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による国際化への対応のための教員の資質向上（国際公募、年俸制、テニュアトラック制等の実施・導入を含む）

・特別任用教育職員（国際担当）の採用

上述の国際交流のための様々な取り組みを具現化するため、特別任用教育職員として4名の外国人教員を雇用しており、国際部の専任教員とともに本学の教育の国際化に資する活動を行っている。

・学部・研究科との協力による非常勤講師の採用

グローバル科目群の科目担任として外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員を積極的に雇用している。グローバル科目群の中には、関西大学の学部・研究科の専門分野に関連する科目もあり、非常勤講師を公募する際に、学部・研究科に学会等への周知、書類選考、面接審

査等の協力を得ている。

・グローバルFDおよびウェビナーシリーズ

英語で開講する科目を担任する際に必要となるスキルを獲得する機会を関西大学教員に提供するため、グローバルFDを継続的に実施している。IIGE設置後は、グローバルFDのテーマをCOILに特化し、それを学外にも提供するウェビナーシリーズとして展開することで、COIL/VEの普及・発展に寄与してきた。

○英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラム等、事務体制の国際化

本学の長期ビジョンである「Kandai Vision 150」において、政策目標の一つに「国際通用性を確保するための人的基盤の充実」を掲げており、特に、事務職員における具体的な外国語能力基準・目標「TOEIC®700、TOEFL® iBT76等」を掲げている。

この目標にコミットするべく、事務職員研修計画の中に「事務職員のグローバル化に関する研修計画」を策定し、TOEIC®の受験料補助、エクステンション・リードセンターのTOEIC®講座の受講料補助、オンライン英会話、スマートフォンのアプリケーションを用いたTOEIC®対策、語学集中研修等を実施している。

また、グローバリゼーションの醸成の観点から、協定大学との事務職員短期交換派遣プログラム、海外業務研修、海外長期派遣研修、日本学術振興会が実施する国際協力員への派遣等も実施している。

2022年度末現在、TOEIC®700以上等を有する事務職員は64名で、その人員配置については、個々人の等級・能力・経験等及び大学全体の配置状況等を総合的に勘案したうえで、国際事務局のみならず、各部局における国際化への対応に従事し得るような配置に努めている。

○厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化等、単位の実質化

・授業計画（シラバス）の策定

シラバスには、全学統一のフォーマットにより、授業概要・到達目標、授業計画・授業時間外学習、成績評価の方法・基準・評価（以上は必須項目）、教科書、参考書、備考を記載している。授業担当者によるシラバス作成に際しては、「シラバス作成の手引き」に記入例を示すとともに、シラバスが「学生と大学・授業担当者との契約的要素を有している」ことを改めて周知し、シラバスと実際の授業内容を整合させるよう求めている。作成したシラバスは、関西大学ウェブサイトのシラバスシステムにおいて全科目公開している。

・単位の過剰登録の防止

「大学設置基準」の趣旨や授業時間外の学習時間を確保し、単位の実質化を図るため、履修科目登録の上限については、全学的に資格関係科目を除いて50単位未満としている。これらは、『大学要覧』に記載され、全学生に周知されている。

以下に各学部の年間履修上限単位を示す。

() 内は1学期の上限単位数

法学部：44単位以内（23単位以内）

文学部：49単位以内（25単位以内）

経済学部：44単位以内（23単位以内）※

商学部：49単位以内（26単位以内）※

社会学部：44単位以内（23単位以内）※

政策創造学部：48単位以内（25単位以内）

外国語学部：49単位以内（25単位以内）

人間健康学部：48単位以内（24単位以内）

総合情報学部：48 単位以内（24 単位以内）
社会安全学部：44 単位以内（22 単位以内）
システム理工学部：50 単位未満
環境都市工学部：50 単位未満
化学生命工学部：50 単位未満
※は学年によって、より少ない設定の年次もあり

・客観的な成績評価基準の運用

全学において GPA 制度を実施している。

シラバス等で成績評価基準を明示した上で、厳格な成績評価を実施し、評価の公平性・透明性を保証しつつ、学生が主体的な学修活動を重ね、各自が到達目標を意識し、その成果を客観的に把握できるシステムは、全学的に定着し、①GPA 対象科目、②履修辞退制度、③成績分布の公表、成績証明書への記載等について全学的な取り扱いも定めて運用している。また、GPA は、学生へ成績発表・履修届時に入学年度・所属学部の分布と共に示しており、学生自身に、修得単位の積み上げという量的評価に加えて、成績評価内容（質的評価）を意識させる契機となっている。なお、各学部により奨学金対象者の選出や卒業式の総代選出、大学院への学内進学時の出願条件に GPA を用いている。その他、個別学習指導の際は、修得単位数とともに GPA を参考にしている。さらに、高大接続を意識し、推薦入学の協定校等へのフィードバックの強化に GPA を活用している。

大学等名	関西大学
(5) 事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
該当なし	

大学等名	関西大学
⑥ 他の公的資金との重複状況【3 ページ以内】	
<p>本学は独立行政法人日本学術振興会が行なっている国際交流事業のうち、二国間交流事業を受託しているが、これは中国との共同研究であるため、米国を対象に両国の学生の交流推進をめざす本事業とは目的・趣旨・地域を異にするものである。</p> <p>また、独立行政法人日本学生支援機構令和 5 年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）については、2023 年 5 月 1 日現在、以下の 8 つのプログラムが採択されている。</p> <p>(1) スタディ・アブロード (SA) ・ プログラム (2) 実践的短期語学研修～SDGs に関する現地活動を通して実践的な語学力と Civic Mindedness を体得する～ (3) 関西大学商学部海外ビジネス英語プログラム (BestA) ・ 1 学期コース (4) 中期語学留学＋実践活動プログラム～実践型語学研修を通じて真の実践的コミュニケーション力を身につける～ (5) 理工系ダブル・ディグリーへのブリッジ留学・ラボインターンシッププログラム (6) 関西大学外国語学部×北京外国语大学中国語言文学学院 DD プログラム (7) スウェーデンにおける国際健康福祉実習プログラム (8) 渡日前から始まる共修型外国人留学生キャリア・就職支援プログラム</p> <p>このうち、(1) (2) (4) (8) については米国も対象にしているが、経緯が異なり、また Blended Mobility を基盤にはしていないことから、今回の申請プログラムでの実践とは内容を異にするものである。</p>	

参考データ【国内の大学等 1 校につき、①～③は枠内に記入。④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】

※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名	東北大学
------	------

① 大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019 年 5 月 1 日現在）及び各出身国（地域）別の 2019 年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表 1 に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。

※「2019 年度受入人数」は、2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日の出身国（地域）別受入人数を記入。

※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の 2019 年 5 月 1 日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019 年度受入人数
1	中国	1,256	1,944
2	インドネシア	137	199
3	韓国	109	152
4	台湾	75	137
5	タイ	48	79
6	ベトナム	40	63
7	フランス	40	97
8	バングラデシュ	36	46
9	アメリカ合衆国	36	114
10	インド	29	64
その他 (上記 10 国以外)	ドイツ、マレーシア、イタリア、フィリピン、ブラジル	356	653
留学生の受入人数の合計		2,162	3,548
全学生数		18,387	
留学生比率		11.8%	

② 2019 年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019 年度中（2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。

なお、2019 年 3 月 31 日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国（地域）		派遣先大学名			2019 年度派遣人数
1	オーストラリア		ニューサウスウェールズ大学			49
2	カナダ		ウォータールー大学			47
3	英国		ヨーク大学			32
4	アメリカ合衆国		ニューヨーク州立大学オルバニー校			21
5	スペイン		マドリード・コンプルテンセ大学			21
6	アメリカ合衆国		カリフォルニア大学リバーサイド校			81
7	アメリカ合衆国		モンタナ大学			79
8	英国		シェフィールド大学			77
9	フランス		国立応用科学院リヨン校			65
10	シンガポール		シンガポール国立大学			45
その他 (上記 10 国以外)	(主な国名)	マレーシア	(主な大学名)	マラヤ大学		
	計	49	力 国	計	147	校
派遣先大学合計校数			157			
派遣人数の合計						1,547

大学等名	東北大学													
(3) 大学等全体における外国人教員数（兼務者も含む）（2023年5月1日現在）														
※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。														
※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任教員の数をそれぞれ記入。（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）														
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率							
3,849	24	70	67	187	9	357	9%							
うち専任教員（本務者）数	24	70	13	187	9	303								

大学等名	東北大学
④ 取組の実績【6 ページ以内】	
<p>1. <u>英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発等による国際的な教育環境の構築</u></p> <p>【取組の実績】</p> <p>グローバル 30 事業で創設した英語で学位取得可能な国際学位コース「Future Global Leadership(FGL)プログラム」により、コース数は 2013 年度の 24 コース 264 人から 2022 年度の 60 コース、598 人と大幅に増加した。学士課程においては理・工・農の各学部による 3 つのコースを継続的に実施するとともに、大学院においては本学が世界的な研究拠点として研究力強化を図る災害科学、未来型医療、データ科学、機械科学のほか、経済学、法学といった人文社会科学系のコースなども設置するなど大幅にコース数が増加している。特に博士後期課程では全研究科が国際学位コースを提供している。また、国内学生と留学生がともに参加する「国際共修」型の授業科目（国際共修ゼミ）を開発・実施し、順調に科目数を増やしている。国際共修ゼミのクラス数は、2013 年度の 11 クラスから 2021 年度は約 61 クラス（約 6 倍）と国内最大規模を誇り国際共修キャンパスの深化に大きく貢献している。国際学位コース（FGL プログラム）のコース数と参加者数の拡充、国際共修クラスの拡充などの取組を推進したことにより、英語による授業科目数・割合は、2013 年度の 570 科目/7.3%から 2021 年度は 1,206 科目/14.2%と倍増した。</p> <p>東北大学では国際共同学位に関する教育を国内大学では早期に実現してきた。文部科学省大学国際戦略本部強化事業（平成 17～22 年度）、戦略的国際連携支援事業（平成 17～20 年度）、先端的国際連携支援事業（平成 19～22 年）、大学教育の国際化加速プログラム（平成 20 年～22 年）等に採択され大学院を中心にダブルディグリープログラム等の開発と導入を組織的に進めてきた。全学的イニシアティブにより推進する INSA de Lyon、エコールセントラルグループ、スウェーデン王立工科大学等とのダブルディグリープログラムのほか、文学・法学・経済・理学・医学・歯学・工学・農学・環境科学・生命科学・医工学といった各部局のイニシアティブによるダブルディグリープログラムも順次開設されている。以下に述べる国際共同大学院プログラムも含めると本学が海外の大学と連携して推進する国際共同教育プログラム数は 41 プログラムにのぼり、60 を超える海外協定大学と Jointly Supervised Degree (JSD)/Double Degree (DD) に関する覚書を締結し、強い連携のもとに共同教育を実践している。文科省が公表したガイドラインに基づき 2015 年度には本学独自のガイドライン（随時改訂）も作成し質の保証も担保している。</p> <p>スーパーグローバル大学創成支援（平成 26 年度から）の採択を契機として本学では「国際共同大学院プログラム」群を創設・実施している。国際共同大学院プログラムは、海外有力大学との共同指導体制のもとで原則 6 か月以上の海外で共同研究、共同授業、サマースクール等の組み合わせによる組織的・有機的な国際共同教育（学位プログラム）を行っている。プログラム修了者には、プログラム名を付した学位記を授与している。2019 年度までに、スピントロニクス分野、データ科学分野、日本学分野をはじめとする 10 のプログラムにおいて教育が実施されており、マインツ大学、バイロイト大学、国立清華大学、ケースウェスタンリザーブ大学、ハイデルベルク大学等の 20 を超える海外有力大学と Jointly Supervised Degree (JSD)/Double Degree (DD) に関する覚書を締結した。覚書に基づき共同学位を取得した学生には、更に JSD/DD の学位が授与される。10 プログラムの在籍者数は 7 人から 2023 年度には 298 人（うち留学生 126 名）に増加し、すでに修了生を 128 名輩出している。</p>	

【裏付資料、データ等】

①外国語のみで卒業できるコースの数等の推移 (JSPS公表: SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成)

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)	令和3年度 (R3.5.1)	令和4年度 (R4.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国語のみで卒業できるコースの設置数(A)	24 コース	24 コース	26 コース	26 コース	26 コース	27 コース	51 コース	51 コース	54 コース	60 コース
うち学部(B)	3 コース	3 コース	3 コース	3 コース	3 コース					
うち大学院(C)	21 コース	21 コース	23 コース	23 コース	23 コース	24 コース	48 コース	48 コース	51 コース	57 コース
外国語のみで卒業できるコースの在籍者数(G)	264 人	308 人	359 人	476 人	537 人	535 人	589 人	602 人	620 人	598 人
うち学部(H)	39 人	55 人	71 人	79 人	89 人	92 人	109 人	108 人	107 人	97 人
うち大学院(I)	225 人	253 人	288 人	397 人	448 人	443 人	480 人	494 人	513 人	501 人

②外国語による授業科目数・割合 (JSPS公表: SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成)

	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和2年度 (通年)	令和3年度 (通年)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
英語による授業科目数(D)	570 科目	794 科目	809 科目	896 科目	894 科目	1,034 科目	1,060 科目	1,122 科目	1,206 科目
うち学部	181 科目	193 科目	193 科目	226 科目	257 科目	265 科目	278 科目	273 科目	282 科目
うち大学院	389 科目	601 科目	616 科目	670 科目	637 科目	769 科目	782 科目	849 科目	924 科目
全授業科目数(E)	7,847 科目	8,232 科目	8,404 科目	8,925 科目	8,342 科目	8,823 科目	8,481 科目	8,485 科目	8,481 科目
うち学部	3,413 科目	3,685 科目	3,734 科目	3,898 科目	3,850 科目	3,873 科目	3,791 科目	3,684 科目	3,855 科目
うち大学院	4,434 科目	4,547 科目	4,670 科目	5,027 科目	4,492 科目	4,950 科目	4,690 科目	4,801 科目	4,626 科目
割 合(D/E)	7.3 %	9.6 %	9.6 %	10.0 %	10.7 %	11.7 %	12.5 %	13.2 %	14.2 %

③JSPS公表: SGU中間評価(R2実施)、R4SGUフォローアップ調査・取組概要

- https://www.jspss.go.jp/j-sgu/h26_kekka_saitaku.html
- https://www.jspss.go.jp/file/storage/general/j-sgu/data/follow-up/r4/sgu_r04FU_kekka.pdf
- https://www.jspss.go.jp/file/storage/general/j-sgu/data/torikumigaiyou/h26-r3/sgu_h26-r3initiatives_a02.pdf

④東北大学国際共同大学院プログラム、高等大学院機構

- https://pgd.tohoku.ac.jp/ijg/program.html
- https://pgd.tohoku.ac.jp/about/

2. 外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による国際化への対応のための教員の資質向上（国際公募、年俸制、テニュアトラック制等の実施・導入を含む）

【取組の実績】

本学における「外国籍教員」及び「外国の大学で学位を取得した日本人教員」「外国で1年以上の教育研究歴のある日本人教員」の数・割合（以下、外国人教員等の数・割合）は2013年度の785人/25.2%から2022年度は1,121人/35.5%へ上昇した。これらを増加させるため、1)「外国人教員等雇用促進経費（平成27年度より・1.1億円/年平均）」「クロスマポイントメント活用促進支援制度、クロスマポイントメント活用支援室設置（2019年度より・2億円/年）」「若手女性・若手外国人特別教員制度（2019年度・2億円/年）」「東北インターナショナルスクールに在籍する外国籍教員の子の教育への経済的支援（平成27年度より・5人程度/年）」を独自財源（総長裁量経費）により実施するなどの財源支援のほか、若手教員支援として、学際科学フロンティア研究所では、国際公募により2014年度以降若手研究者を80人以上雇用するとともに2021年度には「東北大学若手躍進イニシアティブ宣言」により若手研究者支援を進めており、代表的な取組である「プロミネントリサーチフェロー制度」には89名の助教に承認を授与するとともに文部

科学大臣表彰若手研究者賞をR3年度に11名(全国2位)、R4年度に14名(全国1位)が受賞するなど、若手研究者の果敢な挑戦が高く評価されている。2022年度に全学的組織として創設した国際交流サポートセンターでは、外国人研究者向けのビザ取得やウェブでの生活情報発信、本学研究紹介・国際公募情報提供、宿舎手配、日用品の購買支援、日本語講座、渡日時オリエンテーション等を実施している。

教員の外国語での教育力向上のため、各授業科目を英語で行う教員向けセミナーを大学教育支援センターで定期的に開催し、2017年度より「Classroom management techniques for classes conducted in English」を開催している。また、世界標準の授業を実施するために本学ではこれまで「英語での授業提供」や「アクティブラーニング」に関するFDを数多く実施し、それらの動画や資料を全て閲覧できる「TiE: Teaching in English」ページを大学教育支援センターホームページ内に開設した。

教員採用にあたり国際公募を積極的に推進している。2017年度に最先端研究に取り組むためミッション別に三階層化した「研究イノベーションシステム」の世界トップレベル研究拠点である第一階層「高等研究機構」では国際公募等により若手研究者を世界各地から集め2022年度時点で141人の若手研究者が在籍している。このうち「材料科学高等研究所(AIMR)」では研究者の約50%が外国人で世界中から外国人教員を惹きつける研究拠点を形成している。年俸制適用者(教員)数・割合については、既存制度のほか本学独自の年俸制など複数活用しながら、2013年度815人/26.2%が2022年度は1,528人/48.3%まで上昇している。テニュアトラック制度の導入についても、学際科学フロンティア研究所をはじめとして全学的に導入しておりその対象者数・割合は、2013年度の9人/2.2%が2021年度は89人/24.1%まで上昇している。

【裏付資料、データ等】

①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員の数・割合 (JSPS公表: SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成)

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H27.5.2)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)	令和3年度 (R3.5.1)	令和4年度 (R4.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国人教員等(A)	785人	862人	888人	921人	916人	901人	1,034人	1,115人	1,116人	1,121人
うち外国籍教員	171人	185人	193人	219人	202人	201人	209人	265人	286人	291人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	108人	113人	112人	110人	109人	102人	114人	115人	107人	115人
うち外国で通算1年以上3年未満の教育研究歴のある日本人教員	391人	415人	432人	444人	459人	450人	537人	544人	537人	69人
うち外国で通算3年以上の教育研究歴のある日本人教員	115人	149人	151人	148人	146人	148人	174人	191人	186人	523人
全専任教員数(B)	3,111人	3,169人	3,178人	3,187人	3,150人	3,146人	3,121人	3,213人	3,165人	3,162人
割合(A/B)	25.2%	27.2%	27.9%	28.9%	29.1%	28.6%	33.1%	34.7%	35.3%	35.5%

②「TiE: Teaching in English」ページ

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/archives/8943/2020/>

③年俸制の導入:年俸制適用者数等 (JSPS公表: SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成)

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)	令和3年度 (R3.5.1)	令和4年度 (R4.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
年俸制適用者(教員)数(A)	815人	876人	930人	1,010人	980人	992人	982人	1,192人	1,355人	1,528人
全専任教員数(B)	3,111人	3,169人	3,178人	3,187人	3,150人	3,146人	3,121人	3,213人	3,165人	3,162人
割合(A/B)	26.2%	27.6%	29.3%	31.7%	31.1%	31.5%	31.5%	37.1%	42.8%	48.3%

④テニュアトラック性の導入：テニュアトラック対象者数等 (JSPS 公表：SGU 中間評価、フォローアップ調査を元に作成)

	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和2年度 (通年)	令和3年度 (通年)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
テニュアトラック対象者数(A)	9 人	8 人	7 人	26 人	25 人	62 人	68 人	69 人	89 人
年間専任教員採用者数(B)	413 人	363 人	409 人	401 人	350 人	357 人	439 人	416 人	370 人
割 合(A/B)	2.2 %	2.2 %	1.7 %	6.5 %	7.1 %	17.4 %	15.5 %	16.6 %	24.1 %

3. 英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員研修プログラム、事務体制の国際化

【取組の実績】

採用試験での語学力評価を通じた外国語能力のある事務職員の積極的採用や語学力向上のための英会話学校への業務委託による語学研修、TOEIC 対策のための e ラーニング教材、海外大学への短期研修プログラムなどを積極的に進めたことにより、TOEIC700 点以上の事務職員等の人数・割合は、2013 年度 44 人/3.1% が 2022 年度には 213 人/15.3% へ上昇しており、語学力が必要とされる幅広い部署に配置可能となるなど、高いレベルで国際対応可能な職員の採用・活用・育成が図られた。また、教員の事務業務の負担が軽減されるなど留学生と外国人研究者の支援体制構築も進んでいる。

文部科学省、日本学術振興会が実施する国際業務研修等のほか、本学独自に沖縄科学技術大学院大学 (OIST) との連携により 1 年間の長期職員派遣研修も実施している。また、海外での勤務経験を有する英語運用能力の高い URA 及び外国籍 URA を雇用している。これら取組の推進により、本学における「外国籍職員」「外国の大学で学位を取得した日本人職員」「外国で 1 年以上の職務のある日本人職員」の数・割合は、2013 年度の 22 人/1.6% から 2022 年度は 73 人/5.2% まで上昇している。

【裏付資料、データ等】

①外国語力基準 (TOEIC700 以上) を満たす専任教員数等 (JSPS 公表：SGU 中間評価、フォローアップ調査を元に作成)

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)	令和3年度 (R3.5.1)	令和4年度 (R4.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国語力基準を満たす専任教員数(A)	44 人	69 人	79 人	98 人	103 人	147 人	168 人	184 人	197 人	213 人
全専任教員数(B)	1,414 人	1,481 人	1,474 人	1,466 人	1,451 人	1,431 人	1,413 人	1,404 人	1,385 人	1,396 人
割 合(A/B)	3.1 %	4.7 %	5.4 %	6.7 %	7.1 %	10.3 %	11.9 %	13.1 %	14.2 %	15.3 %

②職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員の数・割合 (JSPS 公表：SGU 中間評価、フォローアップ調査を元に作成)

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成27年度 (H27.5.2)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)	令和3年度 (R3.5.1)	令和4年度 (R4.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国人職員等(A)	22 人	33 人	44 人	47 人	54 人	49 人	48 人	33 人	62 人	73 人
うち外国籍職員	0 人	2 人	5 人	5 人	5 人	7 人	7 人	7 人	8 人	11 人
うち外国の大学で学位を取得した日本人職員	12 人	13 人	15 人	16 人	15 人	15 人	14 人	13 人	13 人	17 人
うち外国で通算1年以上の職務・研修経験のある日本人職員	10 人	18 人	24 人	26 人	34 人	27 人	27 人	13 人	41 人	45 人
全専任教員数(B)	1,414 人	1,481 人	1,474 人	1,466 人	1,451 人	1,431 人	1,413 人	13 人	1,385 人	1,396 人
割 合(A/B)	1.6 %	2.2 %	3.0 %	3.2 %	3.7 %	3.4 %	3.4 %	13 %	4.5 %	5.2 %

4. 厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化等、単位の実質化

【取組の実績】

2013 年度に学務審議会において本学における GPA 制度導入について検討を始め、2014 年 11 月に「東北大学学士課程における GPA 制度に関する申し合わせ」を制定し、2016 年度学士入学者より GPA 導入を適用（2020 年より大学院へも適用）した。本学の GPA 制度導入の目的は、学生の学習意欲を高め、適切な修学指導に資するとともに、厳格な成績評価を推進し、学びの質を向上させることを主としている。本学における GPA は成績評価の AA から D の 5 段階に対応して、4.0 から 0.0 の GP をし、当該学期中の学期 GPA や入学以降の累積 GPA を履修上限単位数設定や修学指導等に活用してきた。本事業において推進している、「東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGL プログラム）」では、最終的な学修の成果として授与する「グローバルリーダー認定」にあたり、修了要件において GPA を活用している。

本学のシラバス基準において、「授業時間外学修」として予習・復習・課題について具体的な内容を指示し、自主的付与な学修を促している。2017 年度よりクオーター制を導入することを決定・実施し、実質的な授業内外学修時間と単位の実質化を確保する環境を整備した。

【裏付資料、データ等】

① 東北大学における GPA 制度に関する申し合わせ

https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0110/015_2.pdf

② 東北大学シラバス

<https://qsl.cds.tohoku.ac.jp/qsl/>

大学等名	東北大学																		
(5) 事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】																			
<p style="text-align: center;">多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」 養成プラン取組概要及び事後評価結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #f2e0b7; padding: 5px;">整理番号</td> <td style="padding: 5px;">1</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f2e0b7; padding: 5px;">申請担当大学名 (連携大学名)</td> <td style="padding: 5px;">東北大学 山形大学、福島県立医科大学、新潟大学</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f2e0b7; padding: 5px;">事業名</td> <td style="padding: 5px;">東北次世代がんプロ養成プラン</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f2e0b7; padding: 5px;">事業推進責任者</td> <td style="padding: 5px;">東北大学大学院医学系研究科 教授 石岡 千加史</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: #f2e0b7; padding: 5px;">取組概要</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 10px;"> <p>本プランの目的は、わが国のがん医療の課題解決のため、最新のがん医療に必要な学識・技能や国際レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、行政、職能団体、がん拠点病院や診療所、患者会や学会が連携しがんゲノム医療・個別化医療、希少がん・難治がん、小児から高齢者のライフステージ毎の多様ながんの医療ニーズに応えるがん専門医療人を養成することである。その実現のため、連携4大学が大学院に新たに55教育コースを設置し、東北メディカルメガバンク、小児がん拠点病院、個別化医療センター、重粒子線がん治療センター、医療・産業TRセンター、臨床研究推進センター、東北家族性腫瘍研究会など、ゲノム医療、希少がんや小児がん対策に重要かつこの地域がもつ国内外で有数の医療・医学インフラを活用した広域かつ高度先進的教育プログラムにより、先進的がん専門医療人を養成して我が国のがん対策の目標達成や医療イノベーションに寄与する。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: #f2e0b7; padding: 5px;">事後評価結果</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>(総合評価) B</p> <p>概ね計画通りの取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点</p> <p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多彩なコースの設定や多くのプログラムやセミナーなどが行われおり、十分にがんプロとしての目標を達成している。 <p>【改善を要する点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 計画した人材育成目標を達成できていない教育プログラム・コースがある。その課題の解決に向けての十分な対策がとられていない。参加大学間の連携も活発でないよう見受けられる。 ◆ 外部評価委員会から人材育成の達成率に関して、再三にわたり指摘を受けたにも関わらず、計画の変更に至らず、結果として、目標達成に遠く及ばないコースがあったことは残念である。今回のがんプロの活動で収録したe-learningの教材や、コロナ禍で進んだWEBシステムを活用した双方向性のセミナーなどを活用して、今後は東北における人材育成により注力するべきであると考えられる。 ◆ 推進委員会からの要望事項への対応状況について、「検討している」等の記載が多く、具体的な「自立化した事業継続体制」が示されていない。 </td> </tr> </table>		整理番号	1	申請担当大学名 (連携大学名)	東北大学 山形大学、福島県立医科大学、新潟大学	事業名	東北次世代がんプロ養成プラン	事業推進責任者	東北大学大学院医学系研究科 教授 石岡 千加史	取組概要		<p>本プランの目的は、わが国のがん医療の課題解決のため、最新のがん医療に必要な学識・技能や国際レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、行政、職能団体、がん拠点病院や診療所、患者会や学会が連携しがんゲノム医療・個別化医療、希少がん・難治がん、小児から高齢者のライフステージ毎の多様ながんの医療ニーズに応えるがん専門医療人を養成することである。その実現のため、連携4大学が大学院に新たに55教育コースを設置し、東北メディカルメガバンク、小児がん拠点病院、個別化医療センター、重粒子線がん治療センター、医療・産業TRセンター、臨床研究推進センター、東北家族性腫瘍研究会など、ゲノム医療、希少がんや小児がん対策に重要かつこの地域がもつ国内外で有数の医療・医学インフラを活用した広域かつ高度先進的教育プログラムにより、先進的がん専門医療人を養成して我が国のがん対策の目標達成や医療イノベーションに寄与する。</p>		事後評価結果		<p>(総合評価) B</p> <p>概ね計画通りの取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。</p>		<p>(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点</p> <p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多彩なコースの設定や多くのプログラムやセミナーなどが行われおり、十分にがんプロとしての目標を達成している。 <p>【改善を要する点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 計画した人材育成目標を達成できていない教育プログラム・コースがある。その課題の解決に向けての十分な対策がとられていない。参加大学間の連携も活発でないよう見受けられる。 ◆ 外部評価委員会から人材育成の達成率に関して、再三にわたり指摘を受けたにも関わらず、計画の変更に至らず、結果として、目標達成に遠く及ばないコースがあったことは残念である。今回のがんプロの活動で収録したe-learningの教材や、コロナ禍で進んだWEBシステムを活用した双方向性のセミナーなどを活用して、今後は東北における人材育成により注力するべきであると考えられる。 ◆ 推進委員会からの要望事項への対応状況について、「検討している」等の記載が多く、具体的な「自立化した事業継続体制」が示されていない。 	
整理番号	1																		
申請担当大学名 (連携大学名)	東北大学 山形大学、福島県立医科大学、新潟大学																		
事業名	東北次世代がんプロ養成プラン																		
事業推進責任者	東北大学大学院医学系研究科 教授 石岡 千加史																		
取組概要																			
<p>本プランの目的は、わが国のがん医療の課題解決のため、最新のがん医療に必要な学識・技能や国際レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、行政、職能団体、がん拠点病院や診療所、患者会や学会が連携しがんゲノム医療・個別化医療、希少がん・難治がん、小児から高齢者のライフステージ毎の多様ながんの医療ニーズに応えるがん専門医療人を養成することである。その実現のため、連携4大学が大学院に新たに55教育コースを設置し、東北メディカルメガバンク、小児がん拠点病院、個別化医療センター、重粒子線がん治療センター、医療・産業TRセンター、臨床研究推進センター、東北家族性腫瘍研究会など、ゲノム医療、希少がんや小児がん対策に重要かつこの地域がもつ国内外で有数の医療・医学インフラを活用した広域かつ高度先進的教育プログラムにより、先進的がん専門医療人を養成して我が国のがん対策の目標達成や医療イノベーションに寄与する。</p>																			
事後評価結果																			
<p>(総合評価) B</p> <p>概ね計画通りの取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。</p>																			
<p>(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点</p> <p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多彩なコースの設定や多くのプログラムやセミナーなどが行われおり、十分にがんプロとしての目標を達成している。 <p>【改善を要する点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 計画した人材育成目標を達成できていない教育プログラム・コースがある。その課題の解決に向けての十分な対策がとられていない。参加大学間の連携も活発でないよう見受けられる。 ◆ 外部評価委員会から人材育成の達成率に関して、再三にわたり指摘を受けたにも関わらず、計画の変更に至らず、結果として、目標達成に遠く及ばないコースがあったことは残念である。今回のがんプロの活動で収録したe-learningの教材や、コロナ禍で進んだWEBシステムを活用した双方向性のセミナーなどを活用して、今後は東北における人材育成により注力するべきであると考えられる。 ◆ 推進委員会からの要望事項への対応状況について、「検討している」等の記載が多く、具体的な「自立化した事業継続体制」が示されていない。 																			

大学等名	東北大学													
(5) 事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】														
<p style="text-align: center;">「卓越大学院プログラム」中間評価結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">機関名</td> <td style="width: 40%;">東北大学</td> <td style="width: 10%;">整理番号</td> <td style="width: 40%;">1901</td> </tr> <tr> <td>プログラム名称</td> <td colspan="3">変動地球共生学卓越大学院プログラム</td> </tr> <tr> <td>プログラム責任者</td> <td>山口 昌弘</td> <td>プログラムコーディネーター</td> <td>中村 美千彦</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事業の継続・発展については、補助期間終了後の令和8年以降のプログラム運営を維持するために、共同・受託研究収入等をいっそう拡大することが期待される。</p> </div>			機関名	東北大学	整理番号	1901	プログラム名称	変動地球共生学卓越大学院プログラム			プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	中村 美千彦
機関名	東北大学	整理番号	1901											
プログラム名称	変動地球共生学卓越大学院プログラム													
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	中村 美千彦											
<p>(評価決定後公表)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">〔総括評価〕</td> <td style="width: 90%;"> <p><input type="checkbox"/> S: 計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A: 計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</p> <p><input type="checkbox"/> B: 一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> C: 取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行なう必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。</p> <p><input type="checkbox"/> D: 取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。</p> </td> </tr> <tr> <td>〔コメント〕</td> <td> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、東北大学は大学院改革を全学の最重要案件の一つと捉えており、大学のマネジメントを中心として強力に推進している。本卓越大学院プログラムは、大学が重視している4つの柱の一つとなる防災関係のプログラムであり、卓越した大学院プログラムとして確立させていることは高く評価できる。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、防災分野で国際貢献できる人材を育成する本プログラムに対する期待は大きい。しかし、本プログラムが掲げる「ソノクリスタル型人材」は抽象的であり、プログラムが対象とする範囲が広いことと相俟って、修了後のキャリア展望を具体的に抱きにくくなっていることが危惧される。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、I-ラボ研修やメンター制度は学生からも高く評価されている。プログラム学生の定例会議やランチミーティングは、「仲間から学ぶ」機会として有効であるため、学生の積極的な参加を促す方策を進めいただきたい。また、多様な出身分野の学生が他分野の知識を修得する上で、「学融合科目群」の科目編成・難易度設定や連携先企業の事業分野の構成、学生のリーダーシップ発揮の機会提供などに関して、一層の拡充が期待される。</p> <p>優秀な学生の獲得については、学振特別研究員数、国際学術誌掲載数、国際学会発表数、研究成果受賞数などのKPIが期待以上であり、優秀な学生が獲得されていると考えられる。ただし、M1の充足率など、改善を要する点も見られる。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、QE1およびQE2の評価結果が学生にフィードバックされるなど、透明性を高めていることは評価される。ただし、審査委員に学外機関や海外機関からの参加を確保することなどについては改善の余地がある。</p> </td> </tr> </table>			〔総括評価〕	<p><input type="checkbox"/> S: 計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A: 計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</p> <p><input type="checkbox"/> B: 一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> C: 取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行なう必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。</p> <p><input type="checkbox"/> D: 取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。</p>	〔コメント〕	<p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、東北大学は大学院改革を全学の最重要案件の一つと捉えており、大学のマネジメントを中心として強力に推進している。本卓越大学院プログラムは、大学が重視している4つの柱の一つとなる防災関係のプログラムであり、卓越した大学院プログラムとして確立させていることは高く評価できる。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、防災分野で国際貢献できる人材を育成する本プログラムに対する期待は大きい。しかし、本プログラムが掲げる「ソノクリスタル型人材」は抽象的であり、プログラムが対象とする範囲が広いことと相俟って、修了後のキャリア展望を具体的に抱きにくくなっていることが危惧される。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、I-ラボ研修やメンター制度は学生からも高く評価されている。プログラム学生の定例会議やランチミーティングは、「仲間から学ぶ」機会として有効であるため、学生の積極的な参加を促す方策を進めいただきたい。また、多様な出身分野の学生が他分野の知識を修得する上で、「学融合科目群」の科目編成・難易度設定や連携先企業の事業分野の構成、学生のリーダーシップ発揮の機会提供などに関して、一層の拡充が期待される。</p> <p>優秀な学生の獲得については、学振特別研究員数、国際学術誌掲載数、国際学会発表数、研究成果受賞数などのKPIが期待以上であり、優秀な学生が獲得されていると考えられる。ただし、M1の充足率など、改善を要する点も見られる。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、QE1およびQE2の評価結果が学生にフィードバックされるなど、透明性を高めていることは評価される。ただし、審査委員に学外機関や海外機関からの参加を確保することなどについては改善の余地がある。</p>								
〔総括評価〕	<p><input type="checkbox"/> S: 計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A: 計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</p> <p><input type="checkbox"/> B: 一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> C: 取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行なう必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。</p> <p><input type="checkbox"/> D: 取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。</p>													
〔コメント〕	<p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、東北大学は大学院改革を全学の最重要案件の一つと捉えており、大学のマネジメントを中心として強力に推進している。本卓越大学院プログラムは、大学が重視している4つの柱の一つとなる防災関係のプログラムであり、卓越した大学院プログラムとして確立させていることは高く評価できる。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、防災分野で国際貢献できる人材を育成する本プログラムに対する期待は大きい。しかし、本プログラムが掲げる「ソノクリスタル型人材」は抽象的であり、プログラムが対象とする範囲が広いことと相俟って、修了後のキャリア展望を具体的に抱きにくくなっていることが危惧される。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、I-ラボ研修やメンター制度は学生からも高く評価されている。プログラム学生の定例会議やランチミーティングは、「仲間から学ぶ」機会として有効であるため、学生の積極的な参加を促す方策を進めいただきたい。また、多様な出身分野の学生が他分野の知識を修得する上で、「学融合科目群」の科目編成・難易度設定や連携先企業の事業分野の構成、学生のリーダーシップ発揮の機会提供などに関して、一層の拡充が期待される。</p> <p>優秀な学生の獲得については、学振特別研究員数、国際学術誌掲載数、国際学会発表数、研究成果受賞数などのKPIが期待以上であり、優秀な学生が獲得されていると考えられる。ただし、M1の充足率など、改善を要する点も見られる。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、QE1およびQE2の評価結果が学生にフィードバックされるなど、透明性を高めていることは評価される。ただし、審査委員に学外機関や海外機関からの参加を確保することなどについては改善の余地がある。</p>													

大学等名	東北大学																								
(5) 事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】																									
<p>「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」の取組概要及び中間評価結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">整理番号</td> <td style="width: 10%;">1</td> </tr> <tr> <td>申請担当大学名 (連携大学名)</td> <td>東北大学 (北海道大学、岡山大学) 計3大学</td> </tr> <tr> <td>事業名称</td> <td>「Global×Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」人材育成教育拠点</td> </tr> <tr> <td>事業責任者</td> <td>東北大学副学長(病院経営担当)・富永 健二</td> </tr> <tr> <td colspan="2">取組概要</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>我が国は高齢/高齢化社会、医療者の偏在、働き方改革など多くの医療課題が山積しそれらを克服する必要がある。それらに立ち向かうため、本プロジェクトは「地域ならではの豊富な医療課題をキュレーションし、AI解決までをデザインできる人材を広く養成すること」を達成目標に掲げ、博士課程人材養成プログラムを全国各地の大学や研究機関、民間企業、自治体と連携し推進するものである。事業構想においては、トップエッジの高さと裾野の広さを強く意識し、AI人材育成モデルを構築した。教育カリキュラムでは最先端AI研究開発に係る講義から始まり、医療現場での実課題に対しそれらのAI知見を最適に活用する方法を身に着ける。東北大学を主幹に北海道大学と岡山大学が連携し、さらに各エリアの大学が協力することで「Global×Localな医療課題」解決能力を有する「最先端AI研究開発人材」を日本全国で数多く養成し、我が国日本の将来の発展に貢献する。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2">事後評価結果</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(総合評価) A</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>計画どおりの取組が行われ、順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成することが可能と判断される。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2">【コメント】 ○:優れた点等 ●:改善を要する点等</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>○東北大学が中心でありながらも、連携大学である北海道大学、岡山大学も同様に力を入れている。東北大学は、初期AI研修、北海道大学では独自コンテンツや特別セミナー、岡山大学ではAI教育動画によるハンズオン講義や眼科領域研究と、3大学それぞれの特性を踏まえた取り組みとなっている。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>○最先端AI研究開発に係る講義と地域ならではの医療課題の実課題に対してAI知見を最適に活用する方法を身につけることを目的として、トップイノベーターの輩出と幅広い裾野の実現に向けた人材養成が進められている。</p> <p>○現教員だけでは手が回らないほどの数の共同研究の相談が相次いでいることは、産学連携のスキームのもとによく機能している証である。共同研究62件、研究発表62件、論文採択7件、知財1件という成果が報告されており、掲点立ち上げとして円滑かつ目標以上の数字が達成され、更なる今後の成果が期待できる。</p> <p>○Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発について、代表校・連携校による共通AI教材プラットフォームの構築とこれを活用した協力校への広がりを実践している点が優れている。</p> <p>○高校生にAI教育を普及させ、積極的に論文を提出して受賞にも至るなど当初の予定を超える成果を出している。</p> <p>○出口戦略として、単なる教育に留まらず、研究デザインの洗練、研究成果の創出、など意識をして取り組んでいる。</p> <p>○本プログラムで同時に採択された2つの事業間での連携がなされていることは意義深い。</p> <p>【改善を要する点等】</p> <p>●国際化教育プログラムについては、コロナ禍の影響もあり実施できなかった部分もあると思われるが、医療AIの国際的な人材育成という観点から、特徴的なかつ戦略的な国際化プログラムの実施を希望する。</p> <p>●プログラムに関する教育効果を評価するアンケートについて、一部のプログラムでは数名のアンケート結果のみを用いているため、評価結果が妥当とは言い難い。今後は、演習の内容や成績なども積極的に活用し、本プログラムの教育効果について評価する必要がある。</p> <p>●Globalな課題解決について、取組む6領域ごとに連携先がより明確化されてAI研究が進むことを期待している。</p> <p>●今後、社会実装に向けて、結実させるための技能習熟にとどまらず、スタートアップの創出などにより意欲的な取り組みを期待する。</p> <p>●終了後の自立した事業展開について、実現可能性の高さが読み取れない部分があり、今後の検討に期待したい。</p> </td> </tr> </table>		整理番号	1	申請担当大学名 (連携大学名)	東北大学 (北海道大学、岡山大学) 計3大学	事業名称	「Global×Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」人材育成教育拠点	事業責任者	東北大学副学長(病院経営担当)・富永 健二	取組概要		<p>我が国は高齢/高齢化社会、医療者の偏在、働き方改革など多くの医療課題が山積しそれらを克服する必要がある。それらに立ち向かうため、本プロジェクトは「地域ならではの豊富な医療課題をキュレーションし、AI解決までをデザインできる人材を広く養成すること」を達成目標に掲げ、博士課程人材養成プログラムを全国各地の大学や研究機関、民間企業、自治体と連携し推進するものである。事業構想においては、トップエッジの高さと裾野の広さを強く意識し、AI人材育成モデルを構築した。教育カリキュラムでは最先端AI研究開発に係る講義から始まり、医療現場での実課題に対しそれらのAI知見を最適に活用する方法を身に着ける。東北大学を主幹に北海道大学と岡山大学が連携し、さらに各エリアの大学が協力することで「Global×Localな医療課題」解決能力を有する「最先端AI研究開発人材」を日本全国で数多く養成し、我が国日本の将来の発展に貢献する。</p>		事後評価結果		(総合評価) A		<p>計画どおりの取組が行われ、順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成することが可能と判断される。</p>		【コメント】 ○:優れた点等 ●:改善を要する点等		<p>○東北大学が中心でありながらも、連携大学である北海道大学、岡山大学も同様に力を入れている。東北大学は、初期AI研修、北海道大学では独自コンテンツや特別セミナー、岡山大学ではAI教育動画によるハンズオン講義や眼科領域研究と、3大学それぞれの特性を踏まえた取り組みとなっている。</p>		<p>○最先端AI研究開発に係る講義と地域ならではの医療課題の実課題に対してAI知見を最適に活用する方法を身につけることを目的として、トップイノベーターの輩出と幅広い裾野の実現に向けた人材養成が進められている。</p> <p>○現教員だけでは手が回らないほどの数の共同研究の相談が相次いでいることは、産学連携のスキームのもとによく機能している証である。共同研究62件、研究発表62件、論文採択7件、知財1件という成果が報告されており、掲点立ち上げとして円滑かつ目標以上の数字が達成され、更なる今後の成果が期待できる。</p> <p>○Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発について、代表校・連携校による共通AI教材プラットフォームの構築とこれを活用した協力校への広がりを実践している点が優れている。</p> <p>○高校生にAI教育を普及させ、積極的に論文を提出して受賞にも至るなど当初の予定を超える成果を出している。</p> <p>○出口戦略として、単なる教育に留まらず、研究デザインの洗練、研究成果の創出、など意識をして取り組んでいる。</p> <p>○本プログラムで同時に採択された2つの事業間での連携がなされていることは意義深い。</p> <p>【改善を要する点等】</p> <p>●国際化教育プログラムについては、コロナ禍の影響もあり実施できなかった部分もあると思われるが、医療AIの国際的な人材育成という観点から、特徴的なかつ戦略的な国際化プログラムの実施を希望する。</p> <p>●プログラムに関する教育効果を評価するアンケートについて、一部のプログラムでは数名のアンケート結果のみを用いているため、評価結果が妥当とは言い難い。今後は、演習の内容や成績なども積極的に活用し、本プログラムの教育効果について評価する必要がある。</p> <p>●Globalな課題解決について、取組む6領域ごとに連携先がより明確化されてAI研究が進むことを期待している。</p> <p>●今後、社会実装に向けて、結実させるための技能習熟にとどまらず、スタートアップの創出などにより意欲的な取り組みを期待する。</p> <p>●終了後の自立した事業展開について、実現可能性の高さが読み取れない部分があり、今後の検討に期待したい。</p>	
整理番号	1																								
申請担当大学名 (連携大学名)	東北大学 (北海道大学、岡山大学) 計3大学																								
事業名称	「Global×Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」人材育成教育拠点																								
事業責任者	東北大学副学長(病院経営担当)・富永 健二																								
取組概要																									
<p>我が国は高齢/高齢化社会、医療者の偏在、働き方改革など多くの医療課題が山積しそれらを克服する必要がある。それらに立ち向かうため、本プロジェクトは「地域ならではの豊富な医療課題をキュレーションし、AI解決までをデザインできる人材を広く養成すること」を達成目標に掲げ、博士課程人材養成プログラムを全国各地の大学や研究機関、民間企業、自治体と連携し推進するものである。事業構想においては、トップエッジの高さと裾野の広さを強く意識し、AI人材育成モデルを構築した。教育カリキュラムでは最先端AI研究開発に係る講義から始まり、医療現場での実課題に対しそれらのAI知見を最適に活用する方法を身に着ける。東北大学を主幹に北海道大学と岡山大学が連携し、さらに各エリアの大学が協力することで「Global×Localな医療課題」解決能力を有する「最先端AI研究開発人材」を日本全国で数多く養成し、我が国日本の将来の発展に貢献する。</p>																									
事後評価結果																									
(総合評価) A																									
<p>計画どおりの取組が行われ、順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成することが可能と判断される。</p>																									
【コメント】 ○:優れた点等 ●:改善を要する点等																									
<p>○東北大学が中心でありながらも、連携大学である北海道大学、岡山大学も同様に力を入れている。東北大学は、初期AI研修、北海道大学では独自コンテンツや特別セミナー、岡山大学ではAI教育動画によるハンズオン講義や眼科領域研究と、3大学それぞれの特性を踏まえた取り組みとなっている。</p>																									
<p>○最先端AI研究開発に係る講義と地域ならではの医療課題の実課題に対してAI知見を最適に活用する方法を身につけることを目的として、トップイノベーターの輩出と幅広い裾野の実現に向けた人材養成が進められている。</p> <p>○現教員だけでは手が回らないほどの数の共同研究の相談が相次いでいることは、産学連携のスキームのもとによく機能している証である。共同研究62件、研究発表62件、論文採択7件、知財1件という成果が報告されており、掲点立ち上げとして円滑かつ目標以上の数字が達成され、更なる今後の成果が期待できる。</p> <p>○Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発について、代表校・連携校による共通AI教材プラットフォームの構築とこれを活用した協力校への広がりを実践している点が優れている。</p> <p>○高校生にAI教育を普及させ、積極的に論文を提出して受賞にも至るなど当初の予定を超える成果を出している。</p> <p>○出口戦略として、単なる教育に留まらず、研究デザインの洗練、研究成果の創出、など意識をして取り組んでいる。</p> <p>○本プログラムで同時に採択された2つの事業間での連携がなされていることは意義深い。</p> <p>【改善を要する点等】</p> <p>●国際化教育プログラムについては、コロナ禍の影響もあり実施できなかった部分もあると思われるが、医療AIの国際的な人材育成という観点から、特徴的なかつ戦略的な国際化プログラムの実施を希望する。</p> <p>●プログラムに関する教育効果を評価するアンケートについて、一部のプログラムでは数名のアンケート結果のみを用いているため、評価結果が妥当とは言い難い。今後は、演習の内容や成績なども積極的に活用し、本プログラムの教育効果について評価する必要がある。</p> <p>●Globalな課題解決について、取組む6領域ごとに連携先がより明確化されてAI研究が進むことを期待している。</p> <p>●今後、社会実装に向けて、結実させるための技能習熟にとどまらず、スタートアップの創出などにより意欲的な取り組みを期待する。</p> <p>●終了後の自立した事業展開について、実現可能性の高さが読み取れない部分があり、今後の検討に期待したい。</p>																									

大学等名	東北大学
⑥ 他の公的資金との重複状況【3ページ以内】	
【国際化拠点整備事業費補助金】	
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>スーパーグローバル大学創成支援事業「東北大学グローバルイニシアティブ構想」</u> 教育・研究・ガバナンス面での徹底した国際化を進めることにより、グローバル時代を牽引する卓越した教育・研究を行う大学へと飛躍し、世界がその実力や実績を認め、敬意を持って評される大学となることを目指す。そのため、本事業経費は、①教育、研究、キャンパス、運営システムの国際化、②研究力強化と両輪をなす教育改革、③総長主導によるガバナンス改革を実行するための経費として主に活用している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>2021年度大学の世界展開力強化事業「アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルなグローバルリーダー育成」</u> 本事業では「食べる」「話す」「味わう」など人々の生活・文化・健康に密接に関わる「口」の機能を保障する歯学分野において、日中韓及びASEAN（タイ、インドネシア）の大学が連携して、分離異分野連携・産学官連携の歯学教育を通じた学生交流を提供する経費として主に活用している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>2022年度大学の世界展開力強化事業「レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携」</u> 本事業では「レジリエントな社会」の実現の基礎となる多様性・公平性・包摂性に基礎を置きつつグローバルレジリエンスマインドセットの涵養を図る国際交流・国際教育を、主に日英の大学が連携して実施する。特に東日本大震災の被災地をフィールドとして学ぶことにより、日本と英国の懸け橋になる人材の育成・学生交流を提供する経費として主に活用している。 	
【研究拠点形成費等補助金】	
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>卓越大学院プログラム</u> これまでの大学院改革の成果を生かし、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築することを目的とする。そのため、民間企業等との共同研究の創出、共同研究を創出するための人材育成・交流、卓越した人材育成拠点を形成するための経費として活用している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>「Global×Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」人材育成教育拠点</u> 高齢/高齢化社会、医療者の偏在、働き方改革など多くの医療課題に立ち向かっていけるような、地域ならではの豊富な医療課題をキュレーションし、AI解決までをデザインできる人材を広く養成するための経費として活用している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>持続的な産学共同人材育成システム構築事業「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム（運営拠点・中核拠点）」</u> 産学連携による実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現、未来を拓く人材の各界への輩出のため、大学において学びと社会を繋ぐ上で中心的役割を担う実務家教員を育成するための経費として活用している。 	
【日本学生支援機構令和5年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）】	
<p>令和5年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）において本学は32プログラム（継続含む）が採択されているが今回申請事業と特に関連するのは以下のとおり。いずれも海外協定校との強い連携のもと、ダブルディグリー等の学位取得のほか研究指導型の交換留学を主たる目的として、短期～中長期にわたり大学院生を海外協定校から受け入れ又は海外協定校へ派遣するための留学支援に活用される。なお、本プログラムは北米のみならず北州、東南アジア、オセアニアをはじめとする連携に重点を置いたプログラムであり、今回申請する北米に重点を置いた事業とは異なる。</p>	

(協定受入)

- ・ダブルディグリー・国際共同教育推進型短期留学生双方向交流プログラム
- ・東北大学自然科学系短期共同研究留学生受入プログラム (COLABS)

(協定派遣)

- ・ダブルディグリー・国際共同教育推進型短期留学生双方向交流プログラム
- ・国際共同大学院推進型短期共同研究留学生派遣プログラム
- ・東北大学短期国際共同教育・研究留学生派遣プログラム
- ・米国西海岸で学ぶデザイン思考型アントレプレナーシップ研修プログラム

参考データ【国内の大学等 1 校につき、①～③は枠内に記入。④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】

※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名	千葉大学
------	------

① 大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019 年 5 月 1 日現在）及び各出身国（地域）別の 2019 年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表 1 に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。

※「2019 年度受入人数」は、2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日の出身国（地域）別受入人数を記入。

※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の 2019 年 5 月 1 日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019 年度受入人数
1	中国	632	882
2	韓国	101	125
3	台湾	48	79
4	インドネシア	42	50
5	タイ	30	38
6	メキシコ	18	27
7	モンゴル	10	11
8	カンボジア	10	11
9	ドイツ	10	24
10	マレーシア	8	11
その他 (上記 10 力国以外)	イタリア、 (主な国名) ミャンマー等	イタリア 7 ミャンマー 7	イタリア 10 ミャンマー 10
留学生の受入人数の合計		1,016	1,423
全学生数		14,513	
留学生比率		7.0%	

② 2019 年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019 年度中（2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。

なお、2019 年 3 月 31 日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国（地域）		派遣先大学名		2019 年度派遣人数
1	アメリカ		アラバマ大学（タスカルーサ校）		52
2	タイ		マヒドン大学		48
3	フィンランド		ラップラント大学		32
4	オーストラリア		モナシュ大学		30
5	イギリス		ヨーク大学		24
6	イギリス		ボーンマス美術大学		24
7	韓国		ソウル国立大学		20
8	タイ		チェンマイ大学		18
9	タイ		チュラロンコーン大学		11
10	アメリカ		アラバマ大学（バーミングハム校）		10
その他 (上記 10 力国以外)	(主な国名)	ドイツ, 台湾, 中国	(主な大学名)	シャリテ・ベルリン医科大学	562
計	47	力国	計	231	校
派遣先大学合計校数			241		
派遣人数の合計					831

大学等名	千葉大学						
(3) 大学等全体における外国人教員数（兼務者も含む）（2023年5月1日現在）							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
2576	10	19	80	78	0	187	7.3%
うち専任教員（本務者）数	7	18	15	36	0	76	

大学等名		千葉大学											
(4) 取組の実績【6ページ以内】													
○国際的な教育環境の構築に関して、千葉大学では、インドネシア、韓国、タイ、台湾、中国及びドイツの6ヶ国27大学との間で35のダブル・ディグリー・プログラムを実施している。													
【ダブル・ディグリー・プログラム一覧】													
c	No.	相手先大学名・部局名	千葉大学部局名	学位 修士	学位 博士	協定締結 年度							
インドネシア	1	IPB大学(ボゴール農科大学院)	園芸学研究科	○		2009							
	2	インドネシア大学 工学部	融合理工学府 環境リモートセンシング研究センター	○	○	2022							
	3	ウダヤナ大学 大学院プログラム	融合理工学府 環境リモートセンシング研究センター	○	○	2012							
	4	ガジャマダ大学 地理学部	融合理工学府 環境リモートセンシング研究センター	○	○	2012							
	5	ハサスディン大学 工学部	融合理工学府 環境リモートセンシング研究センター	○	○	2012							
	6	バジャジャラン大学 数学、自然科学部、農学部、農業工学部、地質工学部、大学院	融合理工学府 園芸学研究科 環境リモートセンシング研究センター 環境健康フィールド科学センター	○	○	2012							
	7	パンダン工科大学 地球工学部	融合理工学府 環境リモートセンシング研究センター	○	○	2012							
韓国	8	延世大学校 人文芸術大学大学院デザイン芸術学部	融合理工学府創成工学専攻 デザインコース	○		2018							
	9	キングモンクット工科大学ト ンブリ校 生物資源工学研究科	園芸学研究科		○	2014							
	10	シリバーン大学 薬学部	医学薬学府		○	2012							
	11	タマサート大学 シリントーン国際工学部	工学研究科		○	2016							
	12	チエンマイ大学 薬学部	医学薬学府		○	2017							
	13	チュラボーン大学院大学	医学薬学府		○	2022							
	14	マヒドン大学 カンチャナブリキャンパス・大 学院	園芸学研究科	○		2021							
タイ	15	マヒドン大学 理学部、大学院	園芸学研究科	○	○	M 2016 D 2008							
	16	マヒドン大学 薬学部、大学院	医学薬学府		○	2014							
	17	メーファーラン大学 農工学部	園芸学研究科	○	○	M 2016 D 2019							
	18	国立陽明交通大学 理学院	融合理工学府		○	2019							
	19	広州美術学院	融合理工学府	○		2019							
	20	上海交通大学 研究生院(船舶海洋建築工学 院)	融合理工学府		○	2009							
	21	清華大学 建築学院	園芸学研究科	○		2008							
中国	22	浙江大学 コンピュータサイエンス学院	融合理工学府	○		2017							
	23	浙江工商大学 東方語言文化学院	人文公共学府	○		2017							
	24	南京芸術学院 工業デザイン学院	工学研究科	○		2016							
	25	南京農業大学 園芸学院	園芸学研究科	○		2015							
	26	北京林業大学 園林学院	園芸学研究科	○		2016							
	27	ケルン応用科学大学 文化科学研究科	融合理工学府	○		2017							
また、5つの研究科などで合計11の英語による教育プログラムを実施している。													
研究科等	課程	プログラム名	開始年度	研究科等	課程	プログラム名	開始年度						
人文公共学府	博士前期課程	Economics in English コース	29年度	融合理工学府創成工学専攻 デザインコース	博士後期課程	FARM Program (Future Agriculture with Far East Russia Pre-Master to PhD Program)	29年度						
融合理工学府	博士前期課程 博士後期課程	MADE プログラム (Master of Asia Design Education Program)	25年度	融合理工学府創成工学専攻 デザインコース	博士前期課程 博士後期課程	イノベーション・デザイン・スクール・プログラム	R3年度						
融合理工学府	博士前期課程 博士後期課程	FULI Program (Post Urban Living Innovation Program)	26年度	園芸学研究科	博士後期課程	国際環境園芸学コース	R5年度						
融合理工学府	博士前期課程 博士後期課程	CAPE Program (Campus Asia Plant & Environment Innovation Program)	28年度	医学薬学府	4年博士課程	先進医学薬学国際プログラム	23年度						
融合理工学府	博士前期課程 博士後期課程	CODE プログラム (Continents Design Education Program)	23年度	看護学研究科	博士前期課程	国際プログラム	24年度						
融合理工学府	博士後期課程			看護学研究科	博士後期課程	国際プログラム	26年度						

○全学教育の面では、グローバル人材育成の一環として、2013年度より「国際日本学」と呼ばれる科目群を設定し、留学生と協働して学ぶ科目を多数設定したほか、海外の協定校の学生と特定の課題について協働で学ぶPBL型の短期プログラム「グローバル・スタディ・プログラム」(GSP)を開始し、アメリカ、マレーシア、フィンランド、ベトナム、ギリシャ及びドイツの協定大学の学生との協働学習を推進するなど、国際的な教育環境の構築に努めている。

なお、2020年度～2022年度については新型コロナウイルスの影響により実施していない。

【グローバル・スタディ・プログラム実績】

大学名	2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
	本学から	先方から																
フィンランド・セイナヨキ応用科学大学(派遣)	10	9			13	8			14	7			15	13				
ベトナム・ノンラム大学(派遣)					11	11												
マレーシア・マラヤ大学(派遣)					14	0												
ギリシャ・アリストテレス大学(派遣)							13	14			17	14						
マレーシア・マルチメディア大学(派遣)							13	14			8	5			6	5		
ドイツ・ドレスデン応用科学大学(派遣)											20	12			19	10	13	12
アメリカ・シンシナティ大学((派遣)															16	16		
フィンランド・セイナヨキ応用科学大学(受入)			15	14			12	15			12	16			5	12		
ギリシャ・アリストテレス大学(受入)									13	15			11	13				
マレーシア・マルチメディア大学(受入)									15	15			4	10				
ドイツ・ドレスデン応用科学大学(受入)											11	14						
計	10	9	15	14	38	19	38	43	42	37	57	47	41	50	46	43	13	12

○千葉大学は外国人教員の雇用を積極的に進めており、2022年5月1日現在で161名の教員（全教員（特任教員及び非常勤講師含む）の6.4%）が在籍している。国際的な教育研究の経験を有する日本人教員については、2022年5月1日現在で54名の常勤教員が、海外の大学で学位を取得している（常勤教員（1,319名）の4.1%）。

教員の国際公募については、全学的に統一した制度を導入してはいるが、一部の学部・研究科において実施されており、公募情報を英文により学外ホームページに掲載している。また、年俸制については、2023年5月1日現在581名に適用している。2023年度までの目標数値である521名（総教員数の38.6%程度）を大きく上回っており、今後も更に対象者を広げていく予定である。

テニュアトランク制については、2008年度に生命系科学分野に限定して導入し、2010年度には大学自主取組の制度として全学規程に定め導入した。2021年度までに59名がテニュアトランク教員として雇用された。

FD活動に関しては、全学レベル、部局レベルの双方で様々な分野のFD活動を活発に実施しており、その中で国際化に関するものは、2013年度は6件、2014年度は2件、2015年度は3件、2016年度は2件、2017年度は5件、2018年度は2件、2019年度は3件実施された。

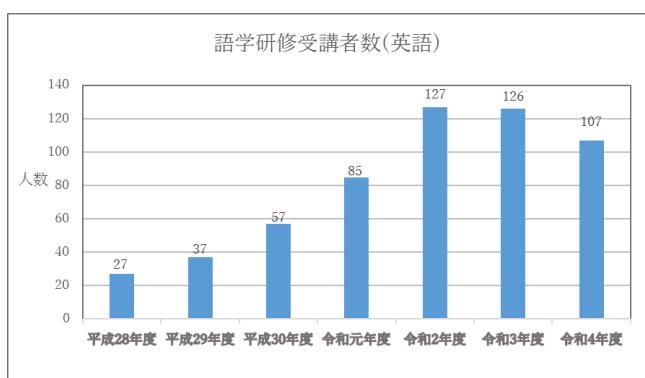
【国際化に対応するFD実施状況一覧】

年度	FD種別	テーマ	参加人数	年度	FD種別	テーマ	参加人数
H25	融合科学研究科FD	情報科学専攻での国際学生ワークショップの活動報告	30名	H29	全学FD	英語授業を行うための教員向け英語講義実践研修(第1回)	21名
H25	教育学部FD	「平成25年度教育学部・教育学研究科FD研修会」(ツインクルプログラム)	103名	H29	全学FD	英語授業を行うための教員向け英語講義実践研修(第2回)	24名
H25	文学部FD	留学生チューターへの研修	12名	H30	全学FD	英語授業を行うための教員向け英語講義実践研修(第1回)	13名
H25	普通教育FD 全学FD	「グローバルインターンシップ・ボランティアの現状と課題」	25名	H30	全学FD	英語授業を行うための教員向け英語講義実践研修(第2回)	10名
H25	工学部・工芸学研究科 融合科学研究科FD	米国留学体験記	20名	H31 (R1)	全学FD	スキップワイズプログラム教員向け英語研修(夏季・集合型)	1名
H25	全学FD	スキップワイズプログラム国際FD	14名	H31 (R1)	全学FD	スキップワイズプログラム教員向け英語研修(夏季・e-learning型)	5名
H26	文学部・法政経学部FD	留学生チューターへの研修	12名	H31 (R1)	全学FD	スキップワイズプログラム教員向け英語研修(春季・e-learning型)	17名
H26	全学FD	スキップワイズプログラム国際FD	18名	R2	全学FD	スキップワイズプログラム教員向け英語研修(夏季・e-learning型)	19名
H27	工学部・工芸学研究科 融合科学研究科FD	米国の教育事情に関する研修	19名	R2	全学FD	スキップワイズプログラム教員向け英語研修(春季・e-learning型)	14名
H27	理学部・理学研究科FD	留学生の英語論文指導に関する研修	14名	R2	全学FD	スキップワイズプログラム教員向け英語研修(集合型)	3名
H27	全学FD	スキップワイズプログラム国際FD	16名	R3	全学FD	グローバル教育・研究を担う教員のための英会話基礎力向上プログラム(e-learning型)	32名
H28	全学FD	TOEIC S&W Propellワークショップ	5名	R3	全学FD	英語で授業を行う教員のための実践力向上プログラム(集合型)	10名
H28	全学FD	スキップワイズプログラム教員向け英語研修	27名	R4	全学FD	グローバル教育・研究を担う教員のための英会話基礎力向上プログラム(第1回)	29名
H29	国際教養学部FD	学生の留学指導に関する専任教員の研修(1)	27名	R4	全学FD	グローバル教育・研究を担う教員のための英会話基礎力向上プログラム(第2回)	34名
H29	国際教養学部FD	学生の留学指導に関する専任教員の研修(2)	31名	R4	全学FD	英語で授業を行う教員向けの英語講義実践プログラム(第1回)	3名
H29	看護学部・看護学研究科FD	英語による講義やプレゼンテーションセミナー	12名	R4	全学FD	英語で授業を行う教員向けの英語講義実践プログラム(第2回)	6名

○事務体制の国際化については、従前より海外大学等との協定締結等を担当する部署として国際企画課を、千葉大学学生の留学支援・推進及び海外大学からの留学生受入れ等を担当する部署として留学生課をそれぞれ設置していたが、国際的競争力強化のため事務組織の見直しを図り、2019年7月から両課を統括する国際統括役を配置し、事務体制を強化した。また、2010年度から留学生窓口のワンストップ化を実現するため、インターナショナル・サポートデスク (ISD) を西千葉、亥鼻及び松戸キャンパスに設置し、各1名を配置している。更に、英語のできる国際担当職員として、任期付きの特任専門職員として雇用していた者を承継職員として登用し、国際化業務の体制強化を図っている。

2021 年度から実施する千葉大学グローバル人材育成「ENGINE」を推進するため、2019 年度からグローバル人材枠での採用試験を実施している。2021 年度以降は一定の職務経験があり、即戦力となりうる者を選抜する「社会人枠採用試験」と併せて実施、海外大学での勤務経験がある者計 2 名を採用し、教育研究支援体制の更なる充実・強化を図っている。

海外の大学との交流、外国人研究者、留学生への対応を担う事務スタッフの質的向上、量的拡大を図ることを目的として、2022 年度は、オンラインを活用した語学研修（英会話、窓口対応）、語学検定試験（TOEIC-IP 試験等）を実施し、職員の語学力の向上に努めた。また、2019 年度には海外派遣研修を実施し、長期研修ではモンタナ州立大学・ポートランド州立大学（アメリカ）に 1 名派遣し、短期研修ではインドネシア大学（インドネシア）に 1 名、ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）に 3 名を派遣するなど、海外の大学との交流を通じて、グローバル化に対応する職員の育成に取り組んだ。新型コロナウイルスの影響により、2020～2022 年度は海外派遣研修の実施を見合わせたが、2021 年度は提携校のマヒドン大学インターナショナルカレッジと千葉大学共催による留学生課 SD 研修をオンラインにて実施し、引き続き連携を継続するなど、事務体制の国際化を促進している。



●海外派遣研修（短期）受講者

年度	派遣先	人数
平成 28 年度	オーストラリア	2名
	タイ	4名
平成 29 年度	タイ	2名
	オーストラリア	3名
平成 30 年度	韓国	1名
	オーストラリア	3名
	イギリス	1名
令和元年度	インドネシア	1名
	オーストラリア	3名

*派遣期間は概ね 10 日間程度

○成績管理については、GPA 制度を導入することにより、学生に対するきめ細やかな履修指導、学生自身による学習習熟度の把握等に活用している。また、一部の学部・学科では、合わせて履修可能な上限単位の設定を行い、早期卒業制度を導入している。このほか、学部ごとに成績評価基準を定め、基準に則った成績評価を実施している。

シラバスに各回の授業内容、目標、評価方法・基準等を記載し、WEB で公開する等の方法で学生に周知徹底を図ることで、体系的な学習指導に役立てている。また、教育の質を保証するとともに、学生の立場に立った教育課程の体系化を進める仕組みとして、2015 年度には「コース・ナンバリング・システム」、及び「カリキュラムツリー」を、2019 年度には「カリキュラムマップ」を全学的に導入し、学部ごとに整備した。

これらに加え、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを全学単位及び各学部・研究科単位で作成し、教育課程の内容、卒業・修了時の到達目標を設定することで、教育内容の質の確保を行っており、策定後の見直しとして、2016 年 3 月に中教審から示されたガイドラインをもとに全学的に点検・見直しを行ったほか、2019 年度に行った本学の教育改革（ENGINE プログラム）の実施に合わせ、ディプロマ・ポリシー及び、カリキュラム・ポリシーについて、全学的な見直しを行い、2020 年度にアドミッション・ポリシーの見直しを行った。今後も、学内における教育課程等の改革等に合わせ、各ポリシーの関連性や一貫性が確保されるよう、適宜、見直しを行う。

大学等名	千葉大学
(5) 事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果	
大学名	千葉大学
整理番号	AR01
事業名	極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム
◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価	
総括評価	A 事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	
<p>本事業は、千葉大学が「極東ロシアにおける未来農業に貢献できる人材」の養成を目指したものである。ロシアの4大学と連携し、4つの事業を柱として学位取得のプログラムを構築した。ロシア国内における大学再編やプログラム内容の適正化を図ったことにより、事業途中での相手大学数が6大学に、事業領域が当初の4から6領域に拡大され、また、「未来農業FARM」に関わる修士課程及び学士課程プログラムが2021年10月に開始された。</p> <p>事業展開では、「寒冷地における未来農業」といった魅力的で将来性のあるコンテンツを中心に据え、日ロ双方の大学のシステムの違いを考慮したカリキュラムや、単位数及び要件が効果的に設定されたことが評価できる。また、学生交流について、派遣・受入の双方に対し、入口及び成績評価、出口管理をFARM委員会及び担当委員会にて行い、質の担保が図られている。環境整備については、派遣・受入のいずれの学生に対してもロシア人コーディネーター及び言語サポートを配置し、留学前、中、後の段階に合わせた、学業面、生活面、緊急時の対応等に関する情報ならびにサポートが効率的に提供されたことが評価できる。これらの努力の結果、日本人学生の派遣数、ロシア人学生の受入数の両方で計画を大きく上回った。</p> <p>一方で改善の余地があった点としては、まず、修士共同プログラムの設立及び実施が当初の計画よりも遅く、2021年10月にオンラインにて開始されたことが挙げられる。また、継続可能性を含めたプログラムの評価や修了生のフォローアップ等が補助期間中に報告されなかったこと、及び中間評価時に指摘された外国語力向上に関する課題について取組がなされたものの、基準達成率は依然低かったことが挙げられ、今後より一層の検討が必要である。</p> <p>今後の展開については、本事業はFARMが掲げている「園芸+デザイン+文化」のように、文理融合の横断的かつユニークなプログラムの実例を通して、大学教育のグローバル展開に貢献すると考える。特に、中間評価後の2大学の追加による修士共同プログラムの設立を含む本事業全体の再構築は参考に値する。一方、本事業で育成された日ロ両国の人材の活用及びネットワークの構築等、今後の継続的かつ系統的な仕組みによるグローバル展開力の強化の検討が望まれる。</p> <p>最後に、国際情勢等を踏まえつつ、これまでの事業の成果をいかし、我が国の大学教育を牽引され、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」
養成プラン取組概要及び事後評価結果

整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	筑波大学 千葉大学、群馬大学、日本医科大学、獨協医科大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学、群馬県立県民健康科学大学、東京慈恵会医科大学、上智大学、星薬科大学、昭和大学、お茶の水女子大学
事業名	関東がん専門医療人養成拠点
事業推進責任者	筑波大学医学医療系消化器外科教授 小田竜也
取組概要	
A) 連携8大学による“関東AYA・希少がんセンター・ネットワーク”を教育拠点として整備し、がんゲノム医療、がんライフ・QOL医療の教育実践の場とする。B) 連携大学内にあるゲノム、オミックス研究施設と連携し、深い学際的教養と幅広い研究的視野を持って、新たな医療価値を創造するがん専門医療人を養成する。A、B) 教育リソースが少ないこれらの課題分野に対して、全国がんプロ8拠点と連携したEクラウド教育体制を新たに構築し、大学院生教育を行う。大学や地域の医療職へのFD、市民教育にもこの先進的なIT環境を積極的に活用する。C) 諸外国の方が進んでいる制度や活動（AYAがんセンター、Team Oncology等）については、多職種、多大学から成るチームで現地視察を行い、その長所・短所を拠点内の活動に反映させる。他方、東アジア、中東などでは現地での需要を掘り起こし、日本のがん医療のグローバル展開の礎とする。	
事後評価結果	
(総合評価) A 計画通りの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。	
(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点	
<p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ e-learningをベースとした教育プログラムにより要請した大学院生の人数が目標数を上回ったことは評価できる。コースにより低調な大学等があり、薬剤師を含む多職種に対する、人材育成が低調な施設が見受けられる。癌生殖医療に特化した取り組みは特徴的なアプローチである。継続を望みたい。コロナ渦にあって、質保証されたe-learningのプログラムは、受講者数の増加もみられることから、成果をあげたものと考えられる。 ○ 医学物理士の育成に成果を挙げた。 <p>【改善を要する点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 13連携大学の連携・協働による教育やシステムづくりについては、当初の目的であった“関東AYA・希少がんネットワーク”が十分に確立できていないなどの課題を残している。 ◆ 大学間差が大きく、医師以外の専門職に対する取り組みが全般的に少ない。薬剤師の人材育成にも注力して欲しい。 ◆ 評価体制について連携大学間でどのように統一的に実施したかについては十分に記載されていない。 	

基礎研究医養成活性化プログラム
取組概要及び事後評価結果

整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	千葉大学 (群馬大学、山梨大学) 計3大学
事業名	病理・法医学教育イノベーションハブの構築
事業推進責任者	千葉大学大学院医学研究院・腫瘍病理学・教授 池原 譲
取組概要	
<p>本提案のねらいは、千葉・群馬・山梨の三大学連携で病理・法医学研究医育成の教育プラットフォームを整備すること、そして千葉大学の未来医療教育研究機構をモードルに病理・法医学の領域に大学院教育のハブを構築することによって、同領域の医師不足解消を目指すことにある。</p> <p>事業の目標は、アマチュア修了者の進路に多様性をもたらす、病理・法医学教育イノベーションハブの構築である。このため、各診療科のニーズに応える病理医育成を効率化することを目的に各大学が連携し、研究医の育成に必要な人的・物的リソースの共有を行い、大学とその関連病院、各部局をこえたOn-the-Job trainingの運営を実現する。事業で提案する病理・法医学研究医育成のアマチュアコースは、①病理・法医学を志す医師の育成強化と②市中病院で専門医を取得して診療に従事している病理医を対象とした社会人大学院の拡充を狙うほか、③臨床各科の専門医および基礎医学への進路を希望する医師を対象に、キャリアパスに選択の幅を持つ機会を提供する教育プラットフォームとする。</p>	
事後評価結果	
<p>(総合評価)</p> <p>B 概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。</p>	
<p>(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点</p>	
<p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病理・法医学医師間の連携による教育イノベーションハブの構築として、大学院教育に加え、市中病院の勤務医や各科専門医にも対象を広げたりカレント教育・キャリアアップも含むユニークなプログラムである。 ○コロナ禍に要した通信機器及び新たな機器整備により、大学間の情報共有を円滑にするとともに、新しい研究分野を提供した。 ○ビデオ会議システムを活用し、年4回の3大学合同 CPC（臨床病理検討会）を地域の開業医も参加可能な形式で実施するとともに、地域の基幹病院と教育、研究の連携を行った。 ○5年間で3回外部評価を実施し、建設的な評価を得ている。 ○毎年3大学でシンポジウム、フォーラム、セミナーが複数回開催され、多くの参加者を集めている。 ○病理学研究医プログラムは着実に進捗している。プログラムを修了した病理学研究医のポストも確保されている。 <p>【改善を要する点等】</p> <p>◆基礎研究医養成という趣旨に鑑みると成果としては若干不十分と思われ、継続性、発展性今後の進め方についてさらに検討が必要である。</p>	

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」取組概要及び事後評価結果
- 病院経営支援に関する領域 -

整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	千葉大学
事業名	病院経営スペシャリスト養成プログラム（通称：ちば医経塾）
事業推進責任者	医学部附属病院長 横手 幸太郎
取組概要	
<p>千葉大学病院において、実務能力に長けた講師陣が病院経営上の重要事項を網羅した学習内容を提供し、病院経営のスペシャリストを養成・輩出することを目的とする。</p> <p>本プログラムは、医師を中心に、コメディカルや事務職、地域医療政策を担う自治体職員など将来の病院運営を担う者を対象とし、DPC／PDS制度に基づく病院経営指標の管理やコストの適正化、診療内容の最適化・質向上といった実践的な学習内容を提供する。</p> <p>また、実際のデータを活用したハンズオンセミナーや On The Job トレーニングを通じた実践的な教育カリキュラムを構築（履修証明プログラム）するとともに、企業等との連携により、遠隔授業や電子教材活用により働きながら学習可能な体制構築を計画する。</p> <p>本プログラムの円滑な運営を図るため、病院長直下にプログラム運営委員会を設置し、事業管理を行うとともに、千葉大学関連病院会議（加盟 92 施設）などのネットワークを活用する。</p>	
事後評価結果	
<p>（総合評価） A</p> <p>計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p> <p>（コメント） ○優れた点、◆改善を要する点</p> <p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当初目標を十分に達成しており、評価したい。具体的な数値データを用いて達成成果が説明されており、自己評価も妥当である。 ○ 外部評価を毎年実施しており、プログラムの進捗等について議論され、指摘事項に対する改善が概ねなされていることから、プログラムの実施について着実に進化させているように見える。 ○ コースの質を担保しつつ支出を圧縮する具体的な手法が確立されており、補助期間終了後の計画についても妥当と判断できる。 <p>【改善を要する点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ フォーラム等の開催について、新型コロナウイルスの影響があったとはいえ、オンライン開催にするといった代替的方法があったと考えられ、すべてが延期か中止となった点は課題である。 ◆ 外部評価委員の構成について医療関係者だけに限られているのか不明確であるが、医療者に限らない方が望ましい。 	

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」取組概要及び事後評価結果
-外科解剖・手術に関する領域-

整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	北海道大学 千葉大学、京都大学
事業名	臨床医学の献体利用を推進する専門人材育成
事業推進責任者	北海道大学院医学研究院長 畠山鎮次
取組概要	
<p>コンソーシアムを形成する3大学の連携により、わが国が立ち遅れている外科教育・臨床解剖・医療機器開発の3分野をマネジメントし、学術環境を構築しうる医療人材を養成する。大学院課程の必修科目と医工学人材養成のインテンシブコースでは、臨床医学教育、外科解剖、医療機器開発等の講義とCST実習を設定する。初年度にe-learning環境を構築し、次年度から各大学で集中講座・e-learning・CST実習を行う。大学院課程の3コースのうち、外科教育研究コース(医・歯学)、臨床解剖研究コースでは、外科系各領域で教育研究を行うために必要なCSTプログラムをマネジメントできる人材を養成し、医療機器開発コースでは、医工学分野の共同開発を担うマネジメント人材を養成する。事業終了後も大学院課程は各大学で共通科目化しインテンシブコースも継続する。これらの取り組みにより献体使用による医学教育研究の深化を目指す。</p>	
事後評価結果	
<p>(総合評価) A 計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>	
<p>(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点</p> <p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本プログラムの主旨が、医療機器開発センターに受け継がれる体制ができたことは評価できる。 ○ 受講者数は大変評価できる。また、大学院共通科目として、関係領域にわたって広く展開し、人材を育成したことも評価できる。 ○ 医師、歯科医師以外の受講生に対して、デブリーフィングまでを実施する等、受講者の心理面にも留意した教育を実施した。また、コロナ禍であるが一定の受講者を確保し、医科、歯科、理工系等幅広い領域からの受講があった点は評価できる。 <p>【改善を要する点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 履修証明プログラムの受講者確保が低調であった理由（新型コロナウイルスの影響以外の要因）の分析・改善が必要である。 ◆ 全国展開に向けて、指導者となるべき他施設からの研修者を受入れ、自施設に戻ってその施設での指導者となるべき人材の育成が望まれる。治療方法や医療機器開発に向けた本分野の取組の広がりに向け、拠点となる大学間の連携をもとにした全国への発信や本事業の修了者の研究活動の推進に継続的に取組むことが重要である。 ◆ e-ラーニングによる教育効果の評価等、補助期間終了後の事業展開がさらに充実したものとなるような取組を期待する。 	

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	千葉大学		整理番号	1902
プログラム名称	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム			
プログラム責任者	山田 賢	プログラムコーディネーター	米村 千代	

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

【コメント】

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、人文系大学院教育に関してデジタルヒューマニティーズ人材育成という旗のもと、千葉大学を核として5機関連携した体制が整備されている点は評価できる。しかし、この卓越学位プログラムをどのように強化発展させるかについては、単なる大学院共通講義群としての横展開や情報系の新大学院構想などが、せっかくの卓越した成果の展開につながっておらず、連携大学における継続発展性についても明確な指針が示されていないため、早急な検討が求められる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、履修学生は卓越大学院の趣旨を非常によく理解し、ヒューマニティ×デジタルという新たな領域に挑戦し、修了後にアカデミア以外の地域イノベーター等として活躍することへの高い意欲を示すなど、その成長が非常に期待できる。しかし、意識の高い履修生のアカデミア以外の新たな活躍の場の開拓について、大学側の取り組みは、地域企業との意見交換レベルにとどまっており、卓越した人材の活躍の場の候補の提示としては全く不十分である。この点も改善計画を至急まとめることが求められる。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、各大学における情報系教員の配置や副指導教員体制など、コロナ禍であっても大学を超えた学生間の交流と研究を生み出している点は評価できる。

優秀な学生の獲得については、学部からストレートに上がっている学生数は少ないが、社会人や博士課程からの編入を希望する学生等によって応募学生数は定員を常に上回り、さらに増加しているデジタルヒューマニティーに対する学生からの期待の高さは評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、大学を超えた質保証のための評価基準が明確化されている点は評価できる。

事業の継続・発展については、千葉大学のみならず、連携大学も含めて本事業成果の継続発展のための事業費の措置など各大学の検討が求められる。

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	千葉大学		整理番号	1903
プログラム名称	革新医療創生 CHIBA 卓越大学院			
プログラム責任者	中谷晴昭	プログラムコーディネーター	斎藤哲一郎	

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S: 計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A: 計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B: 一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C: 取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行なう必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D: 取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

[コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、学長主導で進める大学院改革の中で、このプログラムがよく活用され機能している。国内外の多くの研究機関と学内部局を融合する「クラスター制 CHIBA 教育システム」をコアとする指導体制が確立している。医薬理工文の融合領域で形成された 6 クラスター 26 ユニットの中から 3 ユニットを選ぶ演習や「トリプル指導教授制」により異分野の指導を受けることで、ダブルメジャー相当の研究者が多くの実績をあげている。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、高い競争率の中、採用された少数精銳の学生は、自らの考えで、融合領域で構築された体制を活かし、既に共同研究やプロジェクト、受賞などで様々な研究業績をあげている。共同研究の相手先は、融合領域のため多岐にわたり、そのことがキャリアパスの選択肢を学生に与えることにつながっている。これまでの分野融合の事例やキャリアパスなど、本プログラムの具体的な成果を、在学生や志望者にわかりやすく伝えることが、いっそうの実績につながると考えられる。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、国内外の高水準の研究機関や企業の教員により、融合領域での指導を受けられる体制が構築され、学生は自らそれをよく活用している。大学院改革の基本的な考えがはっきりしているので、プログラムの関係者の共通理解を得て進めることができている。ただし、医学系以外の専攻の学生にとっては、修士課程と博士課程で所属専攻が変更になるという仕組みが学生にとってハードルになっていないかについて検討が必要である。

優秀な学生の獲得については、高い倍率で、少数精銳の優秀な学生が採用できている。経済的支援もベースの部分と評価により増額する部分とが明確に示されていてわかりや

すい。今後、定員増や、博士課程から編入などの改善策を実施する中で、現状の高いレベルが維持できるように、国際評価や学生ポートフォリオなどの質保証のしくみについて、より一層の活用が期待される。

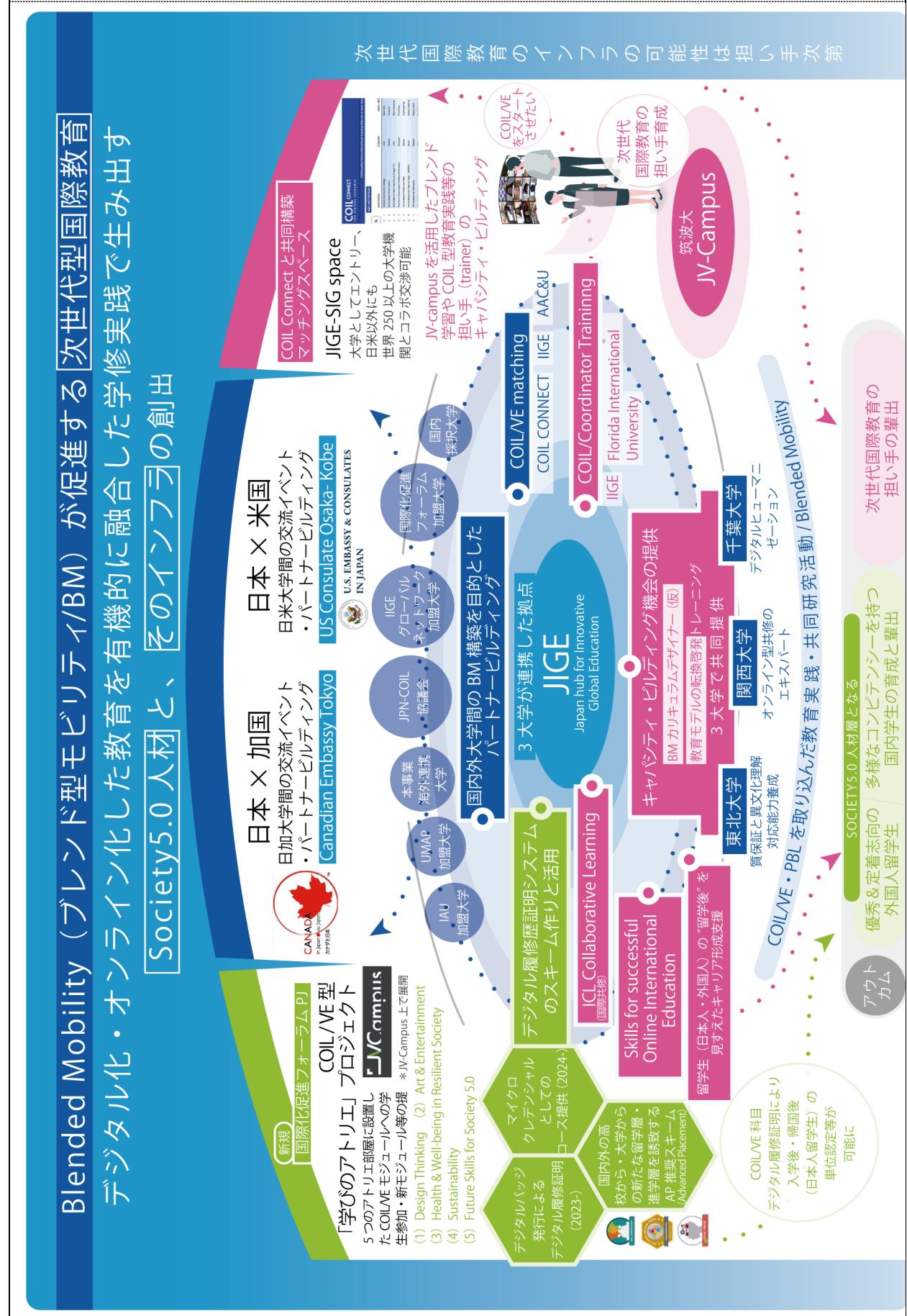
世界に通用する確かな質保証システムについては、選抜試験や QE の評価項目が明示されており、学外や海外の評価者が参画して評価を行なっている。ポートフォリオを通じた学生の成長の確認とそのフィードバックも行われている。ただし、コロナ禍の影響もあって「国際コース」(UC San Diego とのダブルディグリーコース) がいまだ実質的に稼働していないように見受けられ、システムの学生への周知と高いハードルを乗り越えるための支援を含め積極的な推進が求められる。

事業の継続・発展については、本プログラム関連部局の外部資金は、共同研究費、受託研究費とともに大幅に増額しており、補助期間終了後に教育研究等に使用できる資金のめどが立ってきている。

大学等名	千葉大学
⑥ 他の公的資金との重複状況【3ページ以内】	
【大学の世界展開力強化事業】	
<p>○「ソーシャル・デザイン・イニシアティブ (SDI-A)」(2021~2025 年度) 日中韓+ASEAN 地域をフィールドに、社会が抱えるさまざまな課題に対し、実際に現地に赴きその問題を理解し、多様で俯瞰的な解決策の提案を行う。これらを繰り返すことで、デザイン思考により課題解決することができるソーシャル・デザイン・イニシアティブ(SDI)人材を育成する。</p> <p>○「グローバル地域ケア IPE プラス創生人材の育成 (GRIP Program)」(2022 年度~2026 年度) 「地域特有の健康課題」に対して、専門領域の異なる学生がインター・プロフェッショナルかつインターナショナルに協同して取り組み、解決方策を提案する知己対応型の人材を、専門を跨いだサービス・ラーニングにより育成する。</p>	
【スーパーグローバル大学等事業】	
<p>○「グローバル千葉大学の新生ーRising Chiba Universityー」(2014 年度~2023 年度) グローバル人材に必要とされる「人間力」として、「俯瞰力」、「発見力」、そして「実践力」を取り上げ、それらの育成に特化した教育プログラムを新たに準備し、さらに、これらの人間力の育成を各学生にテーラーメードで行うために、SULA (Super University Learning Administrator) という新しい教育人材を配置する。このような人間力を身に付けたグローバル人材の育成に向けて、千葉大学を新生させる覚悟で改革を進める。</p>	
【卓越大学院プログラム】	
<p>○アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム (2019 年度~2025 年度) 「課題先進地域」としてのアジアユーラシア多言語多文化理解、アジアユーラシアと人文学の対象に向けてローカライズされた分析のデータサイエンス (Digital Humanities 2.0) の二つの技法を統合的に修得することにより、しなやかな文化的想像力と文理融合的な俯瞰的学知を兼ね備えた人材養成を行っていくことはもちろん、千葉大学における大学院改革を先導し、さらには波及的に我が国の人文社会系大学院自体の改革を促していく。</p> <p>○革新医療創生 CHIBA 卓越大学院 (2019 年度~2025 年度) 国内外の一流研究機関及び国内企業と連携し、新しい大学院教育「クラスター制 CHIBA 教育システム」の下、様々な分野のトップの大学院生が、既成の枠を越えて組織された 6 つの教育研究クラスターの複数クラスターで学修し、複数の分野で主専攻とサブ専攻を修め、俯瞰力と多角的な視点、柔軟な思考、イノベーションマインド、失敗を恐れないスピリットとレジリエンスを有し世界を先導する革新医療創生のイノベーターを育成する。</p>	
【知識集約型社会を支える人材育成事業】	
<p>○インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開 (2021 年度~2024 年度) 本事業は、課題から考え、かつ、その課題を深めるために、横断する学問領域の教員による連携的かつ集約的なタームと、野外実習・実験、インターン、留学等、学外での学びを個々の学生がカスタマイズしやすいセルフデザインギャップタームを組み合わせたカリキュラムの構築を目的とする。連携的かつ集約的なタームにおいて専門的な知識・技術を学び、セルフデザインギャップタームにおいて学外で学びを深める、メリハリのある課題解決型のカリキュラム運営を構築する。</p>	
【ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業】	
<p>○未定 (2022 年度~2028 年度) 2022 年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）に採択されたプログラムのうち、本事業の申請内容と関連性のあるものはない。</p>	

プラットフォーム構築プログラムの内容及び計画の妥当性・実現性	
① 事業の目的・概要等 【1 ページ以内】	
<p>【事業の目的】 本事業でアウトカムとする次世代国際教育モデルの開発と促進を担う新たな拠点（プラットフォーム）として、申請3大学が連携し、新たに「<u>Japan hub for Innovative Global Education (JIGE)</u>」を発足させる。この拠点は、<u>交流活動の取組の柱である BM(Blended Mobility)を有効活用し、ポスト・コロナ禍の国際教育フェーズとして確立することを目的とする</u>。この実装のため、JIGE では以下のような事業を展開する。</p> <p>【事業の概要】</p> <p>(1) Train-the-Trainer の取組（教育の担い手のキャパシティビルディング） <u>国内外で、オンラインを活用した国際交流活動が台頭し、JV-Campus 等の新たなリソースが、コロナ禍収束前から創出され、今後もさらなる充実化が図られていく</u>。これ自体は、まさにこれから教育のあり方に必須となる環境として喜ばしい展開であるが、その一方で、このデジタル化・オンライン化した教育コンテンツを有機的に用いて、<u>学習者層が求める効果の高い学びを生み出すことができる「教育の担い手」層も、今日そして近未来のニーズに見合うスキルを伴わなければならない</u>。教育は次世代の流動的かつ急激に多様化・進化する社会で必要な能力を、必要な時に、必要なだけ、学習者自身がカスタマイズし、デジタル技術の助けを借りて効果的に学ぶ「<u>Education 4.0 のフェーズ</u>」へと世界が移行し始めている。産業界が人材のリスクリミングを強化しているように、教育界においても<u>担い手のリスクリミング・アップスキリングといったキャパシティビルディング</u>（以下「<u>キャパビル</u>」）は急務の課題である。この背景を踏まえ、プラットフォームとしての JIGE は、次世代の国際教育の担い手の人材育成、つまり Train-the-Trainer の取組をその重要なミッションの1つとする。</p> <p>(2) 国内大学における米国等と行う COIL/VE 等オンライン型国際教育の促進と効果検証 <u>BM を有効に活用する上で COIL/VE といったオンライン型国際教育の有効性を高等教育機関においてより理解してもらうことは不可欠な活動である</u>。JIGE は、オープンセミナー・ウェビナーといった敷居の低い参加型活動を、連携3大学において発信し、まずは本展開力事業採択大学、そしてそれ以外の国内外連携大学ネットワーク（UMAP 加盟大学、JPN-COIL 協議会加盟大学、AAC&U 米国加盟大学等、<u>様式 9 概念図</u>参照）へも提供する。上記キャパシティビルディングの研修プログラムへの誘いも同時に進める。国内の大学については、海外（特に米国・カナダ等）の大学等教育機関とより多くの接触の場を設け、BM をはじめとした多様な国際パートナーシップ構築の機会をもたらすため、アメリカ領事館、カナダ大使館との協働で対面・バーチャルのイベントを年に何度も実施する。このような実装の促進を行った上で、中間年度となる<u>2025年度および最終年度となる2027年度</u>には、本展開力事業採択大学を中心とした、BM 実践の効果検証を実施する。この効果検証は、①BM という新たな国際教育の形としての効果（インパクト）の検証と、②参加者（学習者）の個々の能力等の伸長への BM プログラムの貢献度合いという 2 点が含まれる。①については、参加者数やオンラインプログラムの活用率といった量的指標に基づいた調査に加え、国際パートナーシップに関する考え方の変化や、大学における内なる国際化（internationalization at home）の推進が BM においてどのように進んだかといった側面についても調査を進めていく。</p> <p>(3) 多様な国際教育活動を可能とする「デジタル学修歴証明」活用の推進とその活用事例の共有 <u>伝統的な学位取得などのマクロ・クレデンシャル、及び、短期間の学修コースの修了、資格・免許の取得などのマイクロ・クレデンシャルを、インターネット、スマートフォンなどを利用して収集・保管・分析・共有できるデジタル形式で表明する</u>のが、「デジタル学修歴証明」である（中崎他 2021）。世界 42 カ国以上でデジタル化されており、中国等、紙の学修歴証明書（学位記等）は廃止されるなど、デジタル化はすでに世界標準となっている一方で、日本は大きく遅れをとっている（芦沢他 2020）。国際標準化したデジタル学修歴証明を活用すれば、例えば<u>海外大学と連携した共同学位、サーティフィケート、そして Advanced Placement やグローバル編入制度の導入など</u>といった、柔軟な国際教育活動の在り方を創出することができるようになる。JIGE では、連携3大学の交流活動の中から、COIL/VE 科目や JV-Campus を活用した国際連携型教育の取組を通じた学修履歴から多くのデジタル学修歴証明の事例を作り出すと共に、他大学の Good Practice の共有を行う。また、プラットフォーム拠点として、他採択大学における Good Practice についても調査を取りまとめ、ハンドブックの形で広く情報発信を行う。この活動は、JMOOC 協会、日本教育工学会、JV-Campus（専門部会）といったデジタル学修歴証明に関する国内ガイドラインの提案について目的を共有する組織・団体と密に連携し、共同制作を行う計画であり、2023 年 5 月より既に打合せを開始している。</p>	

② 事業の概念図 【1ページ以内】



(大学名：関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ：B)

③ 国内大学等の連携図 【1ページ以内】



(大学名: 関西大学、東北大大学、千葉大学) (タイプ: B)

④ プラットフォーム構築プログラムの内容 【2ページ以内】

【実績・準備状況】

オンライン型国際教育の推進は、2018年度にローンチしたIIGE(関西大学)において、Teacher training (COIL型教育実践に特化)、国内活動の発信、効果検証・学習効果検証、COIL/VEを活用した多様なプログラムの開発等の取組を進めてきた。新たなパートナー・マッチングを希望する大学群に対して講演、セミナーを提供する他、公開型のウェビナーも実施してきた。詳細については、以下のURLなどを参照のこと。

<https://kuiige.wixsite.com/iigeseminars22> (IIGE FDシリーズ))



IIGEでは、右図にあるような5つのミッションのもと活動を2018年度より遂行してきた。JPN-COIL協議会は、IIGE(関西大学)が主体となって発足したCOIL/VEの国内大学等ネットワークであり、現在56大学が加盟するまでに発展した。また、IIGE独自のグローバルパートナーネットワークも、現在約120の海外大学が加盟している。2018年度からは、世界展開力強化事業の一環としてUMAPとも共同活動を行っており、(1)COIL Plusプログラム(UMAP-COIL Joint Honors Program 2019)や、(2)Multilateral COIL program(UMAP-COIL Program 2020-2021)、そして(3)COIL/VE training program(2023)等、本事業構想の前形となる実績を培ってきた。

<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/jp/JPN-COIL/> (JPN-COIL協議会)

【計画内容】

(1) Train-the-Trainerサービスの提供【2023年度末開始～】

本事業にて連携する3大学は、それぞれ(1)COIL/VE教育実践等のオンライン型共修のエキスパート(関西大学)、(2)デジタルヒュマニゼーション、デザイン思考を取り込んだ最先端研究・教育(千葉大学)、(3)国際教育における質保証と異文化理解・対応能力養成の専門性(東北大学)といった異なる領域において、本拠点が目指すキャパビリプログラムの構築に貢献することができる。キャパビリ研修の具体的な事例として、以下のような研修の提供を行う予定である。

- |_ JV-Campus等オンライン教育コンテンツを活用した学習者中心の教育実践研修
- |_ COIL/VE型教育実践の担い手研修・COILコーディネーター^{*1}養成研修
- |_ BMカリキュラムアドバイザー^{*2}養成研修(履修証明プログラム)

[2024年度一部開始・2025年度履修証明プログラムとして設置]

- |_ Society 5.0人材のためのリスキリング・アップスキリングプログラム
- |_ 国際教育の専門家養成FD(実務者対象コース|SI0^{*3}対象コース)

*1 COIL科目を成立させる上で大学間・教員間等の仲介を行い、COIL活動のインストラクショナルデザイン(IT技術支援も含む)の補助を行うことができる専門ポジション

*2 効果の高いBMプログラムのカリキュラムの設計・実装・維持発展することができる国際教育の専門人材

*3 Senior International Officer: 大学の全学的な国際化のプロセスに対する責任と役割を集中的に統括する職位を担うことになった者

JIGEが提供するサービス(研修等)は、今期世界展開力強化事業採択校をはじめ、国際化促進フォーラム参加校や3大学が持つ国内外大学連携ネットワークと協力関係を構築し、大学機関が所属する教員・職員が積極的な参加を誘致するインフラの創出も行う。単に学ぶだけではなく、JIGEキャパビリ研修の末スキルアップした担い手層が、その経験を可視化し自身のキャリアアップに活用できる仕組みも必要である。したがって、提供コースはマイクロ・クレデンシャルが付与されるコースとし、また、1部は「履修証明プログラム」としても設置し広く提供する。

(2) 国内大学における米国等と行うCOIL/VE等オンライン型国際教育の実装の促進と効果検証

COIL/VE等オンライン型国際教育の促進を目的として、以下のような活動を計画している。

☆海外組織・連携ネットワークとの協働

- |_ 日米・日加間高等教育機関の国際パートナー・マッチング(年に数回、オンライン開催及び対面開催(@JIGE-OsakaもしくはJIGE-Tokyo拠点))
- |_ COIL/VE型教育科目パートナー・マッチングの場の提供(マッチング・フェアをオンラインで開催、COIL Connect(The COIL Virtual Exchange Foundation, Inc.)を活用したマッチングサロンの提供と運営を遂行する。

BM実践の効果検証としては、以下の活動を予定している。

(大学名:関西大学、東北大学、千葉大学)(タイプ: B)

- |_ 展開力強化事業採択大学対象のインパクトリサーチ（2025年度・2027年度）
- |_ 国内外の BM 型国際教育の波及状況把握調査（2024年度から毎年実施）
- |_ BM プログラム評価手法の Good Practice の共有と発信（2024年度から JPN-COIL 協議会との連携により年2回情報発信イベントを開催。HPにて情報は定期的に更新の上共有予定）

（3）多様な国際教育活動を可能とする「デジタル学修歴証明」の推進とその活用事例の共有

JIGE では、JV-Campus でも実装予定となっているデジタルクレデンシャルの取組と密に連動し、例えばアトリエ MCP で提供する COIL/VE コースはマイクロ・クレデンシャルとしてデジタル学修歴証明を発行する。具体的には、Open Badges の技術標準を採用しているオープンバッジ（一般財団法人才オープンバッジ・ネットワーク）を証明書の体裁として選択する。また、60 時間程度の履修となる「履修証明プログラム」、2026年度以降に予定している国内ジョイントディグリー、海外大学とのジョイントマイナーサーティフィケートについては、証明書を文書形式の体裁とするため、PDF 及びデジタル署名などの電子署名法で規定される技術標準を採用する（例：Accredible, Digitary, 他）。これらのデジタル学修歴証明は、Linkedin などのキャリア SNS にリンクすることができる（下図）。

① 証明の対象とするコース	② 証明書の体裁	③ 準拠する技術基準
A：長期のコース（伝統的学位取得コース、マクロ・クレデンシャル）	A：文書の体裁をとる	A：PDF 及びデジタル署名など電子署名法等で規定される技術標準
B：短期のコース（サマーコースなど数日・数か月のコース、マイクロ・クレデンシャル）	B：バッジ画像の体裁をとる	B：Open Badges など IMS グローバル・コンソーシアムで規定される技術標準

中崎(2022)「諸外国における学修歴証明のデジタル化に向けた導入事例・導入方法に関する調査研究」より抜粋(p.31)

☆デジタル学修歴証明を活用した AP (Advanced Placement) 制度の推奨

JIGE および JV-Campus が発行するデジタル証明に基づき、一部のコースについては、3 大学・研究科への進学をした際に卒業所要単位としての単位認定を行う制度を構築する。※様式 2-④を参照

このような活用事例を採択大学等から JIGE としてとりまとめ、広く情報発信を行い、全国的に展開する。2023 年度は、デジタルクレデンシャルを推進する上で必要な国内の規格・ガイドラインの作成にあたり、JIGE の協力団体でもある GDN (フローニング宣言ネットワーク)、JV-Campus (専門部会)、JMOOC 協会、日本教育工学学会などの団体との相談を継続し（2023 年 5 月時点ですでに開始）、2023 年度中にガイドラインのとりまとめと発信を行う。

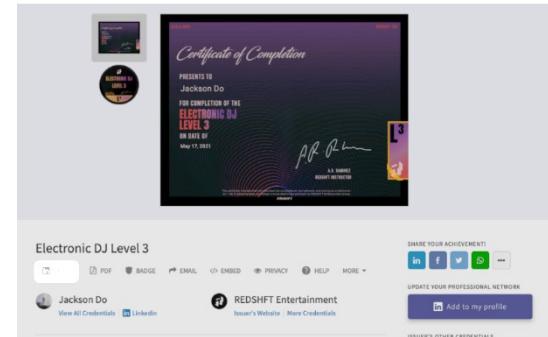
- |_ オンライン型国際教育を活用した AP 制度の Good Practice の共有と発信

- |_ デジタル履修証明の仕組みの構築（デジタルバッジの発行・JV-Campus と連動したインフラの構築）

☆JV-Campus との連動

JIGE は JV-Campus の運営母体と密なコミュニケーションをとりながら、教育コンテンツを提供するプロバイダーである JV-Campus と、その担い手である教員養成や教育職員・大学関係者のリスキリング・アップスキルリングを提供する JIGE プラットフォーム拠点が有機的に連携し、質が高く、国内外の学習者層にとって魅力のある学びの機会の提供を推進する。日本の高等教育機関における BM 型の国際教育が洗練されることで、世界で展開する留学生獲得の争奪戦線においても伍することができ、優秀な Society5.0 人材層が日本人・外国人留学生どちらの層からも輩出されることを、本事業の最終アウトカムとして位置付ける。

JIGE を推進する 3 大学は、JV-Campus の運営においてもこれまでに関わりを持ってきているが、今後も継続的に協力・貢献を惜しまず参加する予定である。次世代の人材資質に必要な学びを提供する趣旨は、JV-Campus と共有した考え方と価値観であり、2 つの組織が教育コンテンツ提供とその担い手の輩出という両輪の役割を担うことが重要だと考えている。



達成目標

① 日本と米国等の大学間交流の推進に関する目標【2 ページ以内】

【現状分析及び目標設定】

(指標 1) 日米大学間で COIL/VE 等を通した関係構築は、必ずしも大学間協定を前提としたパートナーシップでなくとも活動ができる。一方で、実践実績をベースとして新規に大学間協定を締結し、COIL/VE に限定されない多様な協働を働きかける等、戦略的な取り組みが必要となる。(指標 2) 本展開力事業でも、既存の協定大学間の関係を活用して COIL/VE などの活動を行うケースが主流であると想定されるが、新規関係構築によってより日米高等教育機関の広がりを展開させる取組を JIGE として推進するべきだと考えている。(指標 3/4) コロナ禍期に定着したオンライン上の科目間マッチングの活動への参加は、コロナ禍後においても、物理的・時間的・経済的な利便性から、対面での機会よりもアクセス数が高い傾向にある。(指標 5) IIGE (関西大学) において実施してきた FD (ファカルティディベロップメント) 研修においても、オンライン参加によって地方・都市を問わず多様な参加が見込める。またオンラインの場合は、英語使用で実施する場合は海外からの参加も増えていた。(指標 6/7) デジタル化された履修履歴ではないが、修了証を FD や COIL 科目履修をした学生層は希望するケースがこれまで非常に多いことを根拠としている。

(設定指標)

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
(指標 1) 採択大学等における日米等海外大学との新規大学間協定締結数	7	15	30	35	45
(指標 2) 米国等海外大学からの COIL/VE マッチング・フェア参加者数 (オンライン + 対面)	60 0	80 20	110 40	200 45	200 45
(指標 3) 採択大学以外の国内大学からの COIL/VE マッチング・フェア参加者数 (オンライン + 対面)	60 0	80 20	100 40	100 45	100 45
(指標 4) IVEC 年次大会他国際教育関連の国際コンベンション等における日米交流実践に関する実践研究発表や出版等 (波及)	3	5	10	10	15
(指標 5) 国内外大学からの JIGE 主催キャパシティビルディング研修への参加者数 (オンライン + 対面)	40 15	80 20	110 45	120 60	150 60
(指標 6) JIGE で発行するキャパビル研修コースのデジタル履修証明発行数 (コース + 発行数)	2(45)	5(65)	10(150)	15(215)	20(300)
(指標 7) JV-Campus 上のアトリエ MCP 等 COIL/VE 科目のデジタル履修証明発行数 (日本 + 海外相手大学 + その他)	30 25 30	180 80 65	200 100 70	200 110 90	250 150 90

【計画内容】

(指標1) 本展開力強化事業採択大学が海外相手大学として実践に取り組む米国等の大学との間で、新たに大学間協定が締結され、COIL/VE のみならず多様な活動(交換学生交流や、研究プロジェクト等)を推進することができるようになるケースがより多く出てくるよう、JIGE では、アドバイザリーボード (JIGE-Advisory Board Members) に国際教育の専門家、特にパートナーシップに関する知見と経験が豊富なメンバーに参画いただき、戦略的な取組の事例やそのノウハウの共有ができるようなセミナー やキャパビル研修を実施する(様式 6 参照)。この効果により、事業終了年度である 2027 年度までに、新たに 45 組の大学間協定が誕生し、日米間の高等教育レベルの関係がより強固なものとなるよう尽力する。

(大学名 : 関西大学、東北大学、千葉大学) (タイプ : B)

(指標 2)(指標 3) JIGE では、COIL Connect(概念図参照)との協業により、ウェブプラットフォーム内に IUEP 特別サイトを設置し、COIL/VE 実践科目成立のための、科目間マッチングを推奨する「フェア」を定期的に実施する。「マッチング・フェア」は、IIGE(関西大学)で実施してきたスキームを踏襲し、COIL 科目の設定をするにあたり考慮すべき点や、パートナー候補にどんな情報を伝えるべきかといった、COIL 科目を成功に導くための足場作り(アシスト)を JIGE が提供しつつ、参加した科目担当者らが自由に交流できるようにする(右図参照)。また、COIL Connect プラットフォーム上に設置するコースディレクトリは、24 時間アクセスが可能であり、マッチング・フェアのタイミングを待たずともパートナー探しは可能となる。



(指標 4) 本展開力事業の取組は、ポスト・コロナ禍期において BM を推奨するという試みであるため、海外においても日本の国際教育の取組として非常に着目されている。IVEC(International Virtual Exchange Conference)のような国際的に認知された COIL/VE のコミュニティ や、NAFSA/APAIE 等の国際教育のコンベンションにお

いて、本事業の成果を発信することで、国内大学の取組がより多くの国・地域の教育機関に認知され、そこから新たな大学間の国際関係構築が創出される。これまでに実施してきた IIGE の活動は、成果の国外発信によって海外で認められるようになったことから、JIGE の取組についても同様の活動を行う。

(指標 5 /6) JIGE が提供するキャパビル研修のコース数と、デジタル履修証明発行数を示している。任意指標の指標5にも示すように、2026 年度に履修証明プログラムとしての設置を予定しているため、必要時間数を満たす学習モジュールとして約 10 のコースを構築・提供する。5 年の期間の中で必要となるスキルも社会の変化に応じて調整が必要となるため、各年度において提供する科目群が必ずしも同じものであるとは限定しない。そのため JIGE 予算に、毎年一定額を新たなキャパビル研修プログラムの開発に必要な額として計上している。研修コースは、対面型とオンライン型の 2 タイプの形式のいずれかもしくはハイブリッド型の形式にて提供する。JIGE-Osaka および JIGE-Tokyo 共に、関西大学・千葉大学の都市部キャンパス(梅田キャンパス・墨田キャンパス)の施設を活用することができるため、対面であってもより広くアクセスできる立地において研修を実施する。また、採択大学等に協力を依頼し、それ以外の地域において実施することも隨時行う。

(指標 7) JV-Campus 上のアトリエ MCP 等 COIL/VE 科目の履修証明は、原則デジタル履修歴証明となる。デジタルバッジまたはサーティフィケートに組み込まれるメタデータの詳細に、その科目的質を保証する情報が保存され、開示許可を得たものはその情報を活用し、マクロ学位の単位として互換することもできる。このデジタル化プロセスにおいて、JIGE にて取り扱うデジタル履修証明の活用スキームが、今後国内の国際教育分野におけるモデルケースとなるよう、JV-Campus のデジタルクレデンシャル活用の動き、そして JM00C、日本教育工学会等マイクロ・クレデンシャル等の国内の制度の構築において重要な専門性を持つ組織・団体とも足並みをそろえ、2023 年度中に①マイクロ・クレデンシャルの国内における定義と記述子設定の際のガイドライン、そして②オンライン等でマイクロ・クレデンシャルコースを提供する上で必要な質保証ガイドラインの共同発行を行う。これらの組織・団体とはこれらのガイドラインに基づき、JIGE の「アトリエ MCP」COIL/VE 科目「キャパビル研修」「リスクリング」等の履修修了者に対する証明発行を進める。

これらの指標の進捗については、2024 年度以降、採択校の COIL/VE 型教育を受けた学生、事業を実施した教職員、事業責任者に対しアンケートを実施し、現状や課題等について分析する。その成果については、定期刊行する JIGE 発行の紀要(JIGE Bulletin)で日英にて情報発信を行う。

② 任意指標 【2 ページ以内】

【現状分析及び目標設定】

(指標 1) 現在 JV-Campus 上に提供があるコンテンツは、JV-Campus オリジナルで提供する（大学の個別 BOX 提供のものは除く）ものについては単位取得等ができる完結型ではなく、既存科目や国際教育プログラムなどで取り込み活用することができる Open Educational Resource の段階のものが多い。評価手法やデジタルクレデンシャル発行のための教育設計などのガイドライン（JV-Campus および JIGE でも活動とする）が普及し活用されることで、今後は正課科目・カリキュラム平行型（co-curricular）活動において活用が進むと想定される。

(指標 2) 国際教育に関するキャパビル（アップスクリーニング・リスキリング）の研修プログラムにおけるデジタル証明の発行は、現在 IIGE（関西大学）、JV-Campus においてデジタルバッジ（OpenBadges）の発行という形式で履修証明の活動が進行中である。参加意欲は 2022 年度と 2023 年度に実施した IIGE 国際教育アップスクリーニングコースの受講者希望者数が受け入れ数の 3 倍以上となる等、ニーズが非常に高いことがわかっている。獲得したバッジを自身のソーシャルアカウントで発信する参加者は現状ではまだ少ない。

(指標 3/4) オンライン型国際教育の利点は、場所を問わず参加履修がかなうことである。この利点を最大限に生かしたのが、留学現地滞在中に単位ロスをしないオンライン活用である。千葉大学では SGU 事業の一環としてすでに全学実施を行っている。また、IIGE が提供している COIL 科目を海外滞在中に履修した学生層も出てきている（現在は正式な単位履修は不可）。

(指標 5) COIL/VE の担当講師トレーニングは IIGE をはじめ、国外にも SUNY COIL Center, FIU COIL Global Center, COIL Connect 他多様な機関がサービス提供をしているが、COIL/VE 科目のカリキュラム設計をしたり、マッチングを推奨したりすることができる「COIL/VE コーディネーター」の養成や配置は国内外まだ少ない。今後 BM 教育実践を広めるにあたり、専門家養成の場の必要性は高まっている。

(設定指標)

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
(指標 1) JV-Campus に掲載するオンライン教育コンテンツ等を活用した大学における国内外提供正課科目・カリキュラム平行型（co-curricular）活動数（日本採択校 海外相手大学）	3 0	15 10	30 15	40 30	45 30
(指標 2) キャパビル研修のデジタル履修証明のキャリアポートフォリオ（SNS・デジタル履歴書等）における活用者数	25	35	65	80	115
(指標 3) 留学中に JV-Campus 提供科目やアトリエ MCP 等 COIL/VE 実践科目を履修した学生数（日本人留学生 外国人留学生）	55 20	135 90	155 150	165 165	170 180
(指標 4) JV-Campus や COIL/VE プログラムでの学修実績が、国内大学へ進学後卒業所要単位等として認定された学生数（AP）	0	10	20	20	30
(指標 5) BM カリキュラムアドバイザー認定を受けた者（履修証明プログラム修了者）	0	3	20	25	25

【計画内容】

(指標 1) JV-Campus では、①日本語教育パッケージ②留学生支援コンテンツなどが現在も活用可能となっており、2023 年度から徐々に開講されていく JV-Campus オリジナルコンテンツ（日本文化、キャリア教育、データサイエンス等、各年度多くの活用可能な内容がさらに公開される。JV-Campus のこれらのコンテンツを、既存の正課科目およびカリキュラムと並行して実施される活動（Co-

（大学名：関西大学、東北大学、千葉大学）（タイプ： B ）

curricular)・プログラム等において、国内の JIGE 連携 3 大学および本事業採択大学、そして海外相手大学が活用する。どのようにコンテンツを科目等の履修者に JV-Campus から閲覧し、それに基づいた学習成果の評価を行うかといったガイドラインを JIGE では策定し共有するとともに、参考となる活用事例を JIGE 連携大学から他大学へ、そして他大学の事例も JIGE を通して共有するウェビナーの開催や、JIGE ホームページ(2023 年度中に設置)上での発信を進める。これにより、2024 年度以降活用事例数が国内外で拡充すると見込んでいる。

(**指標 2)** JIGE では、独自の「キャリアポートフォリオ (SNS・デジタル履歴書等)」の開発は行わず、LinkedIn (ビジネス SNS アプリ) 及び JV-Campus の個人アカウント (ポートフォリオ) を自分のキャリアプロフィールとして活用するよう、そのノウハウを採択大学および国内大学の教員・教育職員・学生に発信する活動に尽力する。JIGE が提供するキャパビル研修プログラムは、マイクロ・クレデンシャル等の履修歴がデジタル化された証明が発行される。バッジなどの電子証明を個人のポートフォリオにリンク付けて活用する者が増えることで、国際教育の専門性を持つ国内大学関係者が増えていることを対外的にアピールでき、海外大学との関係構築においても信頼度が上がる。研修参加者に、定期的にキャリアプロフィールに関するオリエンテーションを提供することで、活用者数は 5 年間に増加を見込めると考えている。

(**指標 3)** JIGE が提供する「アトリエ MCP(Multilateral COIL Program)」のコースは、日本人学生及び外国人留学生らが、留学期間中 (日本人の場合は国外) にいる期間においても、空き時間等の調整によって履修が可能となる。在籍取り扱いにより科目単位としての履修がかなわない場合も、マイクロ・クレデンシャルとしての履修証明が発行され、そのメタデータ情報を帰国後に提出することで単位互換の取り扱いが可能となる場合もある。連携 3 大学において互換を認める制度設計を進めると共に、海外大学からの履修者についても所属大学における多様な活用ケースの奨励を行う。アメリカの海外相手大学の 1 部では、交換留学中にホーム校の科目履修をオンラインで認可している大学も存在するため、外国人留学生の活用事例も同様に奨励できると考えている。

(**指標 4)** 上記で述べた COIL/VE コースの履修 (2024 年度開始) や JV-Campus を活用したコース履修 (2025 年度以降開始予定) による履修証明を活用し、海外・国内の高校から国内の大学に入学した際、そして海外から国内大学院に進学した際にその履修を単位として認めるケースは、2024 年度からの各大学における制度改正が整い次第活用事例が増えると予想できる。連携 3 大学 (JIGE) 及び採択大学における AP は 2027 年度には年間 30 以上のケースを見込んでいる。

(**指標 5)** 「BM カリキュラムアドバイザー」は、JIGE が次世代国際教育として創出する BM の設計、実装、効果検証などができる専門家を意味する。今後 Blended Mobility が国際教育プログラムの設計の基盤として定着するにあたり、オンライン型実践 (その手法も多様なオプションがある) と渡航を伴う国際交流学習活動をどう融合し、掲げた学習達成目標 (learning objectives) に対し妥当性と信頼性があるカリキュラムを構築するには、より幅広い専門性を持った国際教育のエキスパートがその作業に当たる必要がある。現在の日本の高等教育機関において、このようなポジションは存在しないが、社会のニーズそして次世代型の教育の在り方が変容する中、新しい専門職が生まれてくることは必然である。例えば、インストラクショナルデザイナー、COIL コーディネーターといった専門職が欧米諸国の大学ではこの十数年で定着し始めているのがその事例である。

本事業で提案し波及・定着を進める BM 型国際教育実践は、このエキスパート人材層の輩出が前提となりその実現がかなう。BM カリキュラムアドバイザーは、COIL/VE 教育実践や国際共修についても熟知し、他教員や大学組織に対しどのようにこれらの活動を学内で実働に落とし込むことができるかを提案・企画したり、コンサルタントのような役割を担うことができるようになる。

BM アドバイザーの取組は、まず 2024 年度にマイクロ・クレデンシャルコースを複数開講し、その履修者に対してサーティフィケート発行を行うという試行段階からスタートさせる。2025 年度以降に、さらにコース数を増やし、社会人のための「履修証明プログラム」として学習時間 60 時間相当を持つカリキュラムとして開発する。この履修証明プログラムを修了した者に対し、「アドバイザー認定」を行い、この認証を受けた教員・職員が、全国の高等教育機関において BM 型プログラムの実装を担っていく。将来、この認定を持っていることが加点評価となり、大学等において新規人事採用につながるような活用の広がりを持たせたいと考えている。

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和5年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

<2023年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
【物品費】					
①設備備品費		7,100	200	7,300	
·オフィス什器（机、椅子		600		600	
·消耗品費		600		600	プラットフォーム
②消耗品費		6,500	200	6,700	
·事務用品			200	200	関西大学
·事務用機器、パソコン、消耗品等		2,400		2,400	東北大学
·教材作成ツール等		1,100		1,100	東北大学
·事務用機器、機材等		1,300		1,300	千葉大学
·パソコン、事務用消耗品一式		1,700		1,700	プラットフォーム
【人件費・謝金】		24,750	960	25,710	
①人件費		21,560		21,560	
·特命准教授		3,250		3,250	関西大学
·コーディネーター		2,150		2,150	関西大学
·コーディネーター		2,750		2,750	東北大学
·専任事務スタッフ		2,100		2,100	東北大学
·事務補佐員		2,000		2,000	千葉大学
·JIGE拠点付特命准教授		3,250		3,250	プラットフォーム
·JIGE拠点付コーディネーター		2,150		2,150	プラットフォーム
·事務補佐員		2,400		2,400	プラットフォーム
·非常勤講師		1,510		1,510	プラットフォーム
②謝金		3,190	960	4,150	
·講師謝金		1,500	960	2,460	関西大学
·運営委員会委員謝金		90		90	関西大学
·講師謝金		500		500	東北大学
·学生謝金		100		100	東北大学
·WS、FD、SD講演者謝金		400		400	プラットフォーム
·アドバイザリーボード謝金		300		300	プラットフォーム
·国際シンポジウム謝金		300		300	プラットフォーム
【旅費】		33,590		33,590	
·国外旅費		1,900		1,900	関西大学
·国内旅費		750		750	関西大学
·外国人招聘旅費		700		700	関西大学
·国外旅費		9,030		9,030	東北大学
·国内旅費		320		320	東北大学
·外国人招聘旅費		2,200		2,200	東北大学
·国外旅費		8,700		8,700	千葉大学
·国内旅費		800		800	千葉大学
·外国人招聘旅費		1,400		1,400	千葉大学
·国外旅費		4,550		4,550	プラットフォーム
·国内旅費		640		640	プラットフォーム
·外国人招聘旅費		2,600		2,600	プラットフォーム
【その他】		100,260	5,070	105,330	
①外注費		67,000	3,510	70,510	
·プログラム、コンテンツ開発関連費用		4,000	2,910	6,910	関西大学
·JIGEウェブサイト保守管理費			600	600	関西大学
·インターンシップ開発・運営費等		7,000		7,000	関西大学
·システム構築・コンテンツ作成費		6,800			千葉大学
·共通広報開発費		3,000			千葉大学
·JVCシステム開発および教材コンテンツ開発費		23,700		23,700	プラットフォーム
·広報スライド作成外注費		1,000		1,000	プラットフォーム
·ウェブサイト、PRビデオ制作費		6,200		6,200	プラットフォーム
·アトリエMCP プログラム開発・運営費		7,000		7,000	プラットフォーム
·プログラム、システム開発関連費用		5,300		5,300	プラットフォーム
·ライセンス関連費用		1,000		1,000	プラットフォーム
·イベント・シンポジウム同時通訳費		2,000		2,000	プラットフォーム
②印刷製本費					
③会議費		360	1,560	1,920	
·運営委員会運営費用		60		60	関西大学
·JPN-COIL International Conference関連費用			1,560	1,560	関西大学
·運営委員会、アドバイザリーボード等運営費用		50		50	プラットフォーム
·シンポジウム費用		250		250	プラットフォーム
④通信運搬費					
⑤光熱水料					
⑥その他（諸経費）		32,900		32,900	
·学生関連費用		3,200		3,200	関西大学
·派遣職員		4,900		4,900	関西大学
·IAU年会費		500		500	関西大学
·海外短期派遣研修プログラム委託費		7,500		7,500	東北大学
·一般事務派遣業務		2,000		2,000	東北大学
·学生関連費用		6,000		6,000	千葉大学
·イベント施設費等		1,800		1,800	プラットフォーム
·国際会議参加費、ブース出展		4,000		4,000	プラットフォーム
·JIGE-Osaka JIGE-Tokyo 研究拠点設置・維持等		3,000		3,000	プラットフォーム
2023年度	合計	165,700	6,230	171,930	

(大学名：○関西大学、東北大学、千葉大学)

(タイプ：B)

(前ページの続き)

(単位:千円)

<2024年度> 経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
【物品費】	2,050		2,050	
①設備備品費				
②消耗品費	2,050		2,050	
· 事務用品	100		100	関西大学
· 事務消耗品一式	50		50	東北大学
· 事務用品、ソフトウェア等	1,800		1,800	千葉大学
· 事務用品	100		100	プラットフォーム
【人件費・謝金】	53,910		53,910	
①人件費	50,220		50,220	
· コーディネーター	8,400		8,400	東北大学
· 事務職員	4,800		4,800	東北大学
· 特任助教	3,600		3,600	千葉大学
· 事務補佐員	4,000		4,000	千葉大学
· 特命准教授、コーディネーター 各2名	21,600		21,600	プラットフォーム
· 事務職員	4,800		4,800	プラットフォーム
· 非常勤講師	3,020		3,020	プラットフォーム
②謝金	3,690		3,690	
· 講師謝金	1,000		1,000	関西大学
· 運営委員会委員謝金	90		90	関西大学
· プログラム講師謝金	800		800	千葉大学
· プログラム補助謝金	300		300	千葉大学
· WS、FD、SD講演者謝金	1,200		1,200	プラットフォーム
· アドバイザリーボード謝金	300		300	プラットフォーム
【旅費】	18,800		18,800	
· 国外旅費	1,000		1,000	関西大学
· 国内旅費	500		500	関西大学
· 打ち合わせ旅費	1,400		1,400	プラットフォーム
· 招へい旅費	700		700	東北大学
· 外国人教員招聘	2,500		2,500	千葉大学
· 国外旅費	10,700		10,700	プラットフォーム
· 国内旅費	2,000		2,000	プラットフォーム
【その他】	53,040	8,160	61,200	
①外注費	15,880	6,600	22,480	
· プログラム、コンテンツ開発関連費用	2,390	3,000	5,390	関西大学
· JIGEウェブサイト保守管理費		600	600	関西大学
· 英文校正・日英翻訳		1,000	1,000	千葉大学
· 教材開発・作成		2,000	2,000	千葉大学
· プログラム、コンテンツ開発関連費用	9,340		9,340	プラットフォーム
· JIGEウェブサイト管理・保守費	1,150		1,150	プラットフォーム
· 作業委託費	3,000		3,000	プラットフォーム
②印刷製本費				
③会議費	1,060	1,560	2,620	
· 運営委員会運営費用	20		20	関西大学
· JPN-COIL International Conference関連費用		1,560	1,560	関西大学
· 運営委員会、アドバイザリーボード等運営費用	40		40	プラットフォーム
· シンポジウム費用	1,000		1,000	プラットフォーム
④通信運搬費				
⑤光熱水料				
⑥その他(諸経費)	36,100		36,100	
· 学生関連費用	3,800		3,800	関西大学
· 派遣職員	6,800		6,800	関西大学
· IAU年会費	500		500	関西大学
· 短期海外派遣プログラム(北米)委託費	3,000		3,000	プラットフォーム
· 学生支援旅費	3,000		3,000	プラットフォーム
· 国際会議参加費、ブース出展	1,000		1,000	プラットフォーム
· 学生関連費用	14,000		14,000	プラットフォーム
· JIGE-Osaka JIGE-Tokyo 研究拠点設置・維持等	4,000		4,000	プラットフォーム
2024年度	合計	127,800	8,160	135,960

(大学名: ○関西大学、東北大学、千葉大学)

(タイプ: B)

(前ページの続き)

(単位:千円)

<2025年度> 経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
【物品費】	640	1,800	2,440	
①設備備品費				
・				
②消耗品費	640	1,800	2,440	
・事務用品	190		190	関西大学
・事務消耗品一式	350		350	東北大学
・事務用品、ソフトウェア等		1,800	1,800	千葉大学
・事務用品	100		100	プラットフォーム
【人件費・謝金】	52,910		52,910	
①人件費	50,220		50,220	
・コーディネーター	8,400		8,400	東北大学
・事務職員	4,800		4,800	東北大学
・特任助教	3,600		3,600	千葉大学
・事務補佐員	4,000		4,000	千葉大学
・特命准教授、コーディネーター 各2名	21,600		21,600	プラットフォーム
・事務職員	4,800		4,800	プラットフォーム
・非常勤講師	3,020		3,020	プラットフォーム
②謝金	2,690		2,690	
・運営委員会委員謝金	90		90	関西大学
・プログラム講師謝金	800		800	千葉大学
・プログラム補助謝金	300		300	千葉大学
・WS、FD、SD講演者謝金	1,200		1,200	プラットフォーム
・アドバイザリーボード謝金	300		300	プラットフォーム
【旅費】	18,700		18,700	
・国外旅費	1,000		1,000	関西大学
・国内旅費	400		400	関西大学
・打ち合わせ旅費	1,400		1,400	プラットフォーム
・招へい旅費	700		700	東北大学
・外国人教員招聘	2,500		2,500	千葉大学
・国外旅費	10,700		10,700	プラットフォーム
・国内旅費	2,000		2,000	プラットフォーム
【その他】	42,770	13,400	56,170	
①外注費	10,310	9,440	19,750	
・プログラム、コンテンツ開発関連費用		3,000	3,000	関西大学
・JGEウェブサイト保守管理費		600	600	関西大学
・英文校正・日英翻訳		1,000	1,000	千葉大学
・教材開発・作成		2,000	2,000	千葉大学
・プログラム、コンテンツ関連費用	9,160	2,840	12,000	プラットフォーム
・JGEウェブサイト管理保守費	1,150		1,150	プラットフォーム
②印刷製本費				
・				
③会議費	1,060	1,560	2,620	
・運営委員会運営費用	20		20	関西大学
・JPN-COIL International Conference関連費用		1,560	1,560	関西大学
・運営委員会、アドバイザリーボード等運営費用	40		40	プラットフォーム
・シンポジウム費用	1,000		1,000	プラットフォーム
④通信運搬費				
・				
⑤光熱水料				
・				
⑥その他（諸経費）	31,400	2,400	33,800	
・学生関連費用	4,500		4,500	関西大学
・派遣職員	6,800		6,800	関西大学
・IAU年会費	500		500	関西大学
・短期海外派遣プログラム（北米）委託費		1,500	1,500	プラットフォーム
・学生支援旅費	1,500		1,500	プラットフォーム
・国際会議参加費、ブース出展	1,000		1,000	プラットフォーム
・学生関連費用	13,100	900	14,000	プラットフォーム
・JGE-Osaka JGE-Tokyo 研究拠点設置・維持等	4,000		4,000	プラットフォーム
2025年度	合計	115,020	15,200	130,220

(大学名: ○関西大学、東北大学、千葉大学)

(タイプ: B)

(前ページの続き)

(単位:千円)

<2026年度> 経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
【物品費】	200	1,600	1,800	
①設備備品費				
・				
②消耗品費	200	1,600	1,800	
・事務用品	100	1,500	100	関西大学
・事務用品、ソフトウェア等		100	1,500	千葉大学
・事務用品			200	プラットフォーム
【人件費・謝金】	51,320	490	51,810	
①人件費	50,220		50,220	
・コーディネーター	8,400		8,400	東北大学
・事務職員	4,800		4,800	東北大学
・特任助教	3,600		3,600	千葉大学
・事務補佐員	4,000		4,000	千葉大学
・特命准教授、コーディネーター 各2名	21,600		21,600	プラットフォーム
・事務職員	4,800		4,800	プラットフォーム
・非常勤講師	3,020		3,020	プラットフォーム
②謝金	1,100	490	1,590	
・運営委員会委員謝金		90	90	関西大学
・プログラム講師謝金	600		600	千葉大学
・プログラム補助謝金	200		200	千葉大学
・WS、FD、SD講演者謝金		400	400	プラットフォーム
・アドバイザリーボード謝金	300		300	プラットフォーム
【旅費】	13,400	2,700	16,100	
・国外旅費		1,000	1,000	関西大学
・国内旅費	300	100	400	関西大学
・打ち合わせ旅費	1,400		1,400	プラットフォーム
・招へい旅費		700	700	東北大学
・外国人教員招聘	2,000		2,000	千葉大学
・国外旅費	7,700	900	8,600	プラットフォーム
・国内旅費	2,000		2,000	プラットフォーム
【その他】	29,746	18,024	47,770	
①外注費	3,406	9,944	13,350	
・プログラム、コンテンツ関連費用		3,000	3,000	関西大学
・JIGEウェブサイト保守管理費		600	600	関西大学
・英文校正・日英翻訳		1,000	1,000	千葉大学
・教材開発・作成		1,600	1,600	千葉大学
・プログラム、コンテンツ関連費用	2,406	3,594	6,000	プラットフォーム
・JIGEウェブサイト管理保守費	1,000	150	1,150	プラットフォーム
②印刷製本費				
・				
③会議費	40	2,580	2,620	
・運営委員会運営費用		20	20	関西大学
・JPN-COIL International Conference関連費用		1,560	1,560	関西大学
・運営委員会、アドバイザリーボード等運営費用	40		40	プラットフォーム
・シンポジウム費用		1,000	1,000	プラットフォーム
④通信運搬費				
・				
⑤光熱水料				
・				
⑥その他(諸経費)	26,300	5,500	31,800	
・学生関連費用	2,000	2,500	4,500	関西大学
・派遣職員	6,800		6,800	関西大学
・短期海外派遣プログラム(北米)委託費		1,500	1,500	プラットフォーム
・学生支援旅費		1,500	1,500	プラットフォーム
・国際会議参加費、ブース出展	1,000		1,000	プラットフォーム
・学生関連費用	12,500		12,500	プラットフォーム
・JIGE-Osaka JIGE-Tokyo 研究拠点設置・維持等	4,000		4,000	プラットフォーム
2026年度	合計	94,666	22,814	117,480

(大学名: ○関西大学、東北大学、千葉大学)

(タイプ: B)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2027年度> 経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
【物品費】	140	700	840	
①設備備品費				
②消耗品費	140	700	840	
· 事務用品	100		100	関西大学
· 事務消耗品一式	40		40	東北大学
· 事務用品、ソフトウェア等		600	600	千葉大学
· 事務用品		100	100	プラットフォーム
【人件費・謝金】	40,053	7,517	47,570	
①人件費	37,993	7,427	45,420	
· コーディネーター	8,400		8,400	東北大学
· 事務職員		4,800	4,800	東北大学
· 特任助教	3,600		3,600	千葉大学
· 事務補佐員	4,000		4,000	千葉大学
· 特命准教授、コーディネーター 各2名	20,800	800	21,600	プラットフォーム
· 非常勤講師	1,193	1,827	3,020	プラットフォーム
②謝金	2,060	90	2,150	
· 運営委員会委員謝金		90	90	関西大学
· 学生アルバイト	960		960	プラットフォーム
· プログラム講師謝金	600		600	千葉大学
· プログラム補助謝金	200		200	千葉大学
· アドバイザリーボード謝金	300		300	プラットフォーム
【旅費】	1,000	5,800	6,800	
· 国外旅費		1,000	1,000	関西大学
· 国内旅費	400		400	関西大学
· 打ち合わせ旅費	600		600	プラットフォーム
· 外国人教員招聘		2,000	2,000	千葉大学
· 国外旅費		2,300	2,300	プラットフォーム
· 国内旅費		500	500	プラットフォーム
【その他】	6,140	31,030	37,170	
①外注費		9,250	9,250	
· プログラム、コンテンツ関連費用		3,000	3,000	関西大学
· JIGEウェブサイト保守管理費		600	600	関西大学
· 英文校正・日英翻訳		1,000	1,000	千葉大学
· プログラム、コンテンツ関連費用		3,500	3,500	プラットフォーム
· JIGEウェブサイト管理保守費		1,150	1,150	プラットフォーム
②印刷製本費				
③会議費	40	3,580	3,620	
· 運営委員会運営費用		20	20	関西大学
· JPN-COIL International Conference関連費用		1,560	1,560	関西大学
· 運営委員会、アドバイザリーボード等運営費用	40		40	プラットフォーム
· グローバルサミット費用		1,000	1,000	プラットフォーム
· シンポジウム費用		1,000	1,000	プラットフォーム
④通信運搬費				
⑤光热水料				
⑥その他（諸経費）	6,100	18,200	24,300	
· 学生関連費用	4,500		4,500	関西大学
· 派遣職員		3,800	3,800	関西大学
· 短期海外派遣プログラム（北米）委託費		1,500	1,500	プラットフォーム
· 学生支援旅費		2,500	2,500	東北大学
· 学生関連費用	1,600	7,400	9,000	プラットフォーム
· JIGE-Osaka JIGE-Tokyo 研究拠点設置・維持等		3,000	3,000	プラットフォーム
2027年度	合計	47,333	45,047	92,380

(大学名： ○関西大学、東北大学、千葉大学)

(タイプ： B)